令和６年11月27日

午前10時00分開会

於　　議　　場

１　出席議員は次のとおりである（16名）

１番	伊　藤　千　春	２番	柴　田　英　里
３番	鈴　木　りつか	４番	平　居　ゆかり
５番	横　井　克　典	６番	板　倉　克　典
７番	那　須　英　二	８番	加　藤　明　由
９番	小久保　照　枝	10番	堀　岡　敏　喜
11番	佐　藤　仁　志	12番	江　崎　貴　大
13番	加　藤　克　之	14番	高　橋　八重典
15番	早　川　公　二	16番	平　野　広　行

２　欠席議員は次のとおりである（なし）

３　会議録署名議員

４番	平　居　ゆかり	５番	横　井　克　典

４　地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名（34名）

市長	安藤正明	副市長	村瀬美樹
教育長	高山典彦	総務部長	伊藤淳人
市民生活部長	柴田寿文	健康福祉部長兼 福祉事務所長	安井幹雄
建設部長	立石隆信	教育部長	渡邊一弘
健康福祉部次長兼 保険年金課長	佐藤雅人	会計管理者兼 会計課長	大木弘己
教育部次長兼 歴史民俗資料館長兼 図書館長	伊藤隆彦	監査委員 事務局長	水谷繁樹
総務課長	横江兼光	財政課長	村田健太郎
人事秘書課長	山森隆彦	企画政策課長	佐藤文彦
防災課長	太田高士	税務課長	岩田繁樹
収納課長	細野英樹	市民課長兼 十四山支所長兼 鍋田支所長	下里真理子
環境課長	梅田英明	市民協働課長	藤井清和
観光課長	浅野克教	健康推進課長	山守美代子
福祉課長	後藤浩幸	介護高齢課長	富居利彦

児童課長	飯田宏基	総合福祉センター所長兼十四山総合福祉センター所長兼いこいの里所長	中山義之
産業振興課長	上田忠次	土木課長	神野忠昭
都市整備課長	三輪秀樹	下水道課長	早川昇作
学校教育課長	田畑由美子	生涯学習課長兼十四山スポーツセンター館長	飯塚義子

5　本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	佐野智雄	議事課長	田口邦郎
書記	鈴木悦子		

6　議事日程

日程第１		会議録署名議員の指名
日程第２		会期の決定
日程第３		諸般の報告
日程第４	報告第３号	専決処分の報告について
日程第５	承認第６号	専決処分の承認について
日程第６	諮問第１号	人権擁護委員候補者の推薦について
日程第７	議案第42号	弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
日程第８	議案第43号	弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について
日程第９	議案第44号	弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について
日程第10	議案第45号	弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について
日程第11	議案第46号	弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について
日程第12	議案第47号	弥富市運動広場条例の一部改正について
日程第13	議案第48号	弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について
日程第14	議案第49号	令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）
日程第15	議案第50号	令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）
日程第16	議案第51号	令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）
日程第17	請願第１号	十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午前10時00分　開会

○議長（堀岡敏喜君）　会議に先立ちまして報告をいたします。

報道機関より、本日の撮影と放映の許可をされたい旨の申出がございました。よって、弥富市議会傍聴規則第９条の規定により、これを許可することといたしましたので、御了承をお願いいたします。

ただいまより令和６年第４回弥富市議会定例会を開会いたします。

これより会議に入ります。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（堀岡敏喜君）　日程第１、会議録署名議員を指名いたします。

会議規則第88条の規定により、平居ゆかり議員と横井克典議員を指名いたします。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第２　会期の決定

○議長（堀岡敏喜君）　日程第２、会期の決定を議題といたします。

お諮りをします。

第４回弥富市議会定例会の会期を本日より12月23日までの27日間としたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、会期は本日より12月23日までの27日間と決定をいたしました。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第３　諸般の報告

○議長（堀岡敏喜君）　日程第３、諸般の報告をいたします。

監査委員より、地方自治法の規定により、例月出納検査の結果、定期監査の結果及び随時監査結果がそれぞれ提出をされ、その写しを各位のお手元に配付してありますので、よろしくお願いをいたします。

以上で諸般の報告を終わります。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第４　報告第３号　専決処分の報告について

○議長（堀岡敏喜君）　日程第４、報告第３号を議題といたします。

地方自治法第180条第２項の規定に基づく専決処分の報告につきましては、各位のお手元に配付をしてありますので、文書をもって報告に代えさせていただきます。

～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～

日程第５　承認第６号　専決処分の承認について

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第５、承認第６号を議題といたします。

安藤市長に提案理由の説明を求めます。

議案は説明を省略させます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君）　改めまして、おはようございます。

令和６年第４回弥富市議会定例会の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、公私とも極めて御多忙の中、御出席賜りまして厚くお礼を申し上げます。

本定例会におきまして、まず初めに御提案申し上げ、御審議いただきます議案は、承認１件でございまして、その概要につきまして御説明申し上げます。

承認第６号専決処分の承認につきましては、去る令和６年10月９日に衆議院が解散され、衆議院議員総選挙の日程が令和６年10月27日と決定されたことに伴い、急遽、衆議院議員総選挙及び最高裁判所裁判官国民審査に要する経費を予算化する必要が生じました。

このため、令和６年10月９日に本補正予算を地方自治法第179条第１項の規定に基づき専決処分しましたので、同条第３項の規定により御報告し、承認を求めるものであります。

よろしく御審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております承認第６号は、会議規則第37条第３項の規定により、委員会への付託を省略したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、承認第６号は委員会への付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。

討論のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　討論のないことを確認しましたので、討論を終結し、これより採決に入ります。

承認第６号は原案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、承認第６号は原案のとおり承認することに決しました。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

日程第６　諮問第１号　人権擁護委員候補者の推薦について

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第６、諮問第１号を議題といたします。

安藤市長に提案理由の説明を求めます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君）　次に提案し、御審議いただきます議案は諮問１件でございまして、その概要につきまして御説明申し上げます。

諮問第１号人権擁護委員候補者の推薦につきましては、小坂井恒子氏が令和７年３月31日任期満了のため、その後任者として小坂井恒子氏を引き続き推薦したいので、人権擁護委員法第６条第３項の規定により、議会の意見を求めるものであります。

よろしく御審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております諮問第１号は、会議規則第37条第３項の規定により、委員会への付託を省略したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、本案は委員会への付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。

討論のある方はございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　討論がないことを確認いたしましたので、討論を終結し、これより採決に入ります。

諮問第１号は原案のとおり適任とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、諮問第１号は原案のとおり適任とすることに決しました。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

日程第７　議案第42号　弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第８　議案第43号　弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第９　議案第44号　弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第10　議案第45号　弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第11　議案第46号　弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について

日程第12　議案第47号　弥富市運動広場条例の一部改正について

日程第13　議案第48号　弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について

日程第14　議案第49号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）

日程第15　議案第50号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第16　議案第51号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第７、議案第42号から日程第16、議案第51号まで、以上10件を一括議題といたします。

安藤市長に提案理由の説明を求めます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君）　次に提案し、御審議いただきます議案は、条例関係議案７件、予算関係議案３件でございまして、その概要につきまして御説明申し上げます。

議案第42号弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正につきましては、公平委員会委員長等の報酬日額を改定するため、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第43号弥富市長の給料の特例に関する条例の制定につきましては、市長の給料を減額するため条例を制定するものであります。

次に、議案第44号弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定につきましては、副市長の給料を減額するため、条例を制定するものであります。

次に、議案第45号弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定につきましては、教育長の給料を減額するため、条例を制定するものであります。

次に、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正につきましては、弥富市立大藤小学校、弥富市立栄南小学校、弥富市立十四山東部小学校及び弥富市立十四山西部小学校を統合して弥富市立よつば小学校を設置するため、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第47号弥富市運動広場条例の一部改正につきましては、十四山グランドを設置するため、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第48号弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正につきましては、弥富市

立十四山中学校の廃止に伴い、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）につきましては、介護給付費、訓練等給付費や児童手当の増額等を計上するものであります。

次に、議案第50号令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）につきましては、一般被保険者高額医療費の増額等を計上するものであります。

次に、議案第51号令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）につきましては、通所型サービス事業支給費の増額等を計上するものであります。

以上が提案する議案の概要でございますが、議案の詳細につきましては関係部長から説明いたしますので、よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　議案の説明を関係部長に求めます。

なお、補正予算は総務部長に求めます。

伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　議案第42号弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．公平委員会委員長及び固定資産評価審査委員会委員の任務並びに他非常勤の職員報酬の額との均衡を考慮し、報酬日額を１万5,000円に引き上げることとした。

２．愛知県弁護士会のいじめ重大事態調査等に関する調査委員会の報酬に関する指針に鑑み、いじめ問題専門委員会委員及びいじめ問題調査委員会委員の報酬日額を２万円に引き上げることとした。

３．この条例は、令和７年４月１日から施行することとした。

次に、議案第43号弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について、１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．市長の給料月額について、令和７年１月１日から同年３月31日までの間において、10％減額し83万7,900円とすることとした。

２．この条例は、令和７年１月１日から施行することとした。

次に、議案第44号弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について、１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．副市長の給料月額について、令和７年１月１日から同年３月31日までの間において、10％減額し69万3,000円とすることとした。

２．この条例は、令和７年１月１日から施行することとした。

次に、議案第45号弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について、１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．教育長の給料月額について、令和７年１月１日から同年３月31日までの間において、５％減額し63万8,400円とすることとした。

２．この条例は、令和７年１月１日から施行することとした。

総務部は以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　教育部所管の議案について御説明申し上げます。

議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について御説明申し上げます。

１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例（令和５年弥富市条例第26号）の本則を第１条とすることとした。

２．弥富市立大藤小学校、弥富市立栄南小学校、弥富市立十四山東部小学校及び弥富市立十四山西部小学校を統合し、弥富市立よつば小学校を設置することとした。

３．この条例は、公布の日から施行することとした。

４．２については、令和10年４月１日から施行することとした。

次に、議案第47号弥富市運動広場条例の一部改正について御説明申し上げます。

１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．弥富市立十四山中学校の廃校に伴い、十四山グランドを設置することとした。

２．この条例は、令和７年４月１日から施行することとした。

次に、議案第48号弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について御説明申し上げます。

１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．弥富市立十四山中学校の廃止に伴い、十四山中学校運動場の規定を削除することとした。

２．この条例は、令和７年４月１日から施行することとした。

教育部所管の議案は以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　続きまして、議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）につきましては、歳入歳出それぞれ１億5,590万4,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を181億9,299万1,000円とするものであります。

歳入予算の主な内容といたしましては、民生費国庫負担金7,829万7,000円、民生費県補助金657万7,000円、財政調整基金繰入金7,145万8,000円を増額するものであります。

歳出予算の主な内容といたしましては、総務費におきまして、会計管理事務事業の総合収

納システム改修委託料714万4,000円、民生費におきまして、障害者自立支援事業の介護給付費・訓練等給付費3,165万1,000円、児童手当支給事業の児童手当4,303万5,000円、衛生費におきまして、新型コロナウイルス感染症対策事業の新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金過年度分返還金1,822万円、農林水産業費におきまして、農業振興事務事業の野菜集団産地整備事業補助金321万2,000円、教育費におきまして、小学校再編整備事業の設計監理委託料824万1,000円を増額計上するものであります。

次に、議案第50号令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）につきましては、歳入歳出それぞれ3,200万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を39億8,472万9,000円とするものであります。

歳入予算の主な内容といたしましては、県支出金の保険給付費等交付金3,200万円を増額するものであります。

歳出予算の主な内容といたしましては、一般被保険者高額療養費3,200万円を増額するものであります。

次に、議案第51号令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）につきましては、通所型サービス事業支給費568万5,000円の増額等を計上するものであります。

以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　お諮りをいたします。

本案10件は、継続議会で審議をしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、本案10件は、継続議会で審議することに決しました。

～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～

日程第17　請願第１号　十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書

○議長（堀岡敏喜君）　次に、日程第17、請願第１号十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書を議題といたします。

請願第１号は、お手元に配付をしてあります請願文書表のとおり、所管の委員会に付託をいたします。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了しましたので、本日の会議はこれにて散会をいたします。お疲れさまでした。

～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～

午前10時17分　散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長　　堀　岡　敏　喜

同　　議員　　平　居　ゆかり

同　　議員　　横　井　克　典

令和６年12月11日

午前10時00分開議

於　　議　　場

１　出席議員は次のとおりである（16名）

１番	伊　藤　千　春	２番	柴　田　英　里
３番	鈴　木　りつか	４番	平　居　ゆかり
５番	横　井　克　典	６番	板　倉　克　典
７番	那　須　英　二	８番	加　藤　明　由
９番	小久保　照　枝	10番	堀　岡　敏　喜
11番	佐　藤　仁　志	12番	江　崎　貴　大
13番	加　藤　克　之	14番	高　橋　八重典
15番	早　川　公　二	16番	平　野　広　行

２　欠席議員は次のとおりである（なし）

３　会議録署名議員

６番	板　倉　克　典	７番	那　須　英　二

４　地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名（34名）

市長	安藤正明	副市長	村瀬美樹
教育長	高山典彦	総務部長	伊藤淳人
市民生活部長	柴田寿文	健康福祉部長兼 福祉事務所長	安井幹雄
建設部長	立石隆信	教育部長	渡邊一弘
健康福祉部次長兼 保険年金課長	佐藤雅人	会計管理者兼 会計課長	大木弘己
教育部次長兼 歴史民俗資料館長兼 図書館長	伊藤隆彦	監査委員 事務局長	水谷繁樹
総務課長	横江兼光	財政課長	村田健太郎
人事秘書課長	山森隆彦	企画政策課長	佐藤文彦
防災課長	太田高士	税務課長	岩田繁樹
収納課長	細野英樹	市民課長兼 十四山支所長兼 鍋田支所長	下里真理子
環境課長	梅田英明	市民協働課長	藤井清和
観光課長	浅野克教	健康推進課長	山守美代子
福祉課長	後藤浩幸	介護高齢課長	富居利彦

児童課長	飯田宏基	総合福祉センター所長兼十四山総合福祉センター所長兼いこいの里所長	中山義之
産業振興課長	上田忠次	土木課長	神野忠昭
都市整備課長	三輪秀樹	下水道課長	早川昇作
学校教育課長	田畑由美子	生涯学習課長兼十四山スポーツセンター館長	飯塚義子

5　本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	佐野智雄	議事課長	田口邦郎
書記	鈴木悦子		

6　議事日程

日程第１　　会議録署名議員の指名

日程第２　　一般質問

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午前10時00分　開議

○議長（堀岡敏喜君）　おはようございます。

会議に先立ちまして御報告いたします。

西尾張ＣＡＴＶより、本日及び明日の撮影と放映を、また報道機関より、本日の撮影と放映の許可されたい旨の申出がございました。

よって、弥富市議会傍聴規則第９条の規定により、これを許可することにいたしましたので、御了承をお願いいたします。

次に、本日及び明日の一般質問に限り、タブレット端末を試験導入いたします。開会の前に、会議中におけるタブレット端末の使用について確認をしておきます。会議中は、貸与されたタブレット端末以外の情報通信機器等の使用は禁止をされておりますので、スマートフォン等をお持ちの方は電源をお切りいただくか、マナーモードに切り替え、かばん等にしまっていただくようお願いいたします。

また、タブレット端末の使用につきましては、弥富市議会タブレット端末運用基準を遵守して御使用いただくようお願いをいたします。

質問、答弁をされる皆さんは、努めて簡潔明瞭にされるようお願いをいたします。

ただいまより継続議会の会議を開きます。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（堀岡敏喜君）　日程第１、会議録署名議員の指名をいたします。

会議規則第88条の規定により、板倉克典議員と那須英二議員を指名いたします。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第２　一般質問

○議長（堀岡敏喜君）　日程第２、一般質問を行います。

順次発言を許します。

まず、伊藤千春議員。

○１番（伊藤千春君）　１番　伊藤千春。

通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

改めまして皆様、おはようございます。

今年も残すところ残り20日となってまいりましたが、何かと気ぜわしい季節となり、寒さが肌にしみる今日この頃、お変わりございませんでしょうか。

また、本日12月11日は、「いにいい」の語呂合わせから胃腸の日とされております。皆様、年末に向けて忘年会とかいう理由で暴飲暴食をされていませんでしょうか。自分のお体です

から、お大事にしてくださいませ。

また、昨今火災が多く発生しており、火の元にも十分注意してください。

話は変わりますが、先日の日曜日に私も応援に駆けつけましたが、愛知駅伝が開催され、本市も参加しました。目標には僅かに届かなかったものの、前年の35位を大きく上回る成果を上げる結果になり、本市の代表として参加された選手の皆様から元気と勇気とパワーをいただきました。

それでは、今より今後の魅力ある弥富市になるために、２点質問させていただきます。

１点目は、よりよい部活動の地域移行を目指して質問させていただきます。

部活動は、現行の学習指導要領において学校教育の一環として位置づけられており、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒などの好ましい人間関係を構築したり、活動を通じて自己肯定感を高めたりするなど学校という環境における生徒の自主的な多様な学びの場として教育的意義を有してまいりました。しかしながら、部活動をめぐる状況は、近年、特に持続可能性という面での厳しさを増しております。少子化が進む中、これまでと同様の体制で運営することは難しくなってきており、学校や地域によっては存在が危ぶまれているのが現状です。

学校において働き方改革が求められる中、部活動が教師の長時間勤務の大きな要因の一つとなっていることから、改革が急務となっております。今後、少子化の中でも子供たちが生涯にわたって豊かなスポーツ、文化芸術活動に親しむ機会を持つことができるよう、学校と地域との連携、協働によって、部活動の在り方に関し、速やかに改革に取り組み、持続可能な環境整備を行うことが教師の方の負担軽減にもつながる仕組みを構築する必要があると考えております。

2020年、文部科学省から部活動の段階的な地域移行について示されて以降、2022年８月までに開催された地域移行に関する検討会議の提言を経て、同年12月、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインが通知され、2023年度から2025年度までの３年間を改革推進期間と位置づけて、部活動の段階的な地域移行、地域連携を進めることとされております。

本市においても、このガイドラインを参考に、生徒の多様なニーズに応じた活動機会の保障と教育の働き方改革の両立に向けた部活動の地域移行、地域連携の取組を進めていただきたく、質問させていただきます。

まず、ガイドラインが改訂され、内容について本市において話し合われたでしょうか。そのときの意見はどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　おはようございます。

御答弁申し上げます。

部活動ガイドラインが改訂され、移行達成時期にとらわれない方針になったことについて、本市でも慎重に検討を行い、より実効性のある支援を目指すことといたしました。特に、部活動を地域に移行する際には、地域内において重要な役割を担える団体等との連携を強化していくことが求められます。そのため、地域全体での支援体制を整え、生徒たちにとってよりよい環境を提供できるよう、具体的な取組を進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　本市でも慎重に検討を重ねられ、より実効性のある支援を目指して、早期に休日部活動を地域に移行するという先ほどの答弁の下、地域活動をするに当たり重要な役割を担う団体との連携を強化していただけるという答弁、ありがとうございます。実効性のある支援のほど、今後も引き続きよろしくお願いいたします。

しかしながら、実効性のある支援を現実のものにするためにも、本市としての部活動の地域移行の目的と理由は、現在の課題はどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　部活動は、教育活動の一環として、生徒の自主的で多様な学びの場を提供し、教育的な意義を有してきました。しかし、少子化が進む中で、これまでの運営体制の維持が難しくなっています。

特に現在、教諭が顧問を務める部活動に関しては、専門性に関わらず働き方改革が進む中で、その継続がますます厳しくなっています。このような背景から、部活動の地域移行が求められています。

部活動の地域移行には、幾つかの重要な目的と理由がございます。

まず地域との連携を強化することが上げられます。地域のスポーツ資源や施設を活用することで部活動が地域に根差した形で実施され、地域の人々と交流が深まります。また、スポーツや文化活動を通じて世代間の交流の活性化が期待されます。さらに、地域のクラブや団体との協力により、生徒たちは多様な活動の選択肢を持ち、豊かな経験と学びを得ることができると考えています。

しかし、部活動の地域移行には幾つかの課題も残されております。

まず、指導者の確保が難しく、安定した指導体制の構築が課題となります。また、生徒や保護者が地域への移行に対して不安を感じることがあるため、積極的に参加してもらうための情報提供が必要でございます。さらに、地域の活動が一時的なものにならないよう、持続可能な運営体制を築くことも大切です。部活動の地域移行には多くの利点がある一方で、克服すべき課題も多くあります。これらの課題を乗り越えるためには、地域全体が協力し合う

ことが重要です。

令和９年度には、休日部活動を地域に移行することを目標とし、関係団体との調整を引き続き進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　地域との連携を強化することが目的として上げられ、地域のスポーツ資源や施設を活用することで地域の人々との交流が深まり、スポーツや文化活動を通じて世代間の交流につながり、生徒たちは豊かな経験と学びを得ることができるということですね。

幾つかの課題は、先ほど述べていただいたようにあるのですが、ぜひとも課題を乗り越えるために地域全体が協力し合い、令和９年度には地域移行することを目標に調整を進めていただけるという考えでよろしいですね。引き続きよろしくお願いいたします。

次に、指導者について幾つか質問させていただきます。

部活動の地域移行で指導者の確保が難航している、その原因は何であるでしょうか。

また、スポーツ指導者登録人材バンクのような公的な仕組みでの募集だけではなく、市民全体への募集も必要であると考えますが、実施するような考えはあるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　部活動の地域移行においては、経験豊富な指導者が不可欠ですが、その数が限られているため、確保が厳しい状況にあります。

スポーツ指導者登録人材バンクは、公的な仕組みとして指導者を募集していますが、地域の特性やニーズに応じた人材を集めることが重要であると考えており、地域指導者の確保については、部活動指導員を務めている方々や弥富市スポーツ協会、文化協会と連携し進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　地域移行での人材確保が厳しい状況の中でも、スポーツ指導者登録人材バンクを活用するのではなく、地域の特性やニーズに応じた人材を集めることが重要という考えの下に、部活動指導員をされている方、本市、スポーツ協会、文化協会と連携して地域指導者を確保されるということですね。

そのためにも、指導者登録の前後に、年齢に応じた接し方や指導のときの声かけなどの講習の予定はあるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、部活動指導員が実際の指導に当たるために、毎年部活動指導員研修会を開催しています。この研修会を通じて、現場での指導に必要な知識やスキルを身につけ、指導の質を高めることができております。

また、今年９月に実施した児童・生徒及び保護者を対象にしたアンケートでは、どのような指導者に指導してほしいかという質問に対し、専門的な知識や技能を持った指導者や話をよく聞いてくれる指導者が望ましいとの回答が多く寄せられました。中学生に指導するには様々な知識やスキルが求められるため、引き続き指導者の質の向上に向けた定期的な講習を実施してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　毎年の部活動指導員研修会を通じて、指導に必要な知識、スキルを身につけ、指導の質を高めることができるということですね。さらには、中学生を指導するに当たり、より一層の知識やスキルが求められるため、引き続き指導者の質の向上に向けたより定期的な講習を実施していただけるということですね。継続的に引き続き講習を実施していただきますよう、よろしくお願いいたします。

次に、平日と休日で同じ種目に加入する場合、指導者が変わり、指導方法の違いに戸惑う生徒も出てくる場合がありますが、その場合、どのように考えておみえになられるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　指導スタイルの違いから戸惑う生徒が出る可能性については、連携を強化し、指導方針や練習内容を共有することが重要であると考えます。定期的な打合せや指導方針の統一を図り、同じ目標に向かって取り組むことで生徒が混乱しないよう配慮してまいります。

また、生徒とのコミュニケーションを強化し、指導の意図や趣旨をしっかりと伝えることで理解を深めてもらうよう努めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　指導スタイルの違いから戸惑う生徒が出た場合、連携を強化し、指導方針、練習内容を共有して生徒とのコミュニケーションの強化をし、混乱が生じないように指導の意図や趣旨をしっかり伝えて理解に努めていただけるということですね。しかしながら、万が一、事故やけがなどが起きないとも限りません。万が一起きた場合に対する補償は、どのようになっているのでしょうか。

また、学校部活動と地域移行の違いは。また、災害補償に対する保険加入に対して、市の支援はどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　地域移行後の活動は部活動とは異なり、災害共済給付金制度の対象外となります。そのため、生徒や指導者が安心して活動できるように、個人負担によりスポーツ保険に加入していただく必要があると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　部活動とは異なり、災害救済給付制度の対象外のため、個人負担によりスポーツ保険に加入いただく必要があるというお考えですね。

ところで、地域移行の活動場所で他の中学校へ移動が必要な生徒もいると考えられますが、公共施設を利用する場合の対応についてはどのように考えてみえるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在のところ、公共交通を利用する際の支援策は考えておりません。部活動の地域移行に伴う活動場所への移動につきましては、基本的には自転車や保護者の送迎を想定しております。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　現在のところ、公共交通を利用する際の支援策は考えておみえにならないということですね。基本的には、自転車や保護者の方の送迎を想定されているということですね。分かりましたが、公共交通の利用支援について、今後課題として検討のほどお願い申し上げます。

現在、部活動の種類と地域クラブで生徒の受入れが可能な部活動は、受入れに必要な条件はどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、各中学校での部活動の状況につきましては、弥富中学校では運動部が12種目あり、具体的には野球、ソフトボール、サッカー、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、卓球、剣道、なぎなた、柔道、陸上部です。文化部は３種目あり、吹奏楽、美術、情報処理部が活動をしております。

弥富北中学校では運動部が８種目あり、野球、ソフトボール、サッカー、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、ダンス部です。文化部は２種目で、吹奏楽、創作文化部が活動しております。

また、十四山中学校においては運動部が５種目あります。野球、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、卓球部です。文化については文化部が１種目であり、文化部として活動をしております。

３校に共通する部活動として、野球、ソフトボール、バレーボール、バスケットボールの４種目があります。これらについては、地域で受入れが可能であると考えております。受入れに際して特別な条件は設けておりませんが、地域での部活動が円滑に行われるよう調整を行いながら事業を進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　具体的に弥富中学校、弥富北中、各中学校でのスポーツ、文化活動ともに各種バラエティーに富んでおり、今現在活動されていることですね。大変すばらしいことだと思います。ぜひこの活動がもっと盛んになるよう、よろしくお願いいたします。

受入れに必要な特別な条件は設けてはなく、地域での部活動が円滑に行われるように調整を行いながら事業を進めていただけるということですね。

それでは、部活動の地域移行から本市としてのスポーツの発展に対する考えはどのように考えてみえるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　部活動の地域移行は、地域におけるスポーツや文化の発展に大きな可能性を秘めています。本市としましては、地域の特性に応じた活動の促進や多様なスポーツを楽しむ環境づくりを支援し、生徒たちが主体的に参加できる機会を増やしていくことを検討しています。この取組により、スポーツや文化活動を通じて世代間の交流を図ってまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　部活動の地域移行は、地域におけるスポーツや文化の発展に大きな可能性を秘め、取組によりスポーツや文化活動を通じて世代間の交流を図っていただけるということですね。実現していただきますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、平日の部活動の在り方や環境について、今後のスケジュールはどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　部活動は、学校生活における主体的かつ多様な学びの場であり、生徒の体力の向上や精神成長を促す重要な役割を果たしています。現在、休日の部活動を地域に移行する取組を進めていますが、これが完了した後には、平日部活動の充実に向け、国や県の動向、近隣市町村との情報共有を行い、具体的なスケジュールを策定してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　休日部活動を地域移行する取組を進め、完了した後に平日部活動の充実に向けて、国や県の動向や近隣市町村との情報共有を行い、具体的なスケジュールを作成していただけるという前向きな御答弁ありがとうございます。

スポーツだけに限らず、文化のほうにも力を注いでいただき、全ての部活動の地域移行を実現していただけるように切にお願いし、よりよい部活動の地域移行実現についての質問を終わらせていただきます。

次に、弥富市市制20周年事業について、令和８年に市制施行20周年を迎えるに当たり、幾つか質問させていただきます。

平成28年10月15日、弥富市市制10周年記念事業を総合社会教育センターで開催された式典では、大村愛知県知事をはじめ、総勢約330名の来賓の方をお招きし、甚だしくお祝いのセレモニーが行われ、オープニングでは10年を振り返る記念映像の上映やなぎなた連盟による演舞の披露が行われ、式典では前服部市長の式辞に始まり、弥富市健康都市宣言、弥富市市制10周年記念表彰など参加者全員で市制10周年をお祝いしたと聞いております。

この10年間、地域社会の発展に寄与され、市政に多大なる御貢献をいただいた個人の方７名、団体４組、小学校区を単位としたコミュニティ推進協議会６組に感謝状が贈呈され、式典後には来賓に向けた基調講演として、一橋大学副学長の辻琢也教授をお招きし、少子高齢・人口減少時代の自治体経営と題した講演が行われ、講演では、現在の弥富市の課題や現状などを取り上げており、来場者の方からは興味を持ちながら講演を聞いておられたと聞いております。

弥富市では、市の魅力を全国に広くＰＲし、イメージを向上させるために弥富市広報大使を設置され、式典で本市に御縁のある方に弥富市広報大使の委嘱状を交付、金魚絵師の深堀隆介様がスランプに陥ったときに救ってくれた金魚への恩返しとして、弥富市へ貢献できるように努めますと意気込みを述べられ、弥富市出身・在住の劇作家、作曲家のやとみまたはちさんは、自身が歌ったＣＭソングを披露され、会場は盛り上がったと聞いております。

市制施行20周年も、市制10周年事業イベント以上に盛大に、10周年以上に盛り上げていただきたく、質問をさせていただきます。

市制施行10周年事業について、まず具体的な内容はどのようであったのか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　御答弁申し上げます。

平成18年４月１日に市制施行し、そこから10年目となる平成28年に市制10周年記念事業を実施いたしました。市が誕生して10年という大きな節目ということもあり、４月のやとみ春まつりを皮切りに、ラジオの公開録音、市内見学ツアー、ミュージカル公演、記念式典、愛知県・弥富市津波・地震防災訓練、金魚サミット、出張！なんでも鑑定団の公開収録など様々な事業を１年かけて市民の皆様とお祝いしたところでございます。

また、10月の記念式典では、多くの来賓の皆様をお招きし、健康都市宣言、広報大使委嘱、表彰、基調講演など盛大に開催をいたしました。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　市制誕生10周年という大きな節目に当たり、１年かけて市民の皆様と一緒にお祝いされたということであり、私は10周年記念事業に参加しておりませんが、先ほど述べさせていただいたことが催され、会場は盛り上がったと認識しております。10周年事

業以上に令和８年の20周年記念事業を盛大なものにしていただきたく、幾つか質問をさせていただきます。

市制施行20周年事業について、観点と目的はどのように考えてみえるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　令和８年の市制施行の20周年を契機といたしまして、先人たちの功績をたたえるとともに、市民がこのまちに誇りと愛着を持ち、本市の自然、歴史、文化等を次世代に継承し、未来へと思いをつなげられるよう記念事業を実施いたします。

また、記念事業を通じて本市の魅力を市内外へ積極的に発信し、本市のさらなる発展・飛躍を目指してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　本市の魅力を市内外へ積極的に発信して、本市のさらなる発展・飛躍に努めていただけるということですね。

その言葉を実現していただけるように、次の質問をさせていただきます。

20周年事業の開催に向けての準備体制はどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　市制施行20周年記念事業の実施に向け、庁内連絡会議を本年８月１日付で設置をし、現在までに計３回の会議を開催いたしました。今後も会議を重ねて、着実に記念事業等を前に進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　本年８月に庁内連絡会議を設置し、今までに３回の会議を開催されたということが分かりました。しかしながら、２年という月日はあるようで、あっという間に来てしまいます。来年以降は会議の日程も多くなり大変だと思いますが、先ほど答弁にもありましたが、着実に記念事業を進めていただきますように切にお願いし、次の質問をさせていただきます。

市民の皆様や市内事業者と一緒になっての取組をどのように考えてみえるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　市制施行20周年記念事業では、市民や団体等の皆様が主催をし、冠称等をつけて実施する冠事業を検討しております。実施に当たりましては、市制施行20周年のＰＲにつながる事業や取組を申請していただき、市において承認させていただく形を取り、市民や団体等の皆様が市と共に市制施行20周年を盛り上げていきたいと考えております。

また、市主催事業につきましても、多くの皆様に御参加をいただき、楽しんでいただけるよう工夫を凝らしてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　市民や団体の皆様が主催して実施する冠事業を検討されているということですね。数多くの市民の皆様に参加していただき、楽しんでもらえるような工夫をしていただけるということですね。ぜひともよろしくお願いいたします。

次に、20周年を契機に本市の魅力を高める取組はどのように考えてみえるのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　記念事業の基本方針の一つに、まちの魅力を再認識し、市への愛着や誇りを醸成すると掲げております。市制施行20周年を契機として、市民の皆様へ市の魅力を改めて知っていただき、またその魅力を高めていけるよう事業選定等に努めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　記念事業の基本方針の一つのまちの魅力を再認識し、本市への愛着の醸成をテーマにして、市民の皆様へ市の魅力を再認識していただけるような事業選定に努めていただけるというありがたい御答弁、ありがとうございます。よろしくお願い申し上げる次第でございます。

最後に、市制施行20周年記念事業の進捗状況について、現在の検討状況はどのようになっているのでしょうか、お聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　既に各御家庭に配付されております市広報紙12月号及び市ホームページにおきまして、市制施行20周年を記念したキャッチフレーズの募集について掲載をしております。募集期間は12月10日から来年１月20日までとし、市内在住、在勤または在学の方から多数の応募をお待ちしております。

なお、キャッチフレーズが決まりましたら、引き続きロゴマークの募集も実施する予定でおります。また、市主催事業や記念式典等につきましては、現在、庁内会議におきまして協議をしているところです。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　市制施行20周年を記念したキャッチフレーズを昨日から来年１月20日まで募集され、決まり次第ロゴマークの募集をされるということですね。数多くの募集の中から20周年にふさわしいものになることを願っております。本日傍聴に見えておられる方もぜひ募集していただきますよう、よろしくお願いいたします。

数多くの募集を積み、主催事業及び記念式典の内容については、これから開かれる庁内連絡会議において話し合われるということでよろしいでしょうか。先ほどもお願いいたしましたが、着実に20周年記念事業を進めていただきますように改めてお願い申し上げます。

さて、20周年事業の今後の進め方について、少しだけお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　今後も庁内連絡会議を中心に引き続き必要な協議を重ね、令和８年の事業実施期間に市民の皆様に喜んでいただけるような事業等を検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤議員。

○１番（伊藤千春君）　答弁にありましたように、市民の皆様に喜んでいただけるように事業の検討よろしくお願いいたします。

御前崎市の基本方針を参考にするわけではありませんが、市民参画・協働によるウエルビーイングの実現、９月議会におきましても平居議員も一般質問されましたが、市民主体、協働によるまちづくりを推進するとともに、多くの市民の方が参加していただき、心身ともに健康で生きがいや幸福を実感できる取組をぜひともよろしくお願いいたします。

将来を担う子供たちが記念事業、地域事業への参加を通じ、市への愛着や誇りの醸成を図る取組をしていただき、いつまでも住み続けたいまちづくりの推進につなげていただくよう、切にお願いさせていただきます。

来年、令和７年には、愛西市、清須市、令和８年には北名古屋市も市制施行20周年を迎えると聞いております。本市においては、ビッグプロジェクトを他市に負けないぐらい、市民の皆様や団体の皆様と協力して盛大なものにされる予定であることを切にお願いいたします。誠に本市20周年事業を皆様で盛り上げていこうではありませんか。ぜひ、やってよかったと言われるような市制20周年事業にしていこうではありませんか。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午前10時45分とします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午前10時41分　休憩

午前10時47分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、横井克典議員。

○５番（横井克典君）　５番　横井克典です。

通告に従いまして、質問いたします。

今回の質問は、福祉部福祉課における補助金の不適正な事務処理についてと十中跡地に小学校再編校を新設することについての２題であります。

まず、福祉部福祉課における補助金の不適正な事務処理についての質問をさせていただきます。

今年10月15日の議会改革協議会が始まる前の市の説明によりますと、福祉課長をはじめ、関係者は、１年前の令和５年10月に健康福祉部福祉課における補助金の不適正な事務処理の件で処分を受けたとのことであります。福祉課長はどのような処分を受けられたのでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　職員の懲戒につきましては、懲戒審査委員会の委員長である私のほうから答弁をさせていただきます。

本事案に関しまして、新旧の担当職員及び新旧の担当課長に対しまして厳重注意処分を行いました。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　再度、副市長にお尋ねします。

処分はどうして受けることになったのでしょうか、簡潔にお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　国の令和４年度子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金の事務手続において、本来交付されるべき730万円分を収入できず、市の一般財源で補填したという事案が人事異動の直後におきまして発生したため、問題の経緯に関わった管理監督者と担当者を厳重注意といたしました。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　今度は、福祉課長に再度詳細について質問します。

今年９月27日に私が市役所の相談室で福祉課長から、当該事案の行政文書の開示を受ける際、私は福祉課長に子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金について、歳出額に対して国からもらえる補助金が730万円少ないのではないかと私から指摘しました。福祉課長からは、補助金の交付率の関係で全額10分の10はもらえない。そのため、総事業費と交付決定額に730万円の差が生じたと説明されました。

しかし、先ほどの副市長の答弁とは違う内容でありますけれども、なぜ実際の真実とは違う私に説明をされたのでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　後藤福祉課長。

○福祉課長（後藤浩幸君）　本事案は、令和３年度事業において不足が生じた730万円分を令和４年度の補助金手続において受け取れなかったものでございますが、議員へ御説明したの

は、令和３年度の補助金実績報告の件であったため、説明に誤りがあったものとは考えておりません。

また、そのときは既に議会への報告に向けて資料の精査を行っていた段階であり、横井議員へ先行してお伝えすることができませんでした。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　いや、それでも、私、２回、３回、福祉課長へ尋ねたときに、なぜそういう説明をされませんでしたか。案分率、交付率の関係でもらえなかったと言ったじゃないですか。それを私は愛知県庁に２度ほど行って確認しておりますよ。それは虚偽の答弁じゃないですか。真実のことをしゃべってくださいよ。私は交通費かけたり、公文書を何回か開示して説明を受けたんじゃないですか。その真実、10月15日にあなた方が説明したことを全然違う説明じゃないですか。それで、今の答弁って虚偽の説明じゃないですか。

市長、どう考えられますか。市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　ただいま福祉課長が申したとおりだと私は思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　いや、でもあり得ないじゃないですか。虚偽の報告をしておいて、それが適正ってありますか。私は県庁まで行っているんですよ、きちんと説明されないから。それって本当に隠蔽体質そのものじゃないですか。そんなことで市民のためにって言えないですよ。

わざわざ議員が質問しても、本当のことを言わない。なぜ10月15日に議会に対して説明した話と１週間前に私に説明した話と違うんですか。なぜ同じことが言えないんですか。去年の10月に処分されているんですよ、職員は。それなのになぜ黙っているんですか。私が指摘したから、10月15日に公表した。まさにそれじゃないですか。隠蔽体質はやめていただく必要があります。絶対ですよ、これ。市民の方は見ていますよ、これ、市長。

じゃあ、次の質問に移ります。

次に、私は、この補助金は全額10分の10を国からもらうことができたと愛知県福祉課、先ほど言いましたけれども、福祉課に確認しました。先ほども言いました９月27日に福祉課長に伝えました。11日後の10月８日に議会事務局から10月15日の議会改革協議会が始まる前に、市側から報告事項がある旨の連絡がありました。市は12月定例会の前の10月15日にこの事案を議会に報告する気があったのでしょうか。

私がこの事案をさっき言いました発見したことによって、急遽隠蔽を免れるために発表したとしか考えられませんが、市長の答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本件につきましては、旧担当者がその時点において必要と見込まれる執行額を算出した結果として不足が生じてしまったことに根本的な要因があったこと。新担当者は異動後すぐに手続を処理する必要があり、過去の経緯や内容を十分に精査する時間的な余裕がなく、旧担当者が作成した書類を過信してしまい、そのまま県へ提出してしまったことから問題が生じる結果となりました。このような状況を踏まえ、新旧担当者職員に相当程度の責任や過失を認めるには十分ではないものと判断をしておりました。

また、市といたしまして、明確な公表基準を設けていなかったことから、議会及び市民の皆様への報告を見合わせておりましたが、国民健康保険における繰上充用の件、物品買入における追認の件など市の不適正な事務処理が続いたこと、全国的に同様の事例として国庫補助金に係る事務処理ミスが相次いで報告されている状況を鑑み、再度本件の取扱いについて検討した結果、遅ればせながらこのたび報告すべきとの判断に至りました。

このような状況におきまして、12月議会に向け、再度内容に誤りがないか精査の上、報告の準備を進めておりましたが、正確な情報をいち早く議員の皆様にお伝えすべきと判断し、10月15日に御報告を申し上げました。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　真実は今後の質問で明らかになりますので、次の質問に移ります。

10月15日の市の説明は、新旧担当職員に相当程度の過失を認めるに十分ではないものと判断しましたと説明がありました。市に730万円もの損失を与えて、なぜ過失がないと言えるのでしょうか、市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどの答弁の繰り返しとなりますが、本件につきましては、旧担当者がその時点において必要と見込まれる執行額を算出した結果として不足が生じてしまったことに根本的な要因があったこと。新担当者は異動後すぐに手続処理する必要があり、過去の経緯や内容を十分に精査する時間的余裕がなく、旧担当者が作成した書類を過信してしまい、そのまま県へ提出してしまったことから問題が生じる結果となりました。このような状況を踏まえ、新旧担当者に相当程度の責任や過失を認めるには十分ではないものと判断をしておりました。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　730万円の損失が出ても、今市長の答弁でいけば、当時過失を認めるに十分でないという判断をしてみえます。市民の国の補助金が取れなかったということは、市民が納められた市民税、貴重な市民税から補填されているわけでありますよ。それを過失がない、そんなことが一般社会で通じますか。

もう一度、市長の答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　当時、本市といたしましては、事件・事故等に係る明確な公表基準を設けていなかったこと、またこのたびの不適正な事務処理事案が本市が定める懲戒処分等の公表基準に該当しなかったことから、本市といたしましては、議会及び市民の皆様への報告を見合わせておりました。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　では、再度質問します。

現在は過失があると認めてみえるのかどうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどから答弁申し上げておりますが、新旧人事異動の時期とちょうど重なったこともありまして、またその書類が新年度早々に提出となっておりますことから、新の担当者のほうはなかなかそこまで目が行き届かず、また担当が大きく変わったということもありまして、旧の担当者の書類をそのまま提出してしまったことにありますものですから、一定の過失はあるわけでございますが、十分なものではないと判断をしております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　当然、市役所は人事異動があります。全国のどこの自治体も人事異動でこういったミスは防いでいると思います。ですけど、過失が一定程度しかないということは、やはり組織としては、こういうところは厳しくいかないといけないと思います。職員が萎縮するようなことではなくて、風通しのいい、再発防止に取り組む必要がありますので、次の質問に移ります。

いずれにしましても、私は相当程度の過失があると考えます。そのため、当該事案の今監査請求を出しているところでありますけれども、今の市長の認識の甘さを考えると、次の手続に進んで過失の有無を法的に明らかにしてまいりたいと今決心しました。

次に、10月17日の中日新聞の記事では、今年に入り不適正な事務が続いていたため明らかにしたと報道がありました。これまでの国民健康保険による繰上充用や物品購入における追認の不適正な事務の件がなければ、今回の730万円の不適正な事務処理の件は公表しなかったと解釈できます。市長の認識をお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどの答弁の繰り返しにはなりますが、当時、本市といたしましては、事件・事故等に係る明確な公表基準を設けていなかったこと、またこのたびの不適正な事務処理事案が本市が定める懲戒処分等の公表基準に該当しなかったことから、本市といたしましては、議会及び市民の皆様への報告を見合わせることとしておりました。

しかしながら、国民健康保険における繰上充用の件、物品買入における追認の件など市の不適正な事務処理が続いたことから、このたびの事案について再考し、市として報告すべき事案であると判断に至り、遅ればせながら公表することとしとしたものでございます。

１年以上が経過した後に、このような形での御報告になったことにつきましては、深くおわびを申し上げます。

今後、新たに作成しましたパブリシティ（報道機関への情報提供）の手引きに基づき、しっかり対応してまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　公表基準がなかったから説明しなかったということですが、先ほどの繰り返しになりますけれども、一般財源、市民の方から納めていただいた一般財源を不足したからといって補填する、これを市民、議会にないしょで１年間たってから報告、あり得ない話ですよ。公表基準がなくても、730万円の損失を発生させたのであれば速やかに公表するべきではないでしょうか。

再度、市長に質問します。

学校教育課の2,000万円を超える物品購入における追認は、９月定例会で報告されましたけれども、そうであるなら、令和５年度のこの730万円の損失の事案は、遅くても今年９月定例会で報告できたと思います。精査していたとはいえ、１年前ですよ。別に10月15日にやる必要はないじゃないですか。なぜ９月議会にやらなかったんですか。市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどから申しておりますが、人事異動とちょうど重なって、いろいろな国のほうの補助金、補助制度等の精査も精査といいますか、理解もございましたものですから、大変多岐にわたる書類等もあり、新旧の担当者の書類等の確認も煩雑でございましたものですから、１年間かかったところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　ちょっと質問と答弁が食い違っています。

次の質問に移ります。

次に、市の説明では、全国的に国庫補助金に係る事務処理のミスが相次いで報告されている状況を鑑み、公表に至ったという説明をされました。他自治体がミスを公表しないと弥富市は問題が発生しても自らの意思で公表基準がないからといって公表しないという考え方、そういった体制なのでしょうか、市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどの答弁の繰り返しになりますが、当時、本市といたしましては、事件・事故等に係る明確な公表基準を設けていなかったこと、またこのたびの不適正な事務

処理事案が本市が定める懲戒処分等の公表基準に該当してこなかったことから、本市といたしましては、議会及び市民の皆様への報告を見合わせることといたしました。

しかしながら、国民健康保険における繰上充用の件、物品買入における追認の件など市の不適正な事務処理が続いたことから、このたびの事案について再考し、市といたしまして報告すべき事案であると判断に至り、遅れて申し訳ございませんでしたが、公表することといたしたものでございます。

１年以上経過した後にこのような形での報告になったことにつきましては、深くおわびを申し上げます。先ほども申し上げましたが、今後は新たに作成しましたパブリシティ（報道機関への情報提供）の手引きに基づき、しっかりと対応してまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　再度、この関連で、先ほど国庫補助の全国的という話で、今回の国庫補助金のミスは県の地域福祉課に確認したところ、こういったミスは県内54市町村では弥富市しか確認されていないということでした。市の説明にある全国的に国庫補助金に係る事務処理のミスが相次いで報告されている状況を鑑み、公表に至ったとする説明がありましたけれども、それと先ほどの全国的に事務処理が相次いだから公表したということとの説明に矛盾を来しますけれども、この矛盾について説明を市長に求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　全国的な国庫補助金の事務処理ミスにつきまして、今現在、手元に資料がございませんものですから、後ほど答弁をさせていただきたいと思います。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　いずれにしても、54ある愛知県内全市町村でもこんなことがなかった。ということは、まれなことなんですよ。まれなことであれば、逆に去年の10月に公表するべきであったと私は考えますし、一般市民の方も今日クローバーテレビを見られてみえる方も、傍聴の方もそう思ってみえると思います。

次に、今回730万円の損失の不適正な事務処理について、市民に報告し、謝罪する必要があると考えます。ホームページには載っておりましたけれども、広報「やとみ」にも謝罪文を掲載する考えはあるのでしょうか、市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本件につきましては、10月15日の議員皆様への報告後、市ホームページにて公表及び謝罪を行いました。また、報道機関へプレスリリースした後、10月17日の中日新聞尾張版にて本件の記事が掲載をされております。今回作成しましたパブリシティの手引きにおける事務処理手順として、市ホームページによる公表と報道機関への情報提供と定めておりますが、広報「やとみ」への掲載は定めていないことから、現時点では、本事案に

ついて広報「やとみ」への謝罪文等を掲載する考えはございません。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　今市長は、広報「やとみ」に掲載されないという話でした。市の、よくいろんな自由通路のこともそうです。小学校の問題もそうです。市民に市のホームページ、広報「やとみ」で周知した周知したと、その２つの媒体が現実市の広報の媒体であります。それに、なぜ市のホームページでは載せて、マスコミにも載せた。それはマスコミはマスコミです。市のこれまでの答弁である市のホームページ、広報「やとみ」で周知したというところをいつもうたってみえますけれども、なぜこの事案だけ広報「やとみ」に載せられないのか。基準がないからじゃなくて、市の幹部の皆さんの730万円に対する認識が甘くないですか。皆さん、市民は怒っていますよ。傍聴の方に聞いてみてくださいよ。そんなんで市民の方が納得すると思いますか。市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　ただいま広報「やとみ」への掲載基準がないということをお伝えしましたが、いろんな事案が今後発生してくるやもしれません。その都度、広報「やとみ」に対して謝罪文を掲載するかどうかというのは検討してまいりたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　ぜひとも、これは悪いことじゃないんですよ。広報することが大事なんですよ、市民の方に。それが弥富市役所の信頼につながるんですよ。隠すことじゃないんです。公表して知ってもらうこと、これが弥富市の信頼回復につながるんです。それだけお伝えしたいと思います。

次に、市の730万円の損失の説明では、令和５年10月の職員の処分の際は、不祥事等の公表基準を設けていなかったことから、議会及び市民への報告は見合わせていたと説明がありました。１年間見合わせていたんですね。

公表基準はいつ作成されたのでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　これまで本市では、事務処理や事業執行などに伴い発生した事件・事故についての公表基準がございませんでしたので、このたびパブリシティ（報道機関への情報提供）の手引きを令和６年11月に作成し、11月19日の議会全員協議会にて議員の皆様に配付をさせていただいております。

なお、職員の懲戒処分等の公表基準につきましては、令和２年４月から施行しております。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　再度、市長に質問します。

同じようなことになりますけれども、今年10月15日の市の説明では、令和５年10月当時公

表基準を設けていなかったことで、議会、市民の皆様への報告を見合わせていたとの説明でした。見合わせていたというのであれば、令和５年度中に公表基準を設けて、市民に丁寧に説明するべきではありませんでしたでしょうか。なぜ一月や二月ではなく、１年以上が経過した今年11月でないと公表基準を策定することができなかったのでしょうか。再度市長にお尋ねいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどからお伝えしておりますが、そのような経緯があったということでございまして、今後につきましては、このような事案が二度とないようにはしてまいりたいと思っておりますが、もしこのような事案が発生した場合には、議員の皆様にも、また市民の皆様にもいち早く報告をさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　いろいろと市長からも答弁されております。しかし、去年の10月に職員が処分されている。それはもう事が確定しているということなんですよ。それを確定してから１年たっても精査していた、それはもうかなり言い訳にしか聞こえません。そうでなければ処分はしてはいけませんよ、職員の。

じゃあ、この部分の最後の質問です。

いずれにしても、市には一般会計で730万円の損失が発生しております。市長はどのような責任をお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　このたびの本事案により、市民の皆様に対しまして多大なる御心配と御迷惑をおかけしましたこと、また信用を失墜させるような結果となりましたことにつきましては、心から深くおわびを申し上げます。

また、本事案を含め、度重なる事務処理ミスが続いていることにつきましても、改めておわびを申し上げる次第でございます。私といたしましても、職員の監督責任を深く痛感しているところであり、また副市長及び教育長も同様の考えであります。このような状況を踏まえ、本議会におきまして、市長、副市長、教育長の給料の特例に関する条例を提案させていただいたところでございます。

失った信用を取り戻すことは容易ではないと考えますが、市民の皆様からの信頼を取り戻せるよう、今後も職員一丸となり精進してまいりますとともに、二度とこのような事態を起こさないよう、再発防止の徹底に取り組んでまいります。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　先ほどの市長の答弁で、度重なるミス、事務処理によって、今回、議案第46号の給与の減額を出されたということですけれども、具体的に、この度重なるものっ

て、どんな事案があったんでしょうか、ちょっと御説明ください。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどから御答弁の中でも申し上げておりますが、国民健康保険の繰上充用であり、また教育部におきましての教材の追認ですか、そちらのほうでございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　そうしますと、この件でいけば、３年前に、令和４年に生涯学習課における会計の不適切な処理が発覚して、これ３年たっております。当時関係された部課長、グループリーダーは既に減給や戒告の懲戒処分を受けております。これは、今回の減額にはこの損失である不適正な処理が含まれておりません。

当時、市長、副市長は減額の条例を出してみえましたけれども、これはまだ事案が確定していないから、また責任についてのことがしっかり議会としても把握できていないからということで否決をしております。ですので、まだこの責任は残っていると思いますけれども、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほど申し上げましたが、全ての監督責任は私にあります。そうしたことから、今回、副市長、教育長と同様に、一緒に給与の減額の条例を議会に提出させていただいているところでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　でも、先ほど市長は、このたびのものは国保2,000万円とおっしゃいました。その生涯学習課のことはおっしゃってみえませんけれども、これは別で考えてみえて、これ提出されたと考えますけれども、市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　全てでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　そういうことであれば、後づけになって答弁されてみえると思うんです。見られる市民の方がどう判断されるか、その辺り、また委員会でも質問をさせていただきたいと思います。

この質問の最後ですけれども、先ほどもずっと言っておりますけれども、一般社会でも同様です。仕事をすれば少なからずミスは発生します。私も在職中は多々ミスを重ねてきました。しかし、ミスを恐れていては積極的な仕事はできません。また、市民の信頼も得られません。ミスが発生したときに、いかにしてミスが起こった事案を組織全体で共有し、本気でですよ、答弁だけではなく、本気で取り組み、速やかに再発防止に組織全体として取り組む

ことが重要です。万が一ミスが発生してもちゅうちょすることなく、市民や議会に速やかに報告、公表する意識を組織全体で持つことが必要です。

ちょっと先ほどの市の答弁では、ちょっとこの辺りが感じられておりません。体裁を繕うための答弁にしか聞こえませんけれども、市長はじめ、幹部職員の皆様には、今後はガバナンスの効いた、職員がミスにちゅうちょしない、萎縮しない、そういった風通しのいい市役所づくりに尽力していただくことを切に要望をさせていただきます。これはエールのつもりで発言させていただきました。

次に、２題目の質問は、十中跡地に小学校再編校を新設することについてです。

大藤・栄南・十四山地区の皆さんにとって特に関心の高い重大事案でありますので、市民の皆さんが納得、理解できる市の答弁を期待いたしておりますので、よろしくお願いいたします。

まず最初の１番目の質問ですけれども、私がちょっと認識を誤っておったところで執行部側に迷惑をおかけいたしますけれども、この１問目は割愛をさせていただきます。申し訳ありません。

２番目、次に、９月定例会の一般質問で、副市長から十四山西部小学校について、止水板から水が超えるので、止水板を設置しても効力がないとの市の答弁がありました。一般質問を視聴された保護者等からは、止水板を設置しても効力がないと分かっていて、そんな低い場所にかさ上げもせず増築することは一般常識では考えられないと市の対応を疑問視する声が多々ありました。

その保護者等の声に対して、今後、市長はいつ、どのように説明をしていかれるのでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本市は、港湾地域以外はほとんどが海抜ゼロメートル地帯です。そのため、市内には排水機場が13施設あり、日頃から水害への対策を講じております。台風による大雨や線状降水帯が発生した際には、この排水機を大雨の前から運転し、市内が洪水にならないようにしており、市内の小・中学校は、現在どの学校も止水板を設置しておりませんが、伊勢湾台風以来、浸水被害に遭ったことはございません。

昨年度から市内の小学校６年生に市長の出前授業として治水の話を通して、海抜ゼロメートル地帯の中でも安心して暮らせる話をしており、子供たちはこの話を熱心に聞いてくれており、一様に理解をしてくれております。

また、学校では様々な災害に備えて避難訓練を行っており、水が来たときには上層階に避難する訓練も行っております。このように学校では浸水に対しての知識を学び、避難訓練を行っております。市民の皆様には、日頃学校で行っている防災訓練のこと等、今後の説明会

でお伝えしていく考えでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　ちょっと私の質問と趣旨が違っておるように思います。というのは、市長に再質問します。

私の質問は、これまで保護者に説明してきた、防災訓練してきた、そういうことではなくて、そういうことをやられても、今回の署名にもあるように、保護者の方は不安を抱いているんですよ。その不安解消のための説明、西部小学校、今の市の案でいう西部小学校の安全性について、保護者にまだまだ行き渡っていない、説明が行き渡ってないからこういうことになるんですけれども、改めて保護者に対して説明される考えはあるのかどうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　ただいま御答弁申し上げましたが、今後はまだまだ学校に対しての説明会も開いていく予定でございますものですから、保護者の皆様に対しましても、市の海抜ゼロメートル地帯の浸水対策、災害対策につきまして丁寧に説明をしてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　浸水対策をされるということですと、これからもう基本設計が始まって学校が立ち上がっていくという段階において、それはちょっと遅過ぎると思います。

先ほど説明していくということですけれども、そうであるならば、この今保護者の方が不安に思っていること、このこと自体問題であると思うんですけど、市として保護者に安全性は理解されているのかどうか、どう認識してみえますか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほどから何度も申し上げておりますが、弥富市はほとんどの地域がもう海抜ゼロメートル以下の地帯でございます。ところどころゼロメートルに近いところもございますが、ほとんどがそういった状況にある中で、西部小学校付近にもいっぱいの方が住居がございまして、生活をしていただいております。そういった中で、そこが低いんだ、低いんだというようなことに対しまして、不安をあおるというようなこともございますものですから、私は市域全体が低いんだ。本市といたしましては、排水機場を13機設置して浸水対策に当たっているということを保護者の皆様にも丁寧にお伝えしてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　今市長の答弁で、ちょっと違和感を感じた。その不安をあおる、あおるって、そういうことじゃないじゃないですか。自分の住んでいるところがどういうところ

かを認識することが大事なんですよ。それは隠そう、隠そうということじゃないですか。そうではないんですよ。自分たちが住んでいるところは危険だから小学校を安全なところにし、また避難所にもなるもんですから、そういったところを特に危険なところだからこそ、学校は高いかさ上げしたり、止水板を設置したり、そういった対策をすることが大事であって、不安をあおるというのは全くの見当違いだと思います。

次に、９月定例会の一般質問で、市長は十四山西部小学校は１階は浸水するという設計で進めていくと答弁されました。この市長の答弁に対しても、保護者等からは、そんな危険な学校に子供を通わせることはできないとの声が上がっています。その不安を抱かれている多くの保護者等に、今後市長はどのように説明をされるのでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本市の小・中学校の建物の入り口付近の標高はマイナス0.2からマイナス1.9メートルとなっております。大規模災害により堤防が決壊した場合には、十四山西部小学校のみならず、全小・中学校の１階は浸水することと考えられております。

先ほども回答しておりますが、学校におきましては、日頃から浸水に備えて上層階に避難する訓練や地震、火災などの避難訓練を行っております。市民の皆様には、先ほどの質問の際の回答を含め、日頃の学校で行っている防災訓練のこと等を今後の説明会でお伝えしていく考えでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　先ほど市長から、市内は全体が低いから市内全部の小学校が浸水するとおっしゃられました。それはあるでしょう。ですけれども、以前から言っていますように、十四山西部小学校は、弥富の市内の小学校で一番低いんですよ。マイナス1.9メーター、全部が低いからといって、例えば栄南小学校はマイナス0.6メーターです。そういったことで１メーターでも違えば、同じ浸水が起こっても被害は大きくなりますよ。全体が低いからといって、一律に西部小学校とほかの小学校、例えば日の出小学校などを一くくりにして判断されるのは、私は間違っていると思います。

そういうことがあるから、今回の請願にもつながっていると思います。この市の安全性についての認識が甘いと言わざるを得ないものですから、先ほどの質問のように、こうやって3,300名もの署名が集まっているんですよ。なぜこれだけの3,300名の署名が集まったか、安全性が不安だから集まっていると思いますけれども、市長はこの3,300名の署名が集まった要因は何であると認識してみえますか。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　様々な御意見があることは承知しておりますが、小学校再編につきましては、子供たちの教育環境を第一に考えて進めている事業で、今後も今までどおり市民の

皆様に丁寧な説明を行い、再編小学校について市及び教育委員会で進めております計画について御理解をいただきますよう努めてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　教育環境の整備と言われるのであれば、安全対策が必要ですよ。今の市の考えてみえる西部小学校では、安全対策は担保されておりません。だから3,300名の署名が集まっているんですよ。それをしっかり認識していただきたいと考えております。

次に、10月下旬から保護者が中心となり、十四山中学校跡地で新築を望む3,300筆を超える請願署名を収集され、請願書として議長に提出されました。非常に重い請願書、署名であります。この切実な保護者等の願いを市長はどう受け止められたでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほども御答弁申し上げましたが、様々な御意見があることは承知しておりまして、この請願もその一つだと思っているところでございます。今後は、まだこれから実施設計に入ってまいります。今回の議会で変更の予算を認めていただきまして実施設計に入っていくわけでございますが、その中ででき得る、そういった浸水に対する対策を取っていくつもりでございます。御理解賜りたいと思います。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　先ほど浸水対策を取っていくつもりだということですけれども、具体的に今言える範囲で、具体的にどんなことを今市長はお考えでしょうか。補正予算で実施設計が上がっておるということですので、これに盛り込まれなければ、実際の浸水対策というものは絵に描いた餅になりますが、どんなことを実際盛り込まれるのか、分かる範囲で。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　今回の西部小学校に造ります新小学校ですね、４校を再編した小学校につきましては、子供たちは全て新しい校舎で、また職員室、保健室、そして特別支援教室も全て新しい３階建ての校舎に子供たちは入っていただきます。一部でございますけど、特別教室につきまして、音楽室、図工室、また理科室等につきましては、旧校舎を大改修しましてリニューアルをしてまいりたいと思っているところでございます。

そのような中で、対策といいますと職員室に、職員室というのは子供たちの情報がたくさんあるところ、中枢でございますものですから、そちらのほうの浸水対策であり、また新しく建てる学校につきましては、何とか少しでもかさ上げすることができないかというようなことも考えてまいりたいと思っているところでございますものですから、それが例えば何センチ上がるとか、そんなことはまだ今検討している最中ではございますけど、そういったことで取り組んでまいりたいと思っているところでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　改善策は今おっしゃられましたけれども、根本的には、必ず生徒が普通教室にいるわけではないんですよ。特別教室、特に昭和47年建築、当然耐震工事はしてあって階層が潰れることはないにしても、必ず不同沈下したり、そういった災害は起こります。被災を受けます。そういったところの特に弥富市の全部の小学校の中で唯一、支持地盤まで支持ぐいが届いていない、４メーター、５メーター程度の摩擦ぐいなところが、唯一今の西部小学校の既存校舎であります。ですので、そこの危険性がある以上、やはり保護者の方は全てが増築校舎で授業を受けられればいいんですけれども、音楽室、理科室等で授業を受けているときに被災したとき、そういったとき、そういったところも不安視されておりますので、しっかりその辺りも御検討いただきたいと思います。

次に、５番目に移ります。

市が試算した小学校再編に係るライフサイクルコストの比較検討では、新校舎が開校して20年後の令和30年の箇所に建物の方針や金額等が記載されていません。ゼロ円というか空欄でした。欄はあるんですけれども、空欄です。プールは昭和46年建築、既存校舎は昭和47年建築と築50年を超え、老朽化が目立ってコンクリートが剥がれ落ちております。

また、既存校舎も20年間の間に建替えの時期を迎えますが、こういった建替えの費用や方針がこの比較検討表には記載されておりませんけれども、その理由をお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　小学校再編に係るライフサイクルコストの比較につきましては、当時要望に応じ、再編20年後の十四山西部小学校と十四山中学校の比較を載せたものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　そうすると、ライフサイクルコストに比較は載せたんですけど、空欄ということは、20年間に何も修繕とかそういうことをやらないということでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　失礼いたします。

20年後のところですけれども、学校が、既存校舎が20年後ですと約76年というところで、間もなく80年を迎えるというところでございます。建物について、このコンクリートについては80年を想定して、80年たつと建替えというところになってくるわけですけれども、この20年のときにはまだその域に達していないので、それは載っていなかったというだけのものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　それも、厳しい答弁ではないでしょうか。

実際、こういったライフサイクルコストをきちんと計算しないと、最初の金額だけ建設当時で15億円だ、30億円だとそこだけをクローズアップしては、当然安いほうに市民の方は意見が偏ってしまいます。ですけれども、そういった長寿命化の考えを加味するのであれば、やはりその部分は入れていく必要があります。入れていないということですので、80年使うと市は言っています。であれば、その20年後、二十数年後は、この既存校舎等はどのように扱われる考えなのか、市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　弥富市の子供たちは、残念ながら年々減少している傾向であるわけでございまして、この４小学校の再編につきましても、令和10年４月を目途に今進めているところでございますが、その数年後になりますと２クラスでスタートをするわけでございますが、残念ながら１クラスになるというような推計も出ているところでございます。

そうした中で、３階建ての校舎を新築して子供たちには学んでもらうわけですが、そういった校舎は、教室が随分と空いてまいります。そういったところに特別教室、旧校舎の特別教室を中に入れまして、古いところは減築といいますか、壊してまいりたいと思っているところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　そうであるならば、さっき教育部長言われたように、部長の答弁で取壊しを考えている、人口は減ってくるから取壊しを考えているということをやっぱり市民に説明しないといけないですよ。今お聞きしたからそういう発言であって、やはり私たち議員も視察に行ってまいりました。そのときも第２弾の統廃合を教育委員会は考えているんですよ。だから、今だけじゃなくて、その先も見据えたところを、もうきちんと市民に、なかなか負のお話なので、しにくいとは思うんですけど、それを踏まえて中長期的にこの統廃合を考えていかないと、この場当たり的な統廃合だけでは、後々、後でしまったなということが絶対起こりますので、やはりもういいことも、悪いことも市民にお話しして判断してもらう、こういったさっき言われた合併20周年、市民の人と一緒に考えていくというところがこういうとこなんですよ。イベントだけじゃなくて、こういうまちづくりに対しても市民と一緒に考えていく、一緒の気持ちになって汗をかいてもらうのも、市民にも自分事で考えてもらうのが必要なんですよ。そういうことで、しっかり市民にも説明していただきたいと思います。

再度、市長がさっきおっしゃられた１学年１クラスになってくるということですけれども、必ずそうなるんでしょうかね。市がこの南部地域、十四山地区の振興策をしっかりやれば、そのような減ることもないとも言えます。そういった振興策ってないんでしょうかね、市長、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　この西部小学校の地域につきましては、御承知のように市街化調整区域でございまして、なかなか新たな住宅を建設するというのはハードルが高い地域でございます。そのような中で、住宅が増えるとすれば分家住宅等ということになるわけでございますが、そういった中で人口を増やすというのはなかなか難しい、厳しいものがあるのかなと思っているところでございまして、将来的にですが、学区の再編等で市街化区域も一部含めて学区になればということもあるわけでございますけど、そちらのほうにつきましては、また市民の皆様、議員の皆様としっかりと相談しながら進めてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　そうすると、今現在市としては難しい。このままでいけば、きっとこの状態が続いて、南部地区、十四山地区は人口が減ってくという、もうそんなような答弁に聞こえます。市民の方もそう思われていると思います。

ですけれども、例えば廃校になったところを住宅開発するとか、空き家対策をして定住してもらう、そういった取組が必要だと思います。いろいろな子育て支援の充実も必要です。そういったところをポジティブに積極的に取り組んでいかないと、今の市の答弁では、このまま衰退していくのが予知できるというか、察知できてしまうので、ちょっと残念な答弁でした。

次に、中日新聞の報道によると、10月２日に市内の１級建築士３名が小学校再編の要望書を持って市役所に来庁されました。市長は、この要望書を読んでどのように受け止められたのでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　この中日新聞に掲載されました記事につきましては、横井議員のほうから御紹介があった案件でございまして、それはそれといたしまして、子供たちの教育環境を第一にという市の方針である事業でありますので、変更する予定はございませんが、要望された御意見の中で、現在参考にできるものがあれば取り入れてまいりたいと思っているところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　この３名の方の市長の面会、アポイントメントは私が取りました。ですけれども、私がこの要望書に関わったということはありませんので、それだけ申し添えておきます。

この先ほど市長が受け取られた要望書、この要望書の要望書というのか提案書ですね、１級建築士さんは令和10年４月に開校できるとされておりますけれども、この市もそうですし、今回請願の方も令和10年４月開校を求めてみえるんですけれども、同じ10年４月に開校でき

るという提案を、市としてこの１級建築士さんの提案を分析、検討はされたんでしょうか、市長にお尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほども御答弁申し上げましたが、参考にできるところは参考にさせていただきます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　ちなみに、どんなところが参考になったんでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　参考にできるところがあればとお答え申し上げました。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　いや、でもね、もう提出されたのがまだ半袖を着ておった秋ですよ。それから参考にできるところはって、読んでみえるんでしょうかね、本当に。それが私、今この議会さえ終わってしまえばというようなことで済ませてはいけない問題なんですよ、これ。ですので、しっかりと読んでいただきたいです。

別に市の足を引っ張るためにこの方がやっているわけでなくて、弥富市がよくなるため、子供たちの安全を切に願ってみえるからこそ、あえてこの１級建築士さんたちが立ち上がって市にお話をされているんですよ。敵ではないんですよ。市側の方はこの方たちを敵だと思ってみえるかも分かりませんけれども、これは市をサポートするため、そのためにこの人たちが一生懸命活動してみえることだけは、私からも申し上げます。

次に、要望書には要望理由16項目があり、西部小学校より十四山中学校跡地のほうが新設校の設置場所に対する優位性が高いと記載されています。市は、要望理由の16項目について、西部小学校と十四山中学校跡地を比較して、どちらに優位性があるとお考えになられたんでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　先ほどの質問で市長が御答弁申し上げましたとおり、小学校再編については、子供たちの教育環境を第一に考えており、４小学校の子供の人数の著しい減少や男女の偏りへの対応についても考慮し、令和10年４月に４つの小学校を一つに再編することを決定いたしました。

令和７年３月に閉校する十四山中学校は、来年度に入り、すぐに校舎を解体するわけではございません。議会への説明、地域への説明を行い、また調査、設計、建設工事の費用を議会にお認めいただいた上で実施していく必要があるため、令和10年４月に再編４小学校を開校することは困難と判断いたします。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　10年４月の開校が難しいと言われますけど、やはりこれもきちんとこの１級建築士さんたちと膝を交えて話し合って、例えば今市が進めてみえることが全てではないんですよ。いいことがあれば、さっき市長も言われたように取り入れる、そういう取り入れる精神というか、姿勢が考えられないんですよ。この建築士さんたちもわざわざ要望書をつくって、あえてまた市長に直接お会いして、会えなかったんですけど、お会いして説明をしたい。こういった行為にしてみえる以上、きちんとなぜ10年４月があなた方、建築士さんたちできるんですかというところの議論をするべきですよ。なぜ市が自分たちは今の考えているのが10年４月ができるではなくて、なぜあなた方、１級建築士さんは、どういう手法だったらできるのという別の手法も聞く耳を持たれてもいいんですよ。もしかしたらいい考えかも分からないじゃないですか。そういう多様性というか、いろんな意見を聞く、そういった姿勢であってほしいと思います。

もう今動きかけたから戻れんわとかという、そういう姿勢に見えてしようがないんですけれども、そんなことはないんですよ。あと減っていくから大規模改修でええというようなお話ですと、そういう話であれば、もう減っていくから新築ではもったいないから増築だというふうに聞こえなくもないですよ、これ。減っていくからこそ、減っていっても、そんな減っていくからどうのこうのじゃなくて、安全性を、この１級建築士さんや3,300人の請願者の方は言っているんですよ。減っていくから増築、減るからじゃなくて、危険だから請願書を出しているんです。それを認識していただくことが必要だと思います。

最後に、ちょっと10番の質問を飛ばせていただきます。

最後に、市は小学校再編委員さんとか、再編委員会の意見をいろいろとお聞きして、西部小学校に新設校を設置するという方針になってみえます。しかし、小学校再編委員会にはＰＴＡ代表や地区代表が参加されております。その方々は、自身が所属しているＰＴＡや地区の意見を取りまとめて参加されているわけではありません。再編委員さんの発言は貴重であります。しかしながら、あくまでも個人的な意見であります。請願署名に賛同された保護者からは、再編委員会の一部の保護者だけではなく、私たち大多数の保護者の意見も聞くべきだと市の対応に不満を持たれています。

また、市は再編委員さんの意見を保護者の総意として議会にも説明されております。私は全く民意を反映していない偏ったものだと考えます。そうでなければ３週間で3,300筆もの署名は集まりません。数だけではなくて、これは皆さん真剣に考えて行動されたこの3,300筆であります。

請願書が堀岡議長に提出された後も、まだこのように80筆を超えるような署名が届けられています。その思いをしっかりと市長に受け止めていただきたい。また、教育委員会の方にも受け止めていただきたい。このまま事業を進めれば、間違いなく将来にわたって禍根を残

します。さらには、弥富市の分断にもなりかねません。市民の思いを無視して拙速に進めることが本当に弥富市にとって、また大藤、栄南、十四山地区の発展につながるのでしょうかね。私はそうとは思えません。市民の思いを真摯に受け止めようではありませんか。

署名は小学校低学年のお母さんを中心に、仕事に行かれながら空いた時間に集められております。また、その他の世代の方も手伝って精力的にこの署名を集められており、大変尊いものです。3,300筆もの思いを無視することは、行政、弥富市の信頼を失いかねません。それだけ重い署名なんです。皆さんの思いが詰まっているんです。署名簿には安全な十四山中学校跡地で新築の校舎をと切なる思いが込められています。

本来であれば、こういったお母さんたちが今日の傍聴、またクローバーテレビを見ていただければいいんですけれども、こういった若いお母さんたちはお仕事に行ってみえますので、今日のこの模様は見ることはできないんですけれども、皆さん、このことは心配をしてみえます。

市議会も９月定例会初日に十四山中学校跡地で新築の校舎と全会一致の決議をしております。3,300筆もの署名が市議会の全会一致を後押しして、市議会に大きな期待を持たれています。市に関係している一部の市民の声だけでなく、サイレントマジョリティー、物言わぬ多数派の市民の声を聞くことも重要なことであります。

今こそ、二元代表制の真価が問われています。市民に４年間負託された議員の皆さん、市民の皆さんは、今回の審議、採決の動向を非常に注視しております。将来にわたり禍根が残らないよう、公平・公正な審議をお願いいたします。

そして、市長、令和10年４月の開校時には、大藤、栄南、十四山地区の全ての市民が新たな小学校の開校を全員で祝福できるものにしなくてはなりません。わだかまりがあってはいけません。市長、どうか未来を担う子供たちに、十四山中学校跡地に、また防災に強い魅力ある小学校を建設してあげてください。

以上を要望して、私の一般質問とさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　最後に一言、私から皆様にお伝えしたいと思います。

十四山中学校は、令和７年３月をもって78年の歴史に幕を閉じるわけでございます。長きにわたり十四山地区のシンボルとして学校運営がされてまいりました。楽しいこともうれしいこともいっぱい子供たちはあったことと思います。そのような中で、2021年11月24日には、大変残念な痛ましい事件が残念ながら起きてしまったところでございます。御遺族の現在の心情、また関係者の方のお気持ちを察しますと、私はまだまだ癒えることがない、このような思いに対しましてはしっかりと寄り添ってまいりたいと思っているところでございます。

そういった御意見もある中で、十四山中学校を本市として建築を進めていくということは、

これはなかなか難しいことで、当初は検討させていただきました。検討させていただいた結果、十四山西部小学校でということに本市は決めてまいりましたものですから、そのことを皆様方にも十分御理解をいただきまして、本市といたしましては、しっかりとこういった方々に寄り添い、また今後二度とあってはならない、本当に絶対あってはならない事件でございますものですから、再発防止には努めてまいりたいと思っているところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　再度、すみません。時間が来ておりますけれども、寄り添うというのはそういうことではないんですよ。事件は事件、建設は建設。今でも十四山中学校で学んでみえるじゃないですか。そういう区別を今しては駄目なんですよ。今でもスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが見えてケアしてみえるじゃないですか。今通っている子たちに失礼じゃないですか。今は今、ケアしたことは大事であります。ですけど、学校建設とは別の考え、それでやっぱり進めないと、この問題は解決しないと思います。以上です。ありがとうございました。

○議長（堀岡敏喜君）　御静粛にお願いします。

暫時休憩します。再開は午後１時ちょうどといたします。

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

午前11時49分　休憩

午後１時00分　再開

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

ここで市側より発言を求められておりますので、これを許可します。

安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　先ほどの横井議員の一般質問の答弁の中で、市長が後ほどお答えすると申し上げた件につきまして、私のほうからお答えさせていただきます。

国の補助金、交付金の手続誤りがあった自治体として幾つかあるということでございますが、同様の事例としては、岐阜県の恵那市、それからまた他の補助金、交付金等では、岩手県の大船渡市や長崎県の長崎市、山梨県の甲州市などがございます。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　それでは、一般質問を再開します。

次に、柴田英里議員。

○２番（柴田英里君）　２番　柴田英里でございます。

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回は２題質問させていただきます。

最初に地震保険についてお尋ねしたいと思います。

今年の１月１日に最大震度７の能登半島地震が発生してから間もなく１年がたとうとしています。被災された方々の御心痛を心よりお察しいたします。

また、今年は８月８日、宮崎県で震度６弱の揺れを観測したマグニチュード7.1の地震が起き、気象庁は南海トラフ地震の想定震源地では大規模地震が発生する可能性がふだんと比べて高まっているとして、国から臨時情報を出し、引き続き巨大地震への注意を呼びかけています。地震への備えは日頃からしておく必要があると思います。

先日、防災課主催の防災教室出前講座を実際に受け、お話をお伺いしましたが、本市の住宅などに対する耐震化への取組は何があるのでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市が現在実施しております耐震対策事業といたしましては、木造住宅耐震診断等事業、民間木造住宅耐震改修費補助、民間木造住宅耐震シェルター整備費補助及びブロック塀等撤去費補助があります。

これらの事業は、大規模地震が発生した場合に倒壊する危険性が高い昭和56年以前の旧耐震基準で建築された住宅及び転倒のおそれがあるブロック塀等を対象に、国や県の補助金を活用して実施しております。

耐震対策事業の活用につきましては、ホームページや広報、まちづくり出前講座、固定資産税納付書にチラシを同封する等、様々な方法により市民の皆様に周知しております。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　本市の住宅などに対する耐震化の取組については、今後も引き続き啓発活動などを行い、進めていただきたいと思います。

能登半島地震の震災直後に現地へ保険会社から派遣されて住宅などの損害調査をされた方々も、保険金を一日でも早くお支払いするために遠方の宿舎から数時間かけて連日通い、被災した住居に入って損害の状況について査定をすることや、お住まいになられていた方々にお話をしているととてもつらく悲しい思いをしたと伺っております。その中で、保険に加入していたおかげでこれからの生活に少し希望が持てるようになったと言われたこともあり、地震保険に加入しておくことの大切さを実感したとその調査員の方から教えていただきました。

それでは、次の質問をさせていただきます。

地震への経済的な備えである地震保険について、市はどのように捉えていますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　地震保険とは、地震、噴火またはこれらによる津波を原因とする

火災、損壊、埋没または流失による損害を補償する地震災害専用の保険です。

大規模地震が発生した際の被害は甚大であり、民間の損害保険会社だけでそのリスクを引き受けることは困難です。そこで、民間の損害保険会社の負担力を超えるリスクを再保険によって政府が負担して引き受ける官民協働の保険としてつくられた公共性の高い保険制度であると認識しております。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　次に、火災保険では地震を原因とする火災、倒壊などの損害は補償されないため、地震災害による損失の経済的な備えをすることは重要であると考えますが、地震保険の対象には何があるのでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　居住の用に供する建物及び家財が地震保険の対象とされております。ただし、居住の用の建物、家財それぞれが対象となる保険の加入が必要であり、工場、事務所専用の建物など住居として使用されない建物、１個または１組の価格が30万円を超える貴金属、宝石、骨董、通貨、有価証券、預貯金証書、印紙、切手、自動車等は対象外となります。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　それでは、地震保険に加入するにはどのような制約があるのでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　地震保険に単独で加入することはできませんので、火災保険とセットで加入していただく必要があります。

また、既に火災保険を契約されている方は、契約期間の中途からでも地震保険に加入することができます。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　地震保険に加入することはとても大切なことであると思いますが、ただ実のところ、元になる火災保険も日本の加入率は85％程度とされています。火災保険にさえ入っていないということは、一切の自然災害に対して無防備です。地震保険について市で啓発してはいかがでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　大規模地震により建物等に被害を受けた場合、暮らしの立て直しには多くの費用がかかります。

このような地震による経済的リスクに備えるために、政府と損害保険会社が共同で運営する地震保険制度について、本市のホームページに掲載して啓発してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　地震保険の加入の大切さを改めて必要だと感じました。

私が確認した保険会社のホームページでは、火災保険で補償される火災として、洪水、高潮、土砂崩れなどによる損害が紹介されておりました。水の損害が火災保険に適用できるということも大変ありがたいと痛感いたしました。

次に、まちなか交流館についてお尋ねしたいと思います。

９月議会の全員協議会において、図書館とまちなか交流館のリニューアル工事を行うということで説明をいただきました。

リニューアル工事の目的やリニューアル後のまちのにぎわいについて、また図書館のリニューアルについてもお聞きしたいと思います。

まずは、まちなか交流館のリニューアル工事について６点お伺いします。

１点目に、工事に係る費用と財源についてお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　御答弁申し上げます。

工事費につきましては、概算で８億円程度を見込んでおりますが、物価、人件費の増加傾向があり、増額する可能性もあると考えております。

財源につきましては、市債としまして、交付税措置が有利である公共施設等適正管理推進事業債及び緊急防災・減災事業債を活用するとともに、施設の木質化に係る部分には森林環境譲与税基金を充当してまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　２点目に、このリニューアル工事を行う目的をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　現在のまちなか交流館は、昭和60年の竣工後40年を経過しようとしており、内外装及び設備機器の長寿命化を図る必要があることから、この度の改修を行うものでございます。

あわせて、令和４年度に１階部分に開館いたしましたYaToMi AQUAや歴史民俗資料館も含め、金魚や文鳥の産地としても有名な本市の文化の発信拠点として、また地域の交流や学びの場としてより多くの方に訪れていただくための魅力あふれる施設として整備するものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　９月議会の全員協議会での説明の際に使われた図面を見ますと、施設外回りには車をつけることができるようになり、キッチンカーを入れるなど、人が来やすくなるような工夫をしているのだなとお見受けしますが、３点目に、にぎわいの創出について

お伺いします。

キッチンカーはどのような運用を予定しているのでしょうか。また、施設としてキッチンカーのほかににぎわいの創出につながるような仕掛けなどはあるのでしょうか。

建物正面に大ひさしを設定するようにお見かけしますが、併せてお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　施設におけるにぎわい創出のための仕掛けといたしまして、施設外部に小さな築山や天然芝のスペースを整備し、公園のように親子連れが憩えるような空間の整備や、金魚すくいやキッチンカーでの販売などのイベントに使っていただくための玄関口の大ひさしの設置を行います。

大ひさしは階段やスロープといった動線部分に設置することになるため、腰かけていただくような設備を設置する予定はございませんが、晴れた日には芝生付近に設置予定のベンチを使って憩いのひとときを過ごしていただければと考えております。

なお、キッチンカーに関しましては、今後どのように運用していくのか検討をしてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　先月、総務建設委員会の視察で山口市の市役所に行ってまいりました。そちらでは喫煙所がありました。

本市まちなか交流館のリニューアル時には、喫煙所の設置予定はありますでしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員、お水飲んでください。

伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　本市におきましては、望まない受動喫煙を防止するという健康増進法の趣旨の実現を図るため、平成30年10月より公共施設の建物内及び敷地内は全面禁煙としているところでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　それでは、市民ホールの天井高は変更するのでしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　まちなか交流館の現在の市民ホールにつきましては、これまでのようなホールとしての利用ではなく会議室と商工会の事務室として利用する形となるため、特定天井の撤去に合わせ３メートルほどの天井高に変更する予定でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　前回の９月議会で伊藤議員がネーミングライツについてお伺いしてお

りましたが、まちなか交流館のネーミングライツは実施するのでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　ネーミングライツパートナーを広く募集し、パートナーシップ契約を締結の上、オープン時には愛称を記した看板を施設外部に設置できるよう準備してまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　次に、図書館のリニューアルについてお伺いします。

図書館の工事期間及びオープン時期はいつ頃でしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　まちなか交流館全体の工期としましては、令和７年６月から令和８年４月頃を予定しているところでございます。

図書館部分の工期がいつということは定まっておりませんが、利用される皆様には令和７年10月から図書館の利用を停止させていただくことになるものと考えております。

令和７年６月議会に工事契約の議案を提出させていただく予定でございますので、よろしくお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　これまでの図書館のレイアウトから大きく変わり、子供向けのスペースであるキッズライブラリーが広くなり、騒がしくなるのではないかと心配しておりますが、そのスペースを広げる目的と、静かに本を読みたい方への配慮についてお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　子供向けスペースをキッズライブラリーとして整備することにつきましては、本年度実施しました図書館の利用に関するアンケートにおいて要望の多かった項目であり、そのニーズに応えるため取り組むものでございます。

このキッズライブラリーは、親子で楽しめる空間、子供だけが入れる小さな秘密基地のような空間や、ごろごろしながら本を読める空間があることで子供たちの本への興味を育んでいけるものと考えております。

なお、静かに本を読みたいという方のための空間も整備してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　それでは、蔵書数と席の数は以前と変わらないのでしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　蔵書数は、閉架書庫を除いて現状と同程度の６万冊から７万冊、座席数につきましても、利用の少ないテーブル席を減らし、カウンター席を増やすなどして

現状と同程度の約100席を御用意できる予定です。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　それでは最後に、図書館の本棚などの家具は全て新設されるのでしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　既存の本棚や家具の傷み具合を勘案して、利用できるものは利用してまいりたいと考えております。本棚につきましては、棚自体には傷みが少ないので側面の図書分類の表示を新しく見やすいものにいたします。椅子につきましては、老朽化が目立ちますので新調する予定でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田議員。

○２番（柴田英里君）　令和８年度に新しくなる図書館、とても楽しみです。

日本人の読書離れ、本離れ、紙媒体離れが進んでいるという中、キッズライブラリーでは子供だけが入れる空間もあるようなので、皆さんの憩いの場、老若男女が、全ての方々が足を運んでいただける、またくつろげる場になるのを願って、私からの質問を終わらせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後１時25分といたします。

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

午後１時19分　休憩

午後１時25分　再開

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、平居ゆかり議員。

○４番（平居ゆかり君）　４番　平居ゆかりでございます。

通告に従いまして一般質問させていただきます。

今回は、不登校児童・生徒と高齢者の居場所をリニューアル図書館と共に考えると題しまして、先ほど柴田議員も新しい図書館について質問されていましたが、私のほうではリニューアル図書館に関連し、３つの項目に分けて質問させていただきます。

まずは令和６年６月、魅力的な図書館づくり等に関するアンケート報告書より質問させていただきます。

先日、小牧の中央図書館を訪れました。吹き抜けの空間をうまく利用し、極力壁を使わず、仕切りに柔らかさを感じました。また、空きスペースへの多種多様な家具の配置も魅力的でした。ここぞというところに置かれた質のいいソファーは快適でした。

先ほどもありましたが、アンケートの中では、図書館でどんなことができればよいと思い

ますかという質問に「ゆったりとくつろいで本や雑誌を読むことができる」が19％で第１位となっており、本市としても、ソファーと多種多様な机と椅子のアイテム、社会人専用席、子供エリアとの境界などをポイントとした場合、具体的にどのような空間をつくり上げようとされていますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　ゆったりとくつろいで本や雑誌を読むことができるという御意見に対し、全体に古くなった椅子を新調し、図書館エントランス付近に背の低い書架などを配置することで、明るくゆったりとした空間を計画しています。

また、子育て世代への対応として、子連れで気軽に利用でき、読み聞かせができるキッズライブラリーを設け、ごろごろと寝転がったりできるカーペット敷きのスペースなど、親子で楽しめる空間や子供だけが入れる秘密基地のような空間を整備します。

キッズライブラリーと一般図書エリアとの間には、児童書の書架と雑誌閲覧エリアを設けて空間を隔てるとともに、静かに読書のできる大人向けの空間を設けます。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

次に、さきの質問の第２位、パソコンで作業をしたり、Ｗｉ－Ｆｉなどでインターネットへの接続をしたりすることができるという要望への対応は、フリーＷｉ－Ｆｉの環境がしっかり整うものと理解していいでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　インターネット環境につきましては、現在御利用いただいているＷｉ－Ｆｉの時間制限の緩和について検討しています。

学習室にも間仕切りのある個人ブースを整備する予定でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　若者やビジネスマンにとってはネット環境の利用時間と安定は居心地のよさにもつながると思います。

次に、多くの自治体が自動貸出機とＩＣカードリーダーを利用しています。

先ほどの質問で10.8％ありましたセルフ貸出し及びセルフ返却については可能になりますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　セルフ貸出し、セルフ返却につきましては、今回のリニューアル時での導入は考えておりませんが、近隣の図書館の動向を注視してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　マイナンバーカードも図書カードの動向も含めて注視していただき

たく思います。

次に、そのほかの御意見欄にありましたリクエスト予約をネットでできるようにしてほしいというものや、誰も借りていない本を予約できないのが不便というものについて改善されていますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在の運用では、貸出中の本に限り窓口予約とともにインターネット予約が可能でございます。

貸出しされていない在架の本の予約については、予約された本を取り置きすることになり、予約された利用者の来館が遅くなると、その間、他の利用者の閲覧や貸出しができなくなるという問題が発生してしまいますので、引き続き予約につきましては貸出中の本のみとさせていただきますので、御理解のほうをよろしくお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

また、そのほかに乳幼児の部屋があると気軽に読み聞かせしやすいとありました。

小牧中央図書館では、おはなし会ができるようなガラス張りで仕切りができる乳幼児用のスペースがありました。靴を脱いで利用し、安全性の高い空間でした。

本市としては、乳幼児スペースについてはどのような計画がありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　乳幼児のスペースにつきましては、キッズライブラリーの中に靴を脱いで利用していただくカーペット敷きのエリアを設けます。クッションや小さいお子様向けの椅子を設置する予定ですので、絵本の読み聞かせなどに活用いただきたいと考えております。図書館が行うおはなしの会もこのエリアで開催する予定でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

また、子供たちの居場所がほしいという意見もありました。例えば図書館計画の中に遊び心ある書架というアイデアがあります。書架の中に読書スペースがある、座れたりする仕掛けは小牧中央図書館でも、また先日の行政視察先、淡路島ＳＡＫＩＡのこども図書館でもありましたが、本を手に取ってそこに座りたくなる空間としてとても魅力的です。

ただ課題としましては、こども図書館では低い天井空間で本を読むと照明がとても暗いことに気づきました。空間がネイビー色であったことも大きいとは思いますが、特に子供のスペースのことだったので、秘密基地感はわくわくするものであることには引かれますが、照明的なことや安全性は注視していただけるようにお願いしておきまして、本市として考える遊び心ある書架における読書スペースとはどのようなものか教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　キッズライブラリーの中に秘密基地のような隠れ家的エリアや、籠もって読書ができるコーナーを設け、子供たちのわくわく感を引き出します。エリア全体に明るい色を基調とし、曲線を使った書架を配置するなど、遊び心のあるエリアとする予定となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

次に、カフェが併設されているとよいという意見もありました。

小牧中央図書館ではスターバックスが入っておりましたので、例えばそこで購入したものを館内に持ち込んで飲食ができる読書スペース、学習スペースで過ごすということができます。

私が毎回発言しておりますアクアカフェとはならずとも、雑誌を読みながらでも、学習や仕事をしながらでも、ここだけは飲食ともにオーケーというエリアがあるといいかとは思いますが、見解はいかがでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　アンケートの中にカフェについての御要望をいただいていますが、スペースに限りがありますのでカフェの設置は考えておりません。

飲物は蓋付のものに限り館内への持込みができますので、御理解をお願いいたします。また、食べ物につきましては、図書館内は御遠慮いただき、２階フリースペースや３階に新設されるエリア等を御利用いただければと思います。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　エントランスアプローチにキッチンカーのカフェを依頼し、ガーデンカフェにすることもできるでしょうし、持込みの食べ物を食べることのできるフリースペースについてもくつろいだり、お話ができるよう、そして殺風景にならないように、ぜひテーブルや椅子やその配置にも気を使って、空間を大切にしていただけるようにお願いをして、次に行きます。

次に、図書館にもっとあればいいなと思うものは何ですかという質問に、第１位が「漫画」25.5％でありました。稲沢市の平和図書館にも行ってきましたが、入った瞬間に漫画の棚が並んでおります。２万冊がコミックだということです。

漫画なんて子供の悪影響という時代もありましたが、今は漫画を読むことのメリットがたくさん提唱されております。本市としての今後の漫画を充実させるという考えはいかがでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　漫画につきましては、引き続き一般図書や児童書、絵本などとのバランスを考慮しながら、毎年少しずつではありますが充実させていきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　スマホゲームをやるぐらいならいい漫画に出会ってほしいとおっしゃる方もいますし、私もそう思います。

最後に、他市町村で最近話題の電子図書館について本市が取り入れる考えはありますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　電子図書貸出サービスにつきましては、費用が高額なことから現状では取り入れることは困難であると考えます。しかし、将来的に書籍の電子化が進む可能性がありますので、今後も社会の動向や他の図書館の動向を注視してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

アンケート報告書からの質問は以上にします。

２つ目の本題に入ります。

不登校生徒の家以外の居場所から考える「子育てするなら弥富市へ」のもう一歩先へと題し、図書館のことも組み込んで質問させていただきます。

こども家庭庁は令和５年12月22日、子供の居場所づくりに関する指針において、居場所とは、子供・若者が過ごす場所、時間、人との関係性が子供、若者にとっての居場所になり得る。すなわち居場所とは、物理的な場だけでなく遊びや体験活動、オンライン空間といった多様な形態を取り得るものであるとしています。

９月定例会で一般質問をさせていただきました不登校児童・生徒数について、小・中合わせて140人と御答弁いただいておりました。全国で見ると、文科省の令和５年度児童生徒問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査では、小・中34万6,000人になったとされています。前年度に比べ、不登校の中学生が全体で11.4％増で約15人に１人、小学生24.8％増で約47人に１人となっています。小学生の伸び率が多くなっている現実があります。

文科省は、不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因背景により、登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いたものと定義しています。

また、同調査結果の令和４年度版にありました第１位「無気力・不安」や第２位「生活リズムの乱れ、遊び、非行」等の不登校の要因と記されていた項目は、令和５年度版では「不登校児童・生徒について把握した事実」として記されており、「学校生活に対してやる気が出ない等の相談があった」や、「不安・抑鬱の相談があった」「生活リズムの不調に関する

相談があった」というのが多い項目として記されておりました。

さらに、令和６年度の文部科学省委託事業不登校の要因分析に関する調査研究報告書においては、きっかけ要因の分析で、教師回答では「学業不振」や「宿題ができない」等が多く回答されているのに対し、本人及び保護者回答では、「不安・抑鬱の訴え」や「居眠り、朝起きられない、夜眠れない」「体調不良」の項目が上位を示しておりました。

また、兄弟の不登校というのが背景要因として示されており、不登校は伝染するというような印象がうかがわれます。ただし、これは全て相関関係にとどまります。

また、不登校の歴史的背景として、もともと1950年代後半までは、家業が忙しいことで生活のために長期欠席をしていた子供は40万人ほどいた時代があり、その後、自治体ごとに欠席を数値化して競争させていた時代を経て、ほぼ学校に行くことが当たり前となっていきました。行けない子は学校恐怖症と呼ばれ、家庭や本人の問題だとされていました。1980年代は、学校に校内暴力や非行が横行し、管理体制の強化により登校拒否と称されるようになりました。これも本人の性格や親の育て方に原因があるとされました。

1998年、不登校へと用語が変わり、国としてはやみくもに登校刺激を与えず待ちましょうとしていた時期もあり、それが2002年に撤回し、何もしないで待つことは子供を見捨てることになるため、子供一人一人に合う働きかけをしましょうとなりました。

2016年、教育機会確保法が成立し、第13条では、不登校児童・生徒が学校以外の場所で行う学習活動の重要性を踏まえ、個々の児童・生徒の状況に応じて学習活動が行われるよう、国や地方公共団体が取り組むということを定めています。

また、文科省は令和５年３月31日、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策としてＣＯＣＯＬＯプランを取りまとめました。

しかし、その多様な学びの場や居場所の確保を強調する一方、令和５年11月17日、これまでに発出してきた通知について、学校に戻ることを前提としない方針を打ち出したなどの指摘があることから、誤解が生じないよう、別紙のとおり、不登校児童・生徒の支援について改めて基本の考え方を周知するとした不登校児童・生徒への支援の充実についての通知では、令和元年の同通知にある多様な教育の機会を確保する必要があるという視点に対し、解釈は様々あるかと思いますが、学校として、学校においてという学校と強調されているのが印象的です。

また、不登校がなぜ増えたかにも様々な見解があり、ゲームやスマホのデジタル依存や発達障がいなどの線引き、コロナ、教師や親の関わり方の変化などいろいろ言われていますが、要するに不登校については時代によってその捉え方が違い、度々転換する世の中において不登校は何が原因か、どんな支援が正解かを追求することは非常に難しいと判断します。

ただし言えることは、子供たちの心の中は、目的論的な立場からすれば、本人としては最

善の策を取ろうとした結果であり、その子たちに大人ができること、本市の教育行政の責任としてできることは、強制的に答えを出すということではなく、まず子供たちの居場所になり得る選択肢をいかに与えるかということではないでしょうか。居場所は自分がここにいていいという自己受容感であり、この世界で安心ができる所属感です。

先日、教育支援センターアクティブを訪れさせていただきました。

令和５年度のアクティブ登録人数は、小学生が７人、中学生が23人と御答弁いただいておりました。その日は五、六名ぐらいの子供たちが様々な活動をされておりました。支援員の先生が子供の近くに寄り添って対応していらっしゃる姿が印象的でございました。

ただ、アクティブ未登録で家にいるだろうと思われる子たちは、単純計算で100人を優に超えます。この子たちの社会とつながる家以外の居場所はどこにあるのでしょうか。不登校と一言でいえども本当に様々です。

ある御家庭は、居場所をオンラインフリースクールとし、メタバースで探求学習し、アバターを使ってコミュニケーションを取っています。週３回で毎月２万5,000円の費用がかかります。親御さんとしてはそれをよしとしているということではなく、ただ画面の先につながっていることで、多少ではありますが外部とつながる安心感を得ているということです。また、ある御家庭では月４万円の費用で、ある学校のネットコースを利用しているとのことでした。

また、そんなに毎月お金をかけることができない家庭もたくさんあります。ゲームしかしていないというような実態もあるのではないでしょうか。お話をお聞きしていると、やはり余分な費用をかけず学校に通っている皆と同じように自宅でオンライン授業が受けられるといいがという思いがあるようです。

遠隔教育特例制度の改正もありましたが、令和６年３月、義務教育段階における質の高い教育の実現に向けた遠隔教育の活用についての通知においても、まだまだ義務教育においては、受け側の教員等の配置の必要性があることには課題がありそうです。

しかし、ある市町では、既に不登校児童・生徒に対し、自宅にてリアルタイムでの同時双方向型授業配信ができているということも聞いていますので、ここについては今後の国の方向性を注視し、ＩＣＴ遠隔授業の環境を整える方向へ準備していただきたく思います。

今は学校に行かなくても大丈夫と言われるのが普通になりました。それが正しいかどうかは分かりません。ただ、本人にとって相当な苦痛を抱えてまで学校にこだわるべきではないというのは理解できます。ただし、基本的にはなるべく低年齢のうちの新規不登校予防や復帰支援を基本としてほしいとは思っています。

幸いなことに、弥富市はスクールカウンセラーやスーパーバイザーの配置は積極的に行っていただいておりますので、その点は安心できる部分でもあります。それでもやはり苦しん

でいる子供たちのために、じゃあ学校に行かない代わりに何をやるかという部分に、本市としてできるだけたくさんの選択肢を与えていただきたいかと思います。その一つとして、新しい図書館は大いに期待をしております。

考えていただきたいのは、新しい図書館に居場所となり得る様々な空間がいかに存在するか、また図書館だけでなくとも既存の児童館や公共施設のスペースはどうか、スーパーの空き店舗や一角に行政が手を加えたとしたらどうか、子ども食堂はどうか、学習塾はどうか、様々あるイベントはどうかというように、多くの可能性のある場所を見回して、できるだけたくさんの空間的な確保ができているか確認していただきたく思います。

先月、五明のわくわく塾にお邪魔させていただきました。地域の方が毎週木曜日に100円で学習塾を公民館で開いておられます。通常であれば塾に通うのは大変な費用がかかることであるので、すてきな取組であると思います。おやつの時間もあり、おやつ代は自治会から出ているとのことです。

不登校の支援というわけではありませんが、子供の居場所という観点からも、子育てサポートになる地域の方による地域の取組は見本となる地域の姿であり、こういった取組に市がしっかりサポートをし、活動を周知し、広げていくことも行政の大切な役割であると考えます。

それでは、本市として増える不登校児童・生徒の支援に関連し、10個質問させていただきます。

行政視察に訪れました明石市では、校内フリースペースを市内全小・中学校に設置し、自分のクラスに入りづらい児童への支援を行っているとのことです。本市の各学校の通級指導教室とは別に、明石市のような校内教育支援センターとして活用できるようなクラスは設置していますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　校内教育支援センターは、文部科学省の資料によれば、学校には行けるけれど自分のクラスには入れないときや、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたいときに利用できる学校内の空き教室等を活用した部屋とされ、そこでは児童・生徒のペースに合わせて相談に乗ったり、学習のサポートを行うとされております。

本市の小・中学校では、こういった校内教育支援センターを設置していませんが、教室に入ることができないといった児童・生徒に対しては、その都度対応できる教職員がそのときに使っていない教室等にて共に過ごすなど対応をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　しっかりとしたクラス設置が必要というよりも、一人一人への対応が大切であるということと理解いたします。

そのほかに保健室登校であったり、保健室で一定時間を過ごす子もいるかと思いますが、そういった子にとっての居場所が保健室になる場合もあれば、会議室になる場合もあるかと思います。例えば図書室は十分にその可能性を秘めると思うのですが、そこを開放する手段はないでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　学校図書室は、授業時間であれば子供たちの調べ学習で活用する場合があり、休み時間であれば本の貸出しを行うため、居場所としての活用は難しいと考えます。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

以前よりも図書室の利用は授業等で有効に活用されているということで、そういった場合は理解いたします。

先ほどの御答弁からすれば、対応できる職員がいて、その子が入りやすい部屋や空間が存在していればそこを利用する。図書室が入りやすくて図書室が空いている場合は、少しの時間でも利用することがあってもいいのではと思いますので、その点についてはいま一度相談いただきたく思います。

次に、不登校児童・生徒の最も多い評価、いわゆる通知表を調べると、１番、評定不能、２番、オール１、３番、空欄及び斜線になっているとのことですが、例えば白鳥小学校で１番のように評価できずという形でもらっていた評価を、進学した弥富北中学校で２番、オール１をもらうと、そのときの衝撃が大きいと判断する方もいると思うのですが、どちらが上とか下とかではなく、弥富市がその表記の方法を取っている理由は何でしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　文部科学省では、通知表については、児童・生徒の学習状況について保護者に対して伝えるもの、法令上の規定や様式に関して国として例示したものではないとしており、学校が校長判断により作成しているものでございます。

よって、通知表を児童・生徒及び保護者に渡す際には、不登校児童・生徒においては家庭訪問等を通じて丁寧に説明しながら手渡ししています。特に中学校においては、その生徒に寄り添った進学指導を行うよう努めております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　もちろんそれぞれの保護者側の心情を理解するということは非常に難しいかと思いますし、また学校側の先生方への負担も配慮しなければならないかとは思いますが、家庭訪問ということであれば、それぞれの保護者や生徒の気持ちに共感し、傾聴し、寄り添って御説明いただけるようお願いしておきます。

次の学びの多様化学校の質問を飛ばさせていただきます。

その次に行きます。

本市の不登校の全ての子供たち及びその御家庭は、弥富市の各学校や支援機関、もしくは様々なフリースクールなど、必ず何かしらの外の社会のどこかとはつながっていると判断してよろしいでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　学校に通えない子供たちに対し、本市では在籍校の教職員が本人やその家族と連絡を取り、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの相談、アクティブ入級など、個々に応じた支援につなげるよう対応しております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

これについても、誰一人取り残されないというものとしてお願いいたします。

次に、尾張旭市では月１回、不登校の子を持つ親御さんたちの集いとしてひだまりカフェを開催されているそうです。弥富市として、そのような集いがありますか。なければ要望はありませんか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市では、現在、不登校の子の保護者等の集いの場等はございません。また、その要望も聞いておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　分かりました。

次に、長野県塩尻市で導入している児童・生徒が１人１台持っているタブレット端末にこども相談チャットアプリ「ぽーち」を導入しているとのことですが、そのアプリは児童・生徒がそれぞれのＩＤやパスワードでログインし、毎日の気分や体調を入力し、分析結果によってはアプリが相談を促し、対面やチャットで市相談員につなげたり、好きなときにチャットのみの利用もできるとのことです。基本的に学校ではタブレットを自由に利用できる、持ち帰れるということを前提に取り組んだ事業かと思います。

こども家庭庁の不登校いじめ緊急対策パッケージにおいても、ＳＯＳ早期発見に向けてのアプリ等による心の健康観察の推進が上げられております。本市においては、この取組についてどう考えていますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　市内の小・中学校の養護教諭で組織されている弥富市養護教諭部会より、県内でもアプリ等による心の健康観察の取組をしている学校も複数あると報告を受けています。

弥富市養護教諭部会では、実際に取り組んでいる学校の様子を参観に行き、状況を把握いたしました。今後、協議検討を行ってまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　前向きな協議を期待します。

先ほどのアプリのことに加え、子供たちが誰かに相談したいということが発生したとき、その手段としてそこにもあらゆる選択肢を備えておきたいと思うものです。例えば居場所の一つにと館長が伝えている鎌倉市中央図書館では、回覧スペースの上には、今悩んでいる君へ、つらいことを相談しよう、秘密は守ります、名前を言わなくても大丈夫と言葉を添え、電話番号を記した名刺サイズの相談窓口カードがさりげなく置かれているとのことです。受付ではなく学習用机や図書の回覧用机にさりげなくという取組に評価できる点があると思います。

できれば、今は子供たちにとっては電話をかけるという行為にハードルが高いと感じてしまうことから、本市でも、ホームページ上にありますＳＮＳ相談窓口を載せたカードがあるといいのではないかと感じます。ＳＮＳは、アクション自体は24時間対応であること、若者が使い慣れているというメリットがあります。これに関しては、不登校という枠組みだけでなく、子供たちを取り巻く問題やそれぞれの悩み事にも有効です。相談窓口情報をどれだけ目にすることがあっても無駄ではないと思います。

ただし、先月28日、オーストラリアでは16歳未満の子供がインスタグラムなどのＳＮＳ利用を禁止する法案が可決されておりますので、我が国の動きとともに対象ＳＮＳには注視する必要はあります。

新しい図書館に至っては、そのようなソフト面からも子供たちのことを考えていただきたいかと思いますが、何か計画はありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　議員の御指摘のとおり、児童・生徒が相談窓口情報を得る機会は多いほうがよいと思います。

図書館には、特に週末は多くの児童・生徒に来ていただき、本の貸出しだけでなく学校の勉強にも利用していただいていますので、学習室やカウンター席などに相談窓口の情報を記載した案内をすることは有効であると考えます。

図書館では、相談窓口情報をチラシやポスター等にて提供してまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　ありがとうございます。

基本的に情報は大人へ伝えるよりも子供へ伝えるほうが難しいはずです。物理的な視野だ

けでなく、子供への世界観の中へうまく入り込んで理解を得ることができる情報提供の方法を考えていただきたく思います。

ではまとめまして、新しい図書館において、本市が考える子供たちのための特に不登校児童・生徒のための居場所の可能性について教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　図書館内での居場所の確保については、学校との連携等課題もあり、本市においては、教育支援センター「アクティブ」を子供たちの居場所としております。

教育支援センター「アクティブ」は、令和８年４月に十四山支所２階に移動し、面積、部屋数を増やし、相談や個別対応を強化できる環境としてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　不登校児童・生徒に対し本市として考える居場所がアクティブであることは理解しました。アクティブの環境が新しくよくなることもまたいいことであるかと思います。

私がお伝えしたいのは、今回は不登校児童・生徒数に対しアクティブ登録人数が少なく、アクティブにも通えていない子に対しあらゆる受皿を可能な限り準備しておいてほしいということで質問をさせていただいております。それは、出席日数が出せるかとかそういったことではなく、何らかのきっかけで外に出たとき、外界に居心地がいいと思えるような場所がたまたま新しい図書館であったとしたのであれば、それは行政として大きな役割を果たしたと言えるのではないかという意味です。

ここまで不登校児童・生徒に焦点を当てて質問させていただきました。

ここを一生懸命やってほしいと願うのには、もう一つの理由があります。ここから発展してほしいと願うことがあります。それは子育て支援というものに対して、現在どこでも医療費無料、保育料無料、多胎児支援など、そういったことが当たり前になってきてしまっている今、本市の「子育てするなら弥富市へ」というキャッチフレーズが崩れつつある気がします。むしろ弥富市は給食費が高いらしいねとも言われます。

「子育てするなら弥富市へ」を使っていくのであれば、新しい政策を打っていかなければなりません。ただ、全体的な子育て支援策は、正直、各地頭打ち状態になっている部分もあるのではないでしょうか。それでも本市はスクールカウンセラーやスーパーバイザーを増員し、スクールソーシャルワーカーを含め、子供たちの心のケアを充実させています。

また、給食費は県・国にやっていただきたいところですが、本市は給食費が高いと言われても、保護者の負担は食材費のみであって、さらに自校給食にこだわり、それがどれだけ子供たちにとってありがたいことであるかは、給食試食会に行けばよく分かります。残食率が0.2%とセンター給食市町村に比べて圧倒的に少ない。食の安全と子供の成長は親御さんた

ちがよく分かっているからこそ、そこまで文句が出ていない状況であるのだと思います。

本市が行っていることは、子供たち個人個人を大切にしているからこその支援です。それを強みに、さらにそういった面を積極的に取り組んでいただきたく思います。

先ほども言いましたように、親の費用負担軽減のような支援は必要ではありますが、限界もあります。お伝えしてきました増える不登校児童・生徒の問題と、また文科省より小中高及び特別支援学校における認知件数73万2,568件と最多であるいじめ問題。さらに日本全体の自殺者は減少しているにもかかわらず子供の自死は増加し、令和４年において514人という大切な命が消えた子供の自殺者問題。動機は学業不振や進路に関する悩みが上位になっています。そして、ここ最近話題の低年齢の子供たちまで巻き込まれる闇バイト問題。子供たちを取り巻く環境は危機的な状況にあるのではないでしょうか。親としては、ニュースで目の当たりにするたびに心配や不安が増します。ここは、行政としても子供たちを守るべき理由がしっかりあると思います。

本市は令和10年４月開校を目指し、４つの小学校の統合も控えております。ハード的なものだけでなく大切な子供たち一人一人の心の健康を守り、体の成長を守り、安全面においても、社会に潜む魔の手から守り抜く体制を強化していくソフト面での支援がさらに必要であると考えます。要するに「子育てするなら弥富市へ」のもう一歩先を行く付加価値あるキャッチフレーズにしていくべきではないかということです。

質問します。

本市は教育支援センター「アクティブ」も新しくなる予定をしていますし、カラフルを含め、カウンセラーをはじめとした相談窓口やその周知を充実させ、心理教育の強化を行い、子供たちの過ごす場所、時間、人との関係性など、あらゆる居場所の提供を行い、子ども食堂やわくわく塾などの子育てのサポート的なことに懸命に取り組んでいただいている団体に対する十分な助成を行うこと、それは基本計画にあります「笑顔あふれる、健やかで共に支え合うまち」というものにつながるのではないでしょうか。これについての教育長の見解をお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　御答弁申し上げます。

まずもって子供たちのこと、そしてとりわけ不登校等の子供たちにとって、熱くその思いを語っていただきましたことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

子供たちは地域の宝でございます。そして、本市の宝でもございます。

議員の御質問の中にもありましたＣＯＣＯＬＯプランの中で、行政だけでなく、学校、地域社会、各家庭、ＮＰＯ、フリースクール等の関係者が相互に理解や連携をしながら、子供たちのためにそれぞれの持ち場で取り組むことの必要性が示されております。

本市といたしましても、先ほど議員より御紹介があった相談体制を学校や教育支援センター「アクティブ」でさらに充実させるとともに、市内で活動してみえる諸団体とも情報を共有し、子育て支援に進めてまいりたいと思っております。

令和６年11月７日に総合社会教育センターにおきまして、海部地区拡大家庭教育推進協議会が開催されました。

そこで、それぞれの地区で子育て支援活動をしてみえる団体が互いに情報を交換し、学び合う子育てＥＸＰＯという時間もございました。12団体が出展され、先ほど議員のお話の中にもありました五明わくわく塾も参加されております。とても有意義な会となりました。

また、優良家庭教育推進組織として、本市のＡＭＡＫＡＲＡ塾が表彰をされました。このような方々が市内にはたくさんお見えになりますので、今後はそういったところともさらに連携、協力を進めてまいりたいと思っております。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　表彰はすばらしいことだと思います。

子育てのサポートをしていただいているすてきな団体が弥富市にはたくさんあるということです。こういった居場所の提供をしていただいている団体との連携、協力はもちろんのこと、温かい助成的な支援もしっかりお願いしておきます。

では、３つ目の項目に行きます。

最後は高齢者です。高齢者の家以外の居場所から考える「年をとっても弥富市へ」と題しまして、質問をいたします。

近年のひきこもりに関しては、高齢者の増加が問題になっています。また、高齢になった子をさらに高齢の親が面倒を見る８０５０問題も注目を集めました。

厚労省は、ひきこもりとは、様々な要因の結果として社会的参加、就学、就労、家庭外での交流などを回避し、原則的には６か月以上にわたっておおむね家庭にとどまり続けている状態と定義しています。

高齢者のひきこもりの状態は、運動機会が大きく減るため、筋肉量が低下してフレイルにつながってしまいます。特に認知症などの合併症なども招くおそれがあるので非常に危険です。東京都健康長寿医療センター研究所の研究資料では、孤立や閉じこもり傾向にある方は健常者と比較して2.2倍も死亡率が高いとされています。

内閣府の調査によると、40から64歳のひきこもりは61万3,000人以上と推計されています。さらに、令和５年度厚生労働白書によれば、ひきこもり状態の人の年齢別割合を見ると、55から59歳に並んで60から64歳が最も多くなっています。

世間体を気にして報告していない家族の存在を加味すると、実際にはもっと数が多いと考えられ、また65歳以上の高齢者を含めると100万人近くなるのではと言われております。

厚労省は、現在よりも８０５０問題が深刻化してしまった９０６０問題が本格化することを懸念しています。

本市には、高齢者に外出を促すための支援として、ふれあいサロン、給食サービス、タクシー料金助成、福寿会、福祉センターの浴室利用や認知症カフェ、生涯学習講座やスポーツ教室、元気塾、出前講座など多くの支援があります。

また、内閣府ホームページにあります高齢者の居場所と出番事例一覧を見ますと、地域のたまり場としてのカフェのような場が多いことに気づきます。

本市の高齢者においても、スーパーの飲食スペースや喫茶店で談話されている高齢者は多くいらっしゃるかと思います。行きつけの場所で近所の方々とコーヒーを飲みながらゆっくり会話をするのが楽しみであり、そこが居場所となっている方も多いのではないでしょうか。ただ、先日ある方が、やはりコーヒー１杯500円と高くなって、モーニングの回数を減らさなくてはいけないなとおっしゃっていました。市にコーヒー代の支援をしてほしいとは言いませんが、このぐらいのぜいたくは続けられる世の中でありたいと願うものです。その方にとって大事な居場所が減少してしまう危険性がある、そう考えると、高齢者にとっても子供たち同様、居場所の選択肢は多いほうがいいはずです。確かに地域によってはとても活動的なサロンがあることは聞いております。ただ、たくさんで集りたい人もいれば、外には出たいが１人でのんびりしたい人もいます。公共交通側とも連携し、費用的に負担の少ない居場所を高齢者という視点からも考えていただきたいという思いのもとで、新しい図書館について質問させていただきます。

本市が考える図書館において、高齢者が居心地がいいと思う場はどのような空間をつくることでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　高齢者の居心地が良い空間につきましては、静かな場所が好きな方や少しにぎやかなほうがよい方など人それぞれにあると思いますが、図書館が提供できる空間としては、くつろいで新聞や雑誌、本が読める場所であると考えています。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　そのとおりの図書館を期待します。

次に、認知症高齢者とその方を支える人への資料や情報提供として、認知症関連本など医療健康情報コーナーをつくる、あるいは制度、サービス、お金、成年後見など、高齢者の権利を守る情報コーナーをつくるというようなシニア世代を応援する取組を充実させていく考えはありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、館内には、健康、介護、相続、終活などに関する本を集め

たシニアコーナーを設けて御利用いただいております。

また、９月には、認知症月間に併せて介護高齢課と連携した特設コーナーを設けています。今後もシニア世代のお役に立てるようコーナーの充実に努めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　さきのアンケート報告書の御意見欄にもわくわくするような陳列の工夫が必要という意見もありました。新しい書架等の利用にも伴ってすてきなコーナーとなるよう期待しております。

次に、高齢者のための会話ができるスペースやカフェスペースのような憩いのスペースについてはどうお考えでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　高齢者用に限らず図書館内での会話スペースは、図書館の機能としては難しいと考えます。

また、館内に蓋付きの飲物を持ち込むことはできますが、カフェスペースを設けることも難しいと考えますので、飲物を飲みながら会話をしていただくのは２階のフリースペースを御活用いただければと思います。

また、市役所６階の展望休憩スペースにつきましても、市役所開庁時間は会話スペース、カフェスペースとして御利用いただけます。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　先ほどもお伝えいたしましたが、その飲物を飲みながら会話をしていただくという２階フリースペースも図書館をフォローする大切な場ですので、そこが活用できるよう、いかにも事務用の机と椅子で殺風景になることがないように空間を工夫していただきたく思います。

次に、現状、図書館内において高齢者向けのイベントはありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、図書館において高齢者向けイベントは開催しておりませんが、リニューアル後に向けて生涯学習課や介護高齢課等と連携し、まちなか交流館でできるイベントについて他の図書館の事例を参考にしながら検討してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　ありがとうございます。

高齢者の方の有意義な居場所の一つになるよう、イベントの企画を期待します。

最後に、新しい図書館づくりとともに考える子供たちや高齢者の居場所について、市長総括をお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　平居委員から、まちなか交流館（図書館）のリニューアルについての御質問を幾つかいただいたところでございまして、大きな期待感を持ってみえるということで、そのような期待にできるだけ応えてまいりたいと思っているところでございます。

また、幾つも図書館の事例が挙がっておりました。

私も愛知県市長会のほうで、淡路島のＳＡＫＩＡ、こども図書館ですね。そちらのほうと小牧の中央図書館のほうにも行かせていただいております。

特に小牧の中央図書館は建築費用が26億円と聞いたんですが、平成27、28年の頃だと思うんですけど、４階建てでしたかね。すごい吹き抜けで小牧市ならではといいますか、かなり立派な図書館でございまして、なかなか弥富はまねができることでもないわけではございますけど、その中で子供さんがわくわくするスペースが多数設けてありました。本当に秘密基地のようなスペースがあちらこちらに配置をされており、子供さんもさぞかし図書館に来て喜ばれるんではないかなと感心をしたところでございます。

まちなか交流館は、令和４年４月に歴史民俗資料館が閉館し、同年10月にはYaToMi AQUAがオープンしたことから、令和５年度には年間４万7,000人以上の方に来場いただきました。しかし、建築から間もなく40年となることから、外観や内部の設備にも老朽化が目立っています。

また、図書館の利用者は年間３万人程度にとどまっており、現在では子育て世代や高齢者が利用しやすい魅力的な図書館とは言えません。

図書館の改修に当たり、３月に実施したアンケートには様々な御意見をいただいております。図書館に対する市民の関心、期待は大きいと感じておりますので、今回の図書館の改修では、できるだけ多くの市民の御意見を取り入れて、子育て世代をはじめ、高齢者や全ての世代の方に居心地のよい図書館になるように整備をしてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　平居議員。

○４番（平居ゆかり君）　楽しみにしております。

以上で質問を終わりたいと思います。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後２時15分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後２時10分　休憩

午後２時15分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、板倉克典議員。

○６番（板倉克典君）　６番　板倉克典です。

通告に従いまして一般質問いたします。

大きく分けて２つ、現在の図書館に関してと希望のある未来の図書館についてです。

まず、公立図書館と学校図書館に関して質問いたします。

新型コロナ感染症が令和５年５月に５類へと位置づけが移行し、従来の図書館運営ができるようになってきていると思います。

新型コロナ感染症の拡大前の令和元年度の図書館利用者数と緊急事態宣言が出た令和２年度、そして新型コロナが５類へ移行し、ほぼ終息している令和５年度の利用者数を伺います。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　新型コロナ感染症拡大前の令和元年度の利用者は３万693人、緊急事態宣言が発令された令和２年度は２万951人、ほぼ終息している令和５年度は３万1,042人です。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　新型コロナ感染症の拡大前の利用者数に戻り、それ以上の利用者になってきていると数字からは分かります。

新型コロナ感染症が５類へ移行し、縛りのない運営ができるようになってからは、どのように図書館サービスを充実させてきましたか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　令和５年度から読み聞かせボランティアによるおはなしの会の再開と、読み聞かせスキルアップ講座の開催、自主グループであるよつば読書会を再開させました。

また、保存年限の経過した雑誌の無料配布の再開に加え、これまで廃棄していた図書の無料配布を始めました。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　廃棄してきた図書の無料配布ですが、図書館ファンとしてはうれしいサービスだと思います。続けていただきたいと思います。

続けます。

平成20年４月に開館した中、十四山支所にあった図書コーナーですが、現在はありません。開館した経緯、閉館した経緯を御答弁お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　平成18年の町村合併後、十四山支所の利用を考える上で、十四山地区に図書館がなかったことから図書コーナーを開設することとなりました。

閉館の直接的な理由は、新庁舎建設に係る仮庁舎の設置によるものではありますが、新庁

舎完成後についても、十四山図書コーナーの利用者が１日当たり平均12人程度と少なかったことなど費用対効果を勘案した結果、本館に機能を集約することとなりました。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　弥富まちなか交流館リニューアル計画の中で、図書館閉館期間が令和７年10月から令和８年４月末まで閉館とされていますが、ほかの場所で貸出業務を継続する予定はありますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　まちなか交流館リニューアル工事に伴う図書館の閉館期間中の貸出しにつきましては、工事の工程による制約が大きいと思いますが、予約による貸出しができないか検討を進めています。

また、新聞、雑誌についても、２階のフリースペースでの利用について検討しています。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　愛知県の教育委員会が、県内の小学校、中学校、高等学校を対象に愛知県子供読書活動実態調査というものを2022年11月に実施しています。１万4,690人が対象です。

読書が好きになったきっかけはという質問に「すばらしいと思える本に出会ったから」が小学・中学・高校生で約28％、「身近に本がありいつでも読めたから」が約19％、「書店や図書館によく連れて行ってもらったから」が約９％です。この３つが回答の上位３位です。３つです。すてきな本が身近にある状況を子供につくってあげることが、読書好きの子供を増やすことにつながると読み取れます。

弥富市内からも書店、本屋が減っています。７か月の間、図書館が閉館するということは、図書館のファンを減らしてしまうことにつながる可能性があります。

１つ前の質問で、十四山支所の閉館理由に費用対効果が勘案されたとありましたが、子供がすてきな本と出会ったかどうかはすぐには分かりません。どこかでの貸出業務をぜひお願いします。

続けます。

今年３月に実施された魅力的な図書館づくり等に関するアンケートについて伺います。

調査対象は、10歳代以上の市内在住・在勤・在学者になっていまして、回答数は644件と報告書にはあります。

このアンケートの調査対象は、10歳以上、市内在住・在勤・在学者になっていますが、10歳代以上の市内在住者は今何名ですか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　10歳代以上の市内在住者は、令和６年２月末の数値で４万494人

でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　今年３月に実施された魅力的な図書館づくり等に関するアンケートの結果に関してですが、「利用したことがない」と答えた市民が5.4%、さらにその利用しない理由の中で、「市外の図書館を利用する」が11.3%、大ざっぱな計算ですが、先ほど答弁いただきました10歳代以上の市内在住者の４万494人から計算しますと、利用したことがない市民がおおよそ2,187人、その中で市外の図書館を利用する人がおおよそ247人になります。

十四山支所を起点として距離を考えると、蟹江町図書館や飛島村図書館のほうがまちなか交流館の２階にある図書館より近い状態です。他市町の図書館もよいけれど、弥富市の図書館に通ってほしいという思いになります。

十四山支所内に第２図書館設置の考えはありますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　まちなか交流館改修工事でリニューアルする図書館に機能を集約しますので、十四山支所内の図書館設置は考えておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　まずは、まちなか交流館の改修が先であるとは分かっておりますが、令和８年に十四山支所には、教育支援センター「アクティブ」も引っ越してきます。本館規模でなく図書コーナーでもぜひ検討をお願いします。

続きます。

11月に市議会主催で議会カフェが開催されました。たくさんの市民の方が参加してくださりました。その際に市民の方からの御意見で、本の外箱に関して御意見いただきました。

書籍は出版社側の考えで外箱がある想定をされた書籍、外箱がない書籍がありますが、外箱がある本のその本の外箱の行方は、今図書館ではどうなっていますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　外箱は主に百科事典や自治体が発行する市町村誌などに附属していますが、不要となった外箱は廃棄しております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　いつかその書籍を無料配布するとき、外箱付きですと喜ばれるかもしれません。

続けます。

現在の図書館運営に当たる職員、会計年度任用職員の人数をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　職員数は、正規職員が兼務の館長ほか３名と技能労務職１名でご

ざいます。

会計年度任用職員は５名で、内訳は週５日勤務が３名、週３日勤務が１名、週２日勤務が１名でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　図書館運営の職員に司書資格を持った職員は存在しますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　会計年度任用職員に１名有資格者がおりますが、司書としての専門業務は行っておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　市職員に国家資格の図書館司書資格を持っている職員の方はいますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　図書館以外の部署の図書館司書有資格者は３名でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　本の選定や読書に関するイベント立案などは、どのような打合せや会議で決まっていくのでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　図書館職員の打合せにより進めております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　図書館法の第14条に公立図書館に図書館協議会を置くことができるとあります。図書館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館サービスについて意見を述べることができる機関というものです。

設置している他市では、学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育関係者、学識経験者などが議会メンバーです。ここに司書資格を持っている職員を有志で募って、協議会を設置してはどうかと考えます。その会議に市民の傍聴もできるものとすれば、市民に運営についても興味を持っていただけることになります。

図書館の大きなリニューアルプロジェクトが動き出し、弥富市図書館条例に定めるよい機会だと思いますが、図書館協議会を設置する考えはありますか。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　図書館の事業計画、事業報告についての協議は、社会教育委員会で行っておりますので図書館協議会設置は考えておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　司書資格を持っている職員がいるのですから、職員の人事でよく言われる適材適所の考えで知識や才能を図書館サービスに生かしていただきたいと望みます。

2014年に愛知県が第３次愛知県子ども読書活動推進計画を策定し、それを踏まえ、弥富市子ども読書活動推進計画が2018年に策定されています。その後、県では、第４次愛知県子ども読書活動推進計画になり、期間は2019年から2023年度までの計画期間となっていましたが、新型コロナ感染症の影響を受けました。図書館の臨時休館、学校の休校などで読書活動の推進が計画どおりできないという状況でした。そのような中、愛知県の第４次の計画が改定され、期間の延長が書かれました。2025年度までとなっています。

弥富市子ども読書活動推進計画がおおよそ令和４年で計画期間が終了していますが、第２次の計画は考えていますか。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、図書館リニューアルに合わせ改定作業を進めており、令和７年度末の作成を目指しております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　計画が始まったらしっかり聞きたいと思います。

学校図書館の運営などに関し伺っていきます。

文部科学省が定めた学校図書館の蔵書の基準がありますが、市内小学校、中学校で蔵書冊数の基準は満たされていますか。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　学校図書館の図書の充実を図り、学校の教育課程の展開に寄与するとともに児童・生徒の健全な教養を育成するため、学校図書館図書標準が定められております。

蔵書標準は、小学校、中学校それぞれ教室数により設けられており、本市の小・中学校は全校が蔵書冊数の基準以上となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　よかったです。

学校図書館法の第５条に、学級数が12学級数以上あれば司書教諭を置かなければならないと定められています。学校図書館の専門的職務をつかさどる司書教諭は、どの市内小・中学校にいますか。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市の小・中学校において司書教諭がいない学校は、弥富北中学校と十四山中学校でございます。司書教諭のいない学校では、国語科の教諭が図書担当教諭となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　十四山中は12学級以下ですから、北中は当てはまるということでいい

んでしょうか。分かりました。

学校図書館の職務に従事する学校司書は、市内小・中学校でどのような配置で行われていますか。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市では、学校図書事務職員として、会計年度任用職員を全小・中学校に週１日から２日配置しております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　読書の習慣を身につける幼い時期に学校図書館は大切な施設で、本好きの子供が育つ環境づくりは教職員の皆さんの手腕にかかっています。頑張っていただきたいと思います。

廃校となる十四山中の図書室の本はどこへ行きますか。お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　十四山中学校の蔵書につきましては、弥富中学校の蔵書確認を行い、活用できる蔵書を移管します。そのほかの蔵書は他の小・中学校で活用してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　気になっておりました。そうしてください。

続けます。

市内小・中学校で朝の読書タイムは現在実施されていますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　市内の小・中学校では、読書する時間や読み聞かせる時間を設けています。

朝の読書タイムについては、設けている学校と読書だけに限らず自由な学習を行う時間を設けている学校がございます。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　先ほど触れました愛知県の第四次愛知県子供読書活動推進計画の中からですが、児童・生徒たちが同時に本を読む一斉読書などの活動を実施している学校の割合が出ておりまして、2022年度では小学校91.5％、中学校85％になっています。現在、弥富市は全小・中学校でやっているわけではないということと捉えましたが、この数字が率に含まれる数字になっています。これからも子供の読書習慣の確立と読書時間の確保をぜひお願いします。

続けます。

まちなか交流館（図書館）の改修に関して伺っていきます。

まちなか交流館リニューアル工事設計の透視図を見ての質問ですが、現在の郵便ポスト、

公衆電話がある付近が子供たちの居場所となる空間になっています。交通量の多い道路に面した場所ですが、子供たちの居場所となる空間で子供たちは何をして過ごすと考えていますか。答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　御答弁申し上げます。

イベント広場は、誰もが立ち寄りやすい開かれた屋外空間として整備する計画としております。子供たちも含め、様々な人々が大ひさしの下やベンチ、芝の築山などで休憩、飲食、談話等ができる憩いのスペースとして考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　私はまちなか交流館の改修に関して水を差すつもりではありませんが、質問を続けます。

私が質問しましたのは、子供たちの居場所となる空間の部分なんですが、大ひさしはありません。屋根のないところで、今年の夏のような暑さの中で子供が談話や飲食するという設定ということになっています。

事務局の方、写真１をお願いします。

現在、樹齢約40年ほどの天然の日陰ができるケヤキの木が育っています。四季を通じて美しい樹木です。寿命が200年とも300年とも言われ、市内でも何か所か大きなケヤキがありますが、美しさはこのケヤキ、市内でもトップクラスだと思っています。CO_2をたくさん吸収してくれている弥富町時代からのシンボルツリーだと思っておりました。これが計画中の透視図や平面図から消えています。

写真ありがとうございました。

まちなか交流館前に植栽されているケヤキを切る計画でしょうか。答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　これまで既存のケヤキによる舗装の不陸、落枝、落ち葉、鳥の巣など、施設の安全、衛生、運営管理上への支障があり、その解消を図る観点と東側道路からの見通しをよくし、開かれた屋外空間を整備する観点から既存のケヤキを撤去する計画としております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　犬や猫は鳴いたり、毛が抜けたり、ひっかきます。それが犬や猫の仕事で、舗装の不陸はケヤキが生きている証ですね。補修できますし、落枝、落葉、それから鳥のすみかになるというのはもうケヤキの仕事です。厳しい言い方をしますが、伐採する理由にそれらが出てしまうようでは、そもそも植えてはいけません。

現在の技術ならケヤキを天然のひさしのようにして、子供たちの居場所となる空間という

ものができるのではないかと考えたので質問しました。

もう少し続けます。

さて、このリニューアル工事の設計を業務委託した設計事務所にケヤキの木をなくした設計にするよう指示しましたか。答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　先ほど御答弁しました点を踏まえ、内部調整を経て、設計事務所と協議の上、既存のケヤキを撤去する計画となったものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　指示はしていないと捉えました。残すようにも指示していないと思います。

設計を任される会社は、今の空間を大きく変えた設計に弥富市に持ってくることは想像がつきます。ケヤキをなくした設計に当然します。雰囲気が変わったねと言われたいですから。

ケヤキの木は、木目がきれいで香りもよくて耐久性もあります。材木を加工する会社が弥富市内に幾つもあります。数はたくさんできませんが、新しい小学校開校に向けて、例えば木製品に加工して贈ることも可能ではないでしょうか。ＳＤＧｓのまち弥富市ですから、その先もぜひ考えていただきたいと思います。

図書館の質問に戻ります。

公共施設再配置計画の中からですが、図書館の上にある３階市民ホールからの音や振動があり図書館の静粛性が阻害されているので、対策を検討するとあります。３階市民ホールからの振動や音は現在もあるのでしょうか。そして、この対策をこの改修時に行いますか。答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　現在、市民ホールの利用につきまして、図書館運営上支障が出る行為の制限をしておりますので、振動や音についての問題はないと認識しております。

リニューアル後につきましても、同様に図書館運営上支障が出る行為については制限をする予定をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　事務局の方、写真２をお願いします。

絵本やかさばる本など、持ち歩きながらの滞在は大変なこともありますが、貸出し前の本などを載せるブックカートや籠を設置する考えはありますか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　子育て世代や高齢者等の利便性を図るため、ブックカートや籠の設置について検討を進めております。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　よろしくお願いします。

続けます。

指定管理者制度で図書館の管理運営を民間に任す自治体もありますが、私は弥富市図書館の選書やイベント立案はすばらしく、郷土資料も充実しており、市の図書館を民間に任すことは必要ないと考えています。

図書館改修に併せ、指定管理者制度の採用を考えていませんよね。答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　図書館が小規模であることやまちなか交流館が複合施設であることなど、図書館だけを指定管理することのメリットが小さいことから、指定管理者制度の導入は考えておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　公立図書館の運営は、安定、持続、公平性が求められ、市民一人一人へのサービスの向上を目指すものと考えます。

弥富市立図書館は、指定管理者制度の採用はふさわしくなく、弥富市の責任で設置し、教育委員会が管理していくことが一番だと思っています。

さて、少し前に質問しました魅力的な図書館づくりアンケートに関して「利用したことがない」と答えた市民が5.4％で、さらにその中で利用しない理由として「図書館のある場所を知らない」が8.1％です。先ほど答弁ありました対象人数４万494人から計算しますと、約177人がそもそも図書館のある場所すら知らないということになります。それら厳しい回答も含めてですが、魅力的な図書館づくりアンケートを図書館改修後や改修後の運営にどう生かしていきますか。答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　アンケートの中で、図書館に期待することとして最も多かったゆったりとくつろいで本や雑誌を読むことができるという意見に対し、図書館エントランス付近に低い書架やベンチ等を配置することで明るくゆったりとした見通しのよい空間を計画しています。

また、子育て世代からの意見への対応として、子連れで気軽に利用でき、読み聞かせしたりできるキッズライブラリーを館内に新設し、ごろごろと寝転がったりできるカーペット敷きのスペースなど、親子で楽しめる空間や子供だけが入れる秘密基地のような空間を整備します。

また、１人で座れる場所を増やしてほしいとの要望に対して利用の少ないテーブル席を減らし、カウンター式の横並び席を増やすとともにＷｉ－Ｆｉ環境につきましても利用時間の

制限を緩和できないか検討しています。

図書の並べ方について探しにくいという御意見に対し、アルファベット順となっていた陳列順序を50音順に見直します。児童書につきましても、配架を見直し、親しみやすい館内空間を目指します。

図書館のイベントに対しても様々な御要望をいただきましたので、図書館独自の事業のほか、まちなか交流館での連携事業等、幅広く検討してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　子供時代によい本と出会い、活字を読むことが好きになった人は弥富の図書館も好きになると思います。

最後に、まちなか交流館（図書館）の大規模改修にかける思い、御答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　今回の図書館の大規模改修は、老朽化した図書館を改修するだけにとどまらず、子供たちの心をくすぐるいろんな仕掛けをつくり、読書体験を楽しく演出することで本を手に取りたくなるような魅力的な図書館になるよう整備してまいります。

また、子育て世代や子供たちのエリアと大人のエリアをゾーニングにより区分けすることで、どちらも快適に過ごせる空間づくりにも配慮します。さらに、本の並べ方についてもこの機会に見直しを行い、利用者の利便性を図りたいと考えております。

アンケート及び本議会において、複数の議員の方から図書館に関する御質問を頂戴いたしましたこと、それにより大きな関心を寄せられていることに心より感謝申し上げます。子育て世代をはじめ、全ての世代の方にとって居心地のよい図書館となるよう、また図書館以外の部分につきましても、子供たちや高齢者等様々な世代の方に利用していただき、まちなか交流館という名前にふさわしい施設となるよう整備してまいります。

一定期間の閉館期間を設けて御迷惑をおかけいたしますが、リニューアル後、皆様に集っていただけるような、そんな図書館にしてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　板倉議員。

○６番（板倉克典君）　公共図書館の運営で変えてはいけないもの、そして変わっていくものもたくさんあると思います。改修後の図書館がたくさんの市民に愛されることを望みまして、私の一般質問を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後２時50分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後２時42分　休憩

午後２時50分　再開

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、平野広行議員。

○１６番（平野広行君）　16番　平野広行でございます。

通告に従って質問いたしますが、質問に入る前に、市長、副市長に対して苦言を申し上げておきます。

午前中、横井議員の発言にもありましたが、６月議会、９月議会、12月議会におきまして、絶えず市の事務手続ミスの報告が事案発生からかなり遅れて議会に対して行われております。このたび管理責任という形で、市長、副市長、教育長の報酬減額の議案も上程されておりますし、また今後の事務処理ミスの改善策も示されておりますが、もう一度、弥富市職員とは何か、市民の公僕であるとの自覚を持って、全庁一丸となって市民のために仕事をしていただくことを、市のトップである市長に申し上げておきます。新聞紙上で弥富市の明るい話題が載るよう市民の皆様は望んでいますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質問に入ります。

９月議会において令和５年度決算も認定され、現在は令和７年度予算編成に向けて各課から予算要求が出され、査定中であります。来年３月議会には予算案が上程されますので、この12月議会において来年度予算に反映されるよう提案し、また市長の考えも伺いたく質問いたします。

令和５年度決算から見えてきたのは、市税においては、固定資産税を中心として順調に増加はしておりますが、それを上回る扶助費の増加、人件費、公債費といった義務的経費の増加、国民健康保険をはじめとする特別会計、そして下水道事業の企業会計において、一般会計から多額の繰入れをしなければならない、こういった財政運営となってきていることであります。また、財政力の強弱を示す財政力指数も、令和元年度は0.99であったものが、令和５年度には0.92と0.07ポイント低下しております。このような財政状況を背景に、活力に満ちた弥富市のまちづくりを進めなければなりません。

後期基本計画づくりに向けた市民アンケート調査、そして中学生が考える魅力的なまちづくりアンケート調査結果においても、海抜ゼロメートル地帯である本市の課題として、洪水、浸水への不安があり、防災対策の推進が一番の重要施策であるとの結果が出ております。

２点目が、東西に対して南北に細長いという地形的特性がある本市において、市民サービスの公平性を担保しなければなりません。

また、人口減少が続く今、自治体間では人口の奪い合いであります。自治体間競争が続く中で、いち早く市外から本市への定住促進に向けたまちづくりを進めなくてはなりません。そのためには、車新田のまちづくりに向けて、具体的な土地区画整理事業の事業化、そして

駅前整備事業もスピード感を持って進めていかなければなりません。

予算配分の考え方はいろいろあると思いますが、本市のまちづくりにおいて一番大事なことは、三方を海と川に囲まれた海抜ゼロメートル地帯で市民の安心・安全を守る対策を進め、市民の皆様に安心して住んでいただくこと、そして市外から本市に定住していただける若い世代を呼び込む施策だと思っております。

これら本市の課題に向けて的確に取り組まなければなりませんが、先立つものが財源であります。国においても地方創生交付金予算の増額を明言しておりますが、地方交付税と違い、黙っていてもらえるものではありません。しっかりとした事業提案に基づき、採択されなければ交付金として受け取れません。職員の皆様には、しっかりとした事業提案をして国からの交付金を活用し、来年度予算に反映して、市からの持ち出しをいかに少なくして市民の負託に応える施策を進めるかを考えなくてはなりません。

総務建設委員会で今年10月に山口市、そして大阪の八尾市を行政視察に行きましたが、この両市とも、目玉施策として取り組んでいく事業には地方創生交付金をしっかりと活用した予算措置を行っておりました。

本市においては、地方創生交付金を活用した事業は多くありません。職員の皆さんは、しっかりと知恵を出し合って、交付金を活用した予算措置をして事業を進めなくてはならないことを申し上げ、来年度予算編成に向けて順次質問をしていきます。

令和３年３月に策定しました弥富市地域強靭化計画に沿って、まずは防災・減災対策について質問します。

今年も、能登半島地震に始まり、その後、各地で地震が多発しております。そして、全国各地で発生している集中豪雨災害、本市でいつ起きても不思議ではありません。これらの防災対策に関しては、本市にとって一番重要な事業であり、ここには惜しみない予算措置をすることが大事であります。

そこで、最初に現状における本市を守る堤防の耐震、高潮対策の進捗状況について伺います。

鍋田海岸堤防、木曽川左岸堤の耐震対策及び高潮対策の進捗状況について伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　鍋田海岸の管理者である愛知県海部農林水産事務所に確認しましたところ、堤防延長7,047メートルのうち、令和５年度までに耐震対策済みの堤防延長は6,304メートルで、約90％の進捗率となっており、来年度に完了する見込みと聞いております。

続きまして、木曽川の管理者である国土交通省中部地方整備局木曽川下流河川事務所に確認しましたところ、木曽川左岸堤防のうち、本市に接する箇所の高潮区間の上流につながる

一般区間の堤防は、耐震性能照査指針に基づき照査を実施した結果、耐震性能を満足していると聞いております。

高潮区間の堤防につきましては、木曽川水系河川整備計画において、現在から将来にわたって考えられる最大級の強さを持つ地震動による液状化等で堤防の沈下が生じた状態で、近年の平均年最大規模相当の高潮での浸水による被害のおそれがある箇所について、必要な対策を実施することとされており、これに基づき、天端盛土等の対策が順次進められているところでございます。

国道１号の尾張大橋取付け部分につきましては、高潮対策未整備区間となっておりますが、大型台風襲来時には、河川管理者、道路管理者、警察、水防管理者などの関係機関が連携して道路の通行止めや大型土のうを設置することで対応する計画となっております。しかしながら、昨年度実施されました大型土のう設置訓練により、設置には３時間ほどの時間を要することが分かりましたので、運搬距離を短くするために保管場所の見直し等の対策を実施していただきました。そして、大型土のうに代わる止水板等の対策につきましても検討を進めていただいているところでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　12年前になりますけど、私が初当選させていただきました平成24年12月議会の一般質問において、弥富市が津波に襲われたとき、本市において津波、高潮に対して一番危ないところは３か所あると思いますが、それはどこですかと質問をいたしました。そのときの答弁は、鍋田の船だまり、境港の水門、木曽川左岸堤防の国道１号線部分、この３か所であると答弁されたことを覚えております。当時、この３か所は耐震対策、高潮対策が遅れておりましたが、現在では鍋田の船だまり部分を含む鍋田海岸堤防の耐震工事も来年度で終了する予定との今、答弁がありました。そして、境港水門は２年前に耐震工事が終了し、来年度には三重県側から水門に接続する堤防道路の耐震化も終了する予定と伺っております。

残るのは、国道１号線の尾張大橋取付け部であります。津波、高潮、スーパー台風対策が未整備となっておりますが、現在は、越波を防止するために透明で強固なアクリルパラペット等によるかさ上げを行い、大型土のうの設置区間を大幅に減少し、緊急時における大型土のう設置時間の短縮を目指しておりますが、と同時に、止水版の設置に向け検討が進んでおります。このように、現在では、国道１号線尾張大橋部分を除き、ほとんどの危険箇所での耐震対策工事が終了し、本市の安心度が高まりました。

65年前の伊勢湾台風時には大きな被害が出ました。そして、その教訓を忘れてはなりませんが、現在ではその頃の海岸堤防とは比べ物にならない強固な堤防となっております。液状化対策、耐震工事も完了し、大きな地震に対しても崩れない強固な堤防で弥富市は守られて

おります。

事務局、写真をお願いします。

これが境港水門の耐震工事、２年前に完了しているものであります。

次、お願いします。

これは、現在行われておりますが、鍋田の船だまりの液状化・耐震対策工事であります。

次、お願いします。

次が二重鋼矢板締切り工法による液状化・耐震工事、鍋田海岸堤防であります。これも完了しております。

このように、本市を津波、高潮による浸水から守る海岸堤防は、ほぼ完成をしております。

次に考えなくてはならないのが、洪水から本市を守る対策であります。今一番危惧されているのは、線状降水帯が停滞し、長時間豪雨が続くことであります。降った雨は排水機によって伊勢湾に排水するしかありません。

そこで、まず本市における排水機の設置状況について、現状はどうなのか質問していきます。市内排水機場の設置状況と排水機の排水能力、そして排水機の駆動の種別について伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　市内の排水機場ごとの能力や駆動につきましては、次のとおりとなります。

まずは管理主体が十四山土地改良区の機場になります。

大神場第一排水機場、総排水量、毎秒4.3立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター３台。大神場第二排水機場、総排水量、毎秒2.73立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター１台。六箇排水機場、総排水量、毎秒3.1立方メートル、機種別、モーター２台。

続きまして、管理主体が孫宝排水土地改良区の機場になります。

新孫宝排水機場、総排水量、毎秒28立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター１台。孫宝第２排水機場、総排水量、毎秒19.8立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター１台。

続きまして、管理主体が鍋田土地改良区の機場になります。

松名排水機場、総排水量、毎秒1.28立方メートル、機種別、モーター２台。稲元第二排水機場、総排水量、毎秒1.7立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター１台。鍋田南部排水機場、総排水量、毎秒11立方メートル、機種別、エンジン２台、モーター１台。鍋田南部第２排水機場、総排水量、毎秒５立方メートル、機種別、モーター２台。末広川排水機場、総排水量、毎秒７立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター１台。末広第２排水機場、総排水量、毎秒４立方メートル、機種別、モーター２台。芝井川排水機場、総排水量、毎秒

5.05立方メートル、機種別、エンジン１台、モーター２台。

続きまして、管理主体が愛知県海部建設事務所の機場になります。

筏川第二排水機場、総排水量、毎秒５立方メートル、機種別、モーター２台。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　弥富市管理は、排水機場は８か所で12機場あって、排水ポンプが合計28台と、そして筏川の下流に県管理の筏川第二排水機場があって、２台のポンプが設置しておりますので、合計13排水機場でポンプは30台、こういうことであります。

排水機場のうち、六箇、松名、鍋田南部第２、末広第２排水機場においては、モーターによる駆動でありますから、ここには１台はエンジン駆動にして、電源がドロップしても排水に支障がないようにしなければなりません。100％の能力が発揮できるよう、維持管理が大事であります。

このことについては、市内の各土地改良区から予算要求がされておりますが、なかなか満額回答がいただけないのが実情ではないかと思われます。

鍋田地区の湛水防除事業においては、これから15年間で末広第２、鍋田南部第２排水機場の排水機をモーター駆動、エンジン駆動１台ずつに更新する予定と県のほうから伺っておりますが、市長、15年は長いですよね。一年でも早くできるように、市長には要望活動をしっかりとしていただき、弥富市の安全を守る土地改良事業への予算配分を確実なものにしていただくよう強く要望しておきます。

写真をお願いします。

これが末広の第１、第２排水機場であります。

皆さん御存じとは思いますが、本市の排水先は筏川によって二分されます。筏川より東の地域、弥生、桜、日の出、白鳥、十四山地域、いわゆる日光川水域は、宝川を経て日光川へは排水され、その後伊勢湾へ排水されます。また、木曽川水域である大藤、栄南地域は、直接伊勢湾へ排水されます。

日光川水系が氾濫した場合の浸水想定区域を設定した浸水ハザードマップが全戸配付されておりますが、日光川が基準水位を超え、排水制限が出されないように、現在、国のほうへは関係市町村の首長さんが、近年多発する集中豪雨からこの海部南部地域を守る対策として、日光川の河口にもう一台大型排水機の設置を要望しておりますが、実施までには時間を要しますので、一日も早い完成を望むものであります。

それでは次に、どれだけの時間雨量に対しての排水能力があるのか、また近年、本市において、最大の降雨量はどれくらいなのか、また東海豪雨のときの降水量はどれくらいであったのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　気象庁の記録で本市に一番近い蟹江観測所を見ますと、平成12年９月に起きました東海豪雨に関しては365ミリです。直近３年間の最大の降雨量に関しては、令和６年６月１日から３日までの３日間雨量の153ミリが最大であります。

また、市内の基幹的な排水機場は、時間雨量に対する排水能力ではなく、20年に１回の確率で発生する３日連続雨量341ミリを計画基準降雨として排水能力を決定しております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　今の答弁によりますと、近年における本市の最大降雨量が今年６月１日から３日までの３日間雨量で153ミリということで、本市の排水機能力、３日間雨量341ミリの約半分の降雨量であることが分かります。また、東海豪雨のときは365ミリということで、本市の排水能力ぎりぎりの状態であったことが分かりました。

今後、本市において、いつ線状降水帯が発生し、排水能力を上回る状況になるか分かりませんので、排水機は絶えず100％の排水能力を発揮できるよう、平常時から維持管理が必要であるとの認識を新たにしなければなりません。そのためには、排水機の維持管理費をしっかりと確保することだと思います。このことについては、末広の排水機場、そして鍋田南部排水機場の運転士の皆さんから絶えず私、要望を受けておりますので、市長、よろしくお願いいたします。

今日の気象状況を考えると、孫宝排水機場区域は内水氾濫が想定をされるということですが、この件に関しましては、日光川水域において千年に一回起こる大雨、48時間雨量713ミリによる洪水、浸水想定区域における洪水のハザードマップ、浸水ハザードマップ、高潮ハザードマップを令和３年度に作成して、その中において水平避難とか垂直避難についての説明書もされております。これは900万の予算で全戸配付されましたが、配付しただけでは意味がありません。中身を見て理解していただくことが大事ですので、自主防災会を通じて周知していただける取組が継続してできるよう考えていただきたいと思います。

この件につきましては、先月開催いたしました議会報告会である議会カフェでも市民の方から御意見をいただいております。今後は、ソフト面においてなるほどと思えるような企画を提案し、地方創生交付金が交付されるような事業の取組をお願いし、市民の安心・安全を守る取組をすべきであると提言しておきます。

次に、本市の約80％を占める市街化調整区域における基幹排水路の整備及び排水路整備の進捗について伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　市街化調整区域における基幹排水路については、主に県営土地改良事業によって更新整備を進めております。また、県営土地改良事業以外でも、本市及び各

土地改良区によって単県事業などを活用し、随時整備をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　答弁にありますように、基幹排水路整備等については県事業が大半でありまして、事業費に対して高額な市への負担が生じてなかなか進まないのが現状であります。その中でも、弥富市はしっかりと排水路の整備については対応しているほうだと私は思っております。

事務局、写真をお願いします。

これが三稲地区ですね、賞正１期地区の排水路の改修事業であります。

次、お願いします。

次が私の地区の西末広地区の排水路のしゅんせつ工事を進めているところで、下のちょっと低いところ、矢板を打っておりますが、あれが旧で、奥のほうで高くなった矢板が新でということで、改修、水路の幅を広げた水路対策が行われております。

県事業に高額な予算が伴いますので、市からの財政負担も大きくなりますが、本市の負担率が軽減できるよう、市長にはしっかりと要望活動をお願いし、一日も早くこれらの事業を進めていただくことをお願いしておきます。

なぜ私が防災・減災への予算措置が大事であるかといいますと、人口減少が進む中で市外から本市に住んでいただくには、本市の安全性をもっともっとＰＲして、本市で家を建てて住んでいただくこと、そして現在住んでみえる方には本市に定住していただくことが大事であると思うからであります。以上が浸水、洪水に対する取組への質問ですが、これらの問題解決に向け、どのような予算措置をしていくのか、市長の考えを伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　市内には、基幹排水路や排水機場など高い公益性を有する多くの土地改良施設が更新時期を迎えており、今後さらなる本市の負担が増加すると見込まれております。今年度につきましても、主に県営事業の負担金とする農業基盤整備事業と各土地改良区に対し補助を行うものとする土地改良区補助事業を含め、当初予算から２億5,827万円を計上しており、多くの予算を必要としております。しかしながら、市民の生命、安全・安心、財産を守る上におきまして、防災機能を兼ね備えた土地改良施設の更新整備は非常に重要であり、必要不可欠なものであると考えておりますので、愛知県や関係土地改良区と共に協議し、事業内容を見極め、更新整備を進めてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　ぜひ市長、よろしくお願いいたします。

海岸堤防の津波、高潮対策については、ほぼ終了しております。本市においてこれから取り組まなければならないのが排水対策であると思います。年々増加する豪雨に対する備えが

一番大事であり、ここにはどんどん予算をかけていくべきと思います。

東海豪雨のときも、近隣市町は浸水しましたが、弥富市には浸水の被害はありませんでした。これは先人の皆様の努力のおかげであると大変感謝をいたしております。しかしながら、特に南部地区においては、現在、農地の転用が進み、田んぼが減少し、貯水池としての役割が減少しておりますので、このような点をしっかりと頭に入れて、排水対策にしっかりと取り組む予算措置を強くお願い申し上げ、次の質問に入りますが、その前に津波、高潮、そして市内の排水対策について質問してきましたので、ここからは、通告からは少し外れますが、統合される小学校の件に関しまして、浸水、そして洪水の問題に関連してきますので、私の考えを少し述べさせていただきます。

今、統合される小学校の建設場所をめぐっては、候補地の地盤面の高さを問題視しておりますが、残念なことに弥富市全域は海抜ゼロメートルマイナスであります。このハンディを克服し、市内全域をいかにして守っていくかの議論のほうが私は大事であると思います。

本市において、忘れてならないのが伊勢湾台風であります。伊勢湾台風で犠牲になられた方は、当時の弥富町で322名、十四山村で36名、合計358名の方であります。そのうちの80%、280名の方が海に近い栄南学区の方であります。十四山村において犠牲になられた方は36名ですが、善太川の決壊により、竹田、押萩、亀ケ地地区での犠牲者の方がほとんどであり、地盤面が低いとして心配されている十四山西部小学校近辺の六條、五斗山地区での犠牲者はありませんでした。

今、私の質問、答弁にあるように、海岸堤防の強靭化はほぼ完了しております。また、この地方での最大の豪雨災害である東海豪雨のときも、本市においては近隣市町に見られる洪水による被害はありませんでした。これも排水設備の充実によるものであります。今後もこの対策をより強固に進め、もっともっと安全な弥富市をつくり上げ、市外からの入居者を増やす人口減少を止めるための対策をしなければ、弥富市の人口は減少が進むだけであります。

そして、大事なことは、小学校の統合に関しては皆さん異論がありません。統合される小学校は、現時点では十四山西部小学校に新設される予定であります。大藤、栄南、十四山東部小学校は、残念ですがなくなります。対象地域の方は、小学校の跡地利用を考えることが大事であると思っております。

小学校がなくなるということは、ほとんどの方が寂しい思いをされると思います。そうであれば、跡地を安易に企業に売るといったようなことではなく、地域のシンボルとして校舎だけは崩さずに残し、その上で利活用を市に求めると、このような請願に力を注ぐのが対象地区住民の取るべき行動だと私は思っております。今申し上げたことは、私がいつも申し上げている平等で公平な市民サービスの提供ではないでしょうか。

それでは、２点目ですが、公共交通について伺います。

本市は、南北に長い地形であることにより、地域間格差が生じています。これらの地域間格差をなくすにはどうすればよいか。中心部から離れた地域の利便性を図るには、地域公共交通の充実が上げられます。

本市では、平成24年より北部、中部、南部の３ルートにて、中型ワンステップのバス２台、マイクロバス３台で、日曜、祭日を除き、毎日きんちゃんバスを運行しておりますが、なかなか利用者には満足していただけない状況であります。これを何とか利用しやすい運行方法がないかと、きんちゃんバス導入以来、ずっと検討しているわけですが、いまだ結論が出ません。議会でも、令和元年度には岡山県の玉野市のデマンドタクシーに始まり、豊明市、三重県明和町をはじめ、先進事例の自治体を視察し、本市に合った運行形態を模索してきました。その結果、全国各自治体で採用されているデマンド運行が適しているのではないかという考えの下で、昨年度、実証実験運行をチョイソコというデマンドバス運行を利用し、南部ルートで行いました。その結果を踏まえて質問していきます。

まず、運行経費について伺います。

令和５年度における公共交通の運行経費と運賃収入、南部ルートで行ったデマンドの実証実験運行経費について伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　コミュニティバスの運行経費は9,738万3,700円、運賃収入は505万1,010円、デマンド交通の実証実験の経費は850万3,098円、運賃収入は19万2,700円でした。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　来年度において、北部・東部ルートにおいてデマンドバスの実証実験運行が行われる予定ですが、南部ルートで行ったチョイソコ実験運行の反省点をどのように生かして実証実験運行を行うのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　南部ルートでは、きんちゃんバスはそのまま運行させ、デマンド交通と併用して実証実験運行を行いましたが、担当課の案としましては、北部・東部ルートではきんちゃんバスを完全に運休させ、月曜日から土曜日の午前８時から午後８時の運行を予定しております。

利用料金等詳細につきましては、令和７年３月に開催予定の弥富市公共交通活性化協議会等に諮っていく予定をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　確かな実証運行の結果を残すには十分な予算が必要であると思いますが、この点については、南部ルートでの予算と内容、予定されている北部・東部ルートで

の実証運行の内容と予算について、違いを伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　北部・東部ルートで行う実証実験運行は、南部ルートでの検証・評価を踏まえ、運行曜日、運行時間を再検討し、また車両台数も２台導入を予定しております。予算といたしましても、それらを盛り込んだもので要求をしていく予定をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　南部ルートの実証実験で利用者数が少なかった理由は、運行日数が火曜、金曜の週の２回だけ、運行実験の期間が半年と短かったこと、スマホによる予約方法の説明不足、そしてチョイソコ運行バスが１台であったことなど、十分な予算を使わずに中途半端に終わったことだと私は思っておりますよ。ですから、今回の実証実験運行はぜひとも成功させなくてはなりません。そのためには、しっかりとした計画に基づき、十分な予算が必要でありますが、来年度の予算措置について、市長の考えを伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　北部ルート、東部ルートの公共交通の再編に伴うデマンド交通を導入しての実証実験運行につきましては、先月開催いたしました本市の公共交通活性化協議会で担当課より再編方針を説明し、委員の皆様から御意見などをいただいたところでございます。

私といたしましても、本市の公共交通の再編、課題の解決は大変難しいものがあると認識をしておりますが、引き続きよりよい公共交通の運行を目指してまいりたいと思っているところでございます。

現在、担当課が各地区に伺いまして、公共交通の抱える課題や北部・東部ルートの再編方針などを説明し、御参加の皆様から御意見、御要望などを伺っておりますが、いただいた意見の全てを北部・東部ルートの公共交通の再編に反映させることはなかなか難しいわけでございますが、市民の皆様の外出機会が増え、御家族の負担軽減につながるよう再編を進めてまいりたいと考えております。

北部・東部ルートで行います実証実験運行では、南部ルートの実験課題等を反映させ、デマンド交通が適しているか、市民ニーズに即したものかなど目標値等を定め、検証・評価ができるよう予算化をしてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　十分な予算を取って十分な実証運行を行うこと、補正予算なんかはなかなかできないと思いますので、当初予算を十分取って、予算が余ったら財調のほうへ戻せばいいだけのことです。予算がないから十分なデマンドバスの確保ができないということのないようにお願いしておきます。

南部ルートで行ったチョイソコやとみのアンケート調査結果によると、今後の運行に関しては、きんちゃんバス、チョイソコやとみの両方が必要とする回答が一番多く、費用負担に関しては、市の費用負担を増やして実施すべきとの回答が多い結果となりました。また、チョイソコやとみの不満足な点としては、料金が400円で高いという回答が一番多かった結果になっております。

このようなことを考えて市長に伺いますが、市長、今説明があったように、運賃収入は約500万円です。全体経費が約１億1,000万円、これに対しての運賃収入が500万円ということで、約５％ですよね。収入がないに等しいです。いっそこの際無料で運行したらどうですか。利用者は増えると思いますが、運賃の無料化に対して、市長の考えを伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　議員から御指摘がありましたとおりでございまして、すごい経費の割には運賃収入がないということで、それがやはり公共サービスというものになってくるかとは思うんですが、きんちゃんバス、当初は平成11年１月に巡回福祉バスとして運行がされております。このときは60歳以上の方が、福祉施設等を巡回するということで、無料で運行されてきた中で、徐々に徐々に立ち回り先も増えてまいりまして、10年以上が経過した中で、やはり採算性であったりとか、またもっともっと多くのところにバス停を造ってほしいというニーズに応えるためにも、平成22年にきんちゃんバスとして、公共交通として再編がなされているところでございます。

それから12年が経過している中で、ごめんなさい、14年ですか、14年が経過している中ではございますが、多くの課題がこれまであり、また試行錯誤しながらの運行であったわけでございますが、多くの方々に対しまして、今、バスの御利用が無料ということになってきております。それは中学生以下であったりとか、障がいがある方、また同伴者、そして在住の高校生は無料としているところでございますものでしたから、そういったところをもう少し増やせればと思っているところでございます。

ただ、無料ということになりますと、誰もが自由に乗れる、これは確かにいいことではありますが、その面、ちょっと言い方は悪いんですけど、乱雑な使い方というのが出てくるかもしれませんものですから、ある程度料金を取って、これが200円が高いか安いかというのはこれからまた活性化協議会のほうでも協議をしてまいりますが、できるだけ多くの市民の皆様に御利用していただける、要望に応えられる公共バスにしてまいりたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　無料というとなかなか御迷惑をかけるところも出てくるかと思いますが、無料が駄目だというんなら、200円のところは半額の100円にするとか、今75歳以上無

料ですが、これを65歳以上にするとか、そういった対策を取ってもらえればということです。

社会福祉、それから観光、子育て、高齢者支援、道路整備等、やらなければならない事業はいっぱいであります。その中で、公共交通事業は弥富市にとって重要な事業であり、特に私は力を入れて進めていく事業であると思っております。公共交通事業には十分な予算措置をして事業を進めていくと、市民との出会いの場所、こういったところで市長の考えをもっともっと言ってください。特に高齢者は公共交通の問題に関心がありますので、直接話し合う機会、例えば福寿会の研修旅行等へはぜひ参加をしていただきたいと思います。

聞くところによりますと、最近、連合会の研修旅行へ市長の参加がないというふうに伺っております。会員の皆さんは寂しがってみえると、このように聞いております。公務が重なるということは確かに分かります。季節的なこともありますし、分かりますが、せめて隔年でも、１回は参加するということでお願いをしておきます。これは大事なことですよ。お願いします。

それから、若者との懇談をする機会はたくさんありますが、高齢者とは多くありません。本市の人口の４分の１を占める高齢者との懇談の機会を私は大事にすべきと考えております。もちろん、本市の将来を託す若者の意見を聞くことは大変重要なことではあります。しかし、先人の知恵を借りることも大事なことでありますので、よろしくお願いいたします。

限られた財源の中では、選択と集中の事業予算と市長も絶えず答弁をされております。まさにこの地域交通への惜しみない予算が必要であると私は思います。ぜひ令和７年度は、予算はしっかりと確保して、市民の満足度をアップすることが大事であることを申し上げ、次の質問に入ります。

３点目は、事業を進める財源について伺っていきます。

最初に、過去10年間における市税の推移について伺います。そして、これからどんなことが言えるのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　市税決算額の推移につきましては、10年前と比較して、平成26年度の78億8,658万9,412円に対し、令和５年度が90億581万6,273円と11億1,922万6,861円の増加、14.2％の伸び率となっております。

主な増加理由といたしましては、この10年間に本市への企業進出等が進んだことで、固定資産税が８億8,303万4,128円増加したことによるものだと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　私もいつも口癖のように言っておりますけど、固定資産税の伸びが大きく、本市の歳入を増やしているということが分かりました。

それでは次に、今後、本市が市税収の向上に向けて取り組む課題、方向性について伺いま

す。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　安定した税収の確保のためには、新たな企業誘致や本市の特性を生かしたまちづくりの推進が課題であると考えております。

本市では、現在、企業誘致につきましては、広域交通アクセスの優れた西末広地区において、愛知県企業庁の工業用地の開発が検討されております。また、駅に近接した立地を生かし、車新田地区におきましては、令和９年度中の認可を目標に土地区画整理事業を進めているところでございます。これらの事業の完了後は、固定資産税等の増加により、本市の運営に必要な税収確保につながるものと考えております。

今後とも、本市の立地ポテンシャルを生かした土地利用に努め、積極的なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　本市の市税収入の特徴として、固定資産税による市税収入になっております。しかしながら、これからは今までのような順調な伸びはあまり期待できません。来年度まではまだ、新設された大型物流センターの稼働が見込まれますので、何とか今までのような伸びが期待できますが、それ以降は難しいと思っております。

企業が立地できる土地の確保は大事であります。そのためには、都市計画マスタープランの見直しもしっかりと議論をしなければならないと思っております。

このような財政状況の中で市民の要望に応えていくには、国からの交付金を活用すべきと思います。そこで、財源確保における地方創生交付金の活用について伺います。

石破総理が誕生し、地方創生に向けた取組が重要視されてきました。来年度は、さらに当初予算において倍の予算をつけると総理は明言をされております。衆議院議員選挙におきましても、本市に見えました村上総務大臣も応援演説の中で地方創生交付金の活用を訴えてみえました。

市としても地方創生関連事業の推進に取り組み、国からの交付金によって市長が目指すデジタル田園都市国家構想の事業を進めるべきと思っております。いわゆる国からの交付金を有効に活用する事業展開を進め、市の一般財源からの持ち出しを少なくする施策をしっかりと、各課横断で、全庁一丸となって考えることが大事であります。言うはやすしですが、国のほうも簡単には金を出しません。しっかりとした事業計画を示し、採択されなければなりません。

本市は地域再生法の認定地方公共団体であります。企業版ふるさと納税制度も活用し、財源の確保をしております。また、地方創生交付金は、いわゆる自治体の手挙げ方式ですから、本市が進めたい事業を選ぶ、そして認定地域再生計画を策定し、交付申請をしていくといっ

た流れになると思いますので、よろしくお願いいたします。

三人寄れば文殊の知恵と申します。職員の皆さんが知恵を出し合い、事業展開をしていただきたいと思います。そして、目標である１億円の行政改革を実行してください。その先頭に立つのが市長であります。市長、リーダーシップをしっかりと発揮して、全庁一丸となって取り組んでいただくことをお願いしておきます。

そこで、まず現状を伺っていくわけですが、令和５年度決算及び６年度予算において、どのような事業に地方創生交付金が使われたのか、また金額は幾らか伺います。また、令和７年度予算においては、もっと活用すべきと思いますが、考えを伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　地方創生に資する取組などを支援するデジタル田園都市国家構想交付金は、デジタル田園都市国家構想の実現による地方の社会課題解決や魅力向上の取組の加速化、深化を図ることを目的として、国が地方公共団体に対して交付する交付金でございます。

本市の令和５年度実績につきましては、地方創生推進タイプを活用した「この指とまれ！弥富の人・情報・想いをつなぐヤトミーティングプロジェクト」、デジタル実装タイプを活用したコンビニ交付事業及び特殊車両通行許可システム登録業務の２事業でございます。

令和６年度につきましては、先ほどのヤトミーティングプロジェクトが３か年計画となっておりますので、その最終年として申請し、採択を受けております。また、地方創生拠点整備タイプを活用して、弥富まちなか交流館市民活動拠点やとみっけベース整備事業、デジタル実装タイプを活用して、ＳＭＳを活用した通知配信サービス事業、下水道情報システム構築事業、保育所給食管理システム導入事業、住宅地図（ＬＧＷＡＮ）システムによる個別計画運用事業の４事業をそれぞれ申請し、採択されております。これらの６事業の事業費は、総額5,465万円、採択額は2,732万4,000円となっております。

令和７年度につきましては、特にデジタル技術を活用し、地方の活性化や行政・公的サービスの高度化、効率化を推進するデジタル実装タイプについて、活用できる事業があれば積極的に国へ申請してまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　６年度の採択額が2,732万4,000円ということですが、７年度においては、その倍の約6,000万円ほどの採択を目指してほしいと思います。

今回の一般質問では、令和７年度予算編成についてという形で質問をいたしました。私は、本市の最大の課題は、海抜ゼロメートルの本市に住む市民を水害から守る取組、そして南北に長い地形の本市の住民、特に中心部から離れて生活する高齢者を中心とした交通弱者を守る取組が大事であり、そのための事業に向けての予算措置をしっかりとすべきであると質問

を通じて提言しました。また、石破総理も倍に増やすと公言してみえる地方創生交付金の活用も市長に提言してきました。このことをしっかりと御理解いただき、来年度の予算編成に臨んでいただくことをお願いしておきます。

最後に、来年度予算についてではありませんが、１つ市長に伺っておきます。

先般行われました衆議院議員選挙においても関心事となりました、本市にとっても、尾張西部地域にとっても命の道である一宮西港道路に関して伺います。

弥富市は、南北に16キロメートルと長い地形であります。東西は９キロメートルで、国道が２本、高速道路２本、計４本の道路が横断しておりますが、南北においては一本も完全に縦断する道路がありません。

このたび、一宮西港道路が高規格道路として事業採択されました。これにより、弥富市を縦断する幹線道路ができることになります。今、市民の皆様に、どのルートがよいか決めるのに、アンケート調査がなされております。３つのルートのうちどのルートになるのか未定でありますが、市長としてはどのルートが本市にとって一番有益であると考えるのか伺っておきます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　一宮西港道路につきましては、議員言われたとおり、今アンケート調査が取られておりまして、３ルートが示されているところでございます。

この道路と申しますのは、東海北陸自動車道、そしてまた名神高速道路のちょうど交差点、一宮ジャンクションから伊勢湾岸までつなぐ約30キロほどの地域高規格道路でございまして、西尾張、また海部地域を貫通する道路でございます。そういった中、３ルートが示されております。これは、一番西が155号線を使ったルート、そしてまた東側が西尾張中央道を使ったルート、もう一つがその間ということでございますが、地形を見ておりますと、西側を通るルートですと弥富の市街地をどうしても通ってくる。そんなルートでは、市が、まちが分断されてしまいます。幅が狭い弥富市にとっては、分断をされてしまう可能性があります。そしてまた、東側の西尾張中央道、両サイドにお店がびっしりと貼り付いておりまして、そういった中で果たしてできるかなというような大きな疑問もございますし、慢性的な渋滞も西尾張中央道はあるところでありまして、そういったリスクを考えると、やはり私は、ぜひ本市といたしましても、できたら真ん中のルートで弥富市まで貫通してほしいという思いがあるわけでございます。

名古屋港の物流が岐阜、また北陸の方面への道となりますこと、また命の道としても、ぜひ弥富市から、やるなら弥富市からやってほしい、南側から道路を造ってほしいという強い希望もございますものですから、そんなことをこれから、いずれにしても今年度中には多分示されると思うんですが、そういった中では、そういった要望も強くしてまいりたいと思っ

ているところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　平野議員。

○１６番（平野広行君）　市長の願いがかなうように思っております。

私もいろいろ考えるんですが、市道中央幹線、途中で中断しておりますよね。何回か問題になります。ここを通れば何とかうまくいくんじゃないか、そんなような皮算用をしておりますので、よろしくお願いいたします。

本年は、本市において暗い話題が多く、新聞、テレビで報道されましたが、来年はぜひ明るい話題が新聞、テレビで報道されますことを期待しております。今年もあと僅かになりましたが、市民の皆様が年末を健やかに過ごされ、すばらしい新年をお迎えになられますことを御祈念申し上げ、私の一般質問を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後３時50分といたします。

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

午後３時45分　休憩

午後３時50分　再開

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、小久保照枝議員。

○９番（小久保照枝君）　９番　小久保照枝でございます。

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

１点目、こども未来の政策を！、２点目、図書館サービスの充実について、３点目、ＧＩＧＡスクール端末の更新について質問させていただきます。

それでは、１点目のこども未来の政策を！を質問させていただきます。

「子育てするなら弥富市へ」、我が市のスローガンですが、市民の皆様には届いているでしょうか。

11月、弥富市で多くのイベントが開催し、海南こどもの国、三ツ又池公園、まちなか交流館、野鳥園など、内外から多くの方がお越しいただいております。全ての施設は無料でありますし、お子さん連れには経済的にも魅力のあるイベント行事であると思います。

また、イベントに民間企業、学生ボランティア、福祉事業者、市職員など多くの方が関わり、子供も大人も楽しまれておりました。この勢いを市政につなげて弥富市のにぎわいをつくっていただきたいと思います。

そこでお伺いします。

弥富市のイベント情報の周知方法や工夫されていること、今後の目標をお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　観光分野におけるイベントの周知方法につきましては、春、秋に開催するお祭りでは、ポスター、チラシ、市広報や愛知県観光協会が四半期ごとに発行する旬感観光あいちといった紙媒体での周知、掲載を行っております。さらに、弥富市観光協会のウェブサイトやＬＩＮＥ、ＸといったＳＮＳを活用した情報発信も行っております。また、愛知県等が管理するサイト、ＡｉｃｈｉＮｏｗ、いいともあいちに依頼し、情報発信に努めております。

工夫していることといたしましては、近年、市内外で金魚すくいを中心にＰＲ活動として実施しております大作戦では、相互協力をお願いし、相手方のＳＮＳやチラシでも情報発信を行い、大作戦当日には、観光マップやチラシをスタッフが手渡し、その際、口コミによる活動も行っております。こうした取組の成果として、目標の一つでもある観光人口の流入増加に関し、成果が出てきており、先月開催の秋まつりの金魚すくいの参加者のうち、８割以上が市外の方という結果でございました。

もう一点、本年は、マスコミに取り上げられる機会も多かったと分析をしております。

いずれにいたしましても、こうした取組を継続し、弥富を訪れるきっかけの一つとなり、ひいては本市の定住人口や関係人口の増加につなげていきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　市内外にわたり多くのイベントに出展していただき、弥富金魚のブランドを流布していただいております。これからもさらにイベント情報や発信によって弥富市に足を運んでいただき、親子で楽しんでもらい、将来的に弥富に住みたいと思える魅力あるまちづくりを目指し、取り組んでいただきたいと思います。

厚生文教委員会では、本年10月21日、22日、兵庫県明石市、淡路市に行政視察に行ってきました。明石市は、こども総合支援条例に基づいた政策を次々に打ち出し、子供を核としたまちづくりを行い、11年連続で人口増加、出生率の伸び、税収の増額など、発展している様子を学ばせていただきました。

特に明石市の大きな取組として、未成年の子供を持つ夫婦が離婚や別居を検討する際、養育費と面会交流の取決めや心のケアなど、子供の視点に立った離婚の支援を関係機関と連携して行うこども養育支援ネットワークがあります。この離婚後の養育支援については、弁護士である前市長が、弁護士時代の経験から、子供を守るために積極的な行政の加入が必要であるとの実感から、トップダウンで実施が決められました。

もっとも、従来の社会は、家庭内の問題については法が関与せず、自治的解決に委ねるべきという考え方でありました。離婚や別居は個人や家庭の問題であるため、民対民の問題に公である行政が介入すべきではないという固定観念が社会全体に浸透しています。しかし、家庭内における虐待が顕在化してきた今、むしろ行政が家庭内に積極的に関与すべき時代が

到来しているのではないでしょうか。

明石市が取り組まれた事業として、父母間の話合いの参考資料となるこどもの養育に関する合意書、子ども養育プランの作成や養育費や面会交流など、専門家による子ども養育専門相談、親子交流サポート事業や無戸籍者のための相談窓口、離婚前講座、養育費立替パイロット事業などに取り組まれておりました。前市長は、養育費や面会交流は子供の権利で、夫婦の一方を支援するのではない。関係機関につなぐなど、自治体にできるサポートをしていきたいとの決意で進めてこられました。子供目線で本気で応援、あれもこれも全てやるという明石市の基本理念を強く感じました。

そこでお伺いいたします。

本市での離婚相談、また離婚後の子育て支援に対する取組と現状をお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　本市での離婚相談については、児童課に所属する母子・父子自立支援員がその業務を担っております。

業務内容としては、面談によりＤＶや虐待等の状況及び今後の意向を確認した上で、離婚制度の説明をはじめ、親権や面会交流、養育費及び財産分与など係争内容の確認を行い、状況によって愛知県母子寡婦福祉連合会、母子・父子福祉センターなどが実施する無料の弁護士相談事業を紹介するなど、当該相談者にどのような支援が可能か見極め、必要な情報提供を行っております。

また、独り親世帯となった場合の児童扶養手当や各種貸付金制度の説明のほか、看護師等専門的な資格取得に係る給付金制度などの財政的支援やハローワーク及び県就業支援センターへの登録あっせんなど、離婚後に安定した収入を確保するための就労支援を行っております。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　本市におきましても、児童課にて所属する母子・父子自立支援員の方が離婚相談、支援を行ってくださっているとのことでした。

お伺いしたところ、支援員はお二人、年間の相談が約100件ほど対応されてみえているとのことでした。相談できるところがあるということは、とてもありがたいことです。しかし、市のホームページを検索しても、離婚相談等の項目がありません。分かりやすく周知すべきだと思いますが、いかがでしょうか。再質問でお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　相談窓口の周知につきましては、市ホームページにおいて、女性の悩み事相談、独り親の相談という形で掲載をしていきたいと思っております。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　やはりその部分におきましては、本当に分かりづらいという部分があります。きちんと検索しやすい、分かりやすいという部分が必要だと思いますので、その点、よろしくお願いいたします。

離婚の問題は、人に相談したりアドバイスをもらうことが難しく、繊細な問題です。それだけに、人知れず苦しみ、孤独に悩んでいる方が多くいるのではないでしょうか。

明石市では、養育費や面会交流についての相談内容は、法律面にとどまらず多岐にわたっていることが多いため、複合的な相談について時間をかけて相談できるように、定例の弁護士相談以外に、新たに専門家により総合相談を開始して相談を充実させました。本市としても顧問弁護士がおりますが、今の状況と新たな専門弁護士の充実ができないかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　本市の顧問弁護士は、行政上の諸問題について相談できるように契約しており、市民個人への相談対応はしておりません。市民に対しては、市社会福祉協議会が実施する心配ごと相談や弁護士による法律相談のほか、母子・父子福祉センターが実施する無料相談事業などを活用していただくように案内しておりますので、市で新たな専門弁護士を置く考えはございません。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　本市では、専門弁護士を充実する考えはなく、県の母子・父子福祉センターが実施する無料相談事業に御案内するということでした。

明石市では、養育費と面会交流について、何をどのように決めたらよいのか分からないという市民からの相談が増えたことから、父母間の話合いのきっかけや参考資料としてもらうため、明石市独自の書式を作成しました。この書式の重要なのは、大人の都合ではなく、徹底的に子供目線に立って、面会交流の継続や養育費の支払いをまずはしっかり伝えられるものが必要です。現に明石市では、養育費取決め率が、全国平均で６割のところ、７割であったそうです。また、参考書式は明石市役所内部で印刷しており、予算も紙代程度であることから、他市でも相次いで同様の取組を行っているそうです。

明石で取り組まれている離婚届手渡し時の養育費と面会交流のフォーマットの配付を本市でもされてはどうかと思いますが、いかがでしょうか。お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　養育費は、離婚後の子供の生活を支えるために必要な費用であり、面会交流は、離婚後の子供の健やかな成長を支えるために必要な措置となります。したがいまして、離婚を決断された両親が養育費や面会交流についてあらかじ

め話し合っていただけるよう、明石市の取組を参考に、本市でも市民課の窓口において、離婚届用紙を取りに来られた方に法務省が作成したこどもの養育費に関する合意書作成の手引きとＱ＆Ａを配付してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　今後、市民課の窓口で離婚届と一緒に、法務省が明石市の書式を参考に作られたパンフレットを配付してくださるとのことです。

協議離婚及び調停離婚への相談支援として、申請書作成サポート、調停中の子供の見守り、申請手続及び調停調書作成費用負担など、子育てしながらの１人での負担が大きい。そういった観点から、協議離婚及び調停離婚への相談支援、費用負担が本市でもできないかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　先ほど御答弁したように、本市では離婚制度に関する情報提供は行っておりますが、法的な判断に関する相談や離婚協議書等の作成については、市が単独で対応できる人材を確保することが困難なため、母子・父子福祉センターや法テラスなどの団体及びサービスを紹介させていただいております。

また、離婚に関する費用負担については考えておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　家族の形は家族の数だけあり、どれが正解というものではありません。このような多様な家族の在り方を前提として、子供の最善の利益を実現するためには、離婚を考えている全ての親に対して離婚前講座を推進し、子供の気持ちや養育費等についての取り決める意義を伝えることが重要であると提言されています。

離婚セミナー、また離婚前講座のような講座の開催を取り組むことができないでしょうか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　離婚セミナーについては、県内では名古屋市などの規模が大きな自治体での開催実績は見受けられますが、本市のような小規模自治体で開催した場合、対象者が身近に居住していることから、参加された方々から個人の情報が広がってしまうのではないかという懸念がございます。したがいまして、県などの広域やオンラインで開催されるセミナー等があれば、対象者にその情報を提供してまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　こういった情報提供も先ほどのホームページで周知されるといいかと思います。親の離婚や別居に心を痛めている子供を出さないよう、本市として取り組んで

いただきたいと要望いたします。

最後に、市長の見解をお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　子供たちにとりまして、両親の離婚は、非常に大きな、とても悲しい出来事として記憶に残ることとなります。子供たちがこれを乗り越えて健やかに成長していけるよう、民法では、面会交流と養育費の分担は、離婚の際に父母が協議して定めるべき事項であることや、これらの取決めをするときは、子供の利益を最優先して考慮しなければならないことが明記をされております。

本市における離婚相談については、町村合併した平成18年４月から独り親を支援するための自立支援員を雇用し、県の関係団体など専門的な知識を有する各種機関と連携を図りながら、その対応に努めているところでございます。

今後も、対象となる相談者に寄り添い、既存の制度やサービス等を有効に活用していただけるよう、丁寧な説明と情報提供に取り組んでまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　ありがとうございます。よろしくお願いしたいと思います。

次に、２つ目の図書館サービスの充実について質問させていただきます。

今回、多くの議員が質問がありましたが、重ならないよう質問させていただきます。

令和６年度から令和８年度にかけて、弥富まちなか交流館を改修し、図書館のリニューアルや市民活動拠点整備を行います。図書館としてリニューアルし、図書館がより一層市民に親しまれ、多くの方の利用が期待されます。子供にとってもわくわくする空間が設計されており、とても楽しみにしています。

図書館の資料を充実させ、利用者へのサービス提供の向上を図ることを目的とする雑誌スポンサー制度があります。この制度は、雑誌の年間購入費を企業などに負担していただく代わりに、図書館が指定する雑誌のリストの中から提供する雑誌を選定してもらい、その雑誌の最新刊にかける透明のブックカバーの表紙に企業名などのスポンサー名、裏側にはＰＲチラシ、広告を掲載するというものです。雑誌スポンサーである事業所、団体などは、多くの人が訪れる図書館で自社の宣伝ができ、社会貢献もできます。また、図書館は雑誌を充実することができ、利用者の魅力アップにもつながります。そして、利用者はより多くの雑誌を手に取り、楽しむことができます。本市におきましても雑誌スポンサー制度を導入されておりますが、雑誌スポンサー制度の費用対効果をお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、雑誌スポンサー制度に御協力をいただいている事業者は１社、月２回発行の雑誌１誌でございます。市側が負担する費用はありませんので、雑誌の年

間購入費に当たる約１万2,900円が効果額となります。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　雑誌スポンサーが１社とのことでした。今回のリニューアルを機に、雑誌スポンサー制度に御協力していただけるよう、アピールをお願いいたします。

次に、子供読書活動を推進するために、先進地では、小学１年生児童全員に図書館の貸出登録申請書（貸出カード）やお薦め本リスト、利用案内などを入れた図書館１年生パックをプレゼントして、図書館のことを知ってもらい、楽しく利用してもらうことを目標としています。本市においても、図書館利用のきっかけとなる取組ができないかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、御質問のような取組は行っておりませんので、お示しいただいた事例を参考に、令和７年度の小学校新入生とその保護者に向けて、図書館利用の御案内をさせていただきます。

また、複合施設として強みを生かし、まちなか交流館連携事業を開催するなど、図書館利用者、図書館利用以外の来館者への情報発信や魅力発信に努めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　子供たちが図書館利用のきっかけとなるよう工夫を凝らし、アピールしていただきたいと思います。また、図書館やまちなか交流館に内外問わず来場していただけるよう、魅力ある発信も期待いたします。

小項目３点目の電子図書貸出サービスの導入についての質問は、先ほどの平居議員の質問と重複しますので、割愛させていただきます。今後のサービスとして検討していただきたいと要望しておきます。

次に、読書バリアフリー法が施行され、国は、視覚障がい者の方、肢体不自由の障がいによって本を読むことが困難な方々への読書環境を整備することを目指しております。障がいがあっても利用しやすい機能を備えた本、例えば点字本、拡大文字の本、分かりやすくて読みやすいＬＬブック、デイジー図書、音声読み上げ式電子書籍などがたくさんあり、子供から大人まで好きな時間に好きな本を思う存分読むことができる環境づくりはとても重要です。障がいがあっても利用しやすい環境や機能を備えた本など、本市の取組をお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　障がいのある方が利用しやすい機能を備えた本として、現在、点字本36冊、大活字本451冊、ＬＬブック111冊を所蔵していますが、これらの本の利用はあまり多くありませんので、ＰＲに努めてまいります。

また、今回のリニューアルでは、照明器具や内装の新調により館内を明るくするとともに、ブックカートの導入など、利用しやすい環境の整った図書館を目指してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　障がいがある方が利用しやすい機能を備えた本がたくさんそろっていることが分かりました。障がいをお持ちの方が図書館を好きになっていただけるよう、思いやりのある館内の環境を整えていただきたいと思います。

最後に、３点目のＧＩＧＡスクール端末の更新について質問させていただきます。

ＧＩＧＡスクール構想は、2019年12月に文部科学省が補正予算を計上したことに始まり、児童・生徒に１人１台端末のＩＣＴ環境により、学習活動の充実や主体的、対話的で深い学びにつながる授業の実現を目指し、スタートしました。翌2020年の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、子供たちの学びの機会を守るため急速に普及し、今年８月現在、ＧＩＧＡスクール端末は全国で950万台利用されております。

今後、これらの端末が順次更新時期を迎えていきます。ＧＩＧＡ第２期では、政府の負担で都道府県に基金を創設し、原則として都道府県ごとの共通仕様書を基に共同調達することになり、調達の大型化が予想されます。

文部科学省では、公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領において、更新端末への補助に当たり、端末の整備・更新計画の考え方及び更新対象端末のリユースやリサイクル、データ消去等処分計画の策定、公表を義務づけております。

そこで懸念される事項は大きく２点あり、まず１点目として、文部科学省、経済産業省、環境省の３省合同通知で示された方法で端末が再使用、再資源化されなかった場合、第２期端末購入の補助要項に非該当となる懸念があります。３省合同通知によれば、排出事業者には処理の責任がある。仮に無許可業者に処理を委託した場合、適正に処理されず、不法投棄や不正に海外に輸出されるなどの社会問題につながるとあり、小中高等学校の排出事業者としての責任を警告されています。

懸念事項の２つ目として、３省合同通知では、データ消去が適切に実施されずに個人情報漏えい等の責任を問われる可能性があるとも言及されています。例えば写真に自宅の位置情報が保存されていたり、いじめ相談アプリの履歴が残っていたり、閲覧履歴やパスワード、情報がＧＩＧＡ端末に残っている可能性があります。ＧＩＧＡ端末の記憶媒体は、単純な物理破壊ではデータの復元が可能とされており、専用ソフトでの処理により確実にデータを消去しなければ、子供たちの個人情報の流出につながりかねません。

そこでお伺いいたします。

本市においては、来年度以降、何台程度を新端末に買い換え、旧端末を処分する必要があるのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市では、現在使用していますタブレット端末は、令和２年度に

3,217台を購入し、令和４年度に607台をリース契約しており、合計で3,824台利用しています。

児童・生徒数が減少していることにより、現在より少ない台数の更新を行うことにはなります。今後の更新は令和８年度に行う計画としておりますが、他市の状況を確認しつつ協議を重ねているところであり、具体的な数字や、またリースとするのか購入とするのかにつきましては、現在検討を進めております。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　今後の更新は令和８年度に行う計画とのことですが、全国で大量のＧＩＧＡ端末の更新と端末処分が行われます。適正に国内循環できるよう、また計画の遅れが出ないよう、注視して進めていただきたいと思います。

また、その際の適切な端末処分とデータ消去に対する認識と具体的な取組についてお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在使用しているタブレット端末につきましては、更新時、契約業者に現在の機器のデータ消去と小型家電リサイクル法の認定事業者での処分を依頼していく考えでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　ＧＩＧＡスクール端末の適正な処理がなされなかった場合には、第２期端末購入の補助要綱に非該当となる懸念があるとのことです。データ消去に関しては、子供たちの情報漏えいにもつながりかねないよう、事業者の選定をしっかりとお願いいたします。

2024年５月の環境省通知では、使用済端末にはレアメタル等の有用な金属が多く含まれ、都市鉱山とも呼ばれている。我が国における金属資源の枯渇リスク対応等の観点から、ＧＩＧＡスクール構想の下で整備された端末を含めた使用済端末の適正な再資源化を推進することが必要であるとされております。

また、この背景等を踏まえ、３省合同通知では、当該端末の更新に当たって、使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律に基づく認定事業者への処分委託を現行端末の再使用または再資源化の手法として示されており、ＧＩＧＡスクール端末等の処分に当たっては、同法に基づき国の認定を受けた再資源化業者との連携を検討するよう依頼されているところであります。

そこで質問いたします。

本市を含む収集区域における小型家電リサイクル法の認定事業者を明らかにするとともに、環境省通知に基づく環境課と教育委員会、認定事業者等の連携への認識と取組についてお伺

いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　愛知県内でタブレット端末の収集可能な認定事業者は、12社でございます。

タブレット端末処分については、環境課と連携し、認定事業者の情報を共有するとともに、適切に進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　最後に、今後編成される令和８年度予算においても、環境課と教育委員会がそれぞれの縦割りに陥ることなく、適切に連携し、適法に認定事業者への委託及びデータ消去等に必要な予算措置を行うことが不可欠であると考えますが、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　ＧＩＧＡスクール構想の下で整備されたタブレット端末には有用な金属が含まれており、適正な再使用または再資源化が必要であります。本市でも、適正な方法で端末データの処分を行った上で、認定事業者にて処分を依頼していきます。そのために必要な予算措置を講じてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　小久保議員。

○９番（小久保照枝君）　本市において、ＧＩＧＡスクール端末の更新は令和８年ですが、ＧＩＧＡスクール端末の大量処分に向けて、初めての取組になりますので、しっかりと連携を取り、対応していただきたいと要望いたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後４時30分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後４時23分　休憩

午後４時30分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、鈴木りつか議員。

○３番（鈴木りつか君）　３番　鈴木りつかです。

通告に従いまして質問させていただきます。

私が質問させていただきますのは、弥富市の文化伝承について２点です。

令和６年策定の弥富市生涯学習推進計画内にありました小・中学生を対象に行ったアンケートでは、１年間に文化・芸術の観戦・観覧の有無について、「ある」と答えたのは僅か10.2％でした。また、さらに１年の間にテレビ、ラジオ、インターネット配信などで生涯学

習活動の観戦・観覧の有無についても、「ある」と答えたのは僅か9.4％でした。こちらのアンケートからも分かるように、昨今の忙しい子供たちは、文化芸術に触れる機会が少ないということが現状かと思われます。

それを踏まえまして、弥富の文化伝承と次世代を担う子供たちの文化活動への触れ合いについて質問をさせていただきます。

まず初めに、文化協会について質問させていただきます。

現在、弥富市文化協会に登録されている団体の数、会員の人数、またその推移を教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、文化協会の団体数は32団体、会員数は448人でございます。昨年同時期と比較しますと、団体数は１団体減少したものの、会員数は1.36％増加しております。この増加は、コロナ禍において人との交流が減少した影響や、高齢化が進む中での会員数の増加を成果として捉えております。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　会員数は増加したとのことで、コロナ禍が明けまして、文化活動をまた再開したいという市民の皆様の動きが活発になっているのではないかと思われます。また、答弁でもお答えいただきましたが、文化協会等においても高齢化の傾向が顕著であり、団体数も減っているとのことでした。

それでは、次の質問ですが、伝統文化、伝承を維持するための支援は、主として何か行われているでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市では、地域で継承されている伝統芸能に対して、無形文化財伝承活動奨励補助事業による１地区８万円の支援のほか、山車等整備事業により、太鼓の張り替え等道具の整備についても支援を行っております。

また、神楽屋形や石取車の大規模な修繕等につきましては、県の補助事業を活用していただき、自治体や保存会の負担軽減に努めております。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　無形文化財伝承活動奨励補助事業を行っているとのことですが、事業の利用実績を教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　令和４年度は13地区、令和５年度は31地区に御利用いただき、令和６年度は34地区から申請をいただいております。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　令和４年度から比較しても、毎年申請地区が増えているというのはとてもよい傾向であると思います。これからも無形文化を伝承していけるように、こちらの事業を周知していただけるように引き続き努めていただきたく、要望させていただきます。

続いての質問です。

文化協会の日頃の練習の成果の大切なお披露目の場として非常に重要な洋邦楽舞発表会がありますが、先月11月16日に行われた洋邦楽舞発表会の参加人数と観覧人数の実績を教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　洋邦楽舞発表会における参加人数は234人、観覧人数は368人でございました。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　また、その翌日には、無形文化財の発表の場として、こちらも大変重要な弥富市文化芸能大会が11月17日に行われましたが、こちらの参加人数と観覧人数の実績もお教えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　11月17日に開催した文化芸能大会につきましては、８地区から９種目の参加があり、出演者は約100人でございます。御観覧いただいた人数につきましては、種目ごとに入れ替わりが多くあるため、把握できておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　私も一会員として参加と、並びに観覧をさせていただきましたが、やはり参加者の高齢化を実感しました。また、それに伴って、観覧客も高齢化、また減少していると感じました。どちらの発表会も高齢化の影響が危惧されますが、これからも運営を維持して、さらに会員数を増加させようとする取組は何かなされていますでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　高齢化が進む文化協会の維持と会員数の増加を目指すためには、多世代を対象とした文化プログラムの充実が重要であると考えています。

文化協会では、一昨年から市ホームページを活用し、文化協会の活動をＰＲする取組を行っております。また、洋邦楽舞発表会や市民文化展などのイベント、特別企画、講習会の開催にも力を入れるとともに、多くの市民の皆様に文化協会の魅力を伝えております。

今後は、地域の学校や子供たちを中心とした団体と連携し、若い世代が文化に触れる機会を推進することで、文化活動への魅力を喚起し、将来的な会員の基盤を築いてまいります。若い力と共に先人たちの思いを継承しながら、文化協会をより多様な世代が参加できる場と

することを目指してまいります。

伝承文化の継承につきましては、引き続き補助金を活用した支援に努めてまいります。地域の祭礼以外での発表の場として、多くの方に地域の伝承文化を知っていただく重要な機会である文化芸能大会や森津の藤見の会など、関係団体と協議をしながらＰＲにも努めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　市のホームページ等を活用するなど、ＰＲの効果もあり、初めの答弁でもありましたが、昨年よりも文化協会の会員数が増加している、効果を上げていることが分かりました。

弥富に新しく移り住んで引っ越してきたりしている方などが、弥富の地域活動、弥富の文化を知らずにいる方や子供たちなどにも文化活動を通して文化に触れる機会をつくっていただき、活動していただくことは大変重要であると思います。引き続きＰＲ活動にて取り組んでいただけたらと思います。

それに関しまして、次の質問に移ります。

コロナ禍前までは、弥生小学校にて弥富音頭を学ぶ授業があり、またそれを運動会で披露する機会がありましたが、現在は行っていないようですが、なくなったのはなぜでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　弥生小学校では、令和元年度の運動会において、１・２年生が弥富音頭を踊っていました。

コロナ禍により、運動会は令和２年度から開催されず、昨年度、運動会を再開できるようになりました。また、昨年度からは、開催時間を半日で行うこととし、内容の見直しを行いました。５月の運動会開催日までに当日踊れるよう指導計画を立て、子供たちに指導することは、子供たちへの負担が大きくなるため、実施することは難しいと判断いたしました。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　先生方の御負担や保護者の皆さん、そして子供たちの負担軽減のために運動会が短縮されている傾向にあるかと思いますので、その中で弥富音頭を踊れるまで練習することが難しいということが分かりました。

では、次の質問ですが、運動会での発表は難しいかと思いますが、授業の一環として取り入れるのはいかがでしょうか。十四山地区の十四山西部小、東部小では、十四山民謡クラブさん協力の下、十四山音頭を学ぶ授業が今も継続して行われています。小学生の頃から弥富の大切な文化として、十四山音頭と同様に、授業の一環として各小学校に弥富音頭を学んでもらう授業を行ってはいかがでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本年度、十四山東部小学校と十四山西部小学校では、９月25日に十四山民謡クラブの方を講師として、十四山音頭を踊る授業を行いました。

弥富音頭や十四山音頭等、弥富の文化の伝承につきましては、各学校の授業カリキュラムの中で機会を見つけて取り組んでもらえるよう、市校長会において伝えてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　弥富音頭は、約70年の歴史がある弥富独自の非常に伝統のある民謡です。また、十四山音頭も民謡100選に選ばれる、こちらも非常にすばらしい伝統のある民謡です。踊り手、伝え手の方もやはり高齢化が危惧されますが、子供たちが授業の一環で覚えてくれて、またそれが盆踊りで披露されて、その思い出がいずれコミュニケーションの一つにもなります。また、弥富音頭、十四山音頭の未来の伝え手となってくれることも期待できます。ぜひともこの大切な弥富文化の一つ、弥富音頭と十四山音頭を守るためにも、積極的に授業に取り入れていただきますよう、強く要望させていただきます。

次の質問です。

文化協会には、子供たちに触れてもらうのに適しているハーモニカや詩吟、将棋などがありますが、これらについても、小学校の総合授業などの活動で学んでもらう機会をつくってはいかがでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　ハーモニカをはじめとする文化協会で活動されております内容につきましても、それぞれ御紹介をいただき、学校での授業カリキュラムに沿うものがあれば、文化協会の方に御協力をいただき、子供たちに御指導いただきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　今、藤井聡太さんの人気で、将棋なども児童館で人気があると聞いております。文化協会の会員さんが子供たちとコミュニケーションを取る機会もでき、また子供たちも地域の先生に教わるのは大きな学びにつながると思います。子供たちの文化活動が制限される昨今で、文化に触れるとてもよい機会になると思いますので、ぜひとも実施の御検討をいただきたく、こちらも御要望させていただきます。

最後になりますが、十四山音頭、弥富音頭のような弥富市独自の文化を守っていくための取組は、これからも絶対に必要であると思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　今年の夏も、コミュニティでの盆踊り、また自治会のほうで盆踊りを開催されたところもございました。私もコミュニティの盆踊り大会でお邪魔して盆踊りを踊るということで、福祉センターのほうで７月に練習会に２回ほど参加させていただきました。特に民謡クラブの皆様方の御指導の下でということでございましたが、なかなか難しいもの

でということで、また来年挑戦してまいりたいと思っているところでございます。

さて、弥富音頭や十四山音頭のような弥富市独自の文化を守り、次世代に伝えていくことは、大変重要なことでございます。本市といたしましては、市民の皆様との連携を深めながら、伝統文化をより身近に感じる機会を提供していくことが必要であると考えております。

また、地域における参加型のイベントや地元の文化団体の発表の場等々を通じて、子供から大人までが自然に踊りを楽しむ環境をつくり出すことで、文化の継承につながるのではないかと考えております。

文化の継承には、文化団体の協力は必須と考えますが、弥富市のすばらしい伝統を守り続けるために、文化団体の活動を通じて、市と地域が一体となり取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　鈴木議員。

○３番（鈴木りつか君）　弥富市の文化を代表して、今回は弥富音頭、十四山音頭を特筆して取り上げましたが、盆踊りは、運動神経に自信がない私のような人間でも、覚えれば楽しく踊ることができます。運動する機会の減っている子供たちが体を動かして、最近はダンスの授業も始まりましたが、ダンスほど難しくなく、楽しく踊る体験ができるのが盆踊りだと思います。そういった機会をぜひとも学校で取り入れていただきたいと思います。小学校の統廃合も控えており、地域の文化を守っていくこと、そういった文化活動の機会を守っていくことがより重要であると感じます。市長の御答弁いただいたとおり、文化団体と協力をしていただきまして、弥富市の文化を守っていくよう、これからも取り組んでいただきたく要望いたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　本日はこの程度にとどめ、明日、継続議会を開き、本日に引き続き一般質問を行いたいと思いますので、本日の会議はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

午後４時45分　散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長　　堀　岡　敏　喜

同　　議員　　板　倉　克　典

同　　議員　　那　須　英　二

令和６年12月12日

午前10時00分開議

於　　議　　場

１　出席議員は次のとおりである（16名）

１番	伊　藤　千　春	２番	柴　田　英　里
３番	鈴　木　りつか	４番	平　居　ゆかり
５番	横　井　克　典	６番	板　倉　克　典
７番	那　須　英　二	８番	加　藤　明　由
９番	小久保　照　枝	10番	堀　岡　敏　喜
11番	佐　藤　仁　志	12番	江　崎　貴　大
13番	加　藤　克　之	14番	高　橋　八重典
15番	早　川　公　二	16番	平　野　広　行

２　欠席議員は次のとおりである（なし）

３　会議録署名議員

８番	加　藤　明　由	９番	小久保　照　枝

４　地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名（34名）

市長	安藤正明	副市長	村瀬美樹
教育長	高山典彦	総務部長	伊藤淳人
市民生活部長	柴田寿文	健康福祉部長兼 福祉事務所長	安井幹雄
建設部長	立石隆信	教育部長	渡邊一弘
健康福祉部次長兼 保険年金課長	佐藤雅人	会計管理者兼 会計課長	大木弘己
教育部次長兼 歴史民俗資料館長兼 図書館長	伊藤隆彦	監査委員 事務局長	水谷繁樹
総務課長	横江兼光	財政課長	村田健太郎
人事秘書課長	山森隆彦	企画政策課長	佐藤文彦
防災課長	太田高士	税務課長	岩田繁樹
収納課長	細野英樹	市民課長兼 十四山支所長兼 鍋田支所長	下里真理子
環境課長	梅田英明	市民協働課長	藤井清和
観光課長	浅野克教	健康推進課長	山守美代子
福祉課長	後藤浩幸	介護高齢課長	富居利彦

児童課長	飯田宏基	総合福祉センター所長兼十四山総合福祉センター所長兼いこいの里所長	中山義之
産業振興課長	上田忠次	土木課長	神野忠昭
都市整備課長	三輪秀樹	下水道課長	早川昇作
学校教育課長	田畑由美子	生涯学習課長兼十四山スポーツセンター館長	飯塚義子

5　本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	佐野智雄	議事課長	田口邦郎
書記	鈴木悦子		

6　議事日程

日程第１　　会議録署名議員の指名

日程第２　　一般質問

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午前10時00分　開議

○議長（堀岡敏喜君）　おはようございます。

ただいまより継続議会の会議を開きます。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（堀岡敏喜君）　日程第１、会議録署名議員の指名をいたします。

会議規則第88条の規定により、加藤明由議員と小久保照枝議員を指名いたします。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第２　一般質問

○議長（堀岡敏喜君）　日程第２、一般質問を行います。

順次発言を許します。

まず、加藤克之議員。

○１３番（加藤克之君）　おはようございます。

13番　加藤克之です。

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回は、道路整備及び安全対策をタイトルに早期実現可能に向けて質問をさせていただきます。

まずは、皆様方の期待の言葉を進めたいなというふうに思う次第でございます。

澄み渡る今日、夜空に輝く星が一層美しい季節となってまいりました。本会議も花卉組合からポインセチアの美しい紅色が議場にあやを添えていただいております。昨日は、市長も何度もポインセチアを触りながら力をいただいて発言を頑張っていた姿も感じました。まずは、花卉組合の人たちにもありがとうございました。

さて、ポインセチアは日本に伝わったのは明治時代であります。日本語の名前でいうとショウジョウボクといいます。ショウジョウとは赤い顔をした架空の動物のことであります。それがポインセチアの赤に由来して、この名前がつきました。花言葉は御存じの方もおられます。祝福、幸福を祈る、聖なる夜、私の心は燃えているであり、赤は祝福の象徴でもございます。ピンクは清純であり、思いやりがあり、白は祝福を祈る、慕われる人であります。白はウエディングカラーであることで、このような花言葉になったと言われています。

それでは、質問に入りたいと思います。

弥富市都市計画マスタープランは、総合計画などの上位計画を踏まえ、本市の将来像や土地利用の方針を明らかにするとともに、都市づくりに関する様々な分野について、その整備や保全の総合的な指針として役割を果たすものでございます。市の将来像として、「地域で

つくる「人・自然・文化」の調和　輝く未来へ繋ぐまち・弥富」を掲げております。将来、都市構造の基本的な考えは、住・産・農とこの３つの空間において、地域特性に応じた拠点を中心として東西、南北方向の交通軸を形成し、本市全域がネットワークした利便性の高い都市づくりを目指す計画でもあります。

この住・産・農の考え方の交通軸について質問をいたします。

まずは、駅周辺で暮らしを支える生活サービス施設が集積する都市拠点を中心とした交通利便性を進めていく快適な住の空間形成に当たり、これまでの向陽通線及び穂波通線の進捗をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　向陽通線と穂波通線につきましては、平成８年から平成24年までの期間で実施されました平島中土地区画整理事業及び令和４年度までの街路改良工事等により整備を進めてまいりました。

これまでに向陽通線は、計画延長1,010メートルのうち760メートルが改良済みとなっており、整備率は75.2％となっております。穂波通線につきましては、計画延長1,320メートルのうち1,100メートルが改良済みとなっており、整備率は83.3％となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○１３番（加藤克之君）　これまで平成８年から24年まで、そしてこの議場内で多くの地元先輩議員が、この路線は話をしてまいりました。その中で、私も地元議員としてこの道路を進めていなければならないという状況で、タイミング的にもどうかなと思って本日お聞かせをさせていただきました。

その中でも、整備率も非常に高い状況になってまいりました。そういう意味でありがたいなと思いますけど、もう少し、もう一歩とつなぐ、この住む形成空間をしっかりと保つには、やはり早めに物事を進めていただけるといいと思いますが、この進めるにおいて今後の道路の整備のスケジュールをお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　現在、車新田地区において土地区画整理事業に向けた検討を進めております。

当該事業区域の中にあります向陽通線及び穂波通線の未整備区間につきましては、今後は当該事業により国の補助を活用しながら整備していきたいと考えております。

現時点でのスケジュールといたしましては、令和９年度中の認可を目標に事業を進めております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○１３番（加藤克之君）　国の補助を有効に使っていただいて、しっかりとまた地域の声を上

げていただいて市長と共に頑張ってやっていただきたい、そういうふうに思う次第でございます。

めども、もう言葉で出てきました。いよいよ令和９年というわけでございます。地域の方も望んでおられる状況で、少し本日のお話の中で令和９年ということが分かれば、さぞ喜ばしい話かなというふうに思う次第でございますので、どうぞ前向きにどんどん進めてお願いを申し上げる次第でございます。

引き続き、質問をさせていただきます。

このたび平島地区におかれましても、新しく回転灯がつきました。非常に危ない拠点でございました八幡神社のところとさくら動物病院のところ、これも本当に区長をはじめ区長補助員さん、そしてまた職員の課長の皆様方、説明をしていただいて、御理解をいただいて、そして地元の声も聞いていただいて、回転灯は、最初は土木課長が青色でお願いの話をしたら、皆さん、地域は黄色でということで、黄色の回転灯でございました。

そういう意味で、やはり長年あそこの人が渡るところ、自転車が渡るところ、そして子供さんが多く渡るところ、その奥にはひので公園がありますが、非常に長年の交通対策でどうにかしたいという地域の要望と、歴代の先輩議員たちのお願いもありました。ようやく今回、課長はしっかりと前へ進めていただいて、地域の方も安心という言葉が心に響いているかなというふうに思います。ありがとうございました。

その中でも、平島は広域幹線軸拠点と位置づけされているところでもございます。そういう意味で、都市を結び、人を結び、人と物の交流、流通なる動線となっています。また、この都市機能集積ゾーンとして、市民生活に必要となる多様な年代が増えている地域でもございます。利便性が高く、本市の顔となるゾーンでもある都市計画とされているため、平島の交差点、村瀬医院でございますが、音響信号機設置のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　平島交差点につきましては、子供たちが安全に通学や車両が交差点を円滑に通過できるように、歩車分離式の信号機となっております。また、朝夕の通過交通は多くても日中で人や車の流れが少ないときは音が発生しないため、目の不自由な方などが通行される際は、その時点でどの信号が青信号なのかが分かりにくく、横断しづらい状況であるとお聞きしております。

音響式信号機を設置することで、目の不自由な方だけでなく、子供たちや高齢者においても目と耳で安全確認ができるようになると考えられます。当該交差点は県道と市道の交差点となりますので、愛知県と調整しながら公安委員会へ要望してまいりたいと思います。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○１３番（加藤克之君）　この拠点について、県と市、そしてまた愛知県公安委員会と最後要

望ということで、しっかりしていただける話で前向きなお話かなと思いました。どうぞこれから、このことも少子高齢化社会を過ごす上で大事な安全対策だなというふうに思います。弥富市においても、高齢者の方、そしてまた未来の子供の方、安全に命を大切にしていただきたい。そういう意味では、早期対応が一番望ましいと思います。

その中でも、皆様方も身近でこの音響式、感じられている部分が市役所前の交差点です。このような形で設置されておられます。やはり人が多いこと、人が行き交うこと、車が行き交う、みんなが行き交う場所にやはり改めて事故を起こす前に安全対策を位置づけていくということだと思います。

この平島の区長、区長補助員さんも御理解をいただいております。ぜひとも部長、課長共々、県のほうに強く要望していただいて、前向きに進めていただき、そして安心・安全という言葉をちゃんとその次の世代に与える行動、実現可能、そういうことにしていただきたい、そういうふうに切にお願いをしてきます。

引き続いて、質問に移ります。

今後、地域生活拠点と位置づけているところであり、公共・公益が集積する生活サービス等による市民生活を支える拠点となっているのが佐古木地区であります。そしてさらに、この交差点は市内の各地区を結び、市民の円滑な移動や交流を支える動線拠点にも位置づけられておられます。

さて、県道子宝愛西線、佐古木交差点の右折レーンの設置をお願いする質問でございます。

南進は右折レーンがあり、北進については右折レーンがないので、南進が右折している時間に北進は右折できない状況です。拡幅し、右折レーンの設置を検討してはいかがでしょうか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　国道１号と県道子宝愛西線が交差する佐古木交差点に北進の右折レーンを設置することで、今よりも円滑な交通を図ることができ、朝夕の混雑が軽減できると考えられます。右折レーンを設置するためには用地を取得する必要がありますので、費用と時間がかかる事業となりますが、愛知県へ要望してまいりたいと思います。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○１３番（加藤克之君）　確かに部長の答弁のとおりだと思います。用地も費用も時間もかかると思います。でも、私らがこの道路のマスタープランの事業をしていく、その政策の内容が書いてある以上、もう進めていただける話でお願いを今日はしています。

ですから、ぜひとも市長と共に連携をしてもらって前向きに進める交差点だと思います。やっぱりドン・キホーテの交差点も、右折レーンができただけでも皆さん喜んでおられます。ほんのちょっとした力と土地と費用とお時間、その３つのキーワードの言葉は皆様方はよく

御存じだと思います。だから、前へ進めていただける話はどんどん前へ進めて、弥富市が暮らしやすい、生活がしやすい、そういうことを進めていただける路線だと位置づけていただきたいというふうに強くお願いをしておきます。

やはり事故が起きてからでもいけないし、いつまでも渋滞でも困るし、円滑な生活拠点とするサービスとして拠点となっている以上、その目標に向かって進めていただきたい、そういうふうに思う次第でございます。

次の質問に行きます。

近年における道路整備及び安全対策の進捗をお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　令和５年度の道路整備事業といたしましては、市道弥生通線をはじめとする４路線８か所の道路拡幅工事や、子宝15号線をはじめ14路線の舗装工事などの道路改良事業に約２億2,000万円、道路維持事業に約7,000万円、事業用地取得事業に約3,000万円の事業を実施いたしました。

道路改良事業のうち、各地区から要望をいただきましたカーブミラーや歩行者を守るためのガードパイプの設置など、交通安全施設整備工事といたしまして約600万円、森津地区をはじめ各地区や教育委員会等との調整により実施いたしましたカラー塗装等の道路区画線設置工事といたしましては、約2,000万円の事業を実施いたしました。

今年度の道路改良事業は、予算ベースで約２億4,000万円、道路維持事業で約8,000万円、用地取得事業で約１億6,000万円の事業を進めており、道路改良事業においては、市道三百島12号線をはじめ５路線６か所の道路拡幅工事や中央幹線１号の松名鎌島地区や東末広141号線の舗装整備等を進めているところでございます。

昨年度、通学路の安全確保のために実施いたしました市道鍋平27号線の拡幅に伴うガードパイプの設置や、中学校の統合に伴い変更される通学路沿いのフェンスの改修など、今年度におきましても引き続き安全対策に努めており、今後も地域の皆様からのお声をいただきながら安全対策を図ってまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○１３番（加藤克之君）　しっかりと予算内で地域の声を聞きながら、一つ一つ事業を進めておられる内容がよく分かります。その他多くのことも行ってみえるのは分かりますが、主な話をしていただいたと思う次第でございます。

そういう意味でも、一番今近々に必要なことは何かというと、やはり教育長が願っている通学路、またそういう道路整備、近隣の学校周辺、そういうことが望んでおられると思う次第でございます。

いよいよ中学校は統廃合になってまいりますので、こちらの場でも僕も質問させていただ

いて、子供たちが通学路を決めて道路整備をしていただきたいということが上がっているプロジェクト、そういう意味で皆さん方が認識をしながら、しっかりと市のほうが取り組んでいただく事業を進めていただく、これが一番最初に大事かなと思う次第でございます。

そのまた続いてでも、市道鍋平27号線、これもここの場で何度も議員の皆様方がお話を出しているところでもございます。こちらについても、やはりまた市長、県議共々地域の声を育みながら進めていただく話かなというふうに思う次第でございます。

進めないと、いつまでも県道、また市道というふうに分けてでなく、やはり市民が暮らしやすい、生活しやすい、交通アクセスが安全である、そういうことが大事だと思いますので、どうぞ引き続き前向きに進めていただきたいと思う次第でございます。

最後になります。

今後、市長の取り組む安全対策のお考えをお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　改めまして、おはようございます。

日頃より、道路行政におきましては、安全と円滑を考慮しながら整備を進めてきているところでございます。例えば、車が安全に擦れ違いやすいように道路を整備、拡幅してほしいという御要望も多くいただいておりますが、車両の交通の円滑を優先しますと、次はスピードを出す車両がいて危険であるといった御意見を伺います。なかなか難しいわけでございますが、限りある予算の中で、市民の皆様が安全に、そして安心して通行できる道路の整備に努めてまいります。

また、この安全対策につきましては、道路整備が大変重要である反面、最近では車両の運転手や歩行者のながらスマホ、歩行者や自転車の危険な横断、車のスピードの出し過ぎなど、モラルに欠ける行動による事故も多く発生していることから、ソフト面の対策がより一層大切であると考えております。

今後も、国・県・市の道路管理者等や警察、教育委員会、学校、ＰＴＡから構成される通学路安全推進会議において、学校や保護者からの御意見を伺いながら、また交通安全啓発の活動を通して、各道路管理者や警察と協力し、問題の解決に努めてまいります。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○１３番（加藤克之君）　市長もよく理解しているお話も今日、今していただきました。

そういう意味で、今後しっかりと関係各所のところと連携を取っていただく体制をやっていくというわけでございます。本当にこれから少子高齢化、人口減少社会を迎えていく上で、道路に対するニーズはやはり多様化をすると思います。一方で、厳しい財源状況の中で、これらの課題へ十分に対応することも難しい状況も出てくるかと思います。でも、道路の基本

方針である効率的な土地利用や交通利便性を向上させるために、質の高い行政サービスを実現、必要性、緊急性効果を上げるしかないと思います。都市計画道路の整備の推進を基本としている以上、存続の整備済みの道路については、長寿命化を目指した維持管理の強化、そして長期にわたり整備未着手の都市計画道路については、整備効果や財政投資を考慮して計画可能へと推進してもらいたいと思います。

また、自転車、歩行者が安心して生活できる生活道路の整備も、そしてまた緑化の整備も含みながら、美しい安全な道路づくりも必要だと考えます。

今後、弥富市にとって目指すための行動は、公共交通も始まり、また防災の防災道路もあり、駅前の道路整備もあり、公共施設、学校周辺もありと、様々な分野において多く拠点が出てまいります。早く実現に向けてしていただくことも大事じゃなかろうかと思う次第でございます。

日頃からは、スクールガードの皆さんや青パトの皆さん、御協力と安全対策にも御芳志して感謝を申し上げます。どうぞひとえに予算と財源と用地と、その言葉のすべを皆様方がしっかりと前向きに行っていただき、最後、市長、副市長、教育長を中心に各部長、連携をしっかりと保っていただき、フランス語でいうとリエゾン、皆さん方はその訓練もしておられますので、しっかりと連携を取って進めていただきたいと思います。これをもちまして、私の一般質問、納めます。ありがとうございました。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午前10時30分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午前10時25分　休憩

午前10時30分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、那須英二議員。

○７番（那須英二君）　７番　那須英二。

通告に従いまして質問させていただきます。

今回のテーマは、子育て環境を整える手だてということと、あともう一つは安心・安全の弥富市でということでございます。

まず初めに、やはり今、人口減少化の中、人口を増やしていくということは大切な喫緊の課題だというふうに思っています。その上で、昨日も学校問題等ございまして、その中で子供環境を第一にとおっしゃっておりました。そのためにも、やはり子供中心に考えていく社会、そして子供の居場所、そして人口を増やすというつながりをつけていかなければならないというふうに思います。その観点から、様々な角度、視点により質問させていただきます。

今年度の初め、市長の施政方針にて、市長は「子育てするなら弥富市へ」を取り戻すということを述べておりました。具体的な方策というのは何を行うのか、その計画をお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　本市の子育て支援施策に関し、現在は第２期弥富市子ども・子育て支援事業計画に基づいて取り組んでおりますが、令和７年度からは第３期の子ども・子育て支援事業計画や子供の貧困対策計画など、子供に関わる各種計画を包含した弥富市こども計画に基づき、これまで推進してまいりました保育所をはじめ児童クラブや児童館、子育て支援センター、のびのび園、ファミリー・サポート・センター事業等について、市民のニーズを反映させた取組を進めるとともに、こども誰でも通園制度などの新たな取組を進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今言われましたけれども、第３期のこども計画をつくっていくと、そういう中には市民ニーズを反映させた取組を進めるということでございます。

ただ、その後でこども誰でも通園制度と言われるもの、ちょっと分かりませんけれども、これは後で委員会等で詰めていきたいと思いますが、ただそういう中で、今おっしゃられたのは行わなきゃいけないこと、他自治体でも当然のように行うことだと思うんですよ。その上で、やはり特色のある弥富市、魅力のある弥富市を打ち出さなければ、それは子供の人口増にはつながらないというふうに思っております。

そこで、まず確認いたします。

弥富市の年少人口の推移と傾向はいかがでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　本市の15歳未満の年少人口の推移については、令和元年度の5,688人から令和６年度には5,101人となり、５年間で約１割も減少しております。また、５年後の令和11年度には4,495人となる推計値が出ており、さらに１割以上も減少するという傾向となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　５年間で500人ぐらい減っていると、さらに５年後には500人さらに減っていくということで、令和元年から比べれば1,000人減っていくという見込みになるということでございます。

そこで、その年少人口の減の分析と改善策はありますか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　年少人口の減少については、全国的な少子化

及び晩婚化の進行はもちろん、子育てに対する経済的、精神的な負担感の増大などが要因になっていると考えております。改善策としては、出生率の向上を図るため、仕事と育児の両立を支援するための子育て支援施策をさらに充実する必要がありますので、現在策定中の弥富市こども計画を時代に即した、より実効性のあるものにしていかなければならないと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　全国的にも、同じように少子化の波あるいは晩婚化の波が押し寄せているということでございます。

改善策としては対策を取っていくということですが、そこでやっぱり魅力ある弥富市を打ち出して人口を増やしていくためには、やはりこの他市を比較することも必要だと思うんですが、その中で他市に比べて出遅れているというふうに感じている施策はあるでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　政府が全国展開を目指しているこども家庭センターについては、本市は近隣自治体と比較して１年遅れた令和７年度からの設置となるなど、一部遅れている事業はございますが、子育て支援施策全般に関して、本市が特に出遅れているということは考えておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　本市が特に出遅れていないと、すごい自信過剰な答えですけれども、やっぱりそれを認識して改めなければ、それは改善につながらないというふうに思っています。

例えば学校給食費、あるいは保育所の副食費、遊べる施設、公園、日曜日の対応、学校の早朝預かり、児童クラブの時間帯など、あるいは育休退所の問題など、こうした課題を抱えているわけで、それを改善して突破してきている自治体だってたくさんあるわけですよ。そういうところを見詰め直して、やっぱり対策に盛り込んで、より弥富市が際立って魅力ある弥富市にするように考えていかなければ、それはやっぱり改善というふうにはつながっていかないと思うんですが、それらを踏まえて改善計画というのはあるんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　第２期弥富市子ども・子育て支援事業計画や新たな弥富市こども計画を基に、これまでの施策を継続していくとともに、市民のニーズに応じ必要な見直しを行うほか、国や県の動向を見極め、新たな取組を進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　市民ニーズに応じて必要な見直しを行っていきたいということですが、

そういう中では、やはり参考としている自治体というのは姿として持っていたほうがいいと思いますが、その自治体はあるでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　子育て支援施策について、市議会の厚生文教委員会が視察された福岡県宗像市や兵庫県明石市など先進自治体がございますが、本市では海部津島地区の市町村をはじめ、主に県内で同規模の自治体を参考にしております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　それらの自治体に対して視察などの調査というのは行っているんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　新規事業に取り組む際には、担当職員が先進自治体に赴き、アドバイスをいただいております。また、市立保育所の所長会等で先進事例に取り組む施策を視察するなど、事務担当及び専門職それぞれが知識の習得に努めております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　先日、弥富市議会厚生文教委員会にて、先ほど紹介のあった兵庫県明石市に視察研修に行きました。この明石市は過去11年、2012年から2023年までの間に約１万5,000人ほど人口が増えているところでございます。しかも、転入超過ということで、25歳から39歳の方、あるいはゼロから４歳児、この人口も増えていると。この少子化の時代にあって人口が増える、若い世代が特に増えるという先進的な都市だというふうに思っています。

そこで、明石市のこども総合支援の中で学べるところをいろいろ考えてみたわけですけれども、例えば児童相談所の設置ということで明石市は行っていますが、この点は弥富市でいえば、例えばスクールカウンセラーやカラフル等で対応していると言えることもあるでしょう。そして、第２子以降の保育料の無償化、これは弥富市には行っていない事業でありまして、それもやっぱり考えていく必要があるんじゃないかというふうに思います。

また、大型遊具を備えたあかしこども広場というものが駅前に存在しています。こうした大型遊具を備えたというところって、特にこれ室内遊技場というのがあるわけですが、そういったところも今後考えていかなければならないということで、後で質問させていただきたいと思っています。

また、学校給食の無償化だったり、30人学級の導入であったり、昨日小久保議員も言っておりましたが、離婚前後の養育支援であったり、児童扶養手当の毎月の市からの独自の支給であったり、そうした事例がこの明石総合支援の中に組まれています。こういうところをやっぱり１つでも近づけていけるように目指していかなければならないというふうに思ってい

ます。

そこで、各分野にわたって考えていくところですが、まず弥富市においていろいろ参考にしてほしいところがたくさんあるわけですが、例えばこの明石市に限らず、豊明市にはカラットというところで、学校跡地を利用した形で、今の子育て支援センターやボランティアセンター、貸館、憩いの場、子供の居場所、何でも相談室、児童館、遊び場、イベントブースなどを組み合わせた複合施設が運営されています。また、いなべ市のういこっちゃね、これも学校跡地を利用して体育館の遊技場の開放を行っています。これは、地元のボランティアの方々が精力的に運営してみえるところでございます。また、大垣市においては、デジタルひろばと呼ばれる室内で遊べる遊技場があります。

こうしたところをやっぱり参考にしていって、今後学校跡地等の利用にも生かしながら、子供がより遊びやすく楽しめる、そして子供の人口増を増やしていく、子育て環境として整えていくということが必要だと思います。

また、もう一つでは、弥富市においてやはり圧倒的に不足しているというふうに感じるところは公園の数でございます。まず、この弥富市の公園の数を比較していくとどういうことが起こっているかというと、例えば弥富市は48.28キロ平方メートルの地域にありますけれども、そのうち公園は50個となっています。お隣の蟹江町では11.09キロ平方メートルの中で、蟹江町は56個公園を持っています。弥富市の４分の１の面積しかなくても、弥富市より多い公園の数を有していると。そして、お隣の津島市に限っても25.09平方メートルの中で76の公園を持っています。弥富市の面積の半分でも、弥富市の1.5倍の数の公園を有しているというところでございます。

そういう中で、この公園の数は他自治体と比べて十分だと言えるんでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市の緑地を含む都市公園の数は21か所あり、近隣の市と比較しましても箇所数、面積ともに特に少ない状況であるとは考えておりません。

また、都市公園以外の子供の遊び場や広場につきましても40か所あり、その多くは過去に大規模な住宅開発等により整備されたもので、開発面積等の基準により必要な場所に必要な規模で整備されているものであると考えております。さらには、三ツ又池公園や海南こどもの国、南部には弥富野鳥園やサイクリングロードを備えた富浜緑地といった大規模な公園等が整備されています。

このように、市全体といたしましては、市が管理する61か所の公園と多数の大規模公園等がございますので、ほかの自治体と比べましても十分整備されているものだと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今61ということで、僕の調べた50とは数字が違っているわけですけれども、多分その辺りは公開されているホームページ等にあまり記載されていない本当に小さな地域の公園が含まれているものだというふうに感じています。

そしてまた、この弥富市が広い地域になっておりますので、その中でやっぱり人口の多い、特に子供の人口の多い市街地に絞れば、例えば前ケ須で言えば、公園が少ないと。水郷公園と輪中公園というところしかないと思うんです。特に南部に集中しているということがあるわけですが、この前ケ須に公園を整備する考えはありませんか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　前ケ須地区の公園整備につきましては、令和５年３月議会でも議員からの一般質問でお答えいたしましたとおり、前ケ須地区のように開発が進んだ既成市街地においては、都市公園として必要な規模や近隣環境等に適した用地を確保することが難しいこと等の理由から、新たに公園を整備する計画はございません。

前ケ須地区においては、新たな公園の整備予定はございませんが、水郷公園と２か所の広場がありますので、目的に合わせてこれらの公園等を御活用いただきたいと考えております。

また、桜学区全体では、水郷公園をはじめ、子供の遊び場等を含めますと、大小合わせて11か所の公園等が整備されております。そして、近隣のひので公園等その他の公園や許可団体が使用していない場合には、桜小学校及び日の出小学校のグラウンドも御利用いただけますので、状況に応じて御活用いただきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　前ケ須に関しては、都市開発がどんどん進んできたと。私も、空いているところを提示しながら市役所のほうにも相談に来て、ここ空いているからぜひ買い取って公園にしてほしいという要望も何回か繰り返してまいりましたが、そのたびに少し時間が欲しいということで、待っている間にそれが売られてしまって、次の建物が建ってしまって、そういう中で公園ができなかったという状況があるわけです。

以前には、緑の計画という形で緑地も確保していこうということもありましたが、それは今でもどこかへ行ってしまって、今立ち消えとなっている中で、なかなか整備されていないと。11か所あると言っているんですが、そんなに遊べるような状況にはなっていないところがここには含まれているというところがあると思うんです。

今で言えば、例えば動物クリニックさんの南側に空き地があるわけですが、そういったところや、あるいは前ケ須の中にも生産緑地として田畑が管理されているけど、今後やっぱりどうなるか分からないと。そういったところに目をつけながら、やっぱりこういったところを整備して緑を確保していくんだという方向性を示さなければ、これはいつまでたっても公

園の解消にはつながっていかないと思いますので、ぜひその辺も考慮していただければというふうに思います。

そして、公園ということでもう一つあるんですが、これは前ケ須に限ったわけではありませんが、蟹江に交通児童公園というものがあります。

事務局、書画カメラ１、お願いします。

これは、蟹江町の交通児童公園と呼ばれるところでございます。

御覧のように、公園の中に道路がある、信号機がある。ここはちょっと写真には載せなかったんですが、踏切もあるところであって、そして自転車も借りることができます。今、特に小学生に上がろうというときは、やっぱり自転車の練習というところで、したいという御希望があるわけですが、こうした中で、その公園内で安全に自転車の練習であったり、あるいは交通ルールを守れるところが蟹江には整備されております。弥富市にもあるはあるんですが、そういう中でこうした交通児童公園を整備していく考えというのはあるんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　国の交通公園設置運営要領における交通公園の設置目的といたしましては、交通公園は主として児童の健全な遊戯の用に供し、併せて児童に交通知識及び交通道徳を体得させることを目的に設置するものとするとされております。

交通安全教育において、児童等に対し、自分の身を守るために交通ルールを守ることの大切さや交通事故の怖さなどを教えることは大変重要なことであると考えており、毎年各保育所や小学校等において、愛知県警察等の関係機関や保護者協力の下、より効果的な交通安全教室等を実施しておりますので、交通安全教育等のために新たに交通公園等を整備する考えはございません。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　弥富市の中では、そうした交通公園にしていくのはなかなか考える土地というのがあんまり少ないわけですが、でも例えば車新田の子供の遊び場だったり、あるいは輪中公園だったり、そういった広いけれどもあまり使われていない公園というのが幾つかあるわけです。

南部の富浜緑地公園、サイクリングコースがあるわけですが、そういうのもリニューアルしたり有効活用していけば、もっと魅力のある弥富市として打ち出せるんじゃないかというところで、学校教育で教えているからいいんだということじゃなくて、やっぱり魅力のある弥富市にしていくんだという観点から、そういった整備を行っていってほしいと。

また今、車新田、市外化整備されようと、区画整理しようとしているわけですから、そういったところにもやっぱり視点を置いて、そこに造っていくということだって計画に盛り込んでいけば、今からやればできると思うんですよ。そういったことをやっぱり考えていって

ほしい。だから、それに対して今こども計画をつくっているわけですから、そういったところも含めて考えていっていただきたいというふうに思っています。

そして、今、公園の話をさせていただきましたが、近年気候の危機ということで、かなり温暖化が進んでいるという中で、やはりこの公園というのは外であるがために、真夏の炎天下の中では今遊べないような状況になっています。そして、もちろん雨天も遊べないと、真冬でも寒過ぎて遊べないということがあるので、公園が使えるシーズンがどんどん少なくなっているという中においては、やはり今後考えていかなければならないのは室内で遊べる遊び場ではないかというふうに思っております。

そこで確認いたします。

この室内で遊べる遊び場というのは、弥富市内でどれぐらいありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　児童のための室内での遊び場は室内、各地区に設置した児童館となります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　その児童館は今、土曜日までの開放であって、日曜日というのは開放されておりませんが、日曜日に室内で遊べる場所はありますか。そして、整備する考えはありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　児童が日曜日に室内で遊べる公共施設は特にございませんが、児童が過ごせる場所として弥富まちなか交流館にある図書館や歴史民俗資料館、弥富金魚水族館　YaToMi AQUAがございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　明石市等の施設は、こうした日曜日も遊べるような体制が整っています。そういう中では、やはり学校の跡地利用も含めた形で考えていく必要があるかなというふうに思っております。

ぜひ参考にしていただきたいのは、カラットやういこっちゃね、あるいはデジタルひろば等をぜひ視察に行っていただいて、弥富市に合うような形で考えていただければというふうに思っています。

もう一つ、今施設のほうを行きましたが、今度はソフト面で困っている課題として、先ほど部長の答弁にもあったわけですが、保育所の開所時間と学校の開始時間、このずれがあると思いますが、そのずれへの認識はいかがでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　保育所の開始時間は、標準時間利用が午前７

時30分から、短時間利用が午前８時からとなります。また、小学校はおおむね午前８時10分頃までに登校していると認識しております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　保育時間は７時30分から、学校はおおむね８時ぐらいからということで、この30分のずれが本当に今働いている人たちにとってはかなり大きな時間になるわけです。

その上で、後でまた繰り返し説明しますので、その続きで、夏休みの児童クラブの開始時間は何時からでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　夏休みの児童クラブの開始時間は午前８時からとなっております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　ここでも保育所と比べると30分のずれがあるわけです。

この30分のずれというのは、働くお父さん、お母さんにとってはかなり死活問題になってきているので、このずれに対して今早朝で預かる自治体も出てきています。そうしたところも参考にしながら、ぜひ進めていただきたいと思いますが、そのずれを解消するための手だてというのは何らか考えていらっしゃるでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　保育所の標準時間利用と夏休みの児童クラブの開始時間には30分のずれがございますが、午後６時30分までとなっております児童クラブの終了時間については、令和７年度より保育所に合わせた形で午後７時までと30分延長いたします。夏休みの児童クラブについては、利用者数が非常に多くなるため、スタッフを増員して対応しておりますが、保育所との開始時間のずれを解消するためには、30分といえどもさらにスタッフを増員しなければならないため、開始時間の見直しは困難であると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今、終わりの時間に対しては30分延長すると。これも本当に助かるところだと思うんです。本当に今預かってもらっているのがぎりぎり７時の方もいらっしゃいますので、そういう中では、この児童クラブが延長することによって助かる保護者の方は見えると思うので、これは本当に改善だと思います。

ただ一方、開始時間となるとかなりスタッフが足りないと。特に今、保育士等少なくなっている、学校の教員だって、働き方改革の中で大変忙しい状況の中で、それはやっぱり増員していくのが難しいというところがあると思います。ところが、そういう中でも早朝預かり

という形で地域のボランティア等の活力を活用されて対応している自治体もあるものですから、ぜひそういったところを含めて今後一歩ずつでも改善していただきたいというふうに思っています。

そして次は、先ほど来申し上げてきたのは、学校の跡地利用という観点からたくさんいろいろ説明させていただきましたが、そういう中で弥富市も今ホームページでこの学校跡地利用の計画というのを募集されていると思いますが、この募集について何件あるのかというか、応募があるのかどうか、その辺まずお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　アイデア募集ですけれども、アイデア募集につきましては、これまでお一人の方から、複数の視点から考えられた具体的な策を基に提案をいただいております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　まだ１名の方から、でも複数の提案があったということで、あとお知らせしていただきたいんですが、私たち弥富市議会の厚生文教委員会で、さっきの兵庫県明石市と同時に淡路市にも行きました。この淡路市は、学校の跡地利用が進んだ地域で参考になるかなということで伺ったわけですが、その点でやっぱり一番参考になったのは、住民の要求を先に聞いて、そして自治会で取りまとめていただいて、その要望を基に募集をかけるという仕組みをつくっておりましたが、やはり今弥富市の場合は何かアイデアないということで、いきなりホームページでぼんと投げていますけれども、そうじゃなくて地域の自治会、地域の人たち中心に話し合って、それを決めてもらってから応募するという形を取っていますが、そのように行っていく考えはあるんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市におきましても、学校の跡地利用につきましては、本年７月と８月に行ったワークショップ型の保護者説明会４回と一般市民の方への小学校再編整備計画説明会３回の際に、跡地利用について御意見をいただく時間を設けました。まず、地域の皆様の御意見をいただきながら進めていくという考えでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　ぜひそれをさらに、本当に地域住民漏れがないような形で、皆さんの意見を取り入れて考えていただければというふうに思っています。

最後に、市長が、「子育てするなら弥富市へ」を取り戻すと言った経緯の総括をお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本市の子育て支援施策につきましては、第２次弥富市総合計画を柱と

して、「家庭任せ」にしない、地域社会が一体となった子育て環境が整ったまちを目指し、第２期弥富市子ども・子育て支援事業計画を基に、保育所や児童クラブなどの子育て関連施設の運営を重点施策として取り組んでまいりました。

今後は、令和７年３月に策定予定の弥富市こども計画における「子どもの未来をはぐくむまち・弥富」を基本理念として、これまで取り組んできた保育所運営などの子育て支援施策を継続、拡張・拡充していくとともに、こども家庭センターの設置などにより、特に支援が必要な児童やその家庭を支え、市民全てが子供と一緒に元気になれるまち、こどもまんなか社会の実現を目指してまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今、参考にされている明石市が子供中心の社会と、それを踏まえてこどもまんなか社会の実現を目指していくということで、キャッチフレーズはいいと思うんです。それはすばらしいと思うんですが、ただ中身として具体的に何なのかというのがあまり見えないという状況の中で、やっぱり視点として大事なのは、子供の人口減少を止めて増やしていく、攻めの計画をつくっていただきたいというところでございます。

昨日も、学校統廃合の問題の中で、市街化調整区域においては、今後また減っていくということが見込まれるから、それはやっぱり分散して今後違うところも考えていくんだということを言っていましたけど、そうじゃなくて、やっぱりこの市街化調整区域においても学校を存続できるように、この人口を増やしていく手だてを考えていくのが、やはり行政の在り方、市長の在り方というふうに思っておりますので、やはりその視点をしっかりと強く持っていただければというふうに思っています。

じゃあ、第２テーマに移ります。

安心・安全の弥富市ということで、まずざっくり確認していきたいと思っておりますが、保育所の今、災害対策というのはどのような対策を行っているんでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　保育所では、防災課が配備する食料品や毛布、簡易トイレなどのほかに、ライフジャケットや乳幼児を運ぶリヤカーをはじめ、飲料水やアレルギーに対応した子供用の食料などを備えております。

また、各保育所では、保育所の地震等防災マニュアルを基に、愛知県防災ボランティアコーディネーターの助言をいただいて、月１回の防災訓練を実施しております。訓練内容としましては、地震及び台風により津波や洪水が発生した際に、室内または室外で遊んでいる場合やお昼寝をしている場合など、月ごとにテーマを設け、様々なシチュエーションを想定して、垂直避難や近隣の公共施設及び民間施設への避難訓練等を実施しております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　保育所の訓練は本当にありがたいなと思っています。

今年の初め、１月１日に能登半島地震が起きて、この辺りも震度２から３ということで揺れました。うちの娘がその当時は年中、今、年長ですけれども、お正月にそういった揺れを感じたときに机の下に潜って、ダンゴムシポーズということでやられていたので、すごいなと。しっかりこうした防災教育が行き届いているという実感を得たわけで、それは大変感謝しております。ありがとうございます。

また、じゃあ学校の災害対策のほうはどのようになっておりますでしょうか、お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　小学校では、毎年防災計画を作成しております。防災計画では、教職員の災害時の役割を決め、発災時にはその計画に沿った行動を取るようにしています。また、１年を通し防災計画や学校経営案に沿って防災教育を行っています。いざというときには日頃の備えが大切ですので、火災、水害、地震に備え、実践的な避難訓練や防災教育を行っております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　学校でも、引き続いてそういった防災教育を行っているということで、大変心強いところでございます。

もう一つ、備品に対してこの備えというのは十分なのでしょうか。そして、不足しているものがあればお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　防災備品につきましては、避難所等に蓄電池、簡易トイレ、パーティション等の資機材を配備していますが、施設ごとで備品をはじめとする各種備蓄品の数量等は異なります。各種備蓄品の配備に関しましては、災害の規模や状況によりますが、避難者が多数の場合は不足が生じることが懸念されます。

災害の発生当初におきましては、命と生活環境に直結する必需品は国が調達し、被災地に緊急輸送されるプッシュ型支援にて物資が供給される仕組みが構築されております。その後は、災害対策本部において、各避難所における必要物資を具体的に把握し、支援物資の受入れや保管等を調整して、不足が生じないように行ってまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今、プッシュ型支援とかもおっしゃいましたけれども、弥富市の場合は緊急避難場所というところは、本当に緊急時、水が入ってきたときに屋上に逃げるというパターンがやっぱり想定されると思うんですが、そこでやっぱり命をつなげられる対策とい

うのは考えていかなければならないと。

そういう観点で、この防災備品については、やはり僕は不足している部分があると、特に水や食料等命をつなぐ役割の部分が不足しているんだなというふうに思っておりますので、それにつなぐ対策というのを力を入れていただきたいと思いますので、お願いします。

今後どのようなものを備えていくのか、それを計画的に行う考えはあるんでしょうか、お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　防災備品に関しましては、今までに簡易トイレ、オストメイトトイレなどの各種トイレをはじめ、大型扇風機、ＦＲＰボートなどを配備してまいりました。現在は、災害時の停電に備え、避難所運営に活用するため、計画的にリチウムイオン蓄電池を１次開設避難所と福祉避難所に順次配備を進めておるところでございます。

今後も、国や県が推奨する備品や他の自治体の配備状況等を注視し、必要に応じて進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　発電機等も不足しているというふうに思っておりますので、その辺については触れられています。

また、先ほどプッシュ型支援については、10月でしたかね、私はちょうど新入学の学校の説明会の日とかぶってしまってなかなか短時間でしか見られませんでしたが、リエゾン訓練を行っておりました。そして、受援訓練ということで今やっているかと思います。

そういう中では、来た物資を受け入れる体制というのは。これも訓練していかなければできないと、私も現地の能登半島に行きまして感じたところでございますけれども、そこの訓練はされていると思います。ただ、やっぱり視点として考えていただきたいのは、今後その緊急避難場所で最長３日間、そこで孤立する可能性があるというところを肝に銘じながら、そこで命をつなぐ対策ということを念頭に置いて考えていただきたいというふうに思っていますので、よろしくお願いします。

それで、次の質問へ行きます。

避難所で海抜ゼロメートル以下の場所というのは何か所でどこでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　本市の指定避難所は、令和６年12月１日現在で40か所でございます。

そのうち、総合社会教育センター、南部保育所、十四山支所、いこいの里、愛知県埋蔵文化財調査センター、八穂クリーンセンターの６か所は海抜ゼロメートルより上ですが、それ以外の34か所は海抜ゼロメートル以下でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　避難所においてもかなりマイナス地域があるということでございます。

そして、今度は、緊急避難場所においては、ゼロメートル以下は何か所ありますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　令和６年12月１日現在で指定しております緊急時避難場所は75か所で、そのうち海抜ゼロメートル以下の場所は68か所になります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　緊急避難場所、これは上げたら多分切りがないもんですから、箇所数しか聞いておりませんが、その分においてもかなりマイナスの地域が多数ということでございます。

そのうち、学校、保育所で海抜がマイナスになっているところはどこでしょうか。各場所の標高等もお答えください、お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　学校、保育所施設の建物入り口付近の標高につきましては、弥生小学校がマイナス1.2メートル、桜小学校がマイナス0.9メートル、大藤小学校がマイナス0.6メートル、栄南小学校がマイナス0.8メートル、白鳥小学校がマイナス1.7メートル、十四山東部小学校がマイナス1.7メートル、十四山西部小学校がマイナス1.9メートル、日の出小学校がマイナス0.5メートル、弥富中学校がマイナス0.2メートル、弥富北中学校がマイナス0.5メートル、十四山中学校がマイナス0.6メートルです。

次に、保育所でございますが、桜保育所がマイナス1.2メートル、ひので保育所がマイナス0.8メートル、大藤保育所がマイナス1.1メートル、白鳥保育所がマイナス1.8メートル、弥生保育所がマイナス2.2メートル、栄南保育所がマイナス0.9メートル、西部保育所がマイナス0.4メートル、十四山保育所がマイナス1.9メートル、のびのび園がマイナス0.5メートルでございます。

学校、保育所の中で海抜がマイナスでないのは南部保育所の１メートルのみでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　マイナスじゃないところが南部保育所のみということで、私驚いておるわけですが、ただやっぱり安全面から考えても、そのマイナス地域の部分というのは解消していかなければならないというふうに思っています。

その中でも、やっぱり今統廃合の対象になっている十四山東部小学校、西部小学校、大藤、栄南小学校、栄南と大藤はマイナス１を切っていないんですが、十四山についてはマイナス１どころか２に近いということで解消していかなければならないというふうに思っています。

その上で質問していきたいと思いますが、事務局、書画カメラ２のほうをお願いします。

こちらが十四山西部小学校になります。紫の丸が見えると思うんですが、ここに看板が設置してあります。

この看板をクローズアップしたのが、書画カメラ３、お願いします。

この３番目の書画カメラの位置です。

その看板の中で青い線というのが標高ゼロ、マイナスゼロ、プラマイゼロのところでございます。海抜ゼロのところでございます。

書画カメラ４、お願いします。

それにラインを引いていくと、今こういう形で水没するということが想定されるというふうに思います。ありがとうございます。

そうした中で、やっぱりこの安全面から考えて、特に昨日、子供環境第一にと言っておりましたから、その子供環境を第一に考えるなら、まず安全からでしょうというふうに思いますけれども、その安全面から考えてこのマイナス1.9メートルの位置に新しい学校を持ってくるというところについて、これは妥当なんでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市では、市内全域の地盤が海抜ゼロメートル以下でございます。そのため、排水機場も多く設置しており、浸水に備えております。十四山西部小学校は、昭和47年に現在の場所に移転しましたが、現在まで浸水被害が起きたことはございません。

再編小学校の新築校舎は３階建てとして設計しており、万が一浸水被害が起きた場合に備え、３階には避難できるスペースを設置しております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　伊勢湾台風後、水がついたことがないとおっしゃいますけれども、伊勢湾台風後、堤防は決壊していないんですよ。だから、そりゃあ水がつかないわけですよ。だけど、堤防が決壊したら、そりゃあ水が入ってくる。もちろん、昨日、平野議員がおっしゃったように、今堤防強化をしてきました。十分な備えしてきてあると思うんです。とはいえ、近くに南海トラフ大地震が起こると予想されている。そんな状況の中で、やはりマイナス1.9メートルのところに学校を持っていく、しかもこれが避難所となる場所だと思うんです。そういう中に学校を持っていくということが私はあり得ないというふうに思っております。

そうした中で、弥富市議会も前回９月議会に全員賛成の下で、こうした中学校に持ってくる、今中学校はマイナス0.6だから、そしてそれが建て直すとなるときに、盛土をすれば十分に海抜ゼロに持っていくことができると。そういう中で、弥富市議会全員賛成の下で中学校に計画を持ってくるべきだという決議をしたわけです。

だからこそ、やっぱりその決議もしっかりと受け止めていただいて、弥富市の行政の方が、その後、違う案を持ってきましたが、マイナス1.9という地形は解消されていないんです。だからこそ、今保護者の方も後押しする形で署名をしっかり頑張って中学校に持ってきてほしいという願いがあるわけですから、この声をやっぱりしっかりと受け止めていくべきだというふうに思います。

その上で３点確認していきたいと思いますが、学校保健安全法というものがございますが、これに対して承知しておりますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　学校保健安全法は、学校における児童・生徒や職員の健康の保持増進を図るための法律でございます。

平成21年４月１日に学校保健法から学校保健安全法になり、学校における安全管理に関する条項を加え、各学校において学校安全計画及び危険等発生時対処要領の作成等が追加され、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的としたものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　この学校安全法の第26条から29条の中で、災害等における危険を防止し、設備並びに運営を充実させることを目的とするということが書いてあるわけです。この災害等における危険を推測して防止していくということが、この学校安全法の中でうたってあるわけです。これはやっぱりしっかりと認識した上で進めていくべきだというふうに思います。

そして、もう一つ、内閣府が2022年１月13日に浸水想定区域内、弥富市はほとんどかぶってきますが、このうちの避難所の指定を避けるように通知を出しているのは承知しておりますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　内閣府が通知した指定避難所における立地状況を踏まえた適切な開設及び防災機能設備等の強化の推進については承知をしておるところでございます。

この地域は、昭和34年の伊勢湾台風で甚大な被害を受けましたが、その後、先人たちの御尽力のおかげで堤防、排水機等の治水対策が行われ、それ以降は甚大な浸水災害はございません。しかしながら、平成23年に東日本大震災が起き、津波災害の脅威を目の当たりにいたしました。

そこで、本市は、東日本大震災以降30年以内に起こる可能性がある南海トラフ地震に備え、全ての市民の命を守るという使命感の下、屋上避難施設の整備や官民問わず緊急時避難場所や広域避難場所の災害協定の締結を進めてきており、現在も緊急時避難場所の拡大や自主的広域避難の周知に努めております。

その上で、日本最大の海抜ゼロメートル地帯の濃尾平野にある本市におきましては、災害の危険性を広く周知するために想定される災害規模の浸水災害を洪水、高潮、浸水津波の３種類のハザードマップに分けて市民の皆様に公表をしておるところでございます。

内閣府の通知では、浸水想定区域や津波災害警戒区域等に立地している施設を極力避けて指定避難所にすることが望ましいとされておりますが、各種災害の規模によっては、避難施設に被害がなく、安全に使用可能な場合もございますので、本市といたしましては従来から避難所として指定をしております。

しかしながら、浸水被害により多数の避難所が長期間避難生活することができない可能性も想定されます。その場合は、本市災害対策本部が国・県等と連携をし、市外の避難施設に広域避難が行えるように調整をいたします。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今、広域避難の話も出ましたけれども、広域避難というのはある程度災害が予想される、例えば台風であったり、そういったところを予想されるというところで広域避難は可能ですが、急に起こる地震に対しては、それはやっぱり無力なんですよ。だから、この地震に対して、特に南海トラフ地震が想定されるといっているんだから、これに対してやっぱり考え、備えていかなければならないというふうに思います。

この内閣府の通知によると、自治体指定避難所において全国でも２万4,000の浸水地域が想定されていると。この弥富市の指定避難所もそれに該当していくと思います。先ほど南部保育所を除くところがあるということですが、それはやっぱり東日本大震災の前に造られた建物に関しては仕方がないところもあるんです。今すぐ全部建て替えるというふうにはできませんから。だけれども、新しく造っていくものであれば、そこはやっぱり防災拠点としてしっかり機能を果たせるように学校設備も整えていくべきだと思います。

先ほどの書画カメラの最後の部分においては、浸水部分は大いに体育館も含まれているんです。避難所となる場所において、この体育館が使えるかどうかというのは大変重要なポイントとなっていると思うので、それについても、やっぱり体育館もしっかりと建て直すことができる、海抜ゼロ以上に上げることができる。それを含めていけば、やっぱりこの西部小学校では無理があると。だからこそ、今、現実的にそれが可能となりそうな十四山中学校にというのを求めていらっしゃると思うんです。だから、その声をしっかりと、要するに私は行政的に受け止めていただきたいというふうに思っています。

そしてもう一つ、文科省の出している水害リスクを踏まえた学校施設の水害対策の推進のための手引、これも学校安全法の関連から出てきているわけですが、この内容については承知しているんでしょうか、お願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　手引につきましては承知をしております。

令和６年９月の横井議員からの一般質問で答弁申し上げましたが、新築校舎や既存校舎の改修工事の設計において浸水対策を講じ進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　この手引の３章の２の２の部分に、浸水の可能性のある学校ではかさ上げを行うなどハード対策を基本とするというふうに明記されているんですね。だからこそ、新しく造る学校において、こうしたせっかくの文科省が出しているものに反して、あえてマイナス1.9のところに造っていくということ自体が私はあり得ないと思うんです。それを含めて、やっぱり今再考するべきだというふうに考えておりますので、しっかりと受け止めていただきたいと思います。

そして、続いてこの水害リスクを踏まえた学校施設の水害対策の推進の手引が出たのは何かといったら、やっぱり東日本大震災から来るものだと思います。そして、その中で、この東日本大震災のときに、石巻市の大川小学校が津波訴訟ということで被害者の方が訴えられました。首都圏を相手取って訴えられました。行政裁判で行政側が敗訴すると、14億3,600万円、市と県に支払いを命じました。この大川小学校は、しかも浸水区域外なんですよ。浸水区域として想定されていない。そんなところでも、やっぱりこの学校安全防災体制に不備があったというふうで裁判に負けているんですよ。弥富市がもし、西部小学校の位置に、マイナス1.9メートルの位置に建てて、これで浸水想定内ですよ。そこで、もし南海トラフの堤防決壊があって、そういう状況になって、もし大切な子供の命が失われたとしたら誰が責任を取るんですか。そういった中で、やっぱりこの対策を考えていく、その学校の位置を考えていくべきだと思うんです。

その上で、今身近に現実可能な地域が十四山中学校という位置にあるわけですよ。だから、ここはやっぱり本格的に検討していく必要があると思いますが、それらを踏まえて、このマイナス1.9という地形の中に学校を持ってくるのが妥当だと言えるのかどうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　先ほど答弁いたしましたが、大川小学校事故検証報告書の提言において、校舎設計における防災・安全面への配慮の記載があります。そこでは、学校設置者は、学校の校舎等の設計に際して、地域の災害環境を十分に考慮し、起こり得る災害の種類別に危険性を考えて、これを校舎設計に反映すること、とりわけ沿岸部で低平地に立地する学校では、垂直避難の可能性を十分に考慮して、安全を確保できる高さの校舎とすることを検討することとされております。

本市といたしましては、再編小学校の新築校舎は３階建てとして考えており、万が一浸水

等が起きた場合に備え、避難ができるスペースを３階に設置するよう設計を行っております。また、小学校を開校する当たり、学校独自の防災計画を作成し、それに沿った避難訓練も行っていくこととしております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　３階建てで安全スペースを取るから大丈夫だということをおっしゃっております。

そこでもう一つ確認していきたいのは、この新しい学校、（仮称）よつば小学校は、避難所としての指定はするんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　本12月議会におきまして、議案第46号で上程されております弥富市立よつば小学校でございますが、校舎におきましては、既存の十四山西部小学校の建物の改修工事を行うとともに、屋上には市民の皆様の緊急時避難場所を整備し、併せて全ての児童が快適に楽しく学ぶことができる３階建ての新校舎も増築してまいります。

先ほども御答弁申し上げましたが、内閣府が浸水想定区域や津波災害警戒区域等に立地している施設を極力避けて指定避難所にすることが望ましいという通知を出していることは承知しておりますが、その上で各種災害の規模によっては避難施設に被害がなく、安全に使用可能な場合もございますので、本市といたしましては、海抜ゼロメートル以下の施設であったとしても、他の指定避難所と同様に、弥富市立よつば小学校も避難所として指定をいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　本市の避難所あるいは避難場所も、先ほど答弁いただいたように、マイナスの地域が多いところがたくさんあります。それを承知しています。だからといって、新しく造っても、そこはマイナス地域でもオーケーだというふうにはならないんですよ。やっぱり被害が想定される、今、南海トラフ地震が想定される、そういう時期だからこそ、ここはより安全に、より強固にしていく必要があるんじゃないでしょうか。

そういう中では、それは現実的にどうしても無理な状況があれば、それはやむを得ないでしょう。でも、現在は十四山中学校跡地という立派な候補地があるわけですよ。今までの統計で取ってきた市街地に近いだとか、絵を描いたら人口がそこに多いとか、そういう視点からいっても、十四山中学校はほぼ満たしているという部分になると思うんです。そういう中では、やはりこの今、学校の位置というのは考え直す時期だと思うんですよ。

だからこそ、特にこの今、避難所として先ほど指定していくというんですが、浸水したら、例えば避難所で一番有効活用できるのは体育館だと思うんですけれども、その体育館は水没している状況になってしまうんですよ、現在の計画では。であるなら、この体育館において

も、やっぱり盛土しながら海抜ゼロ以上のところを目指していくために、その整備を今一緒に行っていくほうが効率的にいいと思うんです。そして、命を救えると、本当に安心・安全な弥富市をつくっていける、その方向性や姿勢を見せるチャンスだと思うんですよ。

だから、これをやっぱり好機と捉えて、今この学校の位置を変えるという選択というのは、僕はやっぱり市長の決断だと、英断だと思いますので、その辺も含めて安心・安全の弥富市として市長の総括をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　昨年度から市内全小学校６年生に出前授業を行っており、この地域は江戸時代初めに海囲いで造られた、海囲いと申しますのは、津島から海岸線に向かって、もともとは海でございました。遠浅の海で、そこの海を閉め切り、海水を抜いて陸地を造り、それの繰り返しによって弥富市もできておりますので、この海部津島地域の大部分が海抜ゼロメートル、もともと海でしたので、海抜ゼロメートル地帯であるということになります。

そして、排水機場の果たす役割と治水の話をしております。どの小学校でも子供たちは熱心に話を聞いて、後日授業のレポートを提出してくれております。子供たちは出前授業を通して、自分の住んでいる弥富市の土地が低いことや排水機のことを知り、浸水についても考えるきっかけとなっていると思います。

学校生活においては、様々な災害に対する訓練を計画的に行っており、教職員と児童・生徒には日頃から防災意識を高めております。また、避難所関連につきましては、先ほど担当部長より御答弁申し上げましたが、屋上避難施設の整備や官民問わず緊急時避難場所や広域避難場所の災害協定の締結を進めてきており、現在も緊急時避難場所の拡大や自主的広域避難の周知に努めております。

また、避難所となる市有施設におきましても、建築非構造部材の耐久対策工事として天井撤去工事も進めているところでございます。その上で、内閣府が浸水想定区域や津波災害警戒区域等に立地している施設を極力避けて指定避難所にすることが望ましいという通知を出していることは承知しておりますが、各種災害の規模によって避難施設の被害がなく、安全に使用可能な場合もありますので、本市は、南部保育所以外の全ての保育所及び全小・中学校は海抜ゼロメートル以下でありますが、避難所として指定をしてきております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員、終わってください。

○７番（那須英二君）　時間が来ておりますので終わりますが、一言だけ。

新しく造る学校で、やっぱりそうした避難場所を想定していただきたいというふうに思います。そして、想定に対しては、最悪の想定、堤防が切れるということを想定して考えていただきたいと思います。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午前11時40分といたします。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午前11時31分　休憩

午前11時40分　再開

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、早川公二議員。

○１５番（早川公二君）　15番　早川公二でございます。

今回は、小規模４小学校の再編整備事業について、そして車新田地区まちづくりの進捗状況を問う、そして自治会・コミュニティの今後ということで、３件質問していきます。

最初に、小規模４小学校の再編整備事業について質問してまいります。

現在市が進めている小学校再編整備事業について、昨年令和５年11月に再編小学校を十四山西部小学校の位置に開校させることの説明を受け、８月頃から十四山西部小学校は危険であり、十四山中学校に開校すべきとの声が聞こえてきます。そしてまた、市民の中には、計画が変更したのではないかと不安になっている方や市の説明が足りないのではないかなどの声も聞こえてきます。

そこで、私はこの時間を使い、小規模４小学校の再編について、進捗や市の考えを確認したいと思います。

初めに、この再編事業をどのように進めてきたかお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　本市の小学校再編整備事業は、令和元年度に地域の保護者の方々に子供の教育環境に関するアンケートを実施したところ、現状よりも変化を求める意見が多かったことから、十四山中学校と小規模４小学校の再編を進めることとしました。その後、令和３年度から地域の保護者の代表や役員の方々との意見交換を行い、そして有識者からも意見聴取をし、令和７年４月に十四山中学校の再編、そして令和10年４月に小規模４小学校の再編を明記した弥富市小中学校未来構想（案）を令和４年８月にまとめました。この構想（案）を議会に説明し、その後議論を重ね、再編の基本方針となる弥富市小中学校未来構想を令和５年２月に決定、公表いたしました。小中学校未来構想策定に当たっては、保護者、市民の皆様を対象とした説明会の開催、パブリックコメントの実施など、広く市民の声を聞き、議員の皆様に御説明をし、丁寧に進めてまいりました。

次に、この小中学校未来構想に基づき、令和５年２月に弥富市小学校再編整備方針案をまとめ、議員の皆様に御説明をし、広報「やとみ」や市ホームページに公開した上、小中学校未来構想と同様に保護者、市民の皆様を対象に説明会を開催し、御意見をいただき、令和５年11月に弥富市小学校再編整備方針を決定し、再編校を十四山西部小学校の位置に校名を新

たに開校することといたしました。

また、議員の皆様には、小中学校未来構想の検討、決定に当たっての説明、小学校再編整備方針案の市民説明会に向けた説明、そして市民説明会後の報告、議会一般質問での答弁、パブリックコメント、その後の報告など、その都度丁寧に説明して進めてまいりました。

議会報告後、令和５年12月議会において、十四山西部小学校の改修工事等に向けた校舎の耐力度調査、地盤調査等の事前調査委託費として補正予算を議決いただきました。その後、令和６年３月議会において、令和６年度当初予算の中で新校の設計委託費を議決いただきました。

令和６年４月から、保護者を対象にスクールバスを中心とした意見交換会やワークショップの実施、そして一般説明会も開催いたしました。これらは、議会ごとに経過の報告をさせていただきながら進めてまいりました。８月27日の議会発議を重く受け、設計を一部変更し、新築面積を拡張し、全ての子供たちがより安全な新築校舎で学ぶ環境を整えました。

教育委員会では、児童数減少が懸念される中、小規模小学校のよりよい教育環境を整えるため、保護者、地域をはじめ、議会と共に丁寧に事業を進めております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　今の説明を聞きますと、保護者、地域と向き合い、丁寧に進めているように思います。また、議会にも報告をしながら進めていることがよく理解できます。これからも保護者、地域に寄り添い対応していただきたいと思います。

次に、計画では令和10年４月開校と説明していますが、どのような理由からでしょうか。市民の中には、そんなにこだわらなくて、計画を遅らせることはできないのかとの声も聞こえてきます。また、十四山中学校に新校を建設するとしたときでも、計画では令和10年４月の開校ができるという声が聞こえてきますが、教育委員会は可能と考えているのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　子供たちのよりよい教育環境を考えたとき、児童数の推移から、令和10年には９学級において男女の偏りが顕著となる推計です。また、複数の学校の同学年でその偏りが表れるようになります。このようなとき、４校を再編することで男女のバランスを図ることが可能となります。

また、学年やクラスの人数が増えることで、多様な考えに触れること、切磋琢磨できる環境となります。ほかに、友人関係で逃げ場がなくなってしまったり、神経を使いながら生活したりしている子がいる中、同級生の人数が増えることで新たな自分の居場所を見つけられる環境となります。

よりよい教育環境を整えることは、説明会を通して保護者の方々に、また出前授業を通し

て子供たちに伝え、保護者からの要望も多く、令和10年４月開校とし計画を進めております。

また、十四山西部小学校以外に再編校を建設することとなった場合の開校の時期について、まずは十四山西部小学校以外に計画を変更したことの説明、そして新たな計画を進めるに当たり、これまで以上に子供たち、保護者、そして地域の方々に丁寧に説明した後、基本構想を策定し、設計に入っていくこととなり、令和10年４月には間に合いません。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　児童数の減少で少人数のクラスとなり、きめ細やかな授業が受けられるメリットもありますが、男女の偏りが起こりやすくなり、その課題への早期の対応であることが十分に分かりました。また、計画の変更に伴い工期が延びる理由も十分承知しました。私は、計画を着実に実行していただきたいと考えております。

そしてまた、十四山西部小学校は地盤が低く、危険である。既存の校舎を活用することは危険であるとの意見を聞くことがありますが、地盤や校舎の安全性についてはどうかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　既存校舎については、耐震工事を終えております。また、事前の耐力度調査においてコンクリート強度が確認されており、長寿命化改良工事に合わせリニューアルを行います。

敷地の地盤については、液状化の懸念がございますが、耐震補強された既存校舎は倒壊の危険性は低く、安全に学習ができる環境でございます。

また、既存校舎の基礎につきましては、校舎が２階建てで軽量であることから、４から５メートルの摩擦ぐい方式でございます。市内でも、十四山東部小学校をはじめ、白鳥保育所を除く保育所、体育館でこの方式が採用されております。

３階建てで計画をしている新築校舎のくいは液状化の影響を考慮した設計で、くいの先端を支持地盤まで到達させ支えるものであり、約40メートル打設します。校舎３階には多目的に使えるカーペット敷きの教室２つ分の部屋を整備し、有事には安全に避難ができる場所となります。加えて、既存校舎、新築校舎の屋上は避難場所としており、子供たちは垂直避難をすることで安全が確保されます。もちろん、地域の方々の安全な避難場所ともなります。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　新しい校舎は、最新の設計で液状化のことも考えたものであり、３階に広い部屋もあり、安全に子供を保護してもらえる環境があること、垂直避難により避難場所が確保されていることは安心感があります。

次に、既存校舎を活用し、一部新築としているのはどうしてか。全部新築ではない理由をお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　学校施設は、市民にとって大切な財産でございます。また、限りある財源を最大限に活用することは行政の責務でございます。

施設整備につきましては、議会の意見を踏まえ、新築校舎には子供たちが多くの時間を過ごす普通教室と特別支援教室などを配置し、全ての子供たちが新築校舎で学ぶ環境を整えます。また、既存校舎は、長寿命化改良工事に合わせリニューアルを行い、魅力ある校舎にしてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　市の財源の効果的な使い方からのようですが、よく理解をするところであります。子供が確実に増える状況が考えにくい中、過剰に投資することなく、必要に応じたものであることだと承知しました。

次に、児童数の減少が懸念される中、将来的には既存校舎を建て替えるのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　新校の整備に当たり、既存校舎を一部減築し、特別教室棟として活用する校舎は、クラス数の減少に伴い教室に空きができれば、新築校舎に特別教室を移動させてまいります。そのような中で、体育館の建て替えの際に既存校舎を解体してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　よく分かりました。空き教室ができれば、順次特別教室も新校舎に移り、子供たちは早期により安全な環境になっていき、どんどん新しい校舎に移っていくということですね。

次は、保護者の皆さんがこの再編で大きく変わることの一つとして考えているスクールバスの運行について、保護者とワークショップを行っていると聞くが、進捗状況はどうか。また、児童の安全対策についてはどうかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　スクールバスの運行については、令和６年５月からＰＴＡの代表や保育所役員会の方々とバス停について意見交換会を開催し、意見をいただきました。７月に開催したワークショップ形式の説明会では、地区別のグループに分かれ意見を出していただき、より具体的なバス停や通学路上の注意を必要とする箇所などを上げられました。10月からは、バス停候補地を33か所お示しし、意見交換をするため、各小学校１・２年生保護者と市内保育所・幼稚園保護者の下へ発表会や授業参観等の前後の時間をいただき伺っています。この後、いただいた意見を基にバス停を精査し、ルートや車両サイズ、台数を検討して

まいります。

次に、安全対策としましては、子供たちがバスに乗れたか、またバスの運行状況などがアプリを使い見える化ができないかなどを検討しています。

今後は、引き続き保護者、学校と連携し、安全なスクールバスの運行となるよう進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　保護者と連携し、安全・安心なバス運行を計画してください。

次は、地域にとっても大切な財産である学校跡地の利活用について、どのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　小・中学校の再編に伴い、大切な地域・市民の財産である学校施設や建物についての跡地利用についての考え方としては、那須議員の御答弁でも申し上げましたが、市民の声をしっかりと聞きながら、行政需要を踏まえた利活用として、将来の投資となる利用や、地域の絆が育まれるよう、地域の活力につながる利活用や民間事業者等の需要を踏まえた利活用などの観点から検討を進めております。地域説明会などで意見交換会を行い、ホームページを通し跡地の利活用に関するアイデア募集を行いながら、地域の声を伺っております。議員の皆様には、地域の意見の集約に御協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　跡地については、地域にとって関心が高いものです。それだけに、地域に寄り添い検討を進めていただき、またぜひとも地域の活性化につながるものに活用をしていただくことを強く要望しておきます。

次は教育長にお伺いしますが、子供たちも開校が楽しみになると思います。新しい学校の教育について、どのように考えているのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　御答弁申し上げます。

学習指導要領に示された生きる力を育むことや弥富市教育委員会の目指す「一人一人が輝き、よく学び心豊かでたくましい弥富の子」の育成はもちろんですが、とりわけ再編小学校の特徴を生かした教育を展開してまいりたいと考えております。

その特徴は、海抜ゼロメートル地帯でいかに命を守るかという防災教育です。災害を他人事とせず、自分事として捉えることができることはとても大切なことで、先日も再編４小学校の６年生がＴＫＥスポーツセンターで合同防災訓練を行いました。海部南部水道の方からは給水所の開設を、海部南部消防署からは心肺蘇生法を、そして市防災課からは避難所運営

について学ぶことができました。このことは、12月４日付の中日新聞朝刊に掲載されました。

本市は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を他市町村より積極的に進めております。再編小学校児童が、防災という観点から、自分の命を守り、周りの命も大切にすることを知ることは、こうした市の取組ともつながり、大きな教育の柱になると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　大変すばらしい答弁でありました。ぜひ計画を進めていただきますようお願いいたします。

最後に、市長にお伺いします。

再編校は既存建物を生かしながらの教育環境の整備となりますが、子供たちには再編してよかったなと思えるような楽しいものとしてほしい。保護者からも、建物が新築かどうかではなく、中身が気になるとの声を聞くが、その声にしっかりと応えていただきたいと考えるが、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　この再編事業は、小規模小学校の児童数減少が懸念される中、子供たちのよりよい学びの環境を早期に整えるため進めている事業でございます。

施設整備の面では、既存校舎は耐力度調査や耐震工事を終えており、安全・安心な校舎でございます。また、長寿命化改良工事により、魅力あるリニューアルをしてまいります。そして、新築校舎は、かさ上げ、浸水対策等を含め、新耐震基準に基づき設計されます。また、体育館においては、改修に合わせて空調を設置してまいります。

ソフト面では、再編校の強みは、何といっても地域に支えられた学校であることです。現在でも４つの小学校では、地域の方に深く関わっていただき、見守り活動や野菜作りなどを通して授業にも入っていただいております。また、再編小学校は、児童がスクールバスを利用しますので、その乗り降りや校庭での見守り活動にも地域のお力添えをいただければと考えております。

学校跡地の利活用につきましては、地域の声をしっかりとお聞きし、地域と対話しながら事業を進めてまいります。そして、令和10年４月に地域に愛される再編校の開校を目指してまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　最後に、私は十四山西部地区に住んでいます。地盤が低くて大雨の日に不安に感じたことは一度もありません。十四山西部小学校周辺のみならず、海部津島一帯がゼロメートル地帯です。私は、十四山西部小学校の位置に新校が開校することに何の心配も不安もございません。

大雨が降ったとき、家の横の水路を見に行きますが、水があふれていたことは一度もございません。そして、昔に比べ、気象情報は正確であります。週間予報もあります。

〔発言する者あり〕

○１５番（早川公二君）　黙ってください。

排水機の機能も格段に高くなっております。そして、ほかのまちで水につかったと聞く大雨のときでも、土地改良区の排水機の適切な運転のおかげでうちは水につかったことはありません。そして、仮にも学校が水につかったとしても、保護者もすぐに迎えに行けないようなことが想像ができる中、３階に大きな部屋があることは安心感を感じます。

建設費用についても、十四山中学校、新築が得かどうかについてはどうでしょうか。全部新築ならきれいで、みんなが喜び、うれしいことだと思います。でも、子供が減少傾向にあることは多くの人が分かっていることであります。でも、その減少傾向は予想を超えるかもしれません。大きな投資であります。子供たちを含めた皆さんの問題ではないのでしょうか。本日の私の質問や市長、教育長の言葉を聞き、安心していただきたいと思います。そして、この小学校の再編が計画どおり令和10年４月に新校開校となるよう進めていただきたいと最後に強くお願いをいたしまして、次の質問に移らせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員の質問の途中ではございますが、ここで暫時休憩といたします。再開は午後１時５分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後０時02分　休憩

午後１時05分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

それでは、早川議員、お願いします。

早川議員。

○１５番（早川公二君）　次に、車新田地区まちづくりの進捗状況を質問していきます。

車新田市街化に向けたまちづくりについて質問をしていきます。

平成26年度に土地所有者を対象にアンケート調査を実施したところがスタートだと聞いております。それからかなりの時がたっているのですが、車新田以外の方から、順調に進んでいるのか、いつ市街化になるのか、本当に市街化になるのか、私自身もそのように思っており、早期実現を強く願うところであります。

まずは、改めて車新田地区のまちづくりをしていくこととなった経緯をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　車新田地区のまちづくりをしていくこととなった経緯といたしま

しては、車新田地区の土地所有者の方々より、多くの農地や金魚池がある当地区において都市的土地利用はできないかとの相談がございました。当地区は、弥富駅からの徒歩圏内にあり、市街化区域にも隣接していること等の理由から、市街化区域への編入を前提とした土地利用の検討を始めるために、平成26年度に土地所有者を対象としたアンケート調査を実施し、当地区でのまちづくりを進めるための勉強会等への参加意向を確認しましたところ、回答者のうち約60％の方から参加したいとの回答があったことから、今後の計画的なまちづくりに対する土地所有者の関心は高いものであると考え、車新田地区のまちづくりの検討が始まりました。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　次に、地権者の方々に対して、説明会、意見交換会等をいつから、どのような内容で行ってきたのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　平成27年度に第１回車新田地区まちづくり勉強会を開催し、その後、毎年勉強会や意向調査報告会、地権者説明会等を開催しています。

まちづくり勉強会では、車新田地区の将来の姿やその実現に向けたまちづくりの手法等について勉強しました。意向調査報告会においては、土地所有者の方々への将来のまちづくりや土地利用等に関する意向調査を実施し、その結果を報告いたしました。そして、地権者説明会では、これまでにまちづくりを進めるために市が実施した調査結果の報告や整備計画案、事業スケジュール等の説明を繰り返し行い、事業を進めております。

また、令和３年10月には、土地所有者の代表による発起人会を結成し、土地区画整理事業実施に向けた細やかな検討を進め、令和４年12月には、先進地視察として、業務代行方式により土地区画整理事業を行っている豊田四郷駅周辺地区の現地視察及び意見交換等を行いました。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　土地区画整理事業を進めるには土地所有者の方々の同意が必要であると思いますが、地権者の同意は得られているのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　土地区画整理事業を進めるためには、土地所有者の方々の同意が必要となります。令和３年度には、発起人会が主体となり、土地区画整理事業の計画を進めることに対する仮同意書の収集を始め、令和４年度には地権者数割合の仮同意率が80％、面積割合の仮同意率が90％を超え、現在は地権者数割合82.0％、面積割合91.6％の仮同意率となっています。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　現在は、地権者数割合82％、面積割合91.6％の仮同意率ということですが、全地権者の同意が必要かお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　土地区画整理事業を進めるためには、今後、本同意書の収集が必要となり、土地区画整理法においては、土地区画整理組合設立には３分の２以上の同意が必要とされています。しかしながら、愛知県の指導では、土地区画整理事業を進める上で、事業をより円滑に進めるために85％以上の同意が望ましいとされていることから、土地区画整理事業を進めるためには、地権者及び面積割合85％以上の同意率が必要だと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　現在のまちづくりの進捗状況をお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　車新田地区の土地区画整理事業につきましては、平成26年度頃から土地所有者の方々と検討を進め、令和３年10月には土地所有者代表による発起人会を設立し、事業の進捗を図ってまいりました。これまでの話合いの中で、当地区の土地区画整理事業は、民間企業の有する豊富な経験やノウハウ等を生かしながら、土地所有者の負担等を軽減するために土地区画整理事業を一括して民間企業に実施していただく業務代行方式を採用することとしており、令和６年３月には、発起人会と業務代行者の前身となる事業化検討パートナーとの間で覚書を締結いたしました。

今年度は、この事業化検討パートナーとより詳細な事業計画や事業費、事業スケジュール等の検討を進めております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　最後の質問です。

事業の完了のめどはいつかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　現在、土地所有者の方々にお伝えしております車新田地区土地区画整理事業の想定スケジュールといたしましては、市街化区域への編入時期の目標を令和８年度末、土地区画整理組合設立認可時期の目標を令和９年度中としておりますが、今後の手続や関係機関協議、事業化検討パートナーとの検討内容等により変更になる可能性があります。

また、組合設立後の工事期間等のスケジュールにつきましては、組合と業務代行者によって決定されることとなります。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　市街化区域への編入時期の目標を令和８年度末、土地区画整理組合

設立認可時期の目標を９年度中としているが、今後の手続や関係機関協議、事業化検討パートナーとの検討内容により変更になる可能性があるということですが、ここは検討内容の変更によって早まるのか、そしてまた逆にどんどん延びていくのではないかと不安になるところであります。

また、組合設立後の工事期間等のスケジュールについては、組合と業務代行者によって決定されるとのことですが、何にせよ早期実現に向け進めていただきますことを強くお願いをしまして、次の質問に移らせていただきます。

次は、自治会・コミュニティの今後ということで質問させていただきます。

まずは、自治会の現状、課題、今後についてであります。

最近、多くの方から自治会脱会者が増えていると聞きます。本当に聞くんですよね。本当に久しぶりに会う人会う人、あいつが抜けたこいつが抜けた、俺も抜けようかしらなんて、そんな状態であります。私の住んでいる地区でも同じであります。このまま行けばどんどん脱会者が増え、自治会がなくなり、最悪はコミュニティの崩壊にもなっていくのではと不安になるところであります。自治会に入っているがための負担感や不公平感があるのではないでしょうか。自治会は、地域にも行政にとっても重要な組織であると私は考えており、自治会なしでは、これからの住みやすい、安心・安全なまちづくりはできないと考えております。

それでは、質問していきます。

まずは、自治会加入率、過去３年分で結構でございますので、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　本市での加入率の積算につきましては、全戸配付数を４月１日の住民基本台帳の世帯数で割ったものから算出をしております。令和４年88.3％、令和５年86.4％、令和６年85.2％と減少傾向となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　年々減少していっているということですが、これからも加入率の減少は続き、脱会者が増えていくのではないかと考えております。それによる自治会の問題点を聞いているのか、そしてまた加入率の減少、脱会者が増えるというような状況で、今後、市の考えをお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　自治会からは、退会者等が増えることで、以前と同じように自治会行事を続けていくことが難しくなったことのほかに、自治会費を納めた上に地域の役員を担い、美化活動をはじめとする様々な行事、活動にも参加しなければならないなど、自治会に入っているがための負担感や不公平感などが会員の中に出てきており、その影響で、役員を頼みに行っても断られたり、退会を示唆する会員が増えてきているなど、自治会の運

営、存続に関する相談がございます。

本市といたしましては、少子高齢化、人口減少、単身世帯、高齢夫婦世帯の増加といった社会全体の変化から、自治会への加入者が減っていくことを止めることはとても難しい課題でもございます。しかしながら、互助組織である自治会は、地域福祉や災害時の共助の観点から、地域にも行政にとっても重要な組織であると考えておりますので、自治会の協力なしに協働のまちづくりはできないと認識をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　自治会がなくなった地区はあるのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　自治会、町内会がなくなった地区はございません。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　自治会、町内会がなくなった地区はないとのことですが、今後は自治会がなくなっていくおそれがあるのではと思うのですが、市の考えをお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　自治会の退会者が増えれば、会員が減り、役員の担い手が不足し、運営が困難となり、存続できなくなることは考えられます。全国的に見ても、多くの地域で自治会が解散したり、複数の会が合併したりするケースが増えており、大きな問題となっておりますので、本市でも起こり得る可能性は否めず、目の前に迫っている危機意識を持っております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　自治会がなくなることによって市が困ることはないのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　それぞれの自治会には、地域住民と行政の橋渡し役として、また地域の意見の取りまとめ役としての役割を担っていただいております。そのため、自治会がなくなるとなれば、地域防災力の低下、情報共有の減少、地域活動の停滞、防犯活動の弱体化などが懸念されます。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　地域防災力の低下、情報共有の減少、地域活動の停滞、防犯活動の弱体化などが懸念されるとのことですが、そのとおりであると思います。

やはり自治会はこれからも必要であり、そのためには自治会脱会者を増やさない、自治会をなくさないようにしなければいけないと思いますが、何か策はあるのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　市としましては、自治会に依頼している業務の負担を減らすことや、自治会等が抱える課題の解決へつながるヒントが得られる講演会の開催による地域力の向上のための側面支援も行っております。また、自治会のほうでも、地域の現状、実情に合った新しい自治会組織や運営等のスリム化を御検討いただきたいと思っております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　それでは次に、コミュニティの今後について質問していきます。

まずは、小・中学校統廃合により何か変わっていくのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　各小学区等で設立していますコミュニティ推進協議会の枠組みにつきましては、特に変更はございません。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　今までのそれぞれ地区での行事がなくなったり、行事内容が大きく変わることはあるのか。例えばですが、十四山地区文化の集いの出展者の方から、今まで十四山東部・西部小学校、十四山中学校の生徒の皆さんの作品が出品されていたが、小・中学校統廃合によりどうなっていくのか、十四山地区文化の集いがこのまま継続されていくのか、なくなってしまうのではと不安を口にされていました。そして、またこれからも私の作品を出展したい、今までどおりの作品を出展していただきたいとも言っておりました。私も同意見でございます。どうなっていくのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　少子高齢化により、体育祭の競技等ができない、盆踊りの踊りの場がつくれる程度の参加者が集まらない、役員の負担が多い、担い手がいないなどの理由で体育祭や盆踊りの行事をなくしたり、体育祭を別の行事に変えたりしたコミュニティ推進協議会がございます。

議員おっしゃってみえます文化の集いにつきましては、十四山村時代から続く伝統的な行事であり、その運営を十四山地区コミュニティ推進協議会で引き継ぎ、企画、運営をしているものになります。そのため、行事の継続や作品募集などにつきましては、協議会のほうで御検討いただくものと考えております。特に作品募集につきましては、例年作品を出展いただいている方々や団体からも意見を伺いながら進めていただきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　分かりました。

それでは、自治会会員の減少に伴ってコミュニティがなくなるおそれはないのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　自治会と同様、役員の担い手が不足し、行事の運営が困難となり、存続できなくなることは考えられます。例えば各協議会の構成しているＰＴＡや育成会などの団体役員の選出方法が変わってくることで協議会の役員の担い手が不足するような状況になった場合は、より広範囲な枠組みにしていくことが必要となる可能性があると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　これも自治会と同様なんですが、コミュニティがなくなることによって市が困ることはないのかお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　コミュニティは、防災活動、地域住民との交流の場、環境美化活動、防犯活動などにおいて重要な役割を果たしていただいており、またコミュニティの核となる自治会においても、地域住民と行政の橋渡し役として地域住民の声を届けていただいておりますので、コミュニティがなくなるとなれば、活動の弱体化や連携の悪化が懸念されます。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　そうだと思うんですよね。自治会もそうです。コミュニティもそうですよ。やっぱり自治会においても、地域住民と行政の橋渡し役として地域住民の声を届けていただいております。まさしくそうですよ。これがなくなれば声が届かなくなってしまいます。そしてまた、活動の弱体化や連携の悪化が懸念されるということです。

　私は、本当にこの質問、自治会とコミュニティについては、やはりずっと存続していっていただきたい。そして、脱会することなくずっと続けていっていただきたいという、そんな思いから質問をしてまいりました。

　また、これは最後に、コミュニティをなくさない策はあるのかお伺いをいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　柴田市民生活部長。

○市民生活部長（柴田寿文君）　現在の活動は住民ニーズに合っているのか、役員の負担が大きいがこのままでいいのかなど、皆さんで会議、行事、組織の洗い出しをしてコミュニティ活動の全体量を把握していただき、再構築のために協議をし、スリム化を図っていただくか、現在の学区の枠組みを見直し、新しい形のコミュニティを形成するなど考えられますが、有効な策となるかは難しいところでございます。市としましても、地域課題や共通の目的を持って、自発的、主体的なコミュニティ活動に発展できるようサポートしてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　本当にしっかりとサポートしていっていただきたいと思います。

何度も言いますが、抜けたらあかんですよね、自治会は。やっぱり続けなあかんですよ。それは抜ける人には抜ける人の理由があるとは思いますけれども、やはりそれぞれの地区というのは、先ほどからも答弁にもありますが、先人、先輩方が築いてきた地域でありますよ。その人たちがちゃんと守ってきた。そして、これから私たち世代が引き継いで、しっかりと次世代につないでいかなきゃいけない。そのためには、やっぱり自治会組織というのは必要であり、コミュニティも必要であると考えておりますので、市側はしっかりサポートしていただきますことを強く要望いたしまして、以上で私の質問を終了いたします。ありがとうございました。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後１時30分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後１時25分　休憩

午後１時30分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、加藤明由議員。

○８番（加藤明由君）　８番　加藤明由でございます。

９月議会で時間切れとなりましたので、その続きということで、市有財産の適法管理の怠慢について。

１つ目、公共用物である市有地の侵奪であるにもかかわらず、なぜ過料を科さないのか、この点について質問をさせていただきます。

今から18年前の平成18年は、弥富市が誕生した記念すべき年でありました。この年に職員により発覚した市有地である用水路の不法占拠事件。その後は13年近く全く問題になることはありませんでした。なぜか令和の時代になり、匿名市民からの告発で大問題になり、今年７月12日には最高裁判所から撤去と使用料の支払いが確定し、ちなみに判決は悪意の受益者と判示されております。法律用語で悪意の受益者とは、得られる利益が不当利益であることを知っていながら利益を取得した者を指します。いわゆる確信犯といっても過言ではございません。判決から今日でちょうど５か月を経過しましたが、判決は確定したものの、不法占拠状態は何ら解決をしておりません。

市有地不法占拠に関しては、市は平成当時からマンション経営者に指摘していたにもかかわらず、その後適切な対応がなされず、不正な状況のまま擁壁は市有地にはみ出し、現在に至っております。

水路敷の管理は、弥富市公共用物管理条例によって適正に管理されることになっておりますが、条例の19条には、詐欺その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収

を免れた金額の５倍に相当する金額以下の過料に処すると明確に規定されております。このマンション経営者は、市の公共用物を侵奪し、事実上不正の行為により公共用物の使用料相当額の徴収を免れたことは明々白々でありますから、条例第19条を適用し、適切な管理を妨げる者に対しては、本来使用料の５倍以下の過料に処し、市有財産を守るように市として努めるべきであるとは当然であります。市の公共財産を侵奪しても使用料相当額を支払えばそれでよいというものではありません。これからは弥富市の財産の使用料相当額さえ支払えば勝手に侵奪すればよいということになりかねませんが、本当にそれでよいのですか。なぜこのような不法な市有財産の侵奪に関し、市は過料を科すことをしないのか、その法的根拠を明らかにするよう答弁を求めます。

市条例で過料を科した前例はあるのか。本件で過料を科さないことが悪例となり、今後の影響を考えないとか。

以上、質問させていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　弥富市公共用物管理条例第19条の過料は、行政上の秩序維持を目的に課す秩序罰としての過料であり、市に裁量権が与えられていると判断しております。また、同条の詐欺その他不正の行為によりというのは、一般に単に使用料がかかることを知っていただけでなく、その徴収を免れるために積極的な欺罔行為や積極的な不正行為があったと判断できる事実が必要であると解釈しております。以上のことから総合的に判断しまして、本市としましては、同条例に基づく過料ではなく、裁判で本市が主張しましたとおり、民法第703条及び704条の規定による不当利得とその利息の返還を請求させていただきました。

また、過料を科した前例は、確認できた範囲におきましてはありませんでしたが、本件で過料を科さないことが今後の悪例になるとは考えておりません。事案に応じ、その都度個別、具体的に判断すべきであると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　市長の、市の裁量の範囲内だと今お聞きしました。

この事件に関しては、これくらい悪質な侵奪事件というのは過去にも聞いたことがないし、この先にも恐らくないだろう。しかもこれは、やったのは市会議員、やった当時も市議会議長、発覚したときも市議会議長、それでもって最高裁判所まで闘って、最終的には悪意の受益者と認定された者が、これが裁量の範囲で許されるという考えですか。これは市長がお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　ただいま担当部長が答弁したとおりでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　もう少しまともな答えをいただきたいんですけどね。

それでは、この弥富市公共用物管理条例、これは多分きちっと読んでみえると思うんですけど、行為の禁止、これは当たり前のことが書いてあるんですけど、第３条、何人も、公共用物において、次に掲げる行為をしてはならない。これの３番目に、公共用物の保全または利用に支障を及ぼすこと、まさしくこれをやったわけですよね。これに対して、過料、18条に、この３条、今言いました公共用物の保全または利用に支障を及ぼすこと、これをした者に対しては、違反をした者は５万円以下の過料に処する、処することができるわけではなくて、処するということで、もうこれは断定して書いてあるんですよ。これをなぜ取らない。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　この過料に関する規定につきましては、行政上の秩序維持や事前抑止目的があると考えておりますが、適用につきましては、市に裁量権が与えられていると判断しております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　３条を読みますと５万円以下の過料に処すると書いてあるんですよ、こういうことをした人は。ですから、この世の中から交通違反の罰金、正確には反則金といいますが、これを適当に取らなかったら、恐らく交通事故というのはもう何倍にもなると思う。その制裁金である程度秩序を、要するに抑止力となっておる。こういうふうに考えるのが当然だと思うんですけど、何度も言いますけど、これほど悪質なことをやった人に対して、これを市の裁量で取らない。こんなこと考えられますか。今日は、クローバーテレビで皆さん見ていただいております。また、ユーチューブでも見ていただいております。何度も言いますけど、これをやった人は弥富市議会議員であった、弥富市議会議長であった人がやって、今も侵奪状態が続いておるものを、市は、市長は裁量の範囲で取らない。これははっきりここで言わせていただきます。

次、行きます。

これに伴って、この裁判が起こったときに、こんなフェイスブックに書き込みがありました。市が敗訴したとき、７号議案、この方を訴えるという議案を提出した市長責任と賛成した議員の責任、こういうことを書かれた人がおった。これは、この裁判に負けておったら、市長、責任を追及されておったんですよ。私ら８人も、賛成した人間は議員責任がある。ここまで書かれたんですよ。恐らく、ここまで書いて、そうすると賛成しなかった議員はどういうふうに責任を取られるかなと私は思うんだけど、何も別に動きはないんですが、このぐらい問題になった事件であったわけです。なのに過料を取らない。これが弥富市の裁量の範囲ということだということを市民の皆様、よく知っておいてください。

では、次に行きます。

公共用物管理条例における過料は、財産管理上必要な事項であると思います。弥富市公共用物管理条例第１条には、この条例は、別に定めがあるもののほか、本市において管理すべき公共用物の管理に関し必要な事項を定めるものとするとなっており、18条、19条に過料が規定されております。18条、先ほど言いました違反した者は５万円以下の過料。この過料に関する規定は、公共財産の適正な管理をする上で必要なものと考えるのが一般常識的な解釈と思いますが、市の見解を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　先ほども答弁させていただきましたが、本件に関しましては、裁判の中で本市が不当利得とその利息の返還を請求し、判決も確定しており、その旨現在も進めておるところでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　次、行きます。

過料を科さないことによる市の損害問題について。

不法に市有財産を侵害するのであれば、条例に基づき過料を科すべきは、適正に財産管理する市としては当然の責務であります。このように指摘をしてもあえて過料を科さないという立場を最高責任者である市長が判断するのであれば、そのことによって市が本来得られるべき過料相当額は、市の与える損害として市長が賠償の責任を負うと考えられますが、市長の見解を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　先ほども答弁させていただいておりますが、本件に関しましては、裁判の中で本市が不当利得とその利息の返還を請求し、判決も確定しており、賠償の責任は負わないと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　判決は当たり前に払わなければいけない使用料相当額を認めたものであり、その利息は、当然お金を払うまでは利息がつくというのは当然のことで、それが判決であって、要するに罰金の部分ですね、悪いことをしてしまった。これが全く今回反映されていない。ちなみに、電車に乗って名古屋へ行きまして、駅を降りて歩きながらタバコを吸うだけで、今、名古屋市は2,000円の過料を取られる。栄町、金山、藤が丘、この地区はタバコを吸って歩くだけ、灰皿を持って捨てなくても、吸って歩くだけで、もう既にこれで2,000円の過料を徴収していますよね。弥富市はこのぐらい甘いんですか。人の財産を勝手に侵奪しておいて、それを市長の裁量の範囲だとして取らない。これは、市民の皆さんよく聞いておいてください。これは抑止にも何もなりません。悪例としか思えません。

次、行きます。

侵害されている市の公有財産の早期原状回復について。

平成18年当時、市有財産の侵奪状況に対し、市の警告がされ、その後、令和元年には監査委員から擁壁撤去と原状回復の勧告、市から２年以内の擁壁の撤去などを請求し、最高裁での決着をこの７月に得たわけであります。

市は、早急に行政手続を進めることは当然であります。最高裁の決着以前にも長い年月があったわけですから、原状回復の行政的な事務手続の準備期間は十分にあったはずです。速やかに対応されているはずであります。

そこでお尋ねをいたします。

市は、既に令和元年には２年以内の擁壁の撤去を請求しているのでありますから、それから５年を経過した現在において、そして最高裁の決着もあったわけですから、当然のことながら、これまで以上に早急な擁壁の撤去を改めて文書等で明確に請求しているはずであると弥富市民は考えております。もしもそのようなことをしていないのであれば、財産管理上の怠慢と言われても仕方ありません。現在、最高裁での訴訟上の決着等も踏まえ、市は相手方に対し、どのような行政上の請求をしているのか、市の顧問弁護士の見解はどのようなのか、明確にお答えをお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　現在、相手方と折衝中ということもありますので、答弁は差し控えさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　５か月もたって、実際何も見えておりません。どういう折衝をしてみえるのか、全くこれを市民に隠す理由はないと思います。

次、行きます。

市が財産の原状回復手続に関し、情報公開しないのは不当ではありませんか。

この問題に関して、先日、市に対して情報公開請求をしました。最高裁の判決確定後に、市有地上の擁壁撤去に関し、相手側に提出した撤去要請文書の情報公開請求であります。これに対し、弥富市情報公開条例第７条第６号イに該当するとして、その理由を、現在交渉中の事件であることから、公にすることにより、当該事務または事業の性質上、当該事務または事業の適正な執行に支障を及ぼすおそれがあるためとして、非公開の処分を下しております。誠にゆゆしき問題であると思います。

市の情報公開条例では、契約、交渉または争訟に係る事務に関し、国、独立行政法人等、地方公共団体または地方独立行政法人の財産上の利益または当事者としての地位を不当に害するおそれがあるものは、不開示情報とすることができるとなっております。今回、市有財産の不法占拠状況の原状回復問題は、条例が示す争訟上の問題ではなくなりました。まして、

それ以前の交渉レベルの問題でもないわけであります。既に最高裁の決定により決着を見ている事柄でありますから、したがって、決定後は粛々と行政手続を進めるだけであって、進められている手続の状況を市民に明らかにしても、条例に規定するような市の財産上の利益または市として地位を不当に害するおそれは一切見当たらないのであります。市は何を恐れているのでしょうか。このように原状回復の行政手続を進めておりますという情報を公にして、市の利益や地位が不当に害されるものでしょうか。全く理解できません。これでは、最高裁で決着をしても、その後の手続は一切明らかにしない、密室で事を済ませるというようなことが弥富市ではまかり通るおそれもあります。市長は、市政の最高責任者として、最高裁の判決確定を受けて、不法に侵害されている市有財産の原状回復のための行政手続の状況を公にすべきと考えますが、所見を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほど担当部長の答弁にもありましたが、折衝中ということもあり、公にすることは控えさせていただきたいと思います。

　また、令和６年９月議会の一般質問の場でも申し上げましたとおり、市といたしましては、確定しました判決内容に従い対処してまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　市民の皆様方にこの現状を知っていただくために、こういうことですよね。現状不法占拠している部分に対して、年間７万5,215円、１日にしてみれば206円。たったの206円ですよ。２日分もらっても喫茶店でコーヒーも飲めないような金額をもらって、それでもって、今もそのマンションには少なくとも９軒はシャッターが空いているそうです。ということは、５万円の家賃としても45万円は毎月収入を得られる。たった１日200円、１月６,267円で45万円の収入が得られる。これは時間を稼いで、時間を稼ぐ、お金を稼ぐですよ、こんな状況が延々と続いておる。これに対して何も手を下していないようにしか見えない。５か月をたっても一向に変化がない。めどは立っておりますか。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　先ほども答弁いたしておりますが、現在、相手方と折衝中でありますので、答弁は差し控えさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　多分人に言えないような状況になっておるんだろうなあとしか思えません。

　情報公開して何も出てこなかった。普通、一般の行政職に就かれた方に、誰にお聞きしても、せめて撤去命令が出ておるだろうと、一般的に考えれば。その文書すらないんでしょう。あれば、仮に公開できなくても、真っ黒でも出てきますよ。適当な部分だけ消して出てくる

んですけど、それすらない。全くやる気がないとしか思えませんね。市長、どうですか、やる気あるんですか。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほども答弁しておりますが、相手方とは折衝中のため、答弁は差し控えさせていただきます。ただただ判決内容に従いましては、必ずやこれは履行してまいりたいと思っております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　それじゃあ、これはこれで終わります。

次に、これも前回からずうっと、もうこれは３回目やるんですが、事実上、これは延々と、私の任期中はあと12回ぐらい残っておるかな。もうこのまんまだといいかげん、もう私もこれは終わりにしたいんですけど、今日もまたどうしてもこれはお聞きせないかん部分で、農地の賃貸借料は適正かということで、一般農家に極めて不利な農地賃貸借料についてお伺いします。

この地域の農業が安定的に営まれ、社会的に不公平がないようにするために、行政を担う市役所がきちんとした手続や行政運営をすることは、市内の多数の一般農家が強く望むことであります。

先月６日には、令和６年度の農地賃貸借料金検討会議が弥富市長の招集で開催されました。協議事項は、令和６年の農地中間管理事業賃貸借料金についてであります。これは、当然のことながら公的で重要な会議であり、農地の貸手である一般農家及び借手である受託者、いわゆるオペレーターの双方にとって利害を異にする会議であり、その中で、市役所は、国の制度である農地中間管理機構の事務の受託者として、客観的、中立的な立場で会議を主催しているものと一般的には理解されております。しかしながら、この会議に関しては、一般農家にはほとんど実態が伝わっておらず、どのような根拠で、どのような手続で賃貸借料が決定されているのかなど、農地所有者には判断材料や情報がほとんどない中で大事な農地の賃貸借料金が決定されているような状況になっております。

そこで、以下、順次お尋ねをしてまいります。一般農家の方々に理解ができるように、丁寧で国の制度を守り、的確な答弁をしていただくようにお願いをしておきます。

これに関連しまして、借地料が安いということなんでしょうね。ですから、さきの議会報告会、議会カフェで３人の方が相当悩んでおられました。いわゆるヤードの問題ですね。これも農地にしておければこういう問題が出ないんだけど、結局のところはやっていけないからもう売っちゃえということで、売った先がヤード、これでいろいろ問題が起きておる。これは、この議会カフェで３人の方からかなり切実な訴えだなと思ってお聞きしました。

１番目、まず会議資料はどのような手続を経て提出されたのか。不公平はないのか。

今回の会議を開催するに当たり、事前に会議構成員に会議資料が配付されたことは、これまでの議会での私の質問に対する市当局の答弁に沿うものであり、それは一歩前進と評価をさせていただきます。一方、事前配付の会議資料の内容を見ると、協議事項の賃貸借料に関し、借手側が主張する令和６年賃貸借料金の案のみが提示され、貸手側の意向などは全く反映をされておりません。市役所は、この会議資料を作成するために、賃貸借料金の試算方法などに関して、借手側とは２回にわたって事前会議を行っている。貸手である一般農家を代表することになる生産組合長などとの事前協議などは一切行っていないのが実情であります。市役所は、これでも公平な立場で行政をやっていると言えるのか、見解をお伺いします。重要な問題ですから、市長にも所見を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　弥富市農地賃貸借料金検討会議の開催前に行った事前の会議は、今年度より検討会議の資料を開催前に送付することに変更となりましたので、資料を例年よりも早期に作成するために、各地区の借手側代表者のオペレーター及びあいち海部農業協同組合の担当者にお集まりいただき、資料作成の打合せを行いました。

事前会議の内容としましては、１回目は検討会議当日に必要となる賃貸借料金の算定方法や料金を提示するための準備をお願いいたしました。２回目は、算定方法と定めた料金の情報をお聞きして、事前に送付する資料作成に向けて打合せをしております。この事前会議は、借手側の要望である資料の事前配付に応えるために開催しておりますので、適正であると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　市長の見解をお伺いします。

市長は、40年にわたり、土地改良区の事務局長までされて、ずうっと農政には関わってみえる。40年ですよね。海部津島の首長でもこれだけの農業に対して実績ある首長さんは誰も見えませんよ。市長が一番よく知ってみえます。一度この件についてお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　土地改良区の職員として25年６か月務めてまいりましたが、土地改良区の職員は、農業をいかに皆様方に効率よくやっていただくか、そのお助けをするところでございますものですから、このような賃貸借については関わっておりませんでしたので、最初に申し添えておきます。

ただいま担当部長のほうから御答弁したとおりでございます。ただ、貸手側につきましても、やはり少し御意見を聞いて進めるべきではあったのではないかなと少し考えているところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　土地改良区はそういうことに関与しないというけど、ボランティアでやっておる事業じゃありませんので、何らか経営が成り立つような方向というのはいろいろ考えるわけですよね。まして市長になられてからは、この会議も招集をかけたのは市長でございますから、全て何らかの形で関わってみえる。ですから、もう少し農家に寄り添った施策ができないのかなと思っていろいろお尋ねします。

それでは、会議前に聴取した生産組合長などからの事前質問の取扱いの不当性についてお伺いします。

先月６日の会議の前の１週間前までに、会議資料に関して質問があれば事前質問書を提出するように求め、その回答は検討会議当日にするとして市長名で案内がされております。借手側とは事前に２回も会議をしているのであれば、当然、貸手側の生産組合長の代表などからの事前質問書とその回答は、当然会議当日に資料として配付、提出し、会議構成員全員で情報共有し、会議の協議、運営を進めることは、行政を担う者としての原理原則であります。そうでなければ、借手側の意向だけを踏まえた資料が情報共有されることになり、貸手側の資料が提供されず、客観的、中立的であるべき市役所の姿勢として全く不当であります。

十四山の生産組合長の代表の１人から事前質問書が会議開催の２週間ほど前に提出されておると聞きますが、その扱いはどうしたのか。事前質問書や回答書は会議で配付、説明などをしたのか。会議構成員に配付等をしていないのであれば、全く不公平であり、市内に多数おられる一般農家をないがしろにするような扱いであると考えるが、客観的に中立的であるべき市の見解をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　あいち海部農業協同組合十四山支店生産組合の代表者の方からの質問につきましては、当日文書で整理し、回答するよう要請するとのことでしたので、検討会議当日に御本人に回答をお渡ししました。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　質問した当人だけに回答して、その情報は会議の中では一切共有をされなかった、こういうことでございますね。何かそれはルールとしておかしいんじゃないかと思うんですが、次に行きます。

賃貸借料金の決定方法について。

以下、順次生産組合長の代表が提出された事前質問書を重ね合わせながら質問します。

市は、賃貸借料金は構成員が検討、協議した結果によるとしているようですが、賃貸借料金は賃貸借契約の法律上の不可欠の要素として極めて重要であります。農地所有者個々の権利にも関わり、したがって、単純に多数決で決定することは我が国の法体系ではあり得ないと考えるが、法的根拠をきちんと踏まえた明確な見解をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市は、弥富市農地賃貸借料金検討会議を中立な立場で開催しており、この会議の場において、農業に精通する代表者の方々にお集まりいただき、貸手側と借手側の双方が十分に意見を交わし、多数決ではなく、再度にわたり発言の有無を確認した上で、話合いによって賃貸借料金を定めていただいたものと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　それでは、次に行きます。

今回の会議で、農地中間管理事業の賃貸借料金はどのような経緯で決定したのかお伺いします。

今回の会議で賃貸借料金が決まったというならば、どのような採決方法によって料金が決まったことになっているのか。賛同しない構成員もあったと聞きますが、それが生産組合長の代表の方であれば、一般の農地所有者の意見を代弁する立場であり、極めて重要な意思表明であるからないがしろにはできないはずであります。

また、弥富市農地賃貸借料金検討会議開催規則では、賃貸借料の採決決定方法の条項がなく、であれば、個々の農家の権利にも関わることであります。単純な多数決などはあり得ないが、仮に決定したと市役所が言うのであれば、その法的な根拠を明らかにしていただきたい。また、賃貸借料金は、鍋田、十四山、市江・弥富の３地区でそれぞれ異なるのであるから、地区に関係のない構成員は別の地区の採決に加わることは法的に不適切と考えられるが、それをどのような法解釈で整理したのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　弥富市農地賃貸借料金検討会議は、鍋田地区、十四山地区、市江・弥富地区の代表者が一堂に会しておりますが、それぞれの地区ごとに貸手側と借手側の代表者が十分に意見を交わし定めていただいた賃貸借料金であるため、適正であると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　今のお話を聞きますと、十分話合いをして決めたというふうにおっしゃいますね。これは後でまたそこに出席された方のお話を聞いて、また次回に質問をさせていただきます。

それでは、５番目、書画カメラをお願いいたします。

会議資料では、３地区、鍋田、十四山、市江・弥富地区それぞれについて、10アール当たり、今１反ですね、300坪の賃貸借料金の算定根拠を示しているが、鍋田は米１俵分を基準に、そこから、どういうわけかこれは2,500円を減額した１万4,500円、十四山、弥富・市江地区は、土地改良費相当額をベースに、今年度、米代金が４割ほど上がっておることを考慮

し賃貸借料金を提案しており、十四山は9,900円、市江・弥富は9,500円としているが、これは、市役所が借手側のみ２回も事前会議を行い、公式の行政資料として提出しているものであります。同じような隣接の圃場条件の水田の中に、片や米１俵を基準にし、片や農家が負担している固定資産税分を意図的に除いて、税金と法的には同等の性格である土地改良区賦課金のみを基準にして米代金のアップ率を乗じるなどは、通常の頭脳では理解不能な算定方式と言わざるを得ません。地区が異なれば賃貸借料の算定根拠を勝手に変えているわけで、これでは一般農家が算定方法の実態を知れば、怒りが込み上げてくることになると思います。

同じ市内の賃貸借料です。隣近所です。同じ算定基準で考えた資料を行政文書として提供するのは、中立的、客観的、公平な立場の市役所が行うべき真っ当な事務とは言うべきじゃありませんが、果たしてこのように地区によって算定方式を勝手に変えるという不合理な手法がまかり通ることを市役所は黙認し、押し通すのか、見解をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市は、中立的な立場で弥富市農地賃貸借料金検討会議を開催して話合いの場を設定しており、貸手側と借手側双方の代表が十分に意見を交わし定めていただいた賃貸借料金であるため、適正であると考えます。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　先ほどから中立、中立と申し上げますけど、片やどうも中立性がないような解釈をしておみえになるようです。

では、次に行きます。

十四山地区、弥富・市江地区の算定ベースとして土地改良区賦課金のみを用いることの不当性についてお伺いします。

十四山、市江・弥富地区の賃貸借料金のベースは、土地改良区賦課金相当額だと算定し、農家が負担する公租公課である固定資産税相当額はベースに一切反映されていない。であるから、農地所有者であり貸手である一般農家は、当初から固定資産税分だけ赤字をベースに処理されているわけで、言わば踏んだり蹴ったりの算定方式と言わざるを得ません。その赤字をベースに、米代金が４割ほど上がったからアップしてあげるというのは、農家が何も知らないことを幸いに、借手側の言い分を押し切っていると言われても仕方がない。まともに行政をやっていれば誰もが気づくことですが、弥富市はこのような算定に一切疑問を持たないのか。これは借手側が示したのであるから市は関知しないというのであれば、事前に２回も打合せをして借手側と行い、市長名の会議開催通知と資料を構成員に配付しているのであるから、まさに市の行政資料そのものであり、市が責任を持って自ら説明すべきでありますから、市の見解をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　借手側が示した賃貸借料金の求め方や賃貸借料金を、弥富市農地賃貸借料金検討会議の場において、質疑回答など十分に意見を交わし定めていただいた賃貸借料金であるため、適正であると考えます。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　時間がなさそうですから、ちょっと次を飛ばさせていただきます。

次、８番目として、賃貸借料金の検討に当たっては、公租公課、他地区の類似圃場条件の賃貸借料情報など、実態を示す情報提供が不可欠であると思われるが、カメラをお願いします。

各地区の去年の賃貸借料の一覧ですが、賃貸借料を検討するには、貸手側が負担する公租公課の情報提供をすべきは無論、他地区の類似の圃場条件の賃貸借料がどうなっているかを具体的に示し、会議において相互に情報共有し、検討、協議すべきでは、行政として当然の作法であると思います。公租公課などは農家であれば当然知っているから、市役所は提供する気はないとでもいうような答弁を９月議会で建設部長がしております。必要なデータや資料は、行政として整理、提供すべきは当然であり、農家の方々が市の答弁を知れば唖然とすると思います。

ここで、類似の圃場条件で賃貸借料を改めて紹介しますと、昨年、令和５年のデータは、市江・弥富地区は１反7,000円、飛島は１万700円、木曽岬は平均で１万1,900円、十四山や市江・弥富地区とほぼ同等の圃場条件と考えられる三河の平たん地区の西尾市は平均１万3,300円、安城は１万3,600円、安城の中間管理機構の基準は１万4,000円、海津南濃地区は１万5,700円、総じて十四山、市江・弥富地区より高い額になっております。人口20万弱で自動車産業を中心に繁栄し、都市的な要素が強く、新幹線の駅まである安城市や人口17万人の西尾市でさえもほぼ倍の賃貸借料になっている実態があることは、行政としてきちんと会議資料に示し、会議の構成員に情報共有することが必須であることは当然であります。こうした情報を提供すべきことは、私はこれまでも議会で強く指摘してきたのでありますが、先月の会議では一切示そうともしなかったのはどのような理由があるのか、説明を求めます。

なお、付け加えておきますが、今行った質問内容は、生産組合長が事前質問書でもほぼ同じような質問を出しております。それに対する市からの生産組合長への回答は、今後の参考にさせていただくため、回答は差し控えさせていただきますとなっています。全く理解できません。情報共有するのが国の制度の趣旨からして当然のことであり、私からも議会質問で強く要求してきた経緯を無視するとともに、今回の市の態度は全く一般農家を軽んじるような、あえて言うならばなめ切ったような行政対応ではないかと感じます。

公租公課や他の類似地区の賃貸借料の実態などを含め、賃貸借料を検討、協議する上で必要な情報、データを客観的かつ公平にきちんと示すことが不可欠だが、先月の会議でなぜ示

さなかったのか、市として真っ当な答弁をお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市は、あくまでも話合いの場を設定し、中立な立場であると考え、市内それぞれの地区の作付条件等に見合った料金を検討会議の場で協議し、話合いの下で決定していただいております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　それでは、次に行きます。

農地賃貸借料の検討に関して、市は積極的な役割を果たすべきでは。

農地中間管理機構である愛知県農業振興基金から賃料検討の事務委託を受けているのであり、その規定によれば、機構が借り受けるときの賃料及び貸し付けるときの賃料については、農地法52条の規定により農業委員会が提供する借賃の動向等を勘案し、当該地域における基盤整備の状況と同程度の農用地等の賃料水準を基本とし、所有者及び貸付先の協議の上、決定することを原則とするとなっております。つまり、市役所は、貸手と借手の間に立って、行司役として積極的な調整をすることが義務づけられているわけでありますが、ところが、生産組合長が提出した事前質問書において、飛島村の令和５年賃料が１万700円なので、令和６年は一層上昇することは必至であり、今回の弥富市の資料のように４割アップを飛島村が行えば１万4,900円となり、これに対して令和６年の十四山地区の額が9,900円では農家に説明ができませんなどと指摘しても、市の回答は、借手側が示した内容となるので、直接聞いていただければと思いますという回答をされております。一切調整をするような気がないようなあきれた回答でありました。

令和６年の賃借料を9,900円とするとの資料作りを借手側の、事前に２回もやって整理しておきながら、貸手に対しては直接オペでやれというのは、農家をばかにして、行政として全く不公平、無責任と言われても仕方がない。農地中間管理事業規程に定めてあるように、所有者及び貸付先との間に立って積極的な調整を図るべきは当然の責務と考えるが、どうですか。答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市は、中立的な立場であると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　ちょっと中立的という言葉がさんざん出てきますけど、どうもそうでないように思います。

次、行きます。

農地賃貸借の地域の実態を踏まえた賃貸借料にすべきでは。

中間管理機構経由以外に相対で賃貸借料金を決めるような事例が多いとされる農用地利用

集積計画によるケースが弥富市内は大量にあり、実態として10アール当たり、１反、300坪ですね、米１俵、あるいはそれに見合う金額を支払うことが多く行われておる。弥富市内の借手側である、いわゆるオペレーターのホームページでも堂々とＰＲをされております。ここなんですけど、このホームページで堂々とうちは１反、300坪を米１俵で借ります。それか、お金でしたら１万三千幾らと書いてありました。ところが、最近このホームページをのぞきますと、これは削除をされました。今年はこの米１俵という言葉はホームページから消えました。今朝も見てきましたけど、出てきません。米が相当上がったからちょっと金額を考え直そうか、どういう意図があるか知りませんけど、米１俵というのは消えております。でも、実態は随分前から１反米１俵というのを、私らも、農業に関係がない人間でも大体聞いておりました。

それで、本年９月の市議会の答弁では、10アール当たり米１俵の賃借料の実態をこれまでは把握してこなかったが、これからはしっかりと確認する旨、建設部長は答弁しております。しかし、今回の会議にはそのようなデータが示されておりません。これでは適切な賃貸借料を客観的に公平に検討、協議することは不可能ではないかと思うのが常識です。先ほど示した農地中間管理事業規程でも、基盤整備の状況と同程度の農用地の賃料水準を基本としと書いてあります。その規定を守るべき立場の市役所は、10アール当たり米１俵の賃貸借料をデータとして提供すべきは当然でありますが、そのようなことを一切していない状況であります。

ちなみに、令和６年の米生産者仮渡し価格は、あいちのかおりで１俵１万7,000円、これに対して、農家への借地料は１反9,900円、これでは0.58俵分、市江・弥富地区では9,500円ですから、0.56俵分でしかありません。これでは公平・中立的な、客観的な行政を行うべき市役所として、極めて大きな問題である。一般社会では誰でも考えると思います。事務を統括すべき立場にある副市長や市政のトップである市長はどのように考えているのか、所見をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　農地法第52条の規定に基づく農業委員会による農地の賃貸借料金の情報提供については、現在、先行して弥富市農地賃貸借料金検討会議により定められた農地中間管理事業による賃貸借料金を市ホームページにて情報提供をしております。相対契約による利用権や農地法第３条許可による賃貸借権を含めた調査結果については、令和７年１月以降に情報提供をする予定としております。

また、本市は、検討会議とする話合いの場を設定することに対し、中立な立場で対応し、市内それぞれの地区の作付条件等に見合った賃貸借料金を検討会議の場で協議していただき、十分な話合いの下で賃貸借料金を決定していただきたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　それでは、次に行きます、時間もありませんので。

11番目、弥富市農地賃借料金検討会議の規約は、どのような手続を経て決定、成立したのか。

この会議規約は、今年６月30日まではありませんでした。これはどうも私の一般質問の後で急遽どなたかがつくったんであり、これを誰が一体つくったのか、最終決裁者は誰であったのか、行政事務を進める上で基本的な原則をしっかり踏まえて答弁をお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　弥富市農地賃貸借料金検討会議開催規約は、産業振興課が作成し、部長決裁となっております。

検討会議は、平成22年度から開始された農地利用集積円滑化事業をあいち海部農業協同組合が受付業務を行っていたときから開催され、事業の切り替わりによって、平成27年度から開始された農地中間管理事業の受付業務を市町村で行うことで、本市がこの検討会議を引き継ぎ開催しているものであり、市内部の打合せにより、検討会議を開催するには規約が必要ではないかと判断したことで作成したものになります。

また、規約は、会議の趣旨や構成員の人員事項等を定めているものであって、構成員に対し合意を得るまでの内容ではないと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　時間がありませんので、次に行きます。

昨年11月の賃貸借料会議では、構成員がオペレーター５名、それに対する生産者側は４名、アンバランスであり、そのことを私が９月議会で指摘したところ、今年は受託部会５名、生産者６名と数が変わっております。これはどのような権限で誰が決定するのかお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　議員より９月議会で指摘を受けたことを市内部にて協議した結果、貸手側と借手側の均等を図る上で、あいち海部農業協同組合生産組合の各支店副会長にも参加していただくように変更を行いました。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　ということは、適当にその都度、状況によってころころ勝手に誰かが変えられる、こういうような規約であるとしか思えません。

次、行きます。

農地賃貸借料金検討会議の運営状況等に対する市長、副市長の所見について。

農地賃貸借料をめぐっては、これまでも６月、９月、私から様々な問題点を指摘し、それを経て、11月６日に今年度の会議が開かれました。これを、昨年11月に開催された検討会議

で決まったとされる令和５年の賃貸借料を見ても、十四山地区が7,000円だったのに対し、安城では２倍の１万4,000円、その差は歴然、米価アップで弥富市同様、今年も安城市は大きく賃料を上げることでしょうね。令和６年中間管理機構の賃貸借料を十四山9,900円、市江・弥富9,500円と7,000円からアップしても、その差はさらに広がることも容易に想像されます。これでは同じような圃場条件、場合によっては安城などの他地区よりもよい圃場条件の水田を有するこの地域の農家は、泣きの涙に暮れ、泣き寝入りすることになります。

今回の質疑によって、弥富市のこの問題に対する取組姿勢、改良点、組織の在り方など様々な課題がたくさん出てくることは、市長をはじめ、十分分かっていただけたと思います。多くの農家は、この問題に重大な関心を持っておられるのであります。売手よし、買手よし、世間よしの三方よしという言葉がありますが、売手である農地の貸手側の農家、買手である農地の借手側のオペ、そして両者が折り合う形で農業社会の世間、いずれもが納得のいく三方よしの行政をぜひ真剣に取り組んでいただきたいと思います。

そこでお尋ねをします。

これまでの経過、実態、そして今回の質疑の状況を見て、市政を統括する立場の市長、そして行政実務を取り仕切る立場の副市長は、農地賃貸借料問題に関して関係部局が行ってきた、そして行っている行政の実態をどのように評価をしているのか。課題は何か。さらに、反省すべき点、今後正すべき方向をどのように考えているのか。一般農家はお二人の発言を大いに注目しているので、この際、明確に所見をお願いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　昨今の農業情勢は、依然として厳しい状況であることは十分把握をしております。また、農地は、私たちの生活にも必要な生産基盤であるとともに、この地域の主力産業でもあります。

農地中間管理事業に伴う賃貸借料金につきましては、先ほどから担当部長が答弁しているとおり、本市は中立的な立場であり、貸手側と借手側の代表が話合いを双方で重ね、お互いの賃貸借料金を定めていただきたいと考えております。そして、農家に対し、農業の体質強化とする収益性を向上させる支援制度を国、県、そして本市からも引き続き行うことで、農作物の価格が向上し、賃貸借料金に反映させることを期待しております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員、終えてください。

○８番（加藤明由君）　終わります。ありがとうございました。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後２時40分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後２時31分　休憩

午後２時40分　再開

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、佐藤仁志議員。

○１１番（佐藤仁志君）　11番　佐藤仁志。

通告に従って質問させていただきます。

今回２つやるんですが、１つ目、十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することについてということですが、この小学校再編校問題について、９月議会、12月議会と大きな問題となっています。

その間に、ごく普通の子供を持ち、恐らく仕事も持ってみえるお母さんたちが自発的に声を出したいということで横井議員に相談があり、たった３か月で、しかもエリアとしては関係するエリアだけで3,300を超える請願が出されました。大変重い請願です。

今回の議会でも、横井議員、那須議員、早川議員、それぞれ様々な角度で質問がされておりまして、若干重複するところがありますので、そこについては割愛しながら行きたいと思います。

ただ、１点お願いしたいのは、議会というのはあくまで対話をする場ですから、質疑を通して合意点を見つけなければ意味がないと思うんです。ずうっと聞いてきたんですが、恐らく住民の方は、小学校を改増するのと中学校跡地に新築するので、どう考えても中学校のほうが様々な面でいいだろうと、それは地元の方が一番よく分かっていますから。だから、そんな詳しい説明しなくても、それは中学校だよねということでこれだけ集まったわけです。それぞれ様々な角度で、こういう点で小学校には欠点があると、中学校にはそれはクリアするので小学校のほうがいいんじゃないですかという趣旨で質問してきたはずです。だけど、結局、答弁を注意深く聞いていると、いろいろ基準とか御希望はあるけれども、いろいろと意見を取り入れたり改良すれば、絶対的に小学校が駄目ということはないでしょうと、一生懸命やっているでしょうと、今まで一生懸命説明してきたじゃないのという答弁になっていますので、それはやめていただきたい。会話になっていないと思います。

ということは、結局、私たちを含め、議員を含め、この間、いろいろな方から電話をいただきました。お話も聞きました。結局、何で中学校はいかんのだと、そこがはっきりしない。小学校でもいいんじゃないのということなんかもう耳にタコができるほど聞かされましたけど、何で中学校でいかんのかと。この疑問が解消されない限り、地域の人は永遠に行政と議会に不信感を残すことになると思いますので、別に私に答えてほしいわけじゃないんです。市民の人が納得できるような、こうこうこういう理由で中学校は駄目ですというならそういうことを言っていただかないと、住民との理解が進まない、あるいは住民の中に不幸な対立が生まれてしまうということです。

１番は、今までの質疑の中でほとんどカバーされていますので、２番から行きます。

２番は、子供が学校を選べない以上、組織的な安全確保の責任は大きいということです。特に学校保健安全法、これは那須さんも言っていましたけど、津波に関して石巻市の大川小学校の裁判が問題です。

書画カメラ１お願いします。

これは、私が2019年に自分で行ってきたときの写真なんですが、先ほどの那須さんの質問に対して、平成26年の２月に石巻市が設置した防災の専門家による大川小学校事故検証報告書というものを市側のほうとしては引用されていました。これによると、要は現場の情報がなかったね、正直言って現場が間違えちゃったねということだったんです。それを聞いた亡くなった子供たちの親が、全然何が起きたかが具体的に検証されていない、真実が知りたいと言って裁判を起こして、その結果、最高裁で確定しました。

そこのポイントというのは、まさしくこの学校保健安全法のところなんですが、一番大事なことは、よく聞いてくださいね、通学区域は教育委員会ですよね、が、その弥富市の通学区域、どこへ行きなさいということを指定しちゃっているわけです。だから、今は栄南小地区の子は栄南小学校へ行きなさい、指定していますよね、教育長。うなずいていただきました。

この大川小学校の子供たちは大川小学校へ行きなさいと指定されていたということは、しかもそこの中で、学校教育というものは、学校の管理下というものは、大川小学校の事件では、学校管理下で子供たちが勝手に逃げなかったんです。勝手に逃げようという子もいたんです。だけど、先生がいや駄目ですと言ったら逃げられなかったんです。それで死んじゃったんです。

書画カメラ２お願いします。

これは実際にこの現地に行って、津波でコンクリートの壁があったんです。薄い壁ではありますけどね。その壁が完全に壊れて、鉄筋がむき出しになっているような状態です。このときに何が問題になったかというと、最初の判決では先生が十分じゃなかった、逃げ遅れた、極端に言えば先生が悪かったというのが一旦出たんです、地裁ではね。だけど高裁がそれを、いや、そうじゃないでしょうと、あくまでこれは組織的な失敗であると、その先生がちゃんと逃げられるような仕組みをつくっていかなきゃいけない。そこでいう先生というのは個人としての先生じゃないんですよ。この先生はいい先生、この先生は悪い先生と言ったら、その当たり外れがあってはならないんです。だって大川小学校行けと指定しているわけですから。弥富で言うならば、栄南小学校に行けと指定しているので、栄南小学校の先生がたまたまたるかったから逃げ遅れて死んだということはあってはならないんです。なので学校長、教育委員会、そして市長も含めて、組織的にそんなことがあってはならないんだということ

が、この最高裁の裁判で確定したんです。これが極めて画期的な裁判だったんです。

だから、今ここに座っていらっしゃる教育長、それから学校長、それぞれ個人としてでなく職として、この弥富市中の子供たちの命が預かっているということです。この裁判で１人１億円の賠償金が出ました。もらった賠償金で高級車買ったよねとかと言うと誹謗中傷がたくさんあったそうですが、賠償金をもらった親にしてみればお金が欲しくてやったわけじゃない、子供を返してほしいんです。だけど、目安として１億円の賠償が出て、それを二十何人で二十何億というものを石巻市が払っています。もちろん個人では払っていません。だからあくまでそういうことなんです。

だからそのときに、書画カメラ３お願いします。

どれくらい津波が悲惨かというのは、これは昨年、総務建設委員会で石巻市を見学したときの門脇小学校の、まずこれは校長室です。ここの場合は津波だけじゃなくて、津波の上に自動車とかいろんなものが浮いていて、そのガソリンだと言われていますけれども、引火して津波火災が発生して、学校の中がこんなに真っ黒になっています。

書画カメラ４お願いします。

これは普通の教室です。こんなことが現実に起きるんです。なので、何て言うんですかね、命を本当は預かっているんですよ。だから恐らく、公平に比べたら広くて高台になっているその中学校跡地で、きちんと新設の最新の建物を建てたほうが安全に誰が聞いたって分かるわけですよ。小学校は妥協していませんかというふうに住民の方は直感的に思っているわけです。それはそうですよ、自分の子供ですから。自分の子供はやっぱりベストの状態で命を助けてほしい、組織的に。だけどそれを値切ろうとしているわけですよ。極論すれば、いや２階に逃げればいいよとか。だって、死んじゃったら１億円払いますでは済まないわけです、親にとってはね。なので、弥富市は、再編統合小学校の子供たちの安全を確保するために組織的に、組織的ですよ、最善を尽くす責務があります。実際にこの教訓を踏まえて、その他水害がいっぱいありましたから、石巻だけじゃないんですが、文部科学省が水害リスクを踏まえた学校施設の水害対策の推進のための手引きとして、統合小学校は、水害等のおそれのある危険な場所に造らない。学校保健安全法の下に、学校設置者である市長の組織的責任として指示を出しています。

もう一度言いますが、通学区域の指定によって、子供や親は学校を選べないわけです。つまり、今、栄南小学校は安全だなと、栄南小学校に行きたいなと言っていても、よつば小学校に行きなさいと言ったら行かなきゃいけないわけです。学校の環境も安全も格差があってはならないという憲法と法律によって、弥富市はどのように認識しているんでしょうかと。子供たちの命を預かる市長としての政治家の倫理観を発揮して、中学校跡地で建設しませんか。子供が学校を選べない以上、組織的な安全確保の責務は大きいと思います。だから、安

全な場所に建設しなければならないことについて答弁を求めます。

２番です。１番はもう重なっていますので、２番の答弁でお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　十四山西部小学校の位置は決して危険な場所ではございません。

地盤については、海部地区全体が液状化の影響を受ける懸念がございます。既存校舎は耐震工事を終えており、また、躯体のコンクリートの強度は耐力度調査によりその強度は確認しておりますので、安全・安心な建物であり、倒壊する危険性は低いものでございます。

また、新築校舎は、液状化の影響を考慮した新耐震基準で設計を進めており、安全・安心な校舎でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　だからね、質問したときに、比較したら中学校のほうがいいでしょう、中学校になりませんかと言って前置きした上で聞いているわけです。だから、安全性について言えば程度の問題ですからね。誰かも言っているように切りない話ですよ。だけど、親と子供、地域の大人たちから見れば、どう考えても中学校のほうが安全だし、中学校で新築すれば建物がしっかりしていますから、そのことについてまたしても答弁をしていただけないわけですよ。再答弁しますか。

一応、今のやつは小学校でもしようがないでしょうという答弁にしか聞かれている方は取れないと思います。

次、３番に行きます。

高度成長期に建てられた躯体のリスクを甘く見ているということについて、昭和47年の西部小学校ですね。これ建築の専門家、これは設計サイドも施工サイドもいろんな方に意見を聞いていますけれども、同じ鉄筋コンクリート構造物といっても、太さも違えば中身が全然違うんです。考えてみれば、当時はコンピューターどころか電卓もありません。そろばんと計算尺の時代です。だから耐震設計の意味が違うんですよ。

ちょっと書画カメラ５をお願いします。

これは、十四山西部小学校の２階の窓から北側にある給食室の上のところで見つけたので写真を撮ってきました。躯体の壁ですね。これ、構造的に必要な壁についてひびが入っている。それからちょっと写真だと見にくいんですが、柱にも無数のクラックが入っているんです。それから２階の軒先、これ斜めに見てみると分かりいいんですが、もうぼろぼろ落ちてきています。何でかというと、やっぱり当時の鉄筋ですね。鉄筋の種類とかコンクリートの品質というものもあるか、施工の正確さ、厳密さ、現在すごくいろんな仕様とか検査をして、破壊検査をするとかやっているんですよ。それとは一緒になりません。

この件について、この躯体の安全性をどのように証明しますか、保証しますか。答弁を求

めます。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　先ほどの答弁にもありましたとおり、既存校舎の躯体の強度については、専門家による耐力度調査を実施し、その強度を確認しており、安全な校舎でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　これも専門家の方に指導いただいておるんですが、昭和56年、1981年以前の建物とそれ以後、それから2000年では全然違います。専門家が耐震基準を満たしていると言うのは、昭和56年以前の設計図ってそんなにちゃんとしているわけじゃないものですから、倒壊はしない、壊れるけど倒壊しないから、逃げ出すだけの空間と時間があるよということなので、例えば日の出小学校とそれを全然比べ物にならないわけです。だから、それがぎりぎりいいんじゃないのというのを、じゃあこの中学校で新築する場合と見比べたときに、親として地域として納得できないわけですよ。だから、その十四山西部小学校で全部盛土をして全部新築しますとでも言えば話は別かもしれませんけれども、そうでない限り、やっぱり納得できないということなんですよ。

次に高潮災害、④です。

高潮災害の教訓を軽視しているということについて、これについて、前の方も多少かぶるところがありますので、通告はしてありますので答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　高潮浸水による被害について、本市では、十四山西部小学校における南海トラフ地震発生時の想定津波が2.5メートルとされていますが、２階床高が4.15メートルあることから、２階以上であれば安心でございます。また、３階には広さが２教室分のカーペット敷きのマルチルームがあり、垂直避難をすることで避難が完了します。

また、キュービクルを屋上に配置し、浸水時の電源を確保するなど、安全な学校の建設を進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　またしてもその、まあこれぐらいでいいんじゃないのという話なんですが、先ほどの那須さんの答弁で、避難所の場所の標高はという質問に対して、たしか総務部長だったと思うんですけれども、弥生小学校はマイナス1.2メートル、弥生保育所はマイナス2.2メートルという答弁があったんであれっと思ったんですよ。だから、これって要はほぼほぼ道路とか校庭の高さをお答えになっているんですよね。

〔「違います」の声あり〕

○１１番（佐藤仁志君）　違いますか。床の高さ。

○議長（堀岡敏喜君）　質問と答弁とはっきりしてください。

○１１番（佐藤仁志君）　じゃあ質問します。

僕が聞きたいのは、要は１階の床の高さが一番肝腎なので、今の数字が１階の床の高さということなんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　建物の入り口付近の標高でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　ですよね。

１階の床の高さじゃないということが確認できましたので、それで、じゃあその十四山中学校は高台になっていて、海抜ゼロメートルぐらいのところに１階が来るように盛土をしたんですよね。十四山中学校が最初にできたのは昭和22年です。吉川博さんという方は私会ったことないんですけど、市長はお会いになったことありますかね、十四山の吉川博さん、ありますよね。

○議長（堀岡敏喜君）　質問ですか。

○１１番（佐藤仁志君）　はい、じゃあ質問です。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　はい、お会いしております。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　今の十四山中学校というのは、当時米の値段がすごく高くて、闇米なんかめちゃくちゃ高かったもんですから、昭和22年ですよ、だから誰も売ってくれなかった。その当時20代前半の吉川博さんという方が、頭を下げて回ってそれに協力しようということで、本当にやるべきことをやられたなと思うんですけれども、それでできたのがあの中学校なんです。

最初の木造校舎のときは低かったんだけれども、伊勢湾台風を経て、昭和60年頃かな、建て替えるときに、もうこれはやっぱり水害に強いように盛土をしないかん。で、みんな思い出してくださいよ。十四山支所だって福祉センターだってね、弥富市のいろんな公共施設、全部道路よりも高いじゃないですか。

じゃあちょっとせっかくなので、建設部長にお伺いしますけれども、この新市庁舎の１階床の高さはどうやって決められましたか。ちょっと記憶の範囲内で結構ですけど。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　新庁舎の床の高さは、ちょっと記憶ですけれども標高がプラス・マイナス・ゼロより上になるように、20センチ高くなる高さに設定したと記憶しております。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員に申し上げますけど、通告外が続いていますので、質問をし

っかり通告どおりお願いします。

○１１番（佐藤仁志君）　はい、分かりました。

この高潮などの災害の教訓でね、これは私、南海トラフのことはあえて通告していません。高潮になったときに、一旦堤防が切れたときには排水ポンプが動かなくなってしまった場合には、水がどうしても入っちゃうんです。伊勢湾台風の教訓に学び、防災の力を入れているんです。それは別に吉川博さん１人だけじゃないんです。みんながそうやって、弥富の町長も、みんながやっぱりただ単に２階に逃げればいいということじゃなくて、災害が起きて水がついてしまったらば、そこが救助、それから復興の拠点になるように必ず盛土をしてきたんです。海抜ゼロメートルプラスマイナスというのが十分かどうかは別として、少なくとも低いままでやってきたというのは前代未聞だと思うんですよ。

４番はこれでやっていますね。

５番は、一番肝腎なのは、新築が間に合わないと。それが新築よりも増築と改修が安くつくというのは、既に崩壊した理由にすぎないというふうに私は通告したんですが、この点について答弁をお願いします。５番です。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　この再編事業を進めるに当たり、これまで令和元年度に地域の保護者の方々へ子供の教育環境に関するアンケートに始まり、弥富市小・中学校未来構想、そして弥富市小学校再編整備方針の策定に当たり、建設費に係る将来負担の比較をはじめ様々な視点から検討し、議会にも報告しながら、再編校を令和10年４月に十四山西部小学校の位置に校名も新たに開校するよう進めてまいりました。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　これはもう既に言い尽くされたことなんですが、何て言うんですか、間に合うんですよ。ちょっとこの間、いろんなこの件については答弁のやり取りがあったもんですから、ここで新たなことをつけ加えさせていただくと、建築の専門家が間に合うと言うのは、日の出小学校が実質20か月で、着工から20か月でできているんですよ。なので、中学校で新築する場合は、来年じゃなくて再来年着工すれば令和10年４月に間に合うんです。だから、来年着工するまでに地元説明とかそういったことをやって、その間にもちろん建築解体するんですけどね。だから中学校で新築ということになれば間に合うんです。

専門家が言っているのは、何で今弥富市が慌てているかというと、小学校でいわゆる増築、新築に近いですけれども、それはやっぱり同じく20か月恐らくかかるでしょう。それができて初めて生徒と職員室がそっちへ引っ越して、それで今の北側のところが空くもんだから、そこで改修工事を残りの１年弱でやらなきゃいけない。だから大慌てでやっているということだと思うんですよね。

だから、中学校跡地でみんなが望んでいる。だからそれを見てもね、どう考えても中学校跡地でやれば余裕で間に合うのに、なんで西部小学校にこだわるのかなというのか、というよりは、やっぱり中学校で何でいかんのかなという疑問になってしまうんですよ。

６番に行きます。

スクールバスが使いやすい広い学校が地域の未来のために必要なことについて通告してありますので、６番の答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　スクールバスの安全運行については、現在、バス停の位置を保護者の皆さんと協議、意見交換をし、いただいた意見を基に、今バス停を精査し、ルートや車両のサイズ、台数を検討しております。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　これも比較の問題なんですよね。市側のほうとしては、小学校でも十分でしょうという答弁だと思うんですよ。確かにあると思いますよ。やっぱり中学校のほうがゆとりがあるよねということで、じゃあどうして中学校じゃ駄目なのということがやっぱり分からないんですよ。

それと、ちょっと昨日の答弁でびっくりしたのが、すぐ１学年２クラスがあっという間に１クラスになっちゃうと。そうすると、12教室を造っておいたから６教室空くので、そこに特別という話を聞いて僕はのけぞったんですけれども、あくまで地域の皆さんは２クラスができるということでやっているので、そこは学区再編になるか分かりませんけれども、結局南北に15キロでしたっけ、の長い弥富としては、スクールバスを使う学校が絶対に１校要るということですよ、最後までね。だったらそれはやっぱり駐車場が二百何十台も確保できる、県道からのアクセスもしやすい、要は中学校のほうがいいよね。だけどじゃあ何で中学校なのか、やっぱり分からないんですよね。

７番は、今までの前にやった方の答弁と重なりますので、飛ばして８番に行きます。

書画カメラ６お願いします。

結局、去年の説明会から中学校がいいという意見はあったんです。それは記録も残っているんです。それを放置したがためにこんなことになっちゃったんですけれども、これは模式図的にこのとおり造れというわけじゃないんですよ。これほどの熱意で、専門家の方がやっぱり中学校でやればこういうふうによくなるよねということを示してあるんです。

署名活動が起きた真の理由と住民が表明した意思の重要性について答弁をお願いします。８番です。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　署名という形で住民の方がお声を発していただいたことにつきまし

ては、重く受け止めております。

署名につきましては、先ほど議員が冒頭で詳しい説明をしなくても集まったと言われましたが、それも含め、今後は常任委員会において審査されると承知しております。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　詳しい説明というのはある意味簡単なんですよ。実は、９月議会の委員会で、今言われたのでお答えしますけれども、やっぱり比較表を示してほしいと、中学校の場合、小学校ので。作りますという答弁だったんですけど、出てきた比較表はお金の比較ぐらいで、建築家の方々が示したような、工事をするときに中学校ではすごい騒音もあるし危ない、ごめんなさい、小学校でやると危ないみたいな、そんないろんな比較表はないんですけど、それは結局、住民パワーでそういう表ができて、それが根拠になって中学校がいいんじゃないか。

ただ肝腎なのは、この問題について、私なんて大したこと真剣に考えていないと言われてもしようがない、地元の人が一番真剣に考えているし、地元のことは一番地元が分かっているわけですよ。だから僕は、専門家に聞いたり地元の人に聞いていろいろ表は作りましたよ。作ったけど、最終的には地元の方が、いやそれは中学校だわなと。だからどうして中学校が駄目なのということになるわけですよ。

９番お願いします。

市長の政治家としての英断で統合校の建設地を決定することについて答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　この再編事業は、小規模小学校がクラスや学年の規模が大きくなることで、集団の中で互いに学び、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨する中で学ぶことができる環境が必要であり、この環境を整えるため、保護者、地域、議会の協力の下進めているものでございます。

施設整備の面では、既存校舎は専門家による耐力度調査や耐震工事を終えており、安全・安心な校舎であり、また長寿命化改良工事に合わせてリニューアルを行い、魅力ある校舎にしてまいります。そして、新築校舎は新耐震基準に基づき設計し、安全・安心な校舎を整備してまいります。また、体育館におきましては、改修に合わせて空調を設置するなど、安全な教育環境を確保してまいります。

次に、再編校はスクールバスを導入してまいります。子供たちの通学の安全確保のため、アプリ等を活用し、安全の見える化の検討をしてまいります。また、バスの乗降時の見守り等に地域のお力添えがいただければと考えております。

引き続き、子供たちや保護者、地域の声を聞き、計画どおり令和10年４月に、地域に愛される再編校を開校できるよう、教育委員会と連携して事業を進めてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　という御答弁なんですけれども、昨日の横井議員の一般質問の最後に、あえて市長が挙手をされて、これだけは言っておきたいということでおっしゃったもんですから、私クローバーテレビ録画してありますので、昨日の夜、正確に文字起こしをさせていただきましたので読ませていただきますが、2021年11月24日には大変残念な痛ましい事件が残念ながら起きてしまったところでございます。御遺族の現在の心情、また関係者の方のお気持ちを察しますと、私は、まだまだ癒えることがないこのような思いに対しましては、しっかりと寄り添ってまいりたいと思っているところでございます。そういった御意見もある中で、十四山中学校として建築を進めていくことは、これはなかなか難しいことで、当初検討させていただきました。検討させていただいた結果、十四山西部小学校でということに本市は決めてまいりましたものですから、そのことを皆様方にも十分御理解をいただきまして、本市といたしましては、しっかりとこういった方々に寄り添い、また今後二度とあってはならない、本当に絶対にあってはならない事件でございますものですから、再発防止に努めてまいりたいと思っています。

ここで、僕はちゃんと文字起こししたので質問させてもらいますが、当初検討させていただきました、何を検討したんですか。検討させていただいた結果、十四山中学校にはしないということを決めたというのは、なぜ十四山中学校跡地にしないということを決めたのか、率直に簡潔にお聞きしたいと思います。答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　通告外ですよね、思いっ切り。委員会で議案の中でやってください。

佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　でね、これ電話かかってきたんですよ、これも。このときに傍聴席満席だったんですが、ざわめいた、あるいはどよめいたというか、何ということですね。この何という意味については、幾つも理由があると思うんですけれども、本当にこれもう言っちゃったら取消しできませんからね、これ、本会議で。これが原因で結局、幾ら中学校どうって三千何百人、僕ら議員も言っています。だけど、結局本当の理由はこれだということになっちゃったときに、これでこのまま西部小学校で突っ走っちゃったときに、誰が一番困るかって想像できませんか。だって、これが理由だとするなら、その関係者が、十四山中学校というのはさっき言ったように地域にとってとても大事な学校で、いっぱい卒業生がいますよ。僕は卒業生の人にも痛烈に批判されましたけど、いやそれはね、楽しいこともあるけど悲しいこともいっぱいありましたよと。だけど、みんなの思いが詰まっているし、やっぱりもう十四山のシンボルだと。逆に、あれを僕は不幸な事故だと思っていて、何かすごい悪意があってやったととても思えないもんですから、もう終わったことを、その事件がために、末代まであそこは公共施設にできない、学校にできない。じゃあ例えば転売したらいいんで

すか。転売したら民間が工場にするのは構わないんですか。もう二度とあそこは何も、いやそれはあり得ないんですよ。

加藤明由さんが思いついて調べましたけど、やまゆり園は確かに解体して新築しました。それから池田小学校はそのままで、記念碑だけでやっています。だから、それが理由だとしたら、やっぱり地域としては絶対納得できないし、それとね、僕は今ここをただしたいから聞いているんですけど、もしこれがその理由だとしたら、これは本当にその地域の中に恐ろしい問題を未来永劫残すことになってしまうもんですから、僕はやめていただきたい。

だから、そういう意味で言うなら、仮にこういう気持ちがあるんだったら、勇気を持って中学校で新築してしまえば全部リセットですよ。その方にとっても一時は悲しいし、それはもちろん癒えませんよ、永久に癒えないんだけれども、そのことによって、いや、あの人が反対したからあそこが小学校にできんかった、未来永劫使い物にならないという、あってはならないんです、だから。言いたくないんです、そんなことは。なので質問したいところなんですが、通告していないというふうに言われますから、あれします。

ちなみに、先ほど言い漏らしたんですが、土地改良で13基のポンプ場、僕もとても重要だなと思っていて、見学会をやったりして、すごくもう弥富の生命線だと思います。ただし、ＪＲ弥富駅のちょっと向こう、ＪＲの南に土地改良区会館かな、あれ３メーターぐらい盛ってあるんですよ。土地改良区なんかの入っている事務所、吉川博さんの銅像が建っていますけれども。それはそうですよ。だって、そのポンプ大事なんだけど、万が一のときがあったときに、きちんとそこの公共施設、拠点はちゃんと機能するようにということをやっているんで、やっぱり我々、吉川博さん１人だけじゃないですよ、みんなですよ。後輩も遺志を受け継いで、我々として最善を尽くす。それをこの議会の中で、さっきおっしゃる委員会の中で、本当にこれが最善なのか、そしてこれを評価するのは現在の子供、将来の子供ですよ。本当に僕、この議員やっているのも最近心苦しくて、何も成果が残せない中で。いつだって別に僕はもうあれですよ。ただここにいる以上、なすべきことをなす。なすべきことをなすということは、これ倫理という意味なんですけどね。だからそれは皆さんなすべきことをなしましょうよ。歴史が証明するわけだし、末代までそれが残る。毎回同じことになっちゃうんですけど、公務員の仕事は末代まで残る仕事ですから、そこは考えていただきたい。質問できないみたいなので、大きい２番に移ります。

大きい２番なんですが、あんまりこれも言いたくないんですが、不祥事が止まらない市役所組織の管理者責任についてお伺いします。

弥富の何が有名かというと、かつては伊勢湾台風、それから若い頃旅行したときは確かに金魚のまちねと言われたのが懐かしいんですけれども、もう今は、また新聞に載っている最低の町やなと言われるんですけれども、一連の不祥事に共通する問題として、17万円が金庫

から消えるとか事務手続ミス、それから730万円ですか、お金を国からもらい損ねて一般財源から補填。この件についてあんまり汚いことは言いたくないので、一連の不祥事に共通する問題点は、組織の管理監督能力ではないですか。答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　本市での度重なる事務処理の誤りによりまして、市民の皆様には多大なる御心配をおかけしましたこと、また市政における事務の信頼性を損ねたこと、このことに対して深くおわびを申し上げます。

こうした事態を真摯に受け止め、職員一人一人が法令等根拠にのっとった職務執行という公務の原点に立ち返り、それぞれの職責を着実に果たすよう真摯に取り組み、併せて風通しのよい職場づくりと人材育成や体制整備に関する組織的な取組に一層注力していくことにより、これまで以上に職員一丸となって、市民の皆様からの信頼を取り戻すため、全力で市政運営に取り組んでまいります。大変申し訳ございませんでした。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　私は共通する問題点というのはたくさんあると思うんですけれども、今回のやつが、例えば窓口でいつも500円もらうところをもらい損ねたとか、ふだんルーチンワークでやっているところで失敗すれば、それは確かに個人のミスですわ。過失ですわ。だけど僕は、ちょっと昨日の一般質問を聞いていて痛々しかったのは、いや、これって組織的な問題なんですよ。さっきの大川小学校と全く一緒なんですよ。だっていつもやっている仕事じゃない仕事、多少の共通点は別としても、ふだんやっていない仕事がそこに国から降って湧いたわけですよね。それを担当者、課長の注意というのはあれなんですよ。何事も言えますけれども、慣れていなければ、財政なのか会計なのか知りませんけど、あるいは前にやったことのあるような課、似た課とチェックをする。だってこれ、730万円の申請書じゃなくて何千万円の補助金申請をして、たまたま730万の穴が空いたということは、これは多分部長決裁ぐらいの話なんですよ。ただ、僕は部長も責めたくないんですよ。部長だって全部分かるわけないもんだから、それはお互いにチェック機能を果たさなきゃいけない。だから、そこの風通しの悪さというか、毎回言っていますけれども、次の質問になるんですね。

(2)事務方のトップである副市長の対策をする能力についていろいろ疑問を呈する声、私の耳に入ってくるもんですから、答弁をお願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　お叱りを受けたこと全てを糧にして、市民の皆様から信頼される行政運営と市民サービスの向上を目指してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　一生懸命やっていらっしゃると思うんですよ。ただ、一生懸命では

なくて、もう一度役所の原点に返ってほしいんです。私も実は役人やったことがあるんですけど、役人は逆に凡夫であるべきなんです。アップルのスティーブ・ジョブスみたいな天才は危ない。だから凡夫であるべき。だから凡夫であるべきということは、要するにどんな仕事一つやっても自分はミスを犯す、大したことじゃないということで、横とか上に常にチェックを求める。あるいは管理者は絶対に失敗を起こすから、起こさないようにチェックをかけるという仕組みをつくってほしいというのをこの質問の意図に入れているんです。

先ほど部長決裁と言いました。だけど僕は、730万結局市長の責任は免れないということを今から説明しますが、というのは、基本的にはさっき言うように、全て個人じゃなくて部長さん、課長さん個人が仕事しているんじゃなくて職としてやっているわけです。だから、市長が全て最後は判こを押すべきなんです。だけど、そんなことをやったら書類まぶけになるもんだから、この程度のことは副市長、大抵のことは副市長で終わるんですけどね。この程度のことは部長、この程度のことは課長という決まりを決めてやっているということです。なので、そういう意味で、これね、ボタンの掛け間違いはね、発生したときに課長、部長で済ませちゃったことだと思うんですね。だって、17万円のときには部長もたしか懲戒でしたよね。教育長に至っては辞任されましたからね。

だから、今回の問題も730万円のことの重さを考えたら、悪気はなかったと思いますよ。誰一人として。だけど、範を示すという意味で言うならば、ちゃんと部長とか副市長とか市長が、これは組織的に失敗しましたと、もう二度とこういったように組織的にしませんというふうにやれば、その後の例えば繰越充用でしたっけ、そういったことも恐らくなかったと思うんですよ。

ちょっとこれは通告した時点で分からなかったので、通告ないと言われればそうなので答弁いただけないかもしれませんけど、横井議員の答弁を聞いていて、やっぱりおかしいよという声をやっぱり公務員仲間から来るんですよ。何でかといったら、公表基準がなかったから公表しなかったということをおっしゃるんですが、公表基準なんて基本的に要らないんですよ。だって、行政のベテランの副市長と決断をする市長が相談すれば、これは事の重大さ、市民からいったときに公表すべきかどうかというのは、その人たちが決めるんだから。後で決めました、基準決めました、そのときにそれは公表すべき案件だったわけでしょう。ということは、その時点で基準があってもなくても公表すべきだったわけですよ。というのは、本当は質問したいんですけど、その基準って誰が決めますか。基準というのは、副市長が案を取りまとめて、市長が決裁して基準を決めるわけですよ。だから、自分であのときには基準がなかったからやりませんでしたというのは、いや、あのとき基準があろうがなかろうが、必要かどうかを判断するのは市長と副市長ですからね。

だからそうなると、３番、最後質問します。

弥富市の出す情報がもう信用できないことについてです。

というのは、その失敗したということを僕責めていないんですよ。責めるべきかもしれませんが、その後の対応です。対外的に議会やマスコミにどのように報告するかは、事務方のトップである副市長が案をつくって市長が決裁するのが普通です。だけど、聞いていると、説明がことごとくさっきみたいに後ろ向き。だからもう住民の人ははっきり言って隠蔽じゃないかと言うわけですよ。あるいは弥富市の出す情報も全て信用できないと言われちゃっているんです。これが民間企業であれば、これは僕が言っているんじゃないですよ、即時に、百歩譲って次同じことをやったら辞めますと言う、普通は言うわなと言われています。答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　私は、職員が小学校の再編、保育園の民営化、橋上駅舎化、自由通路事業、土地区画整理事業など、大きな懸案事項の解決に向けて意欲的に取り組む姿、そして、コロナ禍明けの数々のイベントでは、思いやりの心やおもてなしの心を持って行動する姿、そして限られた職員の中で新たな行政課題や住民ニーズに誠意を持って対応する姿を大変頼もしく思うとともに、職員の事務処理の手続の誤りがあったとしても、私は職員を信頼しております。

事務処理誤り等は、公表することにより、市の行政運営の透明化を確保するとともに、これを市政全体で事案を共有して、事務処理手続の誤りの再発防止、さらには再発防止につなげ、事務処理手続誤りを起こさない職場づくりに取り組み、市民から信頼される行政運営と市民サービスの向上を目指してまいります。

信頼を回復するには時間がかかるかもしれませんが、職員一丸となって適正な事務執行に努め、信頼回復に努めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　佐藤議員。

○１１番（佐藤仁志君）　先ほどの答弁で、職員を信頼しています、多分されていると思うし、そこは信頼しています。だからこそ、身内に対して、僕は何度も言っていますけれども、僕はどっちかというと大きな組織にいてもまれましたから、もうあちこちから、信頼されていないというか、ミスがないかミスがないかと言われ続けるわけですよ。なので、カフェの中で御意見があったそうですけれども、もう内部で結局これだけ何回やっても、対応策しました、しましたと言っても結果が出ていないんだったら、外部から人を呼んで、それは民間コンサルタントなのか、あるいは官公庁から呼ぶかは別として、それを真剣に考えたらどうですかということを言われています。

今回の、特に730万の件に関して、非常に僕は大きな問題だと思っています。というのは、横井議員が何かおかしいんじゃないかと言って、９月議会の決算認定ですよね、決算認定の

数字を全部突き合わせたときに、合わない数字が出てきて分かったんです。これパズルじゃあるまいし。だから何度も言っているじゃないですか、やっちゃったことはしようがないんですよ。だからそのときに行って、まずは監査委員にこうでしたと言わなきゃいかん。だって今、監査委員に恥かかせたわけでしょう。監査委員が横井議員みたいに突き合わせしなかったから、監査委員はそれを見つけられなくて、これ適正ですといって議会に報告しちゃったわけですから、もう二度とこれを消せませんからね。

横井議員が見つけたと。慌ててというのは昨日の横井議員の一連の質問なんですけれども、そうすると結局、今の安藤・村瀬体制になってからの何回かの決算認定、僕は個人的には反対させてもらいましたけど、皆さん承認された中身を見て、僕は下水と自由通路の件以外についてはまあいいんじゃないと正直言ったんですけど、もう信用できないですよ、今までの決算認定。だから議会に恥をかかせたということですよ。僕らは見つけられんかった。横井さんが見つけたからそういう意味であれですけど。

もう一つはほかにないかという保証がないですからね、これはね。なんです。

何でこうなっちゃったかということを僕も、僕は正直言うと、あまり僕がここで言って担当とか部長を苦しめたくないんです。苦しめちゃっているとは思いますけど。だからもう一回言いますけれども、あの事件が内部で発覚したときに、潔くトップもすみませんと言って、いや部下が失敗しました、これは組織の失敗なんで、部下は悪くないとは言いませんけどやらかしましたと言えばね、その公表基準についてもそれは当然、市長、副市長、部長、課長、一連のラインがミスったと、やらかしたということになれば、恐らく自然に公表だったと思うんですよ。これは市民の人に言われているんですけど、でも結局、それは選挙があるから出したくないわなと言われちゃうんですよ。僕はそう思いたくないので、そこは基本的にはオープンにしてください。

そんなような状況の中で、学校の問題についてちょっと答弁をいただけないんですが、今日の一般質問の締めくくりとしては、やっぱりその事件が、この中学校駄目だと。そうすると、今までの答弁のやり取りは全部無駄だったということですよ。だってこっちは分かっていますよ、小学校に欠点がある。だけど、それは100％駄目かと言ったらね、中学校と比べたら明らかに劣っているよ。だから中学校と言っているのに、だから今までやってきたし、中学校でいけませんかという繰り返しなんだけれども、その中学校はもともとそういう事件があったから駄目だと最初から言ってくれなければ、僕らも無駄なことやったわけだし、恥をかかされたわけだし、僕らが今度地元に帰って住民に何て説明するんですか。それともこの事件以外にもっとほかに隠された、何か中学校にしちゃいけない事件があるんでしょうか。何か答弁をいただけないみたいですので、非常に当惑しているというか。

ごめんなさい、僕が最初のところに戻りますけれども、対話がしたくて一般質問している

んです。だから反論があったら別に挙手して反論していただいて結構ですよ、横井さんのときみたいに、言い過ぎなら言い過ぎだと言って。僕だって一緒に弥富市をよくしていきたい。今日の議会というのは未来永劫残るわけですよ。今回の議会でまだ評決がされていませんけど、それは弥富市の未来、だって希望ですよ、学校というのは、この地域の。確かに昨日の答弁で、調整区域だからそんなにおいそれと人は増やせませんと、それは事実かもしれない。だけど、議会は全会一致で中学校にするということだけじゃなくて、地域振興をやってくれというふうにお願いしているじゃないですか。それはできませんよと木で鼻をくくるようなことをしておいて、いやだから今は12教室２クラスだけど、いずれ１クラスだからいずれ減築しますというのを昨日言われて、住民の人は、学校こそ希望ですよ。いろいろあるけどね、個人財産でいろいろ頑張るけど、公共施設というのはやっぱり学校以外ないでしょう。その学校がみんなの希望の星であり続けなければならないということに対して、今回の議会、私の質疑だけじゃなくて、一連の質疑全部ひっくるめて、小学校で仕方ないで、中学校に比べて見劣りするけどこれで我慢してというふうになっちゃうじゃないですか。だけど、最後の最後、中学校なぜいけないかということいまだに分からない。僕はそんなことだと思いたくないですもん。それ言っちゃったら、だっていかんもん、かわいそうだもん、そんなこと。だから僕、認めませんよ。あの事件があったから中学校を弥富市は選択しなかったと、僕は認めたくありません。だってそんなことをしたら、その亡くなった子に対して失礼だし、その関係者に対して末代までも僕が何かあれしているから、僕はそれは絶対認めたくないと思います。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後３時45分とします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後３時35分　休憩

午後３時45分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、江崎貴大議員。

○１２番（江崎貴大君）　12番　江崎貴大でございます。

通告に従いまして２題一般質問をいたします。

１題目は重層的支援についてです。

昨年の10月に厚生文教委員会で先進地に行政視察に伺い、また昨年の９月定例会で堀岡議員から、そして12月定例会にも私から重層的支援体制整備事業に関しての一般質問をさせていただきました。

重層的支援体制整備事業とは、既存の介護、障がい、子供、生活困窮の相談支援等の取組

を十分に活用しながら、地域住民やその世帯の多様化・複雑化した困り事を受け止める包括的な支援体制を構築し、属性を問わない相談支援、多様な社会参加に向けた支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業です。

弥富市では、今年度から地域福祉計画の策定に取りかかっており、それに併せ重層的支援体制整備の実施・計画を検討しているところだと承知しております。

確認の意味と、それに関連して質問をさせていただきたいと思います。

まず初めに、今年度から２か年で策定する予定であります地域福祉計画の進捗状況をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　今年度より２か年かけて策定いたします第１期弥富市地域福祉計画でございますが、現在までの取組としては、庁内の関係課長及び関係機関職員で構成する地域福祉計画策定に係る関係機関調整会議を立ち上げ、主に策定委員会の資料作成に向けて横断的に協議を行っております。

また、保健医療・社会福祉・高齢福祉・障がい福祉・児童福祉・教育・地域団体等の関係者が委員として構成しております弥富市地域福祉計画等策定委員会を設置し、令和６年10月に第１回の策定委員会を開催したところでございます。

策定委員会では、弥富市の地域福祉に関するアンケート調査（案）に対しまして、各分野の委員から御意見をいただき、修正した調査票により、令和６年11月に16歳以上の市内在住者1,500人を対象としたアンケート調査を実施いたしました。今後は、アンケート調査の結果を内容を分析し、計画素案の作成に向けて地域福祉の課題抽出等を行っていく予定でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　地域における高齢者の福祉、障がい者の福祉、児童の福祉、その他の福祉の各分野における共通的な事項を記載する、いわゆる上位計画でありますので、引き続きしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

さて、昨今の地域福祉の複雑化、複合化したニーズに対応するため、包括的な支援体制の整備として、重層的支援体制整備事業の重要性や必要性は認識されているところかと思います。

今後策定される地域福祉計画の中に、この重層的支援体制の整備をどのように盛り込むのか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　地域福祉計画は、分野別の各福祉計画の上位計画として位置づけられており、各分野共通して取り組むべき事項を定めることとされてお

ります。また、地域共生社会の実現に向けて、地域生活課題等を踏まえ、地域福祉を推進するための目標を設定し、市民、関係機関、行政が一体となり、地域課題の解決に向けた体制や仕組み、資源の整備を計画的に推進するものであります。

このような考え方に基づき、地域福祉計画においては、全世代・全対象型の地域包括支援体制の構築に向け、社会福祉法第106条の３第１項の規定に基づく包括的な支援体制の整備に係る事業として重層的支援体制整備事業を位置づけ、計画内に盛り込む考えでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　社会福祉法により包括的相談支援事業が規定されており、属性や世代を問わず包括的に相談を受け止めること、支援機関のネットワークで対応すること、複雑化・複合化した課題については、適切に多機関協働事業につなぐことが求められています。

支援機関や支援者にとって課題の１つが、相談窓口を設置しても必要な人にちゃんと届いているのかということだと聞きます。重層支援の大きな核の一つである属性を問わない相談支援を行うに当たり、必要とする人に行き届くように相談窓口をどのように工夫するのか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　重層的支援体制整備事業の実施に際しては、既存の相談支援等の取組を生かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制として、属性、世代を問わない相談、地域づくりの実施体制の構築が求められます。

今後、この包括的な支援体制としての相談窓口を設置するに当たり、社会福祉法第106条の４第２項各号に規定されている多機関協働事業等の機能を持たせ、一体的に展開することで一層の効果が期待されているところであります。その機能の一つである関係機関とのネットワーク等の中から潜在的な相談者を見つけたり、支援が届いていない方に支援を届けるアウトリーチ等を通じた継続的支援事業を実施し、可能な限り支援が必要な方へアプローチを行ってまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　ただいま御答弁いただいたとおり、社会福祉法により多機関協働事業が規定されており、市町村全体で包括的な相談支援体制を構築すること、重層的支援体制整備事業の中核を担う役割を果たすこと、支援関係機関の役割分担を図ることが求められています。

先ほどの包括的相談支援事業においても、複雑化・複合化した課題については、適切に多機関協働事業につなぐこととされており、重要な役割となります。

重層的支援体制の整備を行っていく中で、庁内の体制をどのようにつくっていくのか、お

伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　先ほど答弁しましたとおり、このたび庁内の関係課長及び関係機関職員で構成する地域福祉計画策定に係る関係機関調整会議を立ち上げたところでございます。この会議は、健康福祉部の全ての課、学校教育課、企画政策課、弥富市社会福祉協議会、海部南部権利擁護センターの職員で構成しております。

現在は、主に策定委員会の資料作成に向けて横断的に協議を行っておりますが、重層的支援体制の整備においては、この会議体を引き続き活用し、必要に応じて他の部、課や関係機関等の参加を要請しつつ、庁内連携の促進を図ってまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　受けた相談内容によっては、健康福祉部局にとどまらず、市民生活部局や建設部局、総務部局との連携も必要となってくることもあるかと思います。実際に昨年の視察の際には、猫の多頭飼い、空き家の問題、滞納の問題なども絡む重層支援だからこそ受けてきた複雑化・複合化した相談ニーズがございました。ぜひ全庁的な連携体制、支援体制を構築していかれますようにお願いいたします。

次に、中学卒業後あるいは高校入学後の不登校・ひきこもり対策について伺います。

中学校までは義務教育であり、学校の先生をはじめとする多くの大人の方の支えによって、何とかつながりや関係性を保つように努めることができます。また、行政としては、中学校までは教育の管轄になるかと思いますが、その後、ひきこもりの案件となれば福祉の管轄になっていくかと思います。ほかの自治体ではこのような案件も重層支援で取り組んでいると伺いました。中学卒業後、また高校入学後の不登校・ひきこもり対策はどのように行っていくのか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　現在、相談者の年齢に関わらず、健康推進課をひきこもりの最初の受皿となる総合相談窓口として定めており、相談を受けた保健師が、内容に応じて関係課や関係機関につなぐ体制を取っております。

また、子供の相談体制として、スクールカウンセラーによる小学生から高校生までの子ども相談室カラフルを開設しております。カラフルでは、小学生から高校生の児童・生徒、またその保護者も対象として、不登校やひきこもりの相談をお受けしております。

今後、包括的な支援体制としての相談窓口を設置するに当たり、相談者がどこに相談すべきか混乱が生じないよう、既存相談窓口の位置づけを整理していく必要があると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　不登校経験のある子を持つ親は、無事に高校に進学したとしても不安を抱えていると聞きます。高校に通学するとなると電車で名古屋に通うことが多いかと思いますが、ちゃんと学校に行っているのか、どこかでトラブルに遭っていないかなど不安に思うようです。子供の心の疲れとともに、保護者も心の疲れを抱えています。

無理に学校に行かせる必要はないとは思いますが、義務教育時代と違って退学や留年の可能性もあり、中学生までとは地域との関わりも希薄になっていくことが多く、孤独・孤立に陥っていくおそれもあります。

不登校経験のある中学卒業者またはその保護者への関わりはどのようにしているのでしょうか。また、今後どのようにしていくのか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　教育支援センター「アクティブ」に在籍していた生徒や保護者には、中学校卒業後も関わっている方がおります。また、先ほどの質問で答弁申し上げましたが、カラフルでの相談体制で、中学卒業後の子供や保護者も対象にして対応しております。

ひきこもり支援においては、家族への支援は非常に重要であり、場合によっては家族支援が本人支援へつながることも考えられます。また、家族支援を行うためには、家族に寄り添いながら信頼関係を構築していくことも必要だと考えます。

今後、支援が必要と考えられるケースを把握した場合は、関係機関と連携の上、家族支援の視点を念頭に対応してまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　ひきこもりがちの子でも、習い事には行けるだとか地域のイベントには参加できるという話も聞きます。少しでも地域にだけでも出てきてもらえると、社会との関わりの糸口になれるかと思います。

地域での居場所の創出や案内はどのようにしているのか、また今後どのようにしていくのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　現在、愛知県ひきこもりポータルサイトにおきまして、ひきこもり相談窓口として、あいちひきこもり地域支援センターが紹介されているほか、地域における相談支援や居場所の提供を行っているＮＰＯ法人等が運営する団体の取組等がガイドマップとして掲載されております。また、令和７年３月に策定予定の弥富市こども計画において、養育環境等に課題を抱え、家庭や学校に居場所のない児童等の包括的な支援を目的とする児童育成支援拠点事業の実施を目指していく考えでございます。

いずれにしましても、地域での居場所づくりは行政のみで行えるものではなく、地域住民

等が主体となり、地域課題を解決できるような取組を実施することが重要と考えております。そのような取組を行政として支援するには、地域福祉のコーディネート役であるコミュニティソーシャルワーカーの配置が必要であると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　うちのほうの地域でも、学校では悩みを抱えている子が、神楽太鼓の練習のときは生き生きして練習に来たり、太鼓の発表会のときには同世代の仲間やおじ様方と楽しそうに会話をしており、よそで聞くような苦しんでいたりする様子は一切考えられないような子がいて、この子にとってはこの居場所が必要なんだなとしみじみと感じたりします。そのような場がそれぞれの子にとって存在し、また出会えるような地域になってほしいという思いで質問させていただきました。

続いて、文部科学省による不登校の定義は、病気や経済的な理由といった事情がなく、年間の欠席日数が30日以上となった状態を指します。ただ、一概に不登校といっても個々により原因が異なり、また１年中登校できないのか、週に１回登校できないのかなど、欠席数によっても見えてくる課題が異なってくると思います。

課題解決のため、不登校児童・生徒を欠席数別に分析してはいかがでしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　学校からは、児童・生徒の欠席日数等を毎月報告していただくとともに、欠席理由や状況につきましても報告をいただいております。そして、個々の欠席の傾向も共有できており、その上で児童・生徒一人一人に向き合った対応を行っております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　全て個別に把握されていて、それぞれの子に対して個々に支援し、手が届いているということであれば一番よいことですので、引き続き対応していただけたらと思います。

層ごとに課題解決できればと考えたため、質問をさせていただきました。

続いての質問は、様々な理由で教室に入るのが難しい子供たちが安心して通える学校内のスペースとしてスクールサポートルーム、ＳＳＲの設置の考えをお伺いするものですが、昨日の平居議員の校内教育支援センターと同様のものを意味しますので、質問は割愛させていただきます。学校に通えるようになるための一つの手段だと考えましたので、質問とさせていただきました。

続いて、海外にルーツのある児童・生徒のコミュニケーションにおけるトラブルはあるのか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　近年、本市では日本語が話せない外国にルーツのある転入生が増えております。小・中学校に通学している児童・生徒の中には、日本語が話せない子もいます。また、国籍も様々ですので、アプリや翻訳機を活用しコミュニケーションを取ることもございます。

しかし、子供たちはすぐに打ち解け、お互いを認め合いながら過ごしており、大きなトラブルについて伺っておりません。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　外国にルーツのある子が日本語を理解できなくてコミュニケーション不足になっているのか、言語発達遅滞によってコミュニケーション不足になっているのか、その判断によって受ける教育または療育が変わってくると考えられます。

このようなことへの対応をどのように行っているのか、また整理ができているのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　増加する外国籍児童に対する支援として、市立保育所では、就学前の年長児童に日本語の読み書きを教えるプレスクール事業を実施しております。学校においては、日本語指導が必要な児童・生徒に対し、個々の日本語習得状況に応じた指導体制を取っており、日本語指導員により授業時間内に日本語の初期指導を行っております。

指導を行っていく上で、簡単な日本語の習得に時間がかかる、何度説明しても十分に理解できないなどの状況が見られる児童・生徒には、障害等も視野に入れて保護者にお伝えし、療育や特別支援級への転籍等、必要な支援につなげていくこともあります。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　外国籍の児童の子は、日本語の習得の課題が原因なのか発達の遅れが原因なのか見極めた上での支援が必要ですが、その見極めに難しさがあるように感じます。適切な支援につながるよう、引き続きよろしくお願いいたします。

このような子たちも対象になるのかもしれません。また、障がいのある子供たちを地域社会で支える中核であり、重層的な地域支援体制の構築を目指す児童発達支援センターの設置に向けた進捗状況はどのようになっているのでしょうか。また、このセンターの役割をどのように想定しているのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　児童発達支援センターにつきましては、第７期弥富市障がい福祉計画・第３期障がい児福祉計画において、令和８年度末までに海部南部圏域での設置を目指すこととしており、現在、蟹江町及び飛島村の担当課と継続して協議を

行っているところでございます。

この児童発達支援センターには、幅広い高度な専門性に基づく発達支援、家族支援機能、地域の障がい児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能、地域のインクルージョン推進の中核機能、地域の発達支援に関する入り口としての相談機能の４つの中核機能が求められております。

そのような中、令和６年７月にこども家庭庁より、地域における児童発達支援センター等を中核とした障がい児支援体制整備の手引きが発出され、児童発達支援センターが中心となる中核拠点型の形態に加え、複数の事業所等が共同し、地域全体で中核機能を発揮する面的整備型の形態による体制整備の考え方が示されました。

いずれにしましても、身近な地域で４つの中核機能の提供ができる体制を整備していくことが重要とされており、今後、面的整備型も含め、この地域の実情に沿った形態でのセンター設置に向け、引き続き協議を行ってまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　近隣自治体では児童発達支援センターの設置が進んでおりますが、センターに期待する機能や実施主体などを整理して、利用者、事業者にとって有用な地域資源となるよう整備を進めていただきたいと思います。

最後に、重層的支援体制を整備していく中で、コミュニティソーシャルワーカーを導入している自治体もあります。地域で困っている人を支援するため、地域の人材や制度、サービス、住民の援助などを組み合わせたり、新しい仕組みづくりのための調整やコーディネートを行ったりする役割を果たし、その対象者は高齢者や障がいのある人、貧困家庭、単身者、外国人など広範囲にわたります。コミュニティソーシャルワーカーの導入についての考えをお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安井健康福祉部長。

○健康福祉部長兼福祉事務所長（安井幹雄君）　地域福祉のコーディネーター役であるコミュニティソーシャルワーカーにつきましては、現在、本市では配置をしておりませんが、地域福祉において連携をしている弥富市社会福祉協議会に１名配置されており、地域において支援機関につながっていない要支援者を把握した場合は、市や関係機関と連携し対応に当たっているところであります。また、地域福祉計画策定の過程においても随時参画していただいております。

今後、重層的支援事業における多機関協働事業の実施を検討するに当たり、当該コミュニティソーシャルワーカーの方に中核的な役割を担っていただきたいと考えており、引き続き弥富市社会福祉協議会と連携の上、重層的支援体制の構築を進めてまいりたいと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　他の自治体でもコミュニティソーシャルワーカーの存在は大きなものになっており、期待されております。その一方で、本来はチームで解決したほうがいいものを抱え込み過ぎているという課題もあるようです。課題解決チームがもっといい方向に機能するように、また、コミュニティソーシャルワーカーが中心にはなりますが、相談者を支えるサポート体制をしっかりつくっていく、そのようなことを意識して、今後の支援体制の構築、コミュニティソーシャルワーカーの活用、整備を考えていただきたいと思います。以上で１題目を終わります。

２題目は、市内中小企業への支援について質問していきます。

10月25日に総務建設委員会で、大阪府八尾市の中小企業地域経済振興条例について、行政視察に伺いました。中小企業の発展とまちづくりの好循環を目指していました。中小企業の支援を行うことで中小企業が発展し、それにより雇用が生まれたり、企業の売上げや従業員の収入が増えたりし、またそれにより雇用や消費が拡大し、税収が増え、市民サービスの向上につながるという、まちの発展への好循環が生まれるという考えから、中小企業支援を進めているとのことでした。

この視察を受け、質問をしていきます。

まず初めに、弥富市内の中小企業の数をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　令和３年の経済センサスによりますと、約1,800件の事業所数となっております。

○議長（堀岡敏喜君）　ちょっと待ってね。

すみません、傍聴席の方、私語は慎んでください。

江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　市内中小企業の活性化に向けた方策をお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市では、愛知県信用保証協会の借入れに伴う信用保証料の助成による金融支援や創業支援としまして、弥富市、大治町、蟹江町、飛島村の４市町村及びそれぞれが管轄する商工会との合同で創業支援等事業計画を策定しており、経営・財務・人材育成・販路開拓の４つの知識が身につく講義を受けた者に対して証明書を発行し、登録免許税の減免等の特例措置や日本政策金融公庫による創業者への融資制度の紹介などを行っております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　現在、中小企業への支援としては、金融支援や創業支援をしている

ということでした。

ここから具体的に質問をしていきます。

八尾市では産業振興会議が設立されており、市民や商工業者からの声を聞き、市内産業の状況やニーズなどを把握されていました。具体的な施策を推進するための重要な機関として機能し、その中で有効な施策が提言・検討なされており、地域経済の発展を目指すために市が産業界と協働している様子がうかがえました。

そこで、弥富市内の中小企業からの相談や意見を受ける仕組みはどのようになっているのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　相談や意見を受ける窓口としましては、本市の産業振興課及び弥富市商工会や金融機関などを中心とする認定支援機関により対応をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　八尾市では、産業振興会議という場を持って意見を伺う場、また意見を反映させる場としています。弥富市でもこのような場がないかということで質問させていただきましたが、市役所、商工会、認定支援機関を窓口として対応しているということでした。意見を伺う場、また意見を反映させる場をどのように支援していくかは、また改めてお伺いします。

雇用や販路拡大のためにどのような企業なのか、どのような商品を扱っているのかを知ってもらう機会は有用であると考えます。八尾市でも、ものづくりを担う企業の魅力を発信する場をつくったり、オンライン工場見学会を開催したりと、認知度のアップにつながるような支援を行っていました。また、児童・生徒に対しても、市内の企業を知ってもらうのは将来への投資として有用であると考えています。実際、八尾市でも地域の将来を支える子供に、地域の仕事やものづくりの楽しさ、魅力を伝える活動を意識してしております。

弥富市の中小企業の情報発信への支援はどのようにしているのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　本市主催の各種イベント等におきまして、弥富市商工会が企業ＰＲのブースを設けており、創業支援のＰＲについても行っております。また、児童・生徒への働きかけといたしまして、職場体験、キャリア教育を通じ、地元企業の理解を深める取組を行っております。

特に職場体験では、１週間ほどの期間ではありますが、仕事への向き合い方や仕事の難しさなどを伝えながら関わることの取組は、企業にとっても貴重なものであると考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　イベントに自分が行ったときにＰＲをしているというところは失念しておりましたので、今後は意識して見てみたいなと思います。

職場体験においてもキャリア教育としては有意義だと感じますが、情報発信という意味では少し心もとないなと感じております。小売業、飲食業、公の施設がほとんどであり、そのほかにある多くの優良な中小企業ももっと知ってもらえるような支援を望み、こちらも改めてお伺いします。

八尾市では事業者の交流も盛んでした。事業者同士で交流することで、情報交換であったり新たな人脈形成や可能性を切り開くことも考えられます。弥富市内の中小企業の交流はどのようになされているのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　事業者交流としまして、弥富市商工会の会員が部会ごとの勉強会、視察研修、懇親会などの交流会を毎年開催しております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　商工会に限らず、この交流が実際に社会的交流の場、アイデアが生み出される場、また課題解決の場などとして活用されるような形となることを期待します。

ここまで質問してきました情報発信や情報交換、交流といった目的を果たすため、異業種交流展示会のようなところがございます。中小企業の支援の一環として、市や商工会としてブースを出している自治体もあります。このようなイベントに弥富市または弥富市商工会として出展ブースを確保する考えはありますでしょうか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　企業の商品・技術・情報の展示や相談・商談を目的として、ポートメッセ名古屋等で行われるしんきんビジネスフェアにおきまして、令和元年度から弥富市商工会が市内企業と共に商品ＰＲや商談を目的にブースを出展しており、今後も継続する予定と聞いております。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　１社が出展しているのを確認しました。市内の様々な企業がこれまで述べてきたような目的のため、中小企業の支援としてブースを確保してはいかがかと思い、質問をさせていただきました。

今後も継続ということですが、幅広い様々な企業が今後参加されるような、また参加できるように支援をしていただくようお願いいたします。

八尾市の中小企業支援では、小規模で甘受しているものを合同で規模を大きく行うことでできることもあると伺いました。例えば、八尾市の「みせるばやお」は、個で解決できない共通の課題を共同で解決する企業の英知の結集拠点とされ、地元中小企業、大手企業、大学、

金融機関、行政が連携する共同体として127社が参加しています。中小企業が１社ではできないことを合同でやろうとしており、合同での就職活動や新入社員歓迎会、研修会、商品開発、販売ブースの設置を行っていました。会員企業にはイノベーションを起こすために市外企業も参加できるようにしていました。

弥富市において、そのような合同で規模を大きく行うような取組はどのようになっているのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　今のところそのような取組は行っておりませんが、弥富市商工会と共に研究してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　最後に、中小企業の発展がもたらす効果とその支援に対する考えを市長にお伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　日本の企業の数は中小企業が大半を占めており、雇用に関することにつきましても同じであり、したがって、中小企業が日本の経済を支えていると言っても過言ではありません。これは本市にも言えることであり、中小企業は重要な地位を占めております。優良企業が増えることにより、雇用の促進が期待され、また市税の増収とそれによる市民サービスの拡大といった効果が期待されると考えます。

市内の中小企業の発展のためには、先ほど担当部長が答弁しましたように、金融支援や創業支援、企業のＰＲによる販路拡大などの支援に引き続き取り組んでまいります。

また、市内の中小企業に対して、発展につながるための聞く場とする意見交流や見せる場とする情報発信などを弥富市商工会と共に模索・研究をしてまいります。

そして、４月に三ツ又池公園で開催しているやとみ青空市について、令和７年度から運営方法を見直し、シバザクラの開花期間をやとみ青空市週間として、三ツ又池公園の一部を各種団体などの活動の場としてお貸しをいたします。その期間中に、やとみ青空市イベントの名称で令和７年４月13日に各種団体など三ツ又池公園をお貸しする形で催物を計画しているところでございます。このやとみ青空市に中小企業のＰＲの場を提供いたしますので、市内の中小企業が独自の力で経営力の強化や発展に対し積極的に取り組んでいただけるようになればと考えております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　八尾市の中小企業地域経済振興基本条例では、行政、事業者、市民がそれぞれの立場で中小企業を支援し、中小企業が発展することで企業の売上げや就業者の収入が増加し、また中小企業や市民の収入増加が地域の雇用を生み、市民サービスの向上に

つながるというような循環を生み出し、にぎわいのあるまちづくりにつながることを目指しています。そこは今の市長の答弁にもあった認識と合致します。

中小企業の発展は私たちの生活と深く関わっているという認識の下、市と市民との協働のまちづくり同様、市と事業者との協同のまちづくりをこの弥富市でも進めていくよう、今後支援していただくことをお願いし、私の一般質問を終わらせてもらいます。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後４時30分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後４時21分　休憩

午後４時30分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、高橋八重典議員。

○１４番（高橋八重典君）　14番　高橋八重典でございます。

通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

今回は、市内４小学校統廃合について事業計画を問うと題しまして、１題質問をさせていただきます。

既に私を含め４名の議員が質問しておりますので、かぶるところはなるべくかぶらないように質問していきたいと思います。15名で今回一般質問が出ました。最後ですのでお疲れだと思いますが、しっかりと答弁いただきますようよろしくお願い申し上げます。

既に発表されている４小学校統廃合計画について、確認等を含め質問していきます。

新統合小学校の開校予定日、場所、新校名を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　現在、12月議会において議案第46号で上程されております弥富市立よつば小学校でございますが、令和10年４月１日に十四山西部小学校の位置である弥富市六條町大山94番地に開校する予定でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今、答弁いただきました３点は、変更がないことは確認させていただきました。

当初の計画に対して、令和６年９月定例会にて本市議会から意見書が発議、決議されました。意見書の新聞報道については、非常に激しい憤りを覚えました。この報道は十分取材がされない偏向報道としか言えず、よくも悪くもこの報道によって市民が混乱を招く結果となったからであります。また、この混乱を招いたこの事実に対し、議員の一人としておわびを申し上げさせていただきます。今後は、報道機関に対し、十分に取材をした上で正確に報道

されることを強く申し入れさせていただきます。この場を借りて、議長と市長に強く要望させていただきます。

今回の統廃合に関して、保護者をはじめとした市民から統合はすべきであるとおおむね理解をいただいていると教育委員会から報告を受け、認識しております。市民が小学校の統廃合以外何を問題視しているかというと、新設予定地の立地条件と旧校舎使用に関し心配をいただいていると認識をしておりますが、教育委員会の認識を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　学校の再編につきましては、おおむね保護者の皆様に御理解いただいていると認識しております。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　そこで、本市議会が発議、決議した意見書をいま一度確認させていただきます。

意見書は、４つの提案理由、老朽化問題、児童の学びでの安全確保、新しい学校環境の提供、跡地利用の有効性と、３つの附帯事項、跡地利用計画の策定、地域コミュニティの活性化支援、定住促進の推進と示しました。

意見書の核心は、統合された小学校跡地の有効活用、地域コミュニティの活性化及び市街化調整区域内の定住促進を図ることに重きを置いた決議であります。その上、新校予定地、十四山西部小学校は、工事期間中の騒音、安全対策が当然行われますが、児童には大なり小なりの制限が強いられるため、他校の児童同様に新校開校までの期間をストレスなく平等な学校生活を担保するためと跡地利用の観点から、市が保有する土地・施設を勘案した結果、令和７年３月末に閉校となる十四山中学校の跡地に新設する提案を決議したもので、中学校跡地で新校新設を絶対とした議決ではないということをこの場で改めて確認をし、正しい認識を持っていただきたいと思います。

市長部局はこの意見書の内容は理解できたのでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　理解をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　同じく教育委員会はどうでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　はい、同様に理解しております。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今、答弁いただいた結果を踏まえ、９月定例会にて市長から第３案が示されたことにより、今問題視されていることの一つ一つ解決していくためのスタート

台に立ったと思っております。

それでは、意見書を受け、出された市長声明の内容を確認させていただきます。

当初の予定は、新規増築される校舎に高学年の３年生から６年生、旧校舎を減築した上で改築する校舎に低学年の１年生から２年生と特別教室などを配置されるとされていました。市長声明では、新規に増築される校舎の増築面積を増やし、全校児童１年生から６年生までが入れるように変更し、旧校舎を減築した上で改築し、特別教室などに使用するとされていますが、間違いないでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　設計変更後は、新築校舎に全ての児童が入る普通教室と特別支援教室を配置し、旧校舎を改築し特別教室などに使用すること、また旧校舎の一部、昭和56年に増築した部分を減築することで間違いはございません。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　保護者や市民が懸念されている耐震性や基礎ぐい等の不安材料については、学校生活で主に生活場所となるのが増築される新校舎であることから、現在の建築基準で設計されますので懸念や不安は払拭されると考えますが、教育委員会の見解を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　早川議員の御質問に対し部長が御答弁申し上げましたが、新築校舎につきましては、現在、基本設計が終わり、実施設計に入ったところでございます。

各種基準にのっとって設計を行っておりますので、不安はございません。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　しかし、大規模地震が想定される中、液状化が発生した際、十四山西部小学校のある地域が海抜が市内で一番低いから沈んでしまうのではないかという不安もされているようでございますが、本市全体はもとより、海部津島地区全域、どこにいても液状化は危惧をされております。

本日、那須議員の市側からの答弁の中で、市内の学校、それからまた保育所の中で、マイナスではないところは南部保育所だけだということで、また私もびっくりしたんですが、最高マイナス2.2メーターのところもあるということでございます。

震災は、いつどこで発生するか予測が立たず、24時間365日発生する可能性を秘めており、統合小学校の増築される新校舎部分は最新の耐震基準で建設がされることから、子供は学校にいるときが一番安全であるということが考えられます。また、地域住民に対して今の倍以上の避難が可能となる、より安全な緊急避難所が担保できることになり、過去から現在にわたってコミュニティの核となる小学校に、現在の基準で十分な避難所が整備されていなかっ

たことの事実が解消されると考えられます。

ここで、新校舎の基礎部分に関しまして、マイナス1.9メーターであることは事実なんですが、可能な限り対処し不安を払拭すべきであると考えます。さきに市長も他の議員のほうで申し上げられておりましたが、市側は知恵を駆使していただきまして、最大限再考していただきたいと考えます。

そこで、市長に今申し上げたただしの部分、基礎のかさ上げに関して考慮するというふうにほかの議員のところで答えられておりましたが、最大限の努力により再考で本計画に多少なりでも盛り込んでいただけないのか、もう一度市長のほうに質問したいんですが。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　昨日ですが、議員の答弁のほうでそのように申し上げたところでございます。

既存校舎、旧の校舎をリノベーションして使っていくということでございますものですから、どうしても取付け部分の制約は出てくるものの、できる限りかさ上げをして新築校舎を造ってまいりたいと思っております。これが今、何センチ、何十センチかということでなかなか言えないわけでございますけど、可能な限りかさ上げをしてまいりたいと思っておりますし、また、それに伴う浸水対策ですね、いろいろと御意見をいただいているものですから、可能な限りこちらの浸水対策も取り組んでまいりたいと思っているところでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今、ちょっといきなり突然の質問でしたが、新校舎の基礎部分のかさ上げをするのかということが、今後の計画の進捗を左右するのではないかというふうに私は危惧をしておりました。ここで今、市長、御英断いただきましたので、この部分については御理解がいただけるのではないかと。今回出ております請願書につきましても、その建物の構造的な問題がどうこうという話もそうなんですが、核心の部分はやはり、今回、私と議長と２人で見させていただきましたが、栄南地区の方も非常に多く署名をされております。その中でお話を伺いますと、やはり向こうの海に近い側というのは非常に同居率も多くて、親や祖父から非常に伊勢湾台風の話をよく聞くということがありまして、私もそうだったんですが、そういうことを鑑みると、やはり今よりも環境の悪いところはやっぱり心配になると思うんですね。

昨日の平野議員が、海抜ゼロメートル地帯の防災について詳しく昨日質問されておりましたので、その部分はあまり心配はしておらんのですが、やはり親の心情としては、やはりその部分があるかというふうに思います。ですので、先ほど申し上げましたように、かさ上げを少しでも考慮いただければというふうに思います。

続きまして、耐震性のほかにライフサイクルコストの観点からも指摘を受けていたと思います。今回、約築50年ほどの旧校舎を改築しても、次の30年後、新築建て替えが必要となり、予算も中学校跡地に建設するよりコストがかかると試算されておりました。であるならば、最初から中学校跡地に新設したほうが理論的にもいいんではないのかという指摘であったと思います。

そこで、推測での試算でもよいですが、30年後の４小学校の児童数及び１学年が１クラスになる時期をいつと予測されているのか伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　４小学校の児童数については、人口統計資料より本年度の人数が421人、出生数から算出した令和12年度の人数は274人で、本年度の65％になります。昨年度の出生人数の合計は30人でした。この子供たちが小学校に入るのは令和12年です。今年度以降の出生数が昨年度より大きな増加がないと仮定すると、再編校の全学年が１クラスになるのは令和17年頃と推測いたします。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今の答弁から、統合校が開校される令和10年の辺りを、二、三年が児童のピークとなり、その後児童数が減少し、７年後の令和17年には全学年が１クラスになるという予測をされております。

全国的に見ても人口の自然減は確実で、劇的なことがない限り本市も多分に漏れず人口減少を止めることはできません。これによって指摘されているライフサイクルコストで見た30年後の校舎建て替えは必要がなくなるわけで、増築される新校舎で全て完結すると考えられます。

先ほど、市長も別の議員の答弁されておりましたが、市長に伺いますけど、構想上、旧校舎に特別教室など設置予定ですが、新校舎の空き具合を踏まえた上で特別教室などを移設されるということを先ほど早川議員のときですかね、回答されておったと思うんですが、それはその認識でいいものなのか。なおかつそこに、ちょっと弥富市では画期的な発言があったんで私もちょっとびっくりはしておったんですが、中学校にエアコン設置をしましょうと言ったんですが、なかなかあれですが、今度の新しい小学校にはエアコンを設置する、空調を設置するということだったんですが、それは間違いないでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　議会からの発議には定住促進をというような御要望もいただいているところでございますものですから、市として３世代同居、高橋議員が言われた３世代同居の中で、おじいちゃん、おばあちゃんから伊勢湾台風の話を聞いてということであり、そういったことがやはり大切なことだと思っておりますものですから、やはり３世代同居に対しま

しては、できる限りの支援をしてまいりたいと思っているところでございます。

そういったことも加味せずにこのままの推計でいきますと、部長が答弁しましたように令和17年頃には全学年が１クラスになるというような推計が出ております。特別教室につきましては、新校舎の空き教室がどうしても１クラスずつになってくるものですから、そちらのほうに特別教室をしつらえてまいりたいと思っております。

また、体育館のほうでございますけど、体育館はリフォームしましてエアコンを設置してまいりたいと、現在の計画ではあるわけでございますが、いずれ体育館も建て替えになってまいります。その際には、体育館の建て替えと同時に既存校舎を解体してまいる予定でございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　教育委員会としては、将来の動向も加味した上で現状進めようとしている統廃合事業は、総合的に鑑みて適切という理解でよろしいんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　４つの小学校の再編につきましては、令和５年度から議員の皆様へは定例議会の際に、また再編対象地区の皆様には地域説明会を開催して説明してまいりました。

この再編は、子供たちのよりよい教育環境のために計画を進めているものですが、その子供たちの将来負担も考慮しながら検討してまいりました。現在進めております４小学校の計画は適切と考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　続きまして、中学校跡地に新築した場合の令和10年４月の開校が間に合わない理由として、丁寧な説明がなされていなかったゆえに誤解を招いている点です。

市は、国・県に対して必要な許可手続申請が必要であると、それに対して時間がかかることなど、細かなスケジュールを示してこなかったことが誤解を招いていると考えます。

ここで、時間がかかるとされている国や県へ提出する許可申請などの詳細を簡潔に求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　計画どおりに新築校舎の工事入札及び着工を実施するためには、令和７年３月初めに図面や設計に関する図書等の準備を行い、建築確認申請に係る事前協議を実施する必要がございます。その後、令和７年４月上旬に建築確認申請を提出し、審査に２か月から３か月かかり、建築確認済証が交付される予定でございます。

また、公立学校施設整備費負担金の認定申請につきましては、令和７年４月上旬が提出期限となっております。認定申請書類提出の際には、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部

を改正する条例の一部改正について議決されていることが必要でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今現在行われている説明会の資料内でも、訂正漏れなど曖昧な表記により誤解を招く部分が現にありました。これから統廃合事業が進むにつれ、詳細に詰めていくことが多くなります。そして、仕事量の増加に加え、レスポンスのよさ、正確さが求められることを予測できます。

今回の一般質問でも、小学校の統廃合の私を含めた４名の議員、そして図書館の質問がまた４名、ほか１名なんですが、教育部関連の９名の議員が質問を教育部に対してしております。議員の過半数以上が質問して集中しております。そういうことも含めまして、今回非常に大変だったと思うんですが、そういうことも含めまして、今の兼務担当では仕事量から考えても極めて難しくなることは確実であるため、新庁舎建設時のときと同様に専任を置くべきと考えますが、市長の答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　令和10年４月の再編に向けての多忙な事務で職員の負担は増加すると思われますので、職員の人事につきましては、内部で協議し適正に配置してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　ここまで小学校の統廃合構想及び事業予定について、市が発信する１次情報を確認させていただきました。これまで市が進めてきた小学校統廃合構想を振り返って言えることは、本市議会から意見書が提出されてから再考に至るまでの議論が、当初から議会及び市民と市側で議論が行われていれば、今のような混乱を招くことはなかったのではないかというふうに考えられます。これを機に、小学校統廃合構想の情報が錯綜している状況を整理し、正しく理解していただくことで、新統合小学校のよつば小学校が令和10年４月の開校に向け、正しい情報で議論を経て進んでいけると考えます。

ここで今回、厚生文教委員会の行政視察を行った淡路市の成功事例がまさに手本であると視察を経て強く感じております。今回、淡路市の視察のきっかけになったのは、市長が昨年の令和５年７月、愛知県の市長会の市長セミナーで淡路市を視察されたということでありました。ちょうどのタイミングだったんですが、同年の９月定例会の私の一般質問で参考になったことはという質問をした際に、市長は10年、20年先を見据えた中で、地域活性化に結びつけた取組を民間活力によって行っていると答弁されております。その上で、本市に合った取組を進めるとも答弁されております。市長の参考になる点があったとのことでしたので、本年10月に厚生文教委員会で行政視察を実際に行った経緯があります。

淡路市は、市長おっしゃられるように本当に参考になりました。というのは、市内全小学校の24校から11校に統合を行い、さらにその先、11校から６校まで再統合すると説明を受け

ました。閉校した13校のうち10校が利活用され、残りの３校もめどが立っているとのことで、３年から５年で民間とマッチングが完了し、利活用率が平成５年度末で驚異の77％となっていたことです。

なお、宣伝にはちょっとなりますが、行政視察報告は12月定例会の議会だより等に掲載され、ホームページに間もなくアップされますので、一度御覧いただければというふうに思います。

本題に戻りますが、淡路市は明確に企業誘致による有効活用を地元の協議によって要望した場合のみ企業誘致をすると明確に示されております。このことを市民が理解した上で、地域住民が議論をした結果として地域要望という具体的な形となっていることが、淡路市の利活用事業が成功につながっていると強く感じました。

このように、行政が明確な立ち位置を示すことで、地域住民の要望によって実現できている成功事例を本市に置き換えた場合、何が不足していると考えますでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　愛知県市長会で淡路市のほうに視察へ行き、高橋議員が言われたとおり大変勉強になってきたわけでございますが、大きく弥富市と違うのは、やはり観光資源がたくさんあるということ、また学校の規模が、それぞれ閉校した学校の規模が本市の学校の２分の１または３分の１ぐらいの大きさだということで、大変使い勝手のいい大きさではないかと私は率直に思ったところでございますが、でも、地域の方々にはしっかりと説明をし、理解をしていただいて、地域と共に学校の再利用といいますか、閉校後の活用をしている。また、企業も入って学校を中心とした観光開発が行われているという点でちょっと違うわけでございますけど、いずれにしましても、学校の跡地利用ということには変わりのないものですから、参考になったところでございます。

本市におきましては、小学校統廃合推進計画部会を設置し、全庁横断的に組織で協議してまいります。議員御指摘のとおり、学校再編は学校の統廃合のみではなく、多くの課題が混在した大変大きな事業であります。今後は地域の声を伺い、議会と連携して進めてまいります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　質問の途中でございますが、本日の会議時間は議事の都合によりあらかじめこれを延長いたします。

高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今回の視察を含め、統廃合及び閉校後の利活用が成功している自治体の共通点が明確になりました。それは、統廃合に当たり、構想準備段階から多様な問題や課題を洗い出し、想定した上で、全庁挙げ関係部局がワンチームとなり取り組まれている点であります。本市は、以前から指摘をしておりましたが、弥富市小学校再編成委員会の構

成にあると考えます。教育委員会、そして保護者代表、学校・保育所代表、地域を代表して区長会の会長、学校教育課及び児童課、財政課の33名で構成されておりますが、区長会の３名と財政課の１名の４名を除く29名は教育関係者であるため、学校教育関係以外ほぼ議論はできなかったのではないかということが想像できます。早急にこの教育委員会主導の弥富市小学校再編委員会に関係部局を加えた委員会構成に至急構成変更いただくことが必至であると考えます。

そして、本市議会提出の意見書の３つの附帯事項、跡地利用計画の策定、そして地域コミュニティの活性化支援、定住促進の推進についての市長声明では、具体的な発信はされなかったように感じておりましたのですが、小学校の統廃合は子供や保護者だけのことではなく、今日も私の質問に来るまでほかの３名の方の質問の中にもあったんですけど、子供のための学校ではあるんですが、子供だけではなくそこに住む地域住民の生活に関わる大切な問題であると思いますので、議論や具体的な方向性を統合校が開校の後に考えていくのではなく、同時並行で今すぐにでも議論を始めて方向性を示していくことが求められると思います。

このことを踏まえて、弥富市小学校再編委員会を所管する教育長の答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　弥富市小学校再編委員会は、令和６年５月に発足いたしました。再編委員会で担う所掌事務につきましては、学校運営に関する事項、教育計画に関する事項、施設資料に関する事項、通学路に関する事項、その他再編に向けて必要な事項としており、この所掌事務は部会を設置して進めております。構成する委員といたしましては、議員が先ほどおっしゃられたように保護者の代表者、地域の代表者、学校・保育所の代表者、教育委員会の代表者としており、事務局としては学校教育課と財政課、児童課としております。

跡地利用計画の策定、地域コミュニティの活性化支援、定住促進の推進につきましては、多くの部署において構成されております小・中学校統廃合推進計画部会において協議を行う事項と考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　本市の体制について、市長部局を加えること、さきの質問での専任を置くことも含めて、市長の見解を伺います。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　児童・生徒の落ち着いた学習環境を担保するために、現在は小学校再編事業の説明会の中で地域の声を伺っている段階です。

しかし、跡地利用計画をはじめ地域コミュニティの活性化支援、定住促進等の事業等については、担当課のみで進めることは困難でありますので、全庁横断的な協議の場と専任職員の配置を考えてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　この先、専任職員を置いていただけるという答弁をいただきましたので、本当にぜひとも早急にお願いしたいというふうに思います。

ここで、先ほどの教育長とそれからその前の市長の答弁の中に、小・中学校統廃合推進計画部会という聞き慣れない部会が出てきまして、前もってお聞きしたんですが、ホームページや何かも探したんですが全く出てきませんでしたので、どのような部会で、どのような構成で何をするのかということをお聞きしたいものですから、教育部長お答えしていただけませんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　小・中学校統廃合推進部会につきましては、市長を本部長とする弥富市公共施設マネジメント推進本部会議の作業部会としてあります。部会長としては教育部長が務め、そのメンバーの中には各部長に加えて、協議の内容にもよりますが、現在９課ほどで協議をしております。

これまで、令和４年２月から令和６年11月まで全部で13回の会議を持っております。ここでの会議の内容、協議の内容につきましては、人口の推移の話であったり小・中学校の統廃合、児童クラブ、スクールバス、プールの授業、跡地などについて協議をしております。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今、小・中学校統廃合推進計画部会について御説明いただいたんですが、これまさに当初からこれがこの部会がオープンになって前面に出ていただいていれば、私たちもこんな質問をしなくて済むんですけど、何より統廃合の事業自体がもっとスムーズに進めていたんじゃないのかなというふうに感じておりますが、今後、この部会がもっと前面に出るということはちょっと考えていないんでしょうか。副市長に答弁を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　計画的にその部会を活用しながら進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今回、一情報や何かを正確な形で市は発信できていなかったということもあり、また私たち議員もなかなか地元で説明ができていなかったという反省もあります。

先ほどの別の議員の質問か忘れましたが、地元の人が一番心配されて、地元がという話をされましたし、幸いなことに15名の議員の中に５名の当該議員がおるわけですね。ですから、私も当初から説明を、説明会とかいろんなところに５人の議員を入れるべきじゃないかということを言ってまいりましたが、今後そういったことも、やはり報告だけではなくて、今日いろいろ皆さんの説明のときに聞いておりましたけど、報告の場だけではなく、やはり今回

の意見書や何かの後のスピードが早かったということもありますので、であるのであれば、最初、構想の段階から議会とかそういったところと議論していただくと、もっとよろしいのではないかなというふうに考えます。

とは言うものの、本市が日本全国の消滅自治体にならないためにも、今やっていることは公共施設の統廃合事業の第一歩であると思います。小学校の統廃合事業を絶対に止めるわけにはいきませんので、また少子化が加速すれば、現状を考えれば、近い将来確実にこの４校だけではなくて市内全域の小学校の問題となることは明白であります。公共施設の統廃合事業の始まりにすぎませんので、４小学校の統廃合が止まるようであれば、本市にとって停滞の一途ではなく、自治体として命取りになります。仮に新設校の場所だけで止まるようなことがあるならば、本当に本末転倒であり、最悪のシナリオで回避するとすれば、学校の統廃合を止めずに場所の問題だけで止まるということがあるのであれば、究極ですけど弥富中学校に、同じ弥富中学校に通うことになる桜小学校が今空いておりますので、そこの編入も視野に入れて令和10年４月の統合は完結すべきと考えます。

今後、白鳥小学校、桜小学校も児童が減少していきますので、今後の方向性を盛り込んだ議論を市民と一体となり考えていく時期でもあります。最後に、教育長、教育委員会として４小学校の統廃合事業の総括を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　貴重な御意見ありがとうございます。

繰り返しにはなりますが、４小学校の再編は、子供たちのことを第一に考え、児童数減少が懸念される中、子供たちのよりよい教育環境を整えるための事業であり、令和10年４月に行うこととしております。教育委員会といたしましては、学校運営のこと、教育計画のこと、再編校の建設はじめ施設資料のこと、通学路、スクールバスのことなどを計画的に進めていくよう努めてまいります。

そのためには、積極的かつ丁寧な情報発信に加え、議会や市民の皆様のお力添えも必要でございますので、議員の皆様には御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今、教育長のほうから総括いただきましたが、やはり教育長としては、学校のことだけでしかなかなか意見が言えないということでございますので、先ほどの新しい部会、あれも加わっていただきまして前に進めていただきたいというふうに思います。

本当に学校の場所だけのことで本当に止めるわけにはいかないので、これは本当に重く受け止めていただきまして、学校を統合することと学校をどこに造るかというのを分けていただかないと、それこそ本当に親としても混乱はしますし、その上で、場所の問題で先ほども

言いましたが、この統合問題が飛ぶようなことがあるのであれば、それこそ本当に一大事であります。ですから、そこら辺のところももう少し考えていただきまして、前に進める形で早急に前へ進める形を取っていただければというふうに思います。

今のことも含めまして、小学校の統廃合事業及び市内の全小学校の今後を見据えた市長の総括を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本市におきましても、全国的な傾向と同様に子供たちの人口は減少し続けております。とりわけ市街化調整区域である４小学校の子供の人口の減少は著しく、再編を先延ばしにしてはいけないと考え、令和10年４月の再編に向け、市と教育委員会とが一丸となり進めております。

この再編につきましては、今の世代の子供たちはもちろん、これからの子供たちの教育環境のことを第一に考え、計画し、進めていくことが重要と考えております。議員の皆様方におかれましても、令和10年４月の新校の開校を無事迎えられますようお力添えをいただきたくお願いを申し上げます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　高橋議員。

○１４番（高橋八重典君）　今日、小学校の統廃合について、今問題になっていることを直接市長と教育長、そして副市長に伺ってまいりました。

今日の発言が市長、ぶれることがないと思いますので、ぶれることなく早急に手当てをしていただきたいと思います。

結びに、小学校が閉校となることに関しては皆が寂しくなることは非常に私も理解ができます。しかし、現実としてそこで学ぶ子はもとより地域コミュニティの核となり、そこに住む市民の生活の大なり小なりに影響を与える小学校でありますので、過去を議論するのではなく、過去の礎として、よりよい希望の持てる小学校として、地域の核として次世代につなぐためにも、建設的で開かれた議論を徹底的に限られた時間で行い、希望あるよつば小学校の開校ができることを望みまして、私の一般質問を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了しましたので、本日の会議はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後５時11分　散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長　　堀　岡　敏　喜

同　　議員　　加　藤　明　由

同　　議員　　小久保　照　枝

令和６年12月13日

午前10時00分開議

於　　議　　場

１　出席議員は次のとおりである（16名）

１番	伊　藤　千　春	２番	柴　田　英　里
３番	鈴　木　りつか	４番	平　居　ゆかり
５番	横　井　克　典	６番	板　倉　克　典
７番	那　須　英　二	８番	加　藤　明　由
９番	小久保　照　枝	10番	堀　岡　敏　喜
11番	佐　藤　仁　志	12番	江　崎　貴　大
13番	加　藤　克　之	14番	高　橋　八重典
15番	早　川　公　二	16番	平　野　広　行

２　欠席議員は次のとおりである（なし）

３　会議録署名議員

11番	佐　藤　仁　志	12番	江　崎　貴　大

４　地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名（34名）

市長	安藤正明	副市長	村瀬美樹
教育長	高山典彦	総務部長	伊藤淳人
市民生活部長	柴田寿文	健康福祉部長兼 福祉事務所長	安井幹雄
建設部長	立石隆信	教育部長	渡邊一弘
健康福祉部次長兼 保険年金課長	佐藤雅人	会計管理者兼 会計課長	大木弘己
教育部次長兼 歴史民俗資料館長兼 図書館長	伊藤隆彦	監査委員 事務局長	水谷繁樹
総務課長	横江兼光	財政課長	村田健太郎
人事秘書課長	山森隆彦	企画政策課長	佐藤文彦
防災課長	太田高士	税務課長	岩田繁樹
収納課長	細野英樹	市民課長兼 十四山支所長兼 鍋田支所長	下里真理子
環境課長	梅田英明	市民協働課長	藤井清和
観光課長	浅野克教	健康推進課長	山守美代子
福祉課長	後藤浩幸	介護高齢課長	富居利彦

児童課長	飯田宏基	総合福祉センター所長兼十四山総合福祉センター所長兼いこいの里所長	中山義之
産業振興課長	上田忠次	土木課長	神野忠昭
都市整備課長	三輪秀樹	下水道課長	早川昇作
学校教育課長	田畑由美子	生涯学習課長兼十四山スポーツセンター館長	飯塚義子

5　本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	佐野智雄	議事課長	田口邦郎
書記	鈴木悦子		

6　議事日程

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　議案第42号　弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第３　議案第43号　弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第４　議案第44号　弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第５　議案第45号　弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第６　議案第46号　弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について

日程第７　議案第47号　弥富市運動広場条例の一部改正について

日程第８　議案第48号　弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について

日程第９　議案第49号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）

日程第10　議案第50号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第11　議案第51号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）

（追加日程）

日程第12　議案第52号　弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について

日程第13　議案第53号　弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について

日程第14　議案第54号　弥富市職員の給与に関する条例及び弥富市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について

日程第15　議案第55号　弥富市短時間勤務会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第16　議案第56号　土地改良事業に伴う字の区域の変更について

日程第17　議案第57号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）

日程第18　議案第58号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第５号）

日程第19　議案第59号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第20　議案第60号　令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午前10時00分　開議

○議長（堀岡敏喜君）　ただいまより継続議会の会議を開きます。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（堀岡敏喜君）　日程第１、会議録署名議員を指名いたします。

会議規則第88条の規定により、佐藤仁志議員と江崎貴大議員を指名いたします。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第２　議案第42号　弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第３　議案第43号　弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第４　議案第44号　弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第５　議案第45号　弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第６　議案第46号　弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について

日程第７　議案第47号　弥富市運動広場条例の一部改正について

日程第８　議案第48号　弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について

日程第９　議案第49号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）

日程第10　議案第50号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第11　議案第51号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第２、議案第42号から日程第11、議案第51号まで、以上10件を一括議題とします。

本案10件は既に提案をされておりますので、これより質疑に入ります。

通告に従い、発言を許可します。

まず、横井克典議員。

○５番（横井克典君）　改めて、おはようございます。

５番　横井克典でございます。

通告に従いまして質問をさせていただきます。

私からは、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正についてです。

教育委員会が今年７月と10月に策定された弥富市小学校再編整備計画（第２期）では、今後のスケジュールとして、新設校の設置場所の条例の一部改正を令和８年度中としています。なぜこの２年以上前倒しして今定例会の議案の提出になったのでしょうか、説明を求めます。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　説明会資料中、今後のスケジュールという資料の中で、令和８年度の予定として条例改正と記載しておりました。これにつきましては、条例等の改正について、令和８年度中に終えることをお示ししていたものでございます。

また、今回、この条例議案を上程することにつきましては、計画どおりに新築校舎の工事入札及び着工を実施するためには、令和７年３月初めに図面や設計に関する図書等の準備をし、建築確認申請に係る事前協議を実施する必要がございます。その後、令和７年４月上旬に建築確認申請を出し、建築確認申請を提出し、審査に２か月から３か月かかり建築確認済証が交付される予定でございます。

また、公立学校施設整備費負担金の認定申請につきましては、令和７年４月上旬が提出期限となっています。認定申請書類提出の際には、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について議決がされていることが必要でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　再度お尋ねします。

11月19日の議会運営委員会の中で、市の説明では、補助金の申請の際、学校設置条例の一部改正の決議が望ましいというような趣旨を述べられています。また、昨日の高橋議員の一般質問、先ほどの部長の説明でもありますように、負担金の申請には議案第46号の議決が必要ですという答弁されました。

私が以前、県教育委員会財務施設課に確認したところ、補助金申請の際には、当該条例の一部改正の議決は必ずしも必要がないと。仮に補助金申請が条例改正の前であれば、条例改正を行うことを確約する旨の書類の提出で申請が可能であるということを聞いておりますけれども、そういう理解ではないんでしょうか、お尋ねします。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　横井議員からその旨のお答えをいただいているわけでございますけれども、確約を出そうと思うと、やはり私どもは、この条例に関する議決をいただいておらないと確約書も出せませんし、また、私どもが３月初めに図書や設計に関する準備をして、建築確認申請の事前協議をするためにも、要は議決をされていないあやふやなものを県のほうに審査に出すわけにもこれはまいりませんので、しっかりと議会の議決をいただいて、弥富市としての方針を確約したものを県のほうに出して審査をしていただきたいということで、このような書き方をさせていただいております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　横井議員。

○５番（横井克典君）　確約というものは必要ですけれども、実際、海津市なんかは開校する前の６か月前で議決しておるもんですから、その辺りなぜ慌てる必要があるのかなということで質問させていただきました。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、江崎貴大議員。

○１２番（江崎貴大君）　12番　江崎貴大でございます。

通告に従いまして議案質疑を行います。

私からは、議案第43号弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について、議案第44号弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について及び議案第45号弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について、以上３件について質疑をいたします。

これら３件は、市三役の給料の減額をする議案となっており、この議案に対する当局の姿勢を確認するための質疑をさせていただきます。

まず１つ目は、減額することとなった経緯、また今回の減額という処分を科すに当たって対象となる事項は何なのかをお伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本市職員によります子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金の事務処理をはじめ、教育委員会における法令違反などの不適正な事務処理が相次いで発生した事案を勘案いたしまして、その責任を大変重く受け止め、本条例の審査をお願いするものでございます。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　次に、減額の額と期間の根拠について、他の職員の懲戒や過去の事例、または他の自治体を参考にしたなど、何を目安にしたのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本議案につきましての根拠基準は特段設けておりませんが、本市における先例や他市の状況も参考にしつつ、このたびの職員の不適正な事務処理が相次いで発生した事案を勘案し、管理監督する責任者として、その責任を大変重く受け止め、私自身と副市長、教育長で協議をし、判断したものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　最後に、この減額をするということで果たそうとしている目的はどのようなものがあるのか、お伺いいたします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　まずは、度重なる不適正な事務処理により、市民の皆様に御心配、御迷惑をおかけしましたこと、また市政に対する信用を失墜させるようなことになり、心から深くおわびを申し上げるところでございます。

こうした事態を重く受け止め、管理監督する責任を明らかにし、職員への綱紀粛正を促すとともに、市民の皆様からの信頼を取り戻せるよう努めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　江崎議員。

○１２番（江崎貴大君）　今後、このような不祥事がないことを強く求め、私の議案質疑を終わらせてもらいます。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、板倉克典議員。

○６番（板倉克典君）　６番　板倉克典です。

通告に従いまして議案質疑いたします。

議案第45号弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について、他の市町でも教育委員会の法令違反はありました。減らす金額や期間は他市町を参考にしましたか。

○議長（堀岡敏喜君）　高山教育長。

○教育長（高山典彦君）　江崎議員への市長答弁にもございましたが、本議案についての根拠基準は設けておりませんので、本市における先例や他市の状況も参考にしつつ、職員の不適正な事務処理が相次いで発生した事案を勘案し、教育行政を管理監督する責任者として、私自身がその責任を大変重く受け止めた結果、本条例の審議をお願いするものでございます。

○６番（板倉克典君）　分かりました。

以上で私の議案質疑を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、那須英二議員。

○７番（那須英二君）　７番　那須英二。

通告に基づきまして質疑させていただきます。

まず、議案第42号でございます。

議案第42号は、弥富市特別職の職員で、非常勤の者の報酬及び費用弁償に係る条例改正ということで、金額の日額を報酬アップということなんですが、ただ、この金額にばらつきがあると思います。そういう中で、この日額、同じ日額なのに、その金額のアップの理由と根拠、その算定方法を教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　このたびの非常勤職員の報酬の改正につきましては、それぞれの委員の任務内容に応じて報酬の見直しを行うものでございます。

公平委員会委員につきましては、職員の勤務条件に関する措置要求や不利益な処分等の不服申立てに対する審査・決定をすること、また固定資産評価審査委員会委員につきましては、固定資産評価への審査の申出に対する審査・決定をすることなど、各種法律等の専門性の高い知識や判断が求められております。

本市においては、行政不服審査委員や情報公開審査会委員等もそれぞれ専門性の高い知識や判断をもって各種審査や決定を行っておりますが、その委員報酬は１万5,000円となっております。任務内容や報酬の額との均衡を考慮し、この報酬に合わせて改正するものであります。

いじめ問題専門委員会委員及びいじめ問題調査委員会委員につきましては、愛知県弁護士会に委員の推薦を依頼しております。愛知県弁護士会において、いじめの重大事態調査等に関する調査委員会の報酬に関する指針が定められており、この中で示されました報酬基準に合わせて委員の報酬を改正するものであります。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　それぞれ他市とかも比べながら考えられたということでございます。

先ほど、公平委員会のほうは不服申立ての審査で専門性の高いものが求められるということでしたけれども、委員長に関しては4,500円上げられるということなんですが、委員に関しては9,000円そのままなんですよね。なぜ公平委員会の委員だけがそのままなんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　公平委員会は３人で構成されている合議制の機関であり、特に委員長は各種法律等の専門性の高い知識や判断を求められ、合議を進めていく中で、各委員の意見を取り入れ、慎重かつ合理的な意思決定を目指し、取りまとめる役割を担っていることから、今回の改正は、委員長の報酬額改正のみを提案をさせていただいております。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　この件については終わりますけれども、委員長だけじゃなくて、どうせなら委員も上げていただければというふうに感じておりました。

続きまして、議案第46号でございます。

先ほど横井委員の質問もありました学校設置条例の改正になるわけですが、かぶらないようにしていきたいと思いますが、先ほど横井議員の質問の中の答弁では、必ずしも必要じゃないんじゃないかということに対して、確約を出そうと思うと条例可決が必要、あやふやなものを県に出せないとしておりましたけれども、県に出す時期というものもさっき確認しましたけれども、令和７年３月初めに事前協議を行わなければならないと、令和７年４月に提出期限があるということで、この時期ということなんでしょうけれども、この県に出すのは、もう一度確認したいと思うんですが、この時期じゃないと必ずどうしても間に合わないものなのかどうか、絶対間に合わないものなのかどうか、そこだけお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　今計画している中では、これが期限としております。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　ごめんなさい、僕が日付言っていないからあれなのかな。

令和10年４月に、この時期、この12月議会で可決しなければ間に合わないのかどうか、絶

対に間に合わないのかどうかお答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　これまでも申し上げておりますが、工事の日程、またそれにかかる費用の補正予算のタイミング等を考慮しますと、この時期、この本議会において審議をいただくというのが必要となります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　イエスかノーかで答えていただきたいんですが、ちょっと曖昧に濁されちゃったわけですが、ということは逆に言えば、必ずしもこの時期じゃなくても間に合うというふうに解釈していいかなというふうに思いました。

続きまして、今計画中でこれから基本設計等入るわけですけれども、そういう中では工事日程などもまだ未確定という状況になっておりますので、そうした状況の中、期限が令和10年４月施行という条例を制定するということですが、やっぱりそれは早計なんじゃないかと。もし仮に間に合わなかった場合、これどうするんでしょうか、お答えください。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　この計画について間に合うように、令和10年４月に間に合うよう進めているスケジュールでやっておりますので、間に合うように進めてまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　工事の関係でどうなるかは分からないという状況だから、危惧して質問しました。

続きまして議案第47号、こちらは弥富市運動広場の条例一部改正ということで、この十四山中学校のグラウンドを十四山グランドに変えるということでございます。

こうした中で、今までとの利用が変わってくると思いますが、まず何時から何時の開放になるんでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　十四山グランドの利用時間につきましては、午前６時から午後９時30分でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　今まで夜間だけだったのが、午前から使えるよということでございます。

そして、続きまして議案第48号でございます。

これも同じように連結して考えていきたいと思うんですが、弥富市学校施設の開放に関する条例の一部改正として、今、十四山中学校の運動場として規定していたものを削除するものになります。そうした中で、学校を廃止するという中でグラウンドを廃止するということ

なんですが、ただ、今後、跡地利用に関しても考えていかなければならないという状況において、この跡地に何をするか決まっていない中で、早急にグラウンドに活用するよということは、この跡地利用で一体的に使うかもしれないと。そういう中に対して、やっぱりアイデアを狭めてしまうことになるんじゃないでしょうか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　十四山中学校の運動場を十四山グランドとして開放する理由につきましては、市民が日常的にスポーツやレクリエーションを楽しむための場を確保することでございます。学校の廃止によって運動場の利用の機会が失われることは、市民の健康の促進や地域の交流の場が減少するため、施設の開放は大変重要だと考えております。その中で、学校跡地の利用が決まるまでの間、グラウンドとして市民の皆様に利用していただくためのものでございます。

跡地利用につきましては、引き続き地域の意見を伺いながら検討してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　そうしますと、この跡地利用に関してグラウンドを一体的に活用する場合は、このグラウンド、今廃止して十四山グランドに変えちゃうということになるわけですが、そうなった場合はどうされるんですか。

○議長（堀岡敏喜君）　渡邊教育部長。

○教育部長（渡邊一弘君）　そのとき、そのニーズに合わせて、状況が決まったときに条例等対応してまいります。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　そのときにまた条例を変えればいいということでございますので、質疑としては終わらせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、加藤明由議員。

○８番（加藤明由君）　８番　加藤明由でございます。

議案第43号及び第44号について質疑させていただきます。

平成24年、前市長の時代にごみ袋問題で同じく減額条例が出ております。このときは、市長が20％、６か月間、期末手当も含めて20％、副市長が３か月、給料と期末手当を含めて10％の減額をしております。それと、安藤市長の場合ですと、就任早々に予算問題で以前にも減額条例を自らお出しになっております。これが令和元年７月１日から令和４年12月１日まで、何と３年５か月、41か月分を30％、期末手当も含んでおります、これも30％の減額、おおよそ優に1,000万円を超える給与を返上されたと思います。

このたびの市長の減給は僅かに10％、３か月であります。これはどのような根拠に基づいて出されたのか、お伺いします。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　このたびの職員の不適正な事務処理が相次いで発生した事案を勘案し、管理監督する責任者として、その責任を大変重く受け止めた結果、給料の減額を行うための特例を定めた条例の審議をお願いするものであり、本市における先例や他市の状況も参考にしておりますが、事案が違いますので、比較の対象となるものではないと考えております。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員。

○８番（加藤明由君）　このときの議事録を見ますと、私の責任であり、責任の所在を目に見える形で示す必要があると判断しましたと、こういうふうに答弁されております。それで、この前回の減額は、金銭的な損害は一円も出ておりません。ごみ袋はたしか1,200万円、最終的には915万円だったかな、損害が出てそれなりの責任を取られたということになっております。このたびは、その金額的には730万円という損害が出ております。それと、それに含めて２回隠そうとした、隠蔽をしようとした、発覚しかけたから出してきた。１回目の繰上げ充用についても、これも私のところへ職員の通報からあって発覚してしまった。こういうことがあっても、これも含めてこの10％というのはいかにも低いと思いますが、どうですか。

○議長（堀岡敏喜君）　安藤市長。

○市長（安藤正明君）　先ほども申しましたとおり、事案が違いますので、比較の対象とはならないものと考えております。

○議長（堀岡敏喜君）　加藤議員に申し上げますが、質疑に関係ない事例は出さないようにお願いします。

○８番（加藤明由君）　はい。あとは委員会でやらせていただきます。終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　他に質疑の方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認いたしましたので、質疑を終結いたします。

本案10件はお手元に配付をした議案付託表のとおり、それぞれの所管の常任委員会に付託をいたします。

本日、安藤市長より議案第52号から議案第60号まで、以上９件が提出をされました。

お諮りをいたします。

これを直ちに日程に追加をし、議題としたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第52号から議案第60号まで、以上９件を本日の日程に追加をし、議題とする

ことに決しました。

～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～

日程第12　議案第52号　弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について

日程第13　議案第53号　弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について

日程第14　議案第54号　弥富市職員の給与に関する条例及び弥富市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について

日程第15　議案第55号　弥富市短時間勤務会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第16　議案第56号　土地改良事業に伴う字の区域の変更について

日程第17　議案第57号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）

日程第18　議案第58号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第５号）

日程第19　議案第59号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第20　議案第60号　令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第12、議案第52号から日程第20、議案第60号まで、以上９件を一括議題といたします。

安藤市長に提案理由の説明を求めます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本日追加提案し、御審議いただきます議案は、条例関係議案４件、法令議決議案１件、予算関係議案４件でございまして、その概要につきまして御説明申し上げます。

議案第52号弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の特別職の職員の給与改定に伴い、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第53号弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の特別職の職員の給与改定に伴い、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第54号弥富市職員の給与に関する条例及び弥富市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の一般職の職員等の給与改定に伴い、条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第55号弥富市短時間勤務会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の一般職の職員の給与改定に伴い、

条例の一部を改正するものであります。

次に、議案第56号土地改良事業に伴う字の区域の変更につきましては、土地改良事業の施行に伴い、字の区域を変更するため必要があるものであります。

次に、議案第57号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、会計年度任用職員を含む職員等の給与の改定に係る費用を計上するとともに、人事異動に伴う職員構成の変動等による増減により、今後の執行見込みを合わせて予算を整理するものであります。

次に、議案第58号令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第５号）につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、会計年度任用職員の給与の改定に係る費用を計上するものであります。

次に、議案第59号令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第３号）につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、会計年度任用職員の給与の改定に係る費用を計上するものであります。

次に、議案第60号令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、職員の給与の改定に係る費用を計上するとともに、人事異動に伴う職員構成の変動等による増減により、今後の執行見込みに合わせて予算を整理するものであります。

以上が提案する議案の概要でございますが、議案の詳細につきましては、関係部長から説明いたしますので、よろしく御審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　議案の説明を担当部長に求めます。

なお、補正予算につきましては、総務部長に求めます。

まず、伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　それでは、総務部所管の議案について御説明いたします。

議案第52号弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例。

１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．議会の議員の期末手当について、支給割合を100分の175に引き上げることとした。

２．議会の議員の期末手当について、支給割合を100分の172.5に引き下げることとした。

３．この条例は、公布の日から施行することとした。ただし、２については、令和７年４月１日から施行し、１については令和６年12月１日から適用することとした。

続きまして、議案第53号弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例。

１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．特別職の職員で常勤のものの期末手当について、支給割合を100分の175に引き上げることとした。

２．特別職の職員で常勤のものの期末手当について、支給割合を100分の172.5に引き下げることとした。

３．この条例は、公布の日から施行することとした。ただし、２については令和７年４月１日から施行し、１については令和６年12月１日から適用することとした。

続きまして、議案第54号弥富市職員の給与に関する条例及び弥富市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例。

１枚おめくりいただきまして、あらましを御覧ください。

１．給料表の給料月額を若年層に重点を置いて平均2.7％を引き上げることとし、初任給は民間との間に差があることを踏まえ、高校卒を２万3,600円、大学卒を２万3,200円引き上げることとした。

２．一般職の職員の期末手当について、支給割合を100分の127.5に引き上げることとした。

３．一般職の職員の勤勉手当について、支給割合を100分の107.5に引き上げることとした。

４．定年前再任用短時間勤務職員の期末手当について、支給割合を100分の71.25に引き上げることとした。

５．定年前再任用短時間勤務職員の勤勉手当について、支給割合を100分の51.25に引き上げることとした。

６．一般職の職員の期末手当について、支給割合を100分の125に引き下げることとした。

７．一般職の職員の勤勉手当について、支給割合を100分の105に引き下げることとした。

８．定年前再任用短時間勤務職員の期末手当について、支給割合を100分の70に引き下げることとした。

９．定年前再任用短時間勤務職員の勤勉手当について、支給割合を100分の50に引き下げることとした。

10．特定任期付職員に適用する給料表の１号給の給料月額を39万2,000円に、２号給の給料月額を44万円に、３号給の給料月額を49万2,000円に、４号給の給料月額を55万5,000円に、５号給の給料月額を63万4,000円にそれぞれ引き上げることとした。

11．特定任期付職員の期末手当について、支給割合を100分の175に引き上げることとした。

12．特定任期付職員の期末手当について、支給割合を100分の172.5に引き下げることとした。

13．この条例は公布の日から施行することとした。ただし、６から９まで及び12については令和７年４月１日から施行し、１及び10については令和６年４月１日から、２から５まで及び11については同年12月１日から適用することとした。

続きまして、議案第55号弥富市短時間勤務会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例。

１枚おめくりいただきまして、条例のあらましを御覧ください。

１．短時間勤務会計年度任用職員の報酬の基準となる額の上限について引き上げることとした。

２．短時間勤務会計年度任用職員の期末手当について、支給割合を100分の127.5に引き上げることとした。

３．短時間勤務会計年度任用職員の勤勉手当について、支給割合を100分の107.5に引き上げることとした。

４．短時間勤務会計年度任用職員の期末手当について、支給割合を100分の125に引き下げることとした。

５．短時間勤務会計年度任用職員の勤勉手当について、支給割合を100分の105に引き下げることとした。

６．この条例は、公布の日から施行することとした。ただし、４及び５については令和７年４月１日から施行し、１については令和６年４月１日から、２及び３については同年12月１日から適用することとした。

総務部所管は以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　立石建設部長。

○建設部長（立石隆信君）　続きまして、建設部所管の議案を説明させていただきます。

議案第56号土地改良事業に伴う字の区域の変更について御説明申し上げます。

１枚めくっていただきまして、筏地区筏２期換地区字区域変更調書を御覧ください。

鍋田土地改良区に係る土地改良事業筏地区筏２期換地区の施行に伴い、この調書に記載された区域を、換地処分の公告があった日の翌日から松名七丁目に編入するため、地方自治法第260条第１項の規定により議会の議決を求めるものでございます。

建設部所管の議案は以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　続きまして、補正予算について御説明いたします。

議案第57号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）につきましては、歳入歳出それぞれ１億2,248万円を追加し、歳入歳出予算の総額を183億1,547万1,000円とするものであります。

歳入予算の主な内容といたしましては、ふるさとやとみ応援寄附金500万円、財政調整基金繰入金１億1,686万6,000円を増額するものであります。

歳出予算の主な内容といたしましては、総務費におきましてふるさと納税推進事業のふる

さと納税記念品145万円、ふるさとやとみ応援寄附金支援委託料56万4,000円、民生費におきまして国民健康保険特別会計繰出事務の国民健康保険特別会計事務費繰出金107万2,000円を増額計上するものであります。また、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、会計年度任用職員を含む職員等の給与の改定に係る費用を計上するとともに、人事異動に伴う職員構成の変動等による増減が生ずることから、今後の執行見込みに合わせて予算を整理するものであります。

次に、議案第58号令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第５号）につきましては、歳入歳出それぞれ107万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を39億8,580万1,000円とするものであります。

歳入予算の内容といたしましては、一般会計繰入金を107万2,000円を増額するものであります。

歳出予算の内容といたしましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、会計年度任用職員の給与の改定に係る費用を計上するものであります。

次に、議案第59号令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第３号）につきましては、歳入歳出それぞれ101万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を39億404万1,000円とするものであります。

歳入予算の主な内容といたしましては、国庫支出金の包括的支援事業・任意事業交付金50万5,000円を増額するものであります。

歳出予算の主な内容といたしましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴い、会計年度任用職員の給与の改定に係る費用131万2,000円を増額計上する一方、介護保険支払準備基金積立金29万7,000円を減額するものであります。

次に、議案第60号令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）につきましては、人事院勧告に基づく国家公務員の給与改定に伴う職員の給与改定費等を計上するもの及び人事異動に伴う職員構成の変動等による増減が生じることから、収益的支出の人件費82万8,000円を減額し、収益的支出の予定額を９億9,663万1,000円とし、資本的支出では人件費を42万7,000円増額し、資本的支出の予定額を15億3,679万4,000円とするものであります。

以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑の方はございませんか。

〔挙手する者あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　７番　那須英二。

質疑させていただきます。

議案第52号から55号にかかって、人事院勧告に基づいて報酬の改定が行われるという議案でございますが、54と55号、一般職と会計年度任用職員に関しては、民間との差があるという理由からこの人事院勧告が出て報酬アップという形につながっています。ところが、この52号、53号にして議員と特別職に関しては、民間との差があるとは言い難い状況の中で、この人事院勧告というのがなぜ出ている、その根拠というのは何なんでしょうか。教えてください。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　国におきましては、特別職の給与に関しての部分で私どもが引用しておりますのが、指定職の俸給表の適用を受ける者についての任用をしておりまして、その部分についての期末手当の改正が行われるため、それを当てて特別職に関しての適用をしているものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　そこを使ったという理由は分かりました。

ただ、そこを今人事院が変えたと、勧告で変えるということが、その理由を教えてほしいということなんです。要は、さっき一般職で会計年度に対しては民間との差があるという明確な理由があります。ただ、この特別職あるいは議員に対しては、その理由は何なのかというところを確認しているんですが、お願いします。

○議長（堀岡敏喜君）　村瀬副市長。

○副市長（村瀬美樹君）　この特別職の報酬の改定につきましては、毎年人事院勧告に基づいて改定をされているものでございまして、国・県それぞれの人事院におきましても同じように特別職の報酬も改定をされております。これを引用しておりますので、本市としましても、このことに基づいて条例の改正を御提案し、御審議をお願いするものでございます。

○議長（堀岡敏喜君）　那須議員。

○７番（那須英二君）　毎年変えているからという理由でしたが、ちょっとよく分からないですが、もうこれ以上多分聞いても出てこないと思いますので、質疑としては終わります。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　他に質疑の方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認いたしましたので、質疑を終結します。

ここで、事務整理のため暫時休憩をいたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午前10時45分　休憩

午前10時46分　再開

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

本案９件はお手元に配付をした議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了しましたので、本日の会議はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午前10時46分　散会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長　　堀　岡　敏　喜

同　　議員　　佐　藤　仁　志

同　　議員　　江　崎　貴　大

令和６年12月23日

午後２時00分開議

於　　議　　場

１　出席議員は次のとおりである（16名）

１番	伊　藤　千　春	２番	柴　田　英　里
３番	鈴　木　りつか	４番	平　居　ゆかり
５番	横　井　克　典	６番	板　倉　克　典
７番	那　須　英　二	８番	加　藤　明　由
９番	小久保　照　枝	10番	堀　岡　敏　喜
11番	佐　藤　仁　志	12番	江　崎　貴　大
13番	加　藤　克　之	14番	高　橋　八重典
15番	早　川　公　二	16番	平　野　広　行

２　欠席議員は次のとおりである（なし）

３　会議録署名議員

13番	加　藤　克　之	14番	高　橋　八重典

４　地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名（34名）

市長	安藤正明	副市長	村瀬美樹
教育長	高山典彦	総務部長	伊藤淳人
市民生活部長	柴田寿文	健康福祉部長兼 福祉事務所長	安井幹雄
建設部長	立石隆信	教育部長	渡邊一弘
健康福祉部次長兼 保険年金課長	佐藤雅人	会計管理者兼 会計課長	大木弘己
教育部次長兼 歴史民俗資料館長兼 図書館長	伊藤隆彦	監査委員 事務局長	水谷繁樹
総務課長	横江兼光	財政課長	村田健太郎
人事秘書課長	山森隆彦	企画政策課長	佐藤文彦
防災課長	太田高士	税務課長	岩田繁樹
収納課長	細野英樹	市民課長兼 十四山支所長兼 鍋田支所長	下里真理子
環境課長	梅田英明	市民協働課長	藤井清和
観光課長	浅野克教	健康推進課長	山守美代子
福祉課長	後藤浩幸	介護高齢課長	富居利彦

児童課長	飯田宏基	総合福祉センター所長兼十四山総合福祉センター所長兼いこいの里所長	中山義之
産業振興課長	上田忠次	土木課長	神野忠昭
都市整備課長	三輪秀樹	下水道課長	早川昇作
学校教育課長	田畑由美子	生涯学習課長兼十四山スポーツセンター館長	飯塚義子

5　本会議に職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	佐野智雄	議事課長	田口邦郎
書記	鈴木悦子		

6　議事日程

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　議案第42号　弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第３　議案第43号　弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第４　議案第44号　弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第５　議案第45号　弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第６　議案第46号　弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について

日程第７　議案第47号　弥富市運動広場条例の一部改正について

日程第８　議案第48号　弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について

日程第９　議案第49号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）

日程第10　議案第50号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第11　議案第51号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）

日程第12　議案第52号　弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について

日程第13　議案第53号　弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について

日程第14　議案第54号　弥富市職員の給与に関する条例及び弥富市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について

日程第15　議案第55号　弥富市短時間勤務会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第16　議案第56号　土地改良事業に伴う字の区域の変更について

日程第17　議案第57号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）

日程第18　議案第58号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第５号）

日程第19　議案第59号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第20　議案第60号　令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）

日程第21　請願第１号　十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書

（追加日程）

日程第22　議案第61号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第10号）

日程第23　　閉会中の継続審査について

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

午後２時00分　開議

○議長（堀岡敏喜君）　会議に先立ちまして報告をいたします。

報道機関より、本日の撮影と放映の許可をされたい旨の申出がございました。よって、弥富市議会傍聴規則第９条の規定により、これを許可することといたしましたので、御了承をお願いいたします。

ただいまより継続議会の会議を開きます。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第１　会議録署名議員の指名

○議長（堀岡敏喜君）　日程第１、会議録署名議員の指名をいたします。

会議規則第88条の規定により、加藤克之議員と高橋八重典議員を指名いたします。

～～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～～

日程第２　議案第42号　弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第３　議案第43号　弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第４　議案第44号　弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第５　議案第45号　弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について

日程第６　議案第46号　弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について

日程第７　議案第47号　弥富市運動広場条例の一部改正について

日程第８　議案第48号　弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について

日程第９　議案第49号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）

日程第10　議案第50号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第４号）

日程第11　議案第51号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）

日程第12　議案第52号　弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について

日程第13　議案第53号　弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について

日程第14　議案第54号　弥富市職員の給与に関する条例及び弥富市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部改正について

日程第15　議案第55号　弥富市短時間勤務会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第16　議案第56号　土地改良事業に伴う字の区域の変更について

日程第17　議案第57号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）

日程第18　議案第58号　令和６年度弥富市国民健康保険特別会計補正予算（第５号）

日程第19　議案第59号　令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第20　議案第60号　令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第２、議案第42号から日程第20、議案第60号まで、以上19件を一括議題といたします。

本案19件に関し、審査の経過と結果の報告を各常任委員長に求めます。

まず、早川公二総務建設委員長。

○総務建設委員長（早川公二君）　それでは、総務建設委員会の委員長報告をさせていただきます。

総務建設委員会に付託されました案件は、議案第42号弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてはじめ９件です。

本委員会は、去る12月16日に委員全員と委員外議員１名の出席により開催し、審査を行いました。その審査の経過と結果を御報告申し上げます。

議案第42号弥富市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてから議案第45号弥富市教育長の給料の特例に関する条例の制定について及び議案第52号弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正についてから議案第56号土地改良事業に伴う字の区域の変更についてまで、以上９件を一括審査いたしました。

委員から通告にて、議案第43号について、平成24年前市長の同様の条例、ごみ袋問題、令和元年の同様の条例は、本件条例の制定に当たり参考・比較検討されたかとの質問に、市側より、本市における先例や他市の状況も参考にはしているが、事案が違うので比較の対象となるものではないとの答弁がありました。

また、委員から、前回は期末手当も含めて30％、３年５か月減額しているが、今回は期末手当を除外して10％、３か月の減額で前回の１か月分である。どう比較したらこのようになるのかとの質問に、市側より、今回のこの事案は前回とは別物と考えているとの答弁がありました。

また、委員から、議案第56号について、地方自治法第260条第１項の規定によりと記載されているが、この規定とはどういうようなものなのかとの質問に、市側より、市町村区域内の町または字の区域の変更の規定のことで、市町村長は、政令で特別の定めをする場合を除くほか、市町村の区域内の町もしくは字の区域を新たに画し、もしくはこれを廃止し、または町もしくは字の区域もしくはその名称を変更しようとするときは、当該市町村の議会の議決を経て定めなければならないという規定があるため、今回はその規定に基づき、議会の承認をお願いするものですとの答弁がありました。

以上のような付託された議案に対する質疑を経て、討論に入り、議案第43号弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について及び議案第44号弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定についてについては、比較対象となるものに対して極めて低い。また、２つの事件に対しては隠蔽しようとした。議案第52号弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について及び議案第53号弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正についてについては、中小零細企業で働く市民は、物価高騰の中、給料は上がらず、賞与はもっと期待できないという状況の中で、議員の報酬や期末手当を上げること、特別職の給与を上げることに市民の理解が得られるのか疑問があるとの反対討論があり、採決の結果、議案第42号は全員賛成で原案を了承、議案第43号及び議案第44号の２件については賛成多数により原案を了承、議案第45号は全員賛成で原案を了承、議案第52号及び議案第53号の２件については賛成多数により原案を了承、議案第54号、議案第55及び議案第56号の３件については全員賛成で原案を了承したことを御報告し、総務建設委員会の報告を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認いたしましたので、質疑を終結します。

次に、加藤克之厚生文教委員長。

○厚生文教委員長（加藤克之君）　厚生文教委員会に付託されました案件は、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正についてをはじめ３件です。

本委員会は、去る12月17日に委員全員の出席により開催し、審査を行いました。その審査の経過と結果を御報告申し上げます。

議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正についてから議案第48号弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正についてまで、以上３件を一括審査いたしました。

委員から通告にて、議案第46号については、なぜ計画を前倒してまで今議会に学校設置条例の一部改正をする必要があるのかとの質問に、市側より、計画どおりに新築校舎の工事入札や着工を実施するには、令和７年３月初めに図面や設計に関する図書等を整備、準備し、建築確認申請に係る事前協議を行う必要があり、その後、令和７年４月上旬に確認申請書を提出し、審査に２から３か月を要し、確認済書は交付される予定である。また、公立学校施設整備費負担金の認定申請は、令和７年４月上旬が提出期限であるため、認定申請書類提出の際に本議案が議決されていることが必要であるとの答弁がありました。

また、委員から、事前協議には本議案の議決は必要ないのではとの質問に、市側より、県

に事前審査をしていただく以上は、しっかりとした裏づけを持って審査をしていただき、その後、確認申請書を提出、確認済書をいただくというように進めていきたいとの答弁がありました。

また、委員から通告にて、議案第46号について、給食室は保健所の指導で加熱調理室・洗浄室・あえ物室・下処理室・検収室・食品庫・更衣室に区画する必要があり、計画案では狭過ぎないかとの質問に、市側より、給食室は、新しい調理機器として、焼く、揚げる、蒸す、いためるなどの機能を備えたスチームコンベクションオーブンや、粗熱取り、急速冷凍機を備えたブラストチラーなど調理機を導入するなどして、作業の効率化と省スペース化、衛生管理の向上を図るとの答弁がありました。

また、委員から通告にて、議案第47号について、グラウンド開放を急ぐ理由は何かとの質問に、市側より、十四山中学校が廃止になることで、学校施設開放条例に基づき利用されていた運動場も利用ができなくなるが、これまで運動施設としての利用も多いため、運動場を新たに市民が利用できる運動広場十四山グランドとして運動広場条例に基づく位置づけを行うことで、引き続き利用できるようにするためですとの答弁がありました。

以上のような付託された議案に対する質疑を経て、討論に入り、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正についてについては、厚生労働省の学校保健安全法に照らしても、水害リスクを踏まえた手引きに照らしても、十四山中学校跡地で検討すべきである。小学校再編校の設置場所である十四山西部小学校については、請願署名が示しているように、保護者をはじめ多くの市民の理解が得られない状況であるとの反対討論があり、昨年の公共入札状況においても、入札不調により予定どおり工事を始めることができない事案が多数発生していること、子供や保護者の多くが令和10年４月開校を強く望んでいること、令和６年12月10日に小学校再編委員会から、よつば小学校を計画どおり遅滞ない遂行を求める旨の嘆願書が提出されていることなどから、本定例会で議決しなければならないとの賛成討論がありました。

また、議案第47号弥富市運動広場条例の一部改正について及び議案第48号弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正についてについては、議案第46号に関していることから反対するとの反対討論がありました。

採決の結果、議案第46号、議案第47号及び議案第48号の３件については賛成多数により原案を了承したことを報告し、厚生文教委員会の議案の報告を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認いたしましたので、質疑を終結します。

次に、早川公二予算決算委員長。

○予算決算委員長（早川公二君）　予算決算委員会に付託されました案件は、議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）をはじめ７件です。

本委員会は、去る12月18日に委員全員の出席により開催し、審査を行いました。その審査の経過と結果を御報告申し上げます。

議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）から議案第51号令和６年度弥富市介護保険特別会計補正予算（第２号）及び議案第57号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）から議案第60号令和６年度弥富市下水道事業会計補正予算（第１号）まで、以上７件を一括審査いたしました。

最初に、市側より説明があり、委員から、議案第49号、小学校再編整備事業委託料について、この補正予算は普通教室等の床面積を増やす設計変更なのかとの質問に、市側より、新築校舎の床面積を増やし、既存校舎の東側を減築し、駐車場を増やすという設計変更を行うことで、設計変更に伴う委託費が変更となりますとの答弁がありました。

続いて委員より、かさ上げ部分は設計とは別なのかとの質問に、市側より、現在、設計委託している業者と調整しているところであるが、この金額の中で行っていく計画としているとの答弁がありました。

また、ほかの委員から、教育委員会がなぜこうした設計変更を考えられたのか。また、どのようなことに留意して考えられたのかとの質問に、市側より、増床に伴う設計変更については、８月21日の議会の発議を受けて対応したもので、留意したことは、当初２学年が旧校舎へ残る形であったものを、全学年を新校舎のほうへ受け入れ学ぶ環境を整えたこと、旧校舎を減築して駐車場を確保したことであるとの答弁がありました。

また、ほかの委員から、議案第57号、ふるさと納税推進事業について、ふるさと納税記念品として記載してあるが、これは返礼品という記載ではなかったかとの質問に、市側より、細節の名称は以前よりふるさと納税記念品であるとの答弁がありました。

続いて委員より、歳入増ということで何か対策をされたのか、新しい企画をされたのかとの質問に、市側より、令和６年度からノリを取り扱うようになり、そちらへ400件ほどの寄附をいただき、400万円ほどの増収となっているとの答弁がありました。

以上のような付託された議案に対する質疑を経て、討論に入り、議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）については、小学校再編整備事業の設計変更が入っている。議会の決議を受け変更したのだが、議会が求めたのは、根本的な防災対策という中で、この西部小学校においても安全対策を根本から変えていくべきである。また、議案第49号は、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正についてに関連しており、市の提案される十四山西部小学校では、安全が十分に担保されていないことに鑑み、この議

案に対して反対である。

議案第57号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第９号）については、特別職の報酬の増額が入っている。一般職については、人事院勧告、あるいは今の物価高騰等で大変厳しい状況が続いているので、その分を手当てしていくべきだと思うが、特別職については、まだまだ一般水準よりも多い状況になっているので、特別職の報酬及び議員等を含めて報酬の増額が入っているので、この部分に対して賛同できないとの反対討論がありました。

採決の結果、議案第49号は賛成多数により原案を了承、議案第50号及び議案第51号の２件については全員賛成で原案を了承、議案第57号は賛成多数により原案を了承、議案第58号、議案第59号及び議案第60号の３件については全員賛成で原案を了承したことを御報告し、予算決算委員会の報告を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認いたしましたので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

討論される方は、努めて簡潔明瞭に行っていただくことをお願いいたします。

それでは、通告がございますので、順次発言を許します。

まず、横井克典議員。

○５番（横井克典君）　５番　横井克典です。

私は、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について、議案第47号弥富市運動広場条例の一部改正について、議案第48号弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について、議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）について、以上４件について反対の立場から討論を行わせていただきます。

まず、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正について、反対する理由を述べさせていただきます。

令和５年11月10日策定の弥富市小学校再編整備方針で、市より初めて再編校設置場所は十四山西部小学校とすることが公表されました。整備方針の中で、再編校設置場所を決めるための判断基準は、公共施設保有量の推移、児童居住地の分布、子育て及び教育文化等の機能との連携、将来的な負担の４つの指標のみです。この４つの偏った指標のみでは、正しい結論は導くことはできません。

本来であれば、各学校の地理的条件や校舎の老朽化、また支持ぐいの深さ、長さなどハード面の条件、ライフサイクルコストなどの項目も比較検討に加えなくてはなりません。

また、この弥富市小学校再編整備方針のどこを読んでも、十四山中学校跡地が再編校設置

場所の候補地に入っていませんでした。その理由は、今議会12月11日の私の一般質問の後に、市長から、御遺族の現在の心情、また関係者の方のお気持ちを察しますと、十四山中学校として建築を進めていくことはなかなか難しいため、市は十四山西部小学校に決めましたとの発言がありました。

一番安全とされる十四山中学校跡地の候補地が、弥富市小学校整備指針で検討する以前より候補地から除外されていたことが大きな問題であります。あの事件と再編校設置の議論は、当然分けて考えなくてはなりません。そのため、この議論のスタート段階から、再編校の設置場所の議論が違った方向に進んでしまった結果となっております。

一方、この地域は海抜ゼロメーター地帯であり、想定されている南海トラフ巨大地震による液状化や、大型化する台風、線状降水帯による洪水などの大規模災害が懸念されております。

市は、９月定例会まで増築校舎はかさ上げしないと答弁していましたが、今定例会では急遽かさ上げすると答弁がありました。それも委員会で何度か質問したうちで、30センチから50センチとやっと答弁ができたところで、私が考える理想の1.5メートルには大きく及ばず、全く焼け石に水のかさ上げではないかと考える次第であります。

さらに、これまで送迎バスの乗降場所も西側の児童館の周りとしていたものを、これも急遽、既存校舎東側の駐車場付近にすると答弁されるなど、市の答弁がその場しのぎになっています。私たち議員は、かさ上げやバスの乗降場所の具体的な配置図すらまだ見ていない状況であります。

また、十四山西部小学校での増築と大規模改修の詳細な工事スケジュール表、工程も変更されたものを見ておりません。入札不調が危惧される中、しっかりと工程表を吟味しないと、令和６年４月に開校が可能かどうかも私どもは判断できません。この情報不足の状況で、この議案第46号を私は責任を持って判断することはできません。

また、十四山中学校跡地での新築と十四山西部小学校での増築・改築の比較検討では、液状化の影響、水害への対策、近隣への影響、バス乗降場所の利便性、工事用地の広さ、工事中の安全性、工事車両の駐車場所、周辺道路の安全性、ライフサイクルコストについて、全ての項目において、十四山中学校跡地のほうが明らかに優位な結果と考えます。

そのような状況において、市が示している小学校再編の設置場所、西部小学校ですけれども、3,394筆の請願署名が示しているように、保護者をはじめ、いまだに市民から納得が得られておりません。さきの９月定例会において、市議会は、十四山中学校跡地での校舎の新築を全会一致で決議いたしました。3,394筆の署名を収集された保護者をはじめ、多くの市民は、この市議会の決議に大きな期待を抱いています。この全会一致の決議文は、提案理由である老朽化の問題について、現行の増改築計画では長期的な耐久性や安全性に課題がある

と記しました。

しかしながら、これまで市が示す増改築計画では、残念ながらこの課題が解決されておりません。市は、関係している一部の市民の声だけでなく、サイレントマジョリティー、物言わぬ多数派の市民の声にも耳を傾けなくてはなりません。多くの保護者等から話を聞くと、これまでの市教育委員会からの説明では、当初から西部小ありきの説明で、十四山中学校跡地での新築校舎を設置してほしいという意見を述べる機会はなかったとおっしゃっている方ばかりです。

しかし、一般質問で教育長は、おおむね保護者から理解を得ていると答弁されました。その答弁を理解することが私はできません。市にこの3,394筆の署名の重さが全く伝わっていないことを、私は悲しく思います。多くの市民の願いを無視して拙速に進めることは、本当に弥富市のため、大藤・栄南・十四山地区の発展につながるのでしょうか。この３地区の定住促進策や地域コミュニティの活性化の支援の明確な市の答弁を聞いておりません。

請願署名は、小学校低学年のお母さんをはじめ、あらゆる世代の方々が精力的に集められた純粋で貴いものであります。この請願の思いを無視することは、弥富市や市議会の信頼も失うことになります。市議会も９月定例会初日に十四山中学校跡地で新築の校舎と全会一致の決議をしており、市民の皆さんは市議会に大きな期待をしております。そして、令和10年４月の開校時には、大藤・栄南・十四山地区の全ての市民が、新たな小学校の開校を祝福できるものではなくてはなりません。

今定例会では、突如としてかさ上げする発言やバスの乗降場所の変更などの発言がありましたが、全て中途半端な提案であり、抜本的な問題の解決には至っておりません。また、既存校舎の安全性は全く改善されておりません。全会一致を決議された議員の皆さん、これまでの市の提案にぶれることなく、全会一致の決議の内容を思い出していただき、反対の意思を表明していただきたいと思います。

以上の理由から、議案第46号に私は反対いたします。

次に、議案第47号弥富市運動広場条例の一部改正についてと議案第48号、弥富市学校施設開放に関する条例の一部改正について、議案第49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）についての以上３件は、議案第46号に関連しておりますので、反対であります。

以上、４つの議案について反対する理由を申し上げました。

最後に、議員の皆様には公平公正な判断をしていただき、４つの議案に対して反対していただくことをお願いして、私の反対討論といたします。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、板倉克典議員。

○６番（板倉克典君）　６番　板倉克典です。

通告に従いまして、反対の立場で討論いたします。

議案第52号弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正についてと議案第53号弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について、反対の立場で討論いたします。

厚生労働省の国民生活基礎調査からですが、児童のいる世帯で生活が苦しいと回答した世帯、令和４年度は54.7％でした。そして、令和５年度は65％でした。10.3％増えています。子育て世帯は大変な状況です。中小零細企業で働く多くの市民は、物価高騰の中、給与は上がらず、賞与はもっと期待できないという状況です。

人口減少が著しい地方自治体では、低額な議員報酬などが理由で自治体議員の成り手不足が報道されていますが、弥富市ではまだそのような状況でもありません。そのような中、議員の報酬や期末手当を上げること、市長など特別職の給与を上げることに市民の理解が得られにくいと考え、賛成できかねます。

以上、反対の討論とさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、伊藤千春議員。

○１番（伊藤千春君）　１番　伊藤千春。

賛成の立場で討論させていただきます。

議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部の改正については、４小学校を統合し、令和10年４月開校を行うには本議案を議決する必要があり、賛成の立場で討論させていただきます。

この小学校の再編事業について、市側は、子供たちのよりよい教育環境の整備が一番大事であると考え、幾度となく説明会を開き、繰り返し皆様に説明をしてまいりました。その上で、再編する小学校の設置場所を十四山西部小学校と位置づけることについては、保護者の皆様、地域の皆様に対して意見交換及び説明会を開き、パブリックコメントを経て弥富市小学校再編整備方針を定め、進めてこられたという経緯があり、このことは議会への報告もなされており、加えて市議会は令和５年11月に十四山西部小学校に係る事前調査費の補正予算の議決をしたと私は理解しております。

また、令和６年８月に行った決議では、十四山中学校に新設する方針に変更する旨を市側に提案いたしましたが、その趣旨は、子供たちの安全確保を求めるものです。市側からは、この提案を受け、令和10年４月に開校することを前提として、子供たちのよりよい教育環境の整備を優先すべきと決議で記載した提案理由に寄り添った計画の見直しが提出されました。

私は、予定どおり令和10年４月に十四山西部小学校へ設置することを強く求める数多くの皆様の声を尊重します。児童数の減少により男女の隔たりが大きくなり、友人関係で悩んだときの居場所がなくなることなどの課題に対して、小規模小学校の再編は、対象校の子供たちにとっては待ったなしの状況にあるのです。市側が進める子供たちのよりよい教育環境の

整備の早期実現のため、再編の時期を令和10年４月から遅らせることを子供たちやその保護者の皆様は望んでいません。遅らせることは決してあってはいけません。

十四山中学校に令和10年４月に開校可能という意見は、校舎の建築設計だけに限ればそうかもしれませんが、十四山西部小学校の位置に決めた際も、十分な説明、意見の聞き取りを行っており、この場合も当然同様に行う必要があります。当然のことながら、十四山西部小学校など他の選択肢も含めた再検討が必要になり、意見を取りまとめるのに相当な時間が必要になり、また各種手続にも時間を要します。できるだけ早い令和10年４月の開校を望む保護者の皆様をはじめとする市民の声を軽視することになり、子供たちのよりよい教育環境の整備が難しくなります。

したがいまして、私は議案第46号、学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正は、令和10年４月開校には今議会での議決が必要不可欠であり、賛成します。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、佐藤仁志議員。

○１１番（佐藤仁志君）　11番　佐藤仁志。

議案第47号弥富市運動広場条例の一部改正について、48号弥富市立学校施設開放に関する条例の一部改正について、49号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第８号）に反対の立場で討論します。

多くの住民の方は、各種報道によって再編校は中学校跡地に造られるものだと今でも思って信じてみえる方がいっぱいいます。３点に絞って、この不当性、十四山西部小学校に設置し、３本の条例について不当性を指摘します。

１点目、そもそも令和10年４月に間に合わないから中学校でなく小学校というのは、何度も指摘されて論理は破綻しています。新築であれば、日の出小学校は実質２年で工事ができています。なので、中学校跡地に新築するのであれば、再来年に着工すれば10年４月１日に十分間に合います。

ところが、市長・副市長は地域の合意形成に２年もかかるとおっしゃっているんですが、これは中学校跡地にしたくないから合意形成にかかると言っているふうに言われても仕方ないんじゃないでしょうか。これほど地域で、特に地域の皆さんが中学校がいいと言っているわけですから、そんなに時間がかかるはずはありません。なので、令和10年４月１日に間に合わないというのは論理破綻しています。

２点目、費用対効果です。

これも新築30億かかっても、最初から安全で高品質な学校が使えるんです。60年使ったとすれば年5,000万です。市の案はごちゃごちゃと改築をして15億だと言っているんですが、例えば既存校舎体育館の新築そっくりさんにするかけた改修費約５億円、これは20年たたないうちに壊すんでしょう。そうやって答弁していますから。５億円は捨て金。20年たったと

きもどうなるか分からない。万が一20年たって廃止すればそれも捨て金なので、誰が考えても新築のほうが費用対効果が高いのは明らかです。

３点目、今回特に問題になっている安全性です。この堂々巡り。

結局、安全とコストを市長はてんびんにかけているんじゃないですか。保護者や子供に向かって、この程度安全だから我慢してくださいと、そういう問題じゃないです。伊勢湾台風以来、水が来たことがないという人がいますけれども、それはたまたま運がよかっただけの話であって、将来に対する保証にはなりません。だからこの新市庁舎、これは当然海抜面よりも上、プラス20センチとか50センチとか言っていますけれども、少なくとも１階の床高は、もしポンプが止まっても困らないように、堤防が多少破堤してもいいようになっています。

十四山小学校時代のこの２つの小学校、東部小を含む２つの小学校が、結果的に言えば失敗だったということです。だけど、十四山が低かったからね。１階の高さがマイナス1.9とかマイナス1.幾つでやっていますからね。中学校はちゃんと上へ上げているじゃないですか。十四山村のその他の公共施設も全部かさ上げして、海抜ゼロメートル前後でやっています。弥富市はずうっとかさ上げしてきているんですよ。これは素人の住民でも分かる話です。

市長が急遽かさ上げと言っていますけど、結局旧校舎を残してかさ上げですから、せいぜい数十センチの話ですよ。根本的に変えない限り、それは無理です。

問題は、これでは地域の防災拠点として役に立ちません。あっちが低い、こっちが低いという比較の問題じゃないんです。こういうことを言うと、あそこが低いということは風評被害というふうに言われるんですけれども、あそこが低いということは誰よりも地元の人が知っているんです。防災の基本ですよね、どれくらい低いかということを具体的に知っているということは。だから、あまり風評被害と言うと、十四山西部地区の住民は無知蒙昧だから不安になるようなことを言うべきじゃないということですか。これはむしろ住民に対して失礼ですよ。

せっかくこの十四山西部地区において、中学校跡地があるんです。広い敷地で盛り土した安全なところ、学校を造ればいいんです。そのチャンスを潰しちゃうんですか。大藤学区には弥富中学校があります。栄南学区には南部コミュニティセンターがあります。十四山東部学区には支所もスポーツセンターもあります。十四山西部学区だけが、盛土をした広い防災拠点がないんです。だから、30センチかそこらのかさ上げじゃなくて、十四山中学校を売り払うんじゃなくて、きちんと小学校を建てて、ちゃんと広くて水害でも耐えられる防災拠点が要るんです。

だから西部小学校でなく中学校跡地に防災拠点を兼ねた総合校を建てなければ駄目なんです。これは行政として、防災、防災と言っている行政として、あまりにもアンバランスで無責任です。十四山地区の人に対しても、とても罪深い議案だと思います。

この議案ですけれども、47号、48号、ちょっと意味不明な条例だなと思っていて、グラウンドだけ残して使いますということは、逆に言うと残りの中学校のかさ上げしてあるところは民間にもう売却が決まっているんですか。理解不能ですよ、これは。

49号の補正予算については、そんなようなことでいつまでも小学校をぐちゃぐちゃなぶり続けるような補正予算については不適切です。

以上、理論的、客観的にいうと、どう考えてもベストでないこと、それが変えられないというのは、これまで弥富市が進めてきたこと、これは変えられないということなんでしょうか。そういうふうにしか思えないんですよ。

だけど、やはりそこは住民の代表である議会が正しく公平に議論をし、適切な判断をするという意味においては、やはりここで一度立ち止まる。立ち止まって、本当に未来永劫残る、永劫は言い過ぎましたけれども、未来に残る夢のある安全な小学校になるということに反する議案ですので、以上を指摘して反対討論とします。以上です。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、那須英二議員。

○７番（那須英二君）　７番　那須英二。

通告に基づきまして、議案第46号、47号、48号、49号及び57号について、以上５件、反対の立場で討論させていただきます。

まず初めに、横井議員の一般質問で、最後に市長があえて手を挙げ答弁され、中学校の事件に触れました。私は、当時を知る者として、そして被害者の子供と一緒に私の家で遊んだこともある者として、ここにいる中でも強い思いがあります。あの子がそれを理由に、これから続く子供たちに中学校跡地で建て替えないでほしいと望むだろうか。そんなことはないと思います。その上で、市長はその遺族の方と話してもいないのに、なぜかあえて言われ、取り消すこともしませんでした。今からでも訂正していただきたい。そして、絶対にそれを理由にしてはならないし、ニュアンスを匂わすだけでもあり得ません。

さて、議案第46号ですが、４つの学校を統合し、よつば小学校を十四山西部小学校の位置に置くというものです。９月議会で市議会が全会一致して決議したものと真っ向から反するものであり、その課題は重要なポイントにおいてほとんど解決されておりません。

決議内容として、弥富市議会は、現行の十四山西部小学校の増改築計画を見直し、来年閉校となる十四山中学校跡地に新校を新設する方針に変更することを提案する。また、統廃合される４校の跡地を有効活用し、地域コミュニティの活性化及び市街化調整区域内での定住促進を図るための施策を推進する。以上、決議すると書いてあります。この決議を全員賛成の下で決議して、その地域にお住まいの保護者の方だと思われますが、この匿名でしたけれども、恐らく全員にはがきを送られ、感謝の意が記されていました。本日、この佐藤仁志議員から預かりましたこういうはがきが、皆さんのところに届いているはずです。

しかし、その舌の根も乾かないうちに、この12月議会で西部小学校の位置にという議案が出されてきたわけです。改善案を市が提示し、新校舎の部分を増やして、児童全員が入れる普通教室を全て新校舎に入れることにしたと言いますけれども、その改善案は行き当たりばったりとされる脆弱なもので、決議内容の課題は解決されていません。決議の理由では、老朽化の問題についても、児童の安全確保についても、跡地活用の有効性についても課題がクリアになっていません。

また、附帯事項としては定住促進が上げられておりましたが、今回の議会での行政の答弁では、令和17年頃には全学年１クラスになることが予想され、その頃には特別教室も新校舎に入れられる。あるいは、リフォームした校舎は取り壊すだけで新しく造り直すことはしないんだというような趣旨の回答であったかと思います。この地域において定住促進を全く考えていない、諦めてしまっている姿勢が取れる答弁でした。

市街化調整区域において人口を増やすというのは簡単ではないと分かりますけれども、だからといって、このような後ろ向きの姿勢で何も手を打たないのであれば、余計に人口は減っていきます。ましてや、標高に大きく不安のある場所にわざわざ４校統合校を持ってくるようなセンスでは、弥富市は防災に対しても真剣に向き合っていないと捉えられ、弥富市から転出を考える人もいると思います。現に、ＳＮＳ上では委員会採決後に既にそのような投稿も見かけました。

また、もう一つ言っておかなければならないのは、弥富市中どの学校も海抜マイナスであるから、今さらマイナス1.9メートルの場所に建てるのは問題ないという認識です。その認識は、行政側も議員も今すぐ改めるべきだと思います。そもそもマイナス0.6メートルの、浸水しても上半身が水面に出られるものと、マイナス1.9メートルで大人でも水没する高さと危険度を等しく考えること自体がナンセンスです。

学校保健安全法の関連では、水害リスクを踏まえた学校施設の水害対策の推進のための手引きというものがあります。これは東日本大震災を受けて、その改善のために国が提唱しているものになります。それの３章の１の２の部分に移転等の検討を行う場合の留意点が明記されており、まさに今の弥富市における問題が書かれています。その中には、学校統合等に伴う施設の移転に当たっては、児童・生徒の通学距離や学校と地域の関係を十分考慮した上で、相対的に洪水等の浸水による影響が少ない場所を選ぶことが重要である。特に、高頻度で浸水が想定される区域や、低頻度でも水没など壊滅的な被害が想定される区域、これは弥富市のことだと思いますが、浸水発生時に長時間孤立が想定される区域は、特段の事情がない限り移転先の敷地として選定することを避けるべきである。これにより、児童・生徒等の命を守るとともに、豪雨等の水害を想定したマニュアルの作成や防災訓練の実施、災害発生時の緊急時対応など、学校現場での負担軽減をできるというふうに書いてあるんです。

国の指針からしても、相対的に浸水による被害が少ない場所を選ぶべきとして、浸水時に長時間孤立される場合は移転先として避けるべきと書いてあるんですよ。ふだん国の指針はおおよそ遵守する弥富市が、なぜ防災・安全上の問題、学校の問題ではこれを守らないのか。また、だからこそ、これから造る学校においては、浸水しないようなところにしっかりと備え、体育館も含めて、仮に、たとえ堤防が決壊しても避難所としての機能が果たせるようなものにしていくべきなんじゃないでしょうか。

それをどこでも同じだからではなく、だからこそ新しく造るものは安全なものをということにしていかなければならないんですよ。その方針を打ち立ててこそ、弥富市の安心・安全を、その姿勢を見せることができるんじゃないでしょうか。ここが分水嶺です。弥富市の水害に対しての本気度が試されているんじゃないでしょうか。

最後に、議員の皆さんに問いたい。今の市が出している案が、本当に最善でしょうか。もし仮に遅れたとしても、例えばその間、今の学校で、あるいはどうしても男女のバランスかと言われるならば、その間だけ大藤・栄南、十四山東部・西部とこの２校のどちらかでバスを使って送り迎えして暫定的な措置を行えばよいじゃありませんか。安心・安全、すなわち命とスピード、どちらが重いんでしょうか。言うまでもありません。命よりスピードですか。

また、浸水問題では、確かに弥富市は排水機が強固なものがありますけれども、排水機は堤防決壊に対しては無力です。この浸水想定がされる弥富市の学校で一番真っ先に考えなければならないのは安全対策であり、その前提を、新築だとお金がかかるとかコスト的な理由で最初から外していた計画がうまくいくはずがありません。ましてや４校を１校にする統合校で、けちって防災上に不安を残すなんて論外です。

しかも、ＪＲ名鉄弥富駅の問題で議論されているその時期に、自由通路にはお金に糸目をつけずに行って、学校にはけちって中古を残す。これに論外以外の言葉が出てくるでしょうか。

最大の大罪は、中学校を初めに除外し、安心・安全、命のコスト、お金を優先した行政。いいですか、重要なのでもう一度言います。命よりお金を優先した行政にありますが、その行政が判断を誤ったときに最大限の力を発揮すべきなのは、私たち市議会議員、市議会です。今こそ、その力を発揮すべきときじゃないんでしょうか。

この弥富市の安全対策は、現時点での最善、ベストを尽くし切るべきです。それを差し置いて、市街地に近いだとか、200メートルの円を描いたら人口が一番多いだとか、この４つの視点でどうだと言われていても、最初から論外だったわけです。ましてや中学校跡地というその４つの視点の中でも、おおむねクリアできて、何より高さが確保できる。現時点ではベストな立地条件になる中学校の跡に、よつば小学校は建てるべきです。

皆さん、想像力を膨らませ、自分が一人の子供を持つ親として、自分自身として考えてほ

しい。変なしがらみや党派とか派閥とか関係なく、有権者に託された議員として、その手を胸に目を閉じて考えてみてほしい。そしてその良心に従って判断してほしい。本当にこのままの案でよいんですか。今ならまだ、立ち止まってこの計画を見直して、最大限の安心・安全を担保したものにすることができるじゃないですか。だから、どうかその良心に従って判断していただきたい。

議案第47号、48号については、十四山中学校のグラウンドを貸しグラウンドにするということだけれども、すぐさま中学校跡地は、さきの議案で述べた理由により、よつば小学校と考えていただきたいので、賛同することはできません。

議案第49号の補正予算ですが、よつば小学校の設計変更に伴うものが含まれています。これが大きく安心・安全を担保するものであり、弥富市議会決議の課題をクリアするものであればよかったかもしれませんが、そうはなっておりません。仮に１万歩ぐらい譲って、どうしても西部小学校の位置に置くというのであれば、苦し紛れの30センチとか50センチとかかさ上げするとかそういうことじゃなくて、最低限度、例えば南側のグラウンドを液状化しないように大きくかさ上げして海抜より高いものにして造るとか、あるいは床面がせめて浸水しないように学校自体を高くするピロティー形式を取るべきです。

その際にも、旧校舎と接続すると無理が出るので、やはり南側を使うしかないと思います。その間の授業はバスで十四山東部小学校等で対応すれば、工事中の事故なども防げると思います。設計変更するならそれぐらいの誠意と覚悟を見せてほしいと思い、反対討論とします。

そして、議案第57号につきましては、先ほど板倉議員が申し上げたとおり、議員や特別職の報酬アップの予算が含まれております。理由は、先ほど板倉議員がおっしゃいましたので割愛しますが、以上のことにより、この５点、反対討論とさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　暫時休憩します。再開は午後３時10分といたします。

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

午後２時59分　休憩

午後３時10分　再開

～～～～～～～～　○　～～～～～～～～

○議長（堀岡敏喜君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

次に、柴田英里議員。

○２番（柴田英里君）　２番　柴田英里です。

議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部改正についてに賛成の立場で討論させていただきます。

再編校に一部既存校舎を活用することについて、小学校再編に関しては様々な御意見があり、それぞれに深い思いがあると感じています。そのことも踏まえた上で、令和10年４月か

らの開校に向けた条例改正が必要であることを述べたいと思います。

市民の皆様の思いや意見に対して、市は、全ての子供たちが新しい校舎において学校生活を始められるように、新築校舎の面積を拡充するなど計画見直しを示してまいりました。このことの対応について、将来の児童数が減少することが懸念される中で、初期投資をできる限り抑えたい計画をしていくことは正当な理由であると考えます。

さらに、地盤や既存校舎の安全性についても様々な御意見があることは十分認識しております。地震対策につきましては、液状化が懸念される状況ではあります。しかしながら、このことにつきましては、十四山西部小学校の既存校舎は２階建てで軽量であり、液状化により建物倒壊のおそれは低く、耐震基準を満たしており、強度につきましても確認はされております。

そのほか、浸水対策につきましても、伊勢湾台風以来、排水機の能力は格段に向上しており、市民の皆様は日々安心して生活しているという状況がある中、さらに新校舎の３階には、多目的使用ができる広いカーペット式の部屋を避難場所として整備する計画をしております。また、屋上にも避難場所を整備し、垂直避難を可能とするなど、地域の皆様にとっても安全な避難場所として利用していただけるように計画が進められております。

このように、様々な課題や皆様からの御意見に対して、子供たちのよりよい教育環境の整備のためという理念の下に、市は計画の見直しを行い、住民の皆様に寄り添った対応をしております。

以上、いろいろ申し上げましたが、これらの状況を踏まえた上で、令和10年４月開校に向けた本条例の改正は必要不可欠であると私は考えます。

最後になりますが、市には施設の安全性を過信することなく、これまで以上に防災教育や自分の命、他人の命を守る教育を実施していただきたく、また様々な状況を想定した避難訓練をこれからも実施していただくよう要望・意見をつけさせていただき、賛成討論とします。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、加藤明由議員。

○８番（加藤明由君）　８番　加藤明由でございます。

議案第43号、44号、46号、52号、53号について、反対の立場で討論をさせていただきます。

初めに、議案第43号弥富市長の給料の特例に関する条例の制定について及び議案第44号弥富市副市長の給料の特例に関する条例の制定について、２件について反対をさせていただきます。

５年前の平成31年度一般会計予算が大幅訂正に至った市長の対応の問題で、平成31年３月議会において発議第２号安藤市長に対する辞職勧告決議が全会一致で決議されております。その後の６月議会には、自らが議案第35号弥富市長の給与の特例に関する条例を提案され、その内容は給料月額と期末手当を含め30％、３年５か月、つまり41か月分の給料と期末手当

を返上されるものでありました。返上された総額は1,600万円以上に及ぶものであります。この議案も全議員が賛成されております。市長の提案も御自身の判断で妥当な提案をされ、賛成した全議員も提案が妥当と考え、賛成されたと思います。

今から12年前の平成24年には、弥富市発注のごみ袋製造会社の倒産に端を発した高額な損害が発生しました。最終的に市が被った損害額は915万円余り。このときの前市長は、不適切な事務処理の管理監督責任で同様な給与の減額条例を提案され、その内容は、市長は６か月間、期末手当を含め20％、副市長は３か月間、期末手当を含め10％を返上されております。

しかし、今回提案の議案第43号、44号は、不適切な事務処理が相次いで発生した事案を勘案し、管理監督する責任者としてその責任を重く受け止め、給料の減額をするとされていますが、その内容は、市長、副市長とも３か月10％であり、返上される金額も僅か２人合わせて総額で51万円と300円であります。たったの51万300円であります。

前回、安藤市長が1,600万円返上され、この案件は予算編成の混乱であり、金銭的な損失はありませんでした。今回は一連の不祥事の引責であり、大きな案件だけでも、本年６月定例会に提案されました議案第29、30号、予算関係議案２件、令和５年度弥富市国民健康保険特別会計での赤字1,256万円を令和６年一般会計予算から繰上充用する議案でありましたが、出納整理期間である令和６年５月31日までに行うべき手続を怠り、法律に基づく対処方法ではない議案を提出したことが職員の内部告発から発覚し、３日後には撤回をされております。

２件目の事案は、議会の議決を経ずに行った教師用教科書の購入であります。

さらに３件目、この事案は、福祉課における補助金の不適切な事務処理、令和４年度子育て世帯臨時特別支援事業費補助金730万円を収入できず、一般財源で補填、つまり730万円の損害が発生してしまった。

昨年10月には、副市長が福祉課の令和４年度と５年度の課長及び補助金担当者の４名に厳重注意の処分を行ったとされております。にもかかわらず、議員の調査により発覚しそうになり、１年以上も経過した今頃になって議会に報告をされました。国民健康保険の保険税の繰上充用は内部告発からの議案の撤回、補助金730万円損害発生事案は議員の調査により発覚を恐れたが隠し切れずに隠蔽しようとしたことは明白であります。

これらの結果と事実に基づけば、過去の減額条例と比較しても格段と責任は重いと考えます。それが僅か51万300円の減額は、納税者市民から理解の得られるものではなく、隠蔽しようとした事実からすれば、もはや給料の減額の域を超え、辞任レベルであると考えます。

よって、議案43号、44号については反対をさせていただきます。

続きまして、議案第46号弥富市立学校設置条例の一部を改正する条例の一部を改正について。

弥富市議会は、９月定例会の発議第３号で、弥富市小学校統合に伴う新校設立計画の見直

しと地域コミュニティ活性化および定住促進の推進を求める決議について、全会一致で可決をされております。僅か３か月前のことであります。

この決議内容は、不安を軽減し、期待感を高めるため、現行の十四山西部小学校の増改築計画を見直し、来年閉校となる十四山中学校跡地に新校を新設する方針に変更をすることを提案するとされております。

９月の定例会の前、７月12日には、議員９名で海津の小規模統廃合校に関する取組を勉強させていただきました。４月に５校を統合し開校した海津小学校は、日の出小学校と同様な近代的な教室、極めて安全対策に配慮をされた合理的に設計されたスクールバス乗り場を見学し、その後に十四山西部小学校の現状を確認したところ、大半の議員が心が揺れたように見受けられました。現段階ではスクールバスの台数も決まっていない中で、狭い校庭敷地でどのように安全を確保していくのか不安が残るところであります。見切り発車は避けるべきです。安全確保は最優先課題であります。

マイナス1.9メーター、伊勢湾台風の被害状況を自分の目で見てきた経験から、極めて当たり前のことでございますが、一番低い場所は一番先に水没をし、排水しても一番最後まで水没状況が残ることが全く理解をされていないように思われます。これは議論もされておりません。水害の被災地は、当然水の引いた場所から災害復旧工事が始まり、一番後回しになることは当然のことで、なぜそのような場所に公共施設を造るのか理解ができません。

平成28年10月、弥富市議会総務建設経済委員会は、茨城県常総市の行政視察に行っております。豪雨により鬼怒川堤防が決壊し、常総市の新庁舎が建設から１年もたたないうちに１階が水没し、庁舎の復旧作業に要する費用が8,500万円もかかってしまった。これらを議会は視察に行っております。これらの視察で得た教訓を議論・検討も行われない。何のための行政視察であったのか。弥富市の未来を選択するはずの統合校の建設について、この弥富市の行政として適切な意思決定過程が行われなかったことを改めて指摘し、反対討論とします。

続いて、議案第52号弥富市議会の議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部改正について。

市長、副市長が給料の減額条例を提案しなければならない一連の不祥事は、議会にも一抹の責任があると思います。今回の増額は辞退すべきと考え、反対をいたします。

現状、昨年の議員の期末手当は100万円を超えております。昨年12月の期末手当は、100万円を超えております。もうこれ以上私は必要ないと思います。

続いて、議案第53号弥富市特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部改正について。

人事院勧告に基づく給料改正ではあるものの、議案第43号、44号では、一連の不祥事の責任として、市長、副市長、教育長の給料を減額しようとするさなかに増額は、市民の理解は

得られません。当然増額は辞退すべきと考え、反対をさせていただきます。

以上、５件反対討論をさせていただきました。ありがとうございました。

○議長（堀岡敏喜君）　他に討論のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　討論のないことを確認しましたので、討論を終結します。

これより採決に入ります。

議案第42号は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第42号は原案のとおり可決されました。

議案第43号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第43号は原案のとおり可決されました。

議案第44号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第44号は原案のとおり可決されました。

議案第45号は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第45号は原案のとおり可決されました。

議案第46号につきまして採決をいたします。

本件は、地方自治法第244条の２第２項の規定により出席議員数の３分の２以上の同意を必要とする特別多数議決となります。特別多数議決の場合は、私議長も出席議員となることから、議長は議長席において起立による表決を行うこととされておりますので、御了承をお願いいたします。

本日の出席議員数は16名であり、その３分の２は11名であります。

議案第46号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　ただいまの起立者数は11人であり、所定数以上であります。

よって、議案第46号は原案のとおり可決されました。

議案第47号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第47号は原案のとおり可決されました。

議案第48号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第48号は原案のとおり可決されました。

議案第49号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第49号は原案のとおり可決されました。

議案第50号及び議案第51号、以上２件は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第50号及び議案第51号、以上２件は原案のとおり可決されました。

議案第52号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第52号は原案のとおり可決されました。

議案第53号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第53号は原案のとおり可決されました。

議案第54号から議案第56号まで、以上３件は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第54号から議案第56号まで、以上３件は原案のとおり可決されました。

議案第57号は原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立多数と認めます。

よって、議案第57号は原案のとおり可決されました。

議案第58号から議案第60号まで、以上３件は原案のとおり決することに御異議ございませ

んか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第58号から議案第60号まで、以上３件は原案のとおり可決されました。

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

日程第21　請願第１号　十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第21、請願第１号を議題といたします。

請願第１号に関し、審査の経過と結果の報告を厚生文教委員長に求めます。

加藤克之厚生文教委員長。

○厚生文教委員長（加藤克之君）　厚生文教委員会に付託されました案件は、請願第１号十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書です。

本委員会は、去る12月17日に委員全員の出席により開催し、審査を行いました。その審査の経過と結果を御報告申し上げます。

最初に紹介議員より趣旨説明があり、委員から、この請願はいつから請願署名を始めたかとの質問に、紹介議員より、10月下旬から始めたとの答弁がありました。

続けて委員より、請願事項には西部小学校で教室棟を新築する変更案の記載がないので、西部小学校敷地内に新築校舎を新しく増築し、全校生徒が新築校舎に入るという説明はされたかとの質問に、紹介議員より、当然説明しているとの答弁がありました。

続けて委員から、この請願書の文面だけを見ると、古い校舎の改修・増築よりも新築のほうがいいという気持ちで署名をされた方がいるのではないかとの質問に、紹介議員より、請願理由を説明した上で請願事項を確認して署名をいただいているとの答弁がありました。

他の委員より、市が変更した部分を請願人へ説明された上で請願が出されているが、どの部分に課題が残り、どの辺りが課題解決されているかと言われているかとの質問に、紹介議員は、１つは増築校舎の地面の立ち上がりがマイナス1.9メートルということで、その部分が改善されていない。もう一つは、昭和47年建築の52年経過したもので、長寿化工事をしたとはいえ、地震等の液状化によって不同沈下等をすると、倒壊は免れ命は守れるものの、それ以上のことは担保できないため、新築並みの安全性を保ってほしいとの答弁がありました。

また、委員より、市側は十四山中学校跡地にすると令和10年４月に間に合わないと言っているが、請願人が重視しているのはスピードなのか、地盤が低いことに対する安全性の問題なのか、どちらを重視してほしいと言われているのかとの質問に、紹介議員より、学校の校舎はこれからの子供たちが中長期にわたり使用していくものであり、令和10年４月開校は当然求めていくものではあるが、安全性の高い校舎を整備してこそ達成できるものであるので、安全性がまず最優先であるとの答弁がありました。

以上のように、付託された請願に対する質疑を経て、討論に入り、請願署名を求める際に正確な情報を説明して署名をされたのか疑問が残る。また、十四山中学校跡地において令和10年４月開校が可能であるという点について、市民への説明、国への認定申請、設計、解体、建築工事、全ての工程を考慮しても、日程的にも予算的にも現実ではない。容易な将来設計で語るライフサイクルコストでは、子供たちに対しての将来負担が大きくなるだけであるとの反対討論があり、市側の説明において、法的な学校保健安全法や水害リスクの手引きを示しながら比較をするべきであったが、そういう部分が大きく不足しているため、住民の方が不安になっている。今だからこそ立ち止まって、この請願趣旨に沿って変更を市側に要求していくべきとの賛成討論がありました。

採決の結果、賛成少数により不採択と決定されましたことを御報告し、厚生文教委員会の請願の報告を終わります。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認しましたので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。

討論される方は、努めて明瞭簡潔に行っていただくことをお願いいたします。

それでは通告がありますので、順次発言を許します。

まず、佐藤仁志議員。

○１１番（佐藤仁志君）　11番　佐藤仁志。

請願第１号十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書について、賛成の立場で討論をします。

５点に絞って申し上げます。

１点目、やはりこの請願の重さです。住民にとって、地元の学校、これはある意味、市長、副市長、教育長よりも住民のほうがはるかによく分かっているし、真剣に考えています。しかし、残念ながらこの学校再編において、市側は丁寧な説明とおっしゃっていますが、住民から見たときに本当に分かる説明がされているんでしょうか。結局、市は、した、したと言っているんですけれども、なかったのでこのような請願になってしまったことは明らかじゃないですか。

今回の委員会、今日の討論、本当に小学校派、中学校派それぞれ意見が出て、熱心な討論がされています。だから、こういう討論をしながら、きちんと住民の方に具体的な情報を出してこなかった。それがこの請願になってしまった。だからこの請願は重いんです。

２点目、請願の集め方、それからこの請願の真意についてなんですが、委員会の請願審査

の中で、例えば市の変更案、増築を増やすということなんですけれども、伝えてあるかとか、様々しつこく聞かれました。ただし、この点に関して言うならば、そもそも教育委員会が10月、保護者説明会でその12教室の案を説明したんですが、聞かれた保護者としては、議会は中学校でと言っているはずなのでおかしいと。それと、とてもその案では安全性その他納得できないということで、そこからこの請願活動が始まったということが象徴されています。

去年の説明会で既に、小学校は建物も危険だし、低いし、中学校がいいという意見や、それも踏まえて地域にとっても歴史的に、この十四山・大藤・栄南地域にとって歴史的に将来をまさしく左右することなので、悉皆調査、全住民に対してアンケートをきちっとやるべきじゃないんですかという意見が出ているんですし、今考えれば、自分が行政の当事者であったとするならば、それは自分たちの都合だけでやって、この地域の人たちにとって死命を制する決定ですからね。やはり、そこはどういった意見が出るかきちんと出してもらう。

今、住民投票条例の直接請求とか話題になっていますけれども、やろうという意見がありますけれども、そんなことをしなくても行政がこの地域に限定してもらえばいいです。きちんと、こういう今議会で明らかになったような情報をきちんと伝えて、その上で住民としてどうなのか。もちろんそこの中で、いや、小学校でいいんじゃないですかと言いたかったら、それ言えばいいですよ。だけど、それを小学校で改築すればこうなりますよということを、きちんと図面とか状況とか説明した上で意見を聞いているのは、それが正しい行政です。

この請願の中で、質問の中で、基本的にふだんは普通教室にいる。音楽室とかいうのは一時的だからみたいなことで、それでいいんじゃないんですかという質問があったんですけど、僕はあり得ないと思うんですよ。請願者の方、自分の我が子の命のことを思って請願されているんですよ。たとえ短いからといって、旧校舎や体育館で、そこで災害があってけがをしたり、死んでしまうリスクがあることについて、保護者や地域住民が認められるはずないじゃないですか。

次、３点目に行きます。今回の討論でも何度も出てくる防災についてです。

他の方も言っていますけれども、その地域に住んでいる、土地の成り立ち、伊勢湾台風を経験してみえる方がまだいっぱいいます。弥富市が13基のポンプ場が守ると言っています。昔と比べれば当然よくなっています。ただ、日光川の水位が上がったら当然停止命令です。ポンプが止まれば駄目です。それから電源が止まったり、燃料供給が止まっても止まります。そんなことは当然想定することですし、既に先ほどどなたか言ったように、最初に低いところからたまって、低いところは最後まで引かないということを言っているんです。そういうことを踏まえた請願であることは明らかです。

もう一つは、請願審査の中でも明らかになりましたけど、別にここだけ特別扱いしてくれと言っているわけじゃないんです。だって、ほかに高いところは幾らでもありますし、仮に

ほかに低いところがあったとしても、建て替えということは、かさ上げをして海抜ゼロメートルよりも上に校舎を建てる。これを繰り返していけば、当然全ての校舎、公共施設の建て替えの暁には全て高い土地になるんです。これを命山というんですよ、命山。これは昔から水郷地帯で伝えられてきた、いざというときに逃げ得る陸地を地域で持たなきゃいけないんです。そういうことを踏まえて、請願者の方はまさしく生活、歴史を踏まえてやっているということです。

４点目、子供のことを最優先にすべきです。しなきゃ駄目です。

請願審査の中で、全国的に人口が減っている。それは減っていますよ。そういう問題じゃないんです。だからこそ、弥富市は子供の命を最優先にしているということを示さなきゃ駄目なんです。だって、中学校がベスト、セカンドベストが小学校ということで、お金ももったいないし、死にはしませんよというようなことがまさしく弥富市の姿勢だったとすれば、今回の討論でも幾つか出てきていますが、他の地域から人を呼び込むべきだと。子育て日本一だったというときに、いや、弥富市はどうせ子供が減るので、子供の命が最優先じゃないと。そういうことをやっちゃいけません。

ましてや、特に栄南小学校なんかがそうですけれども、栄南小学校のほうがはるかに柱も太い、部屋も広い、しっかりしている、広々している。そういうところから、この市の決定によって、わざわざスクールバスに乗ってきたところが、確かに普通教室は新しいですよ。だけど、さっき言うようにかさ上げするといったって知れたものですよ。古い校舎が、お化粧はしてありますよ。だけど、そういったところに何で来なきゃいけないんですか。それが住民が納得できるんですか。納得できるはずがありません。

最後５点目は、この議会の受け止め方です。

光があるとするならば、こういった熱心な請願に対する反対の質問も含めて、実に議論が、この後に及んでされていますが、私は全て文字起こしをして読み返しているんですけれども、やっぱり絶対に小学校がいいとはその議論の中では出ていないと思います。はっきり言って中学校のほうがベスト。だから、どうして中学校が駄目なのかという疑問しか残らない、かなり白熱した委員会ができたと思います。

そもそもその請願は、市民の方が私生活を犠牲にして相当な努力をやったということです。それに対して、結局振り返ってみると、その技術的なことというんですかね、細かいこと、それから例えばハレーションのかかった情報で請願を集めたのではないかとか、ハレーションというのはちょっと片仮名で、実際にそうやって言われたので言いますけれども、要は、中学校はこんなにいいんだよということを見せたことが、何かあたかもあおっているというか、そういったことでないかということを問い詰められるんですね。これを聞いて、請願を集められた方はどう思うんですかね。はっきり言って、失礼だと言われても仕方がないと思

いますよ。

そもそも住民は建築の専門家でもなければ、行政の専門家でもありません。だけど、やっぱり地域のことを思って出た結果がこれなんです。

この５番目の最後は、要は議会の役割をもっと頑張りましょう。まさしく市議会は住民の意見を酌み上げて、市の未来を議論する場ですよね。市が出してきた案をスムーズに通すための、市政に寄り添う議会ではないですよね。だから、これだけみんなが意見を言っている、これだけ理由をたくさん並べているのに変わらないというのは、結局何かあるんじゃないかと。中学校にできない何かあるんじゃないかということを言われ始めています。

あくまで議会というのは、いろいろなことを表にして、どっちがいいか純粋に議論し、判断する場です。もちろん議会の議員だって土木や建築の専門家ではありません。だから、参考人招致、そういう専門家を呼ぶ仕組みはあるんです。だから、例えば公聴会というのもあります。今回の件でも、あれだけ請願についてしつこく言うんだったら、請願人を参考人招致して聞けばよかったんですよ。聞きましょうよ。議会カフェでいっぱい意見を聞いたじゃないですか。地域に入って住民の意見を聞きましょうよ。

最後に、この請願審査、長時間にわたって振り返ってみると、やっぱり親が子を思う愛の尊さが請願に結晶したんだなということをつくづく思いました。子供の安全性というのは、やっぱり誰にとっても最優先です。これに勝るものはありません。今まさに、この子供を思う、あるいは孫を思う親の気持ちを否定して無視することができる議員というのは、この世の中にいるんでしょうか。これが請願が我々議会に突きつけた意味と価値です。

何度も言いますが、我が子だけ特別扱いをしろと言っているんじゃないんです。お古が嫌だという、これは言う権利はあるんですけど、そんな小さなわがままじゃなくて、我が子が大半の時間は普通教室で過ごしたとしても、やはり旧校舎にいる時間もあるわけです。あらゆる意味において、我が子や孫の安全性についてできる限りを望む気持ちを否定できるんでしょうか。倒壊しないから逃げればいい。そんなことを自分の子供に向かって言われて、我慢できる親がいるんでしょうか。だから、この賛成請願に賛成しましょうよ。今からでも遅くないと思います。

以上、賛成討論とします。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、平野広行議員。

○１６番（平野広行君）　16番　平野広行。

請願第１号に対して、反対の立場で討論いたします。

今回の請願は、請願者3,394名という多くの方からの請願であり、私も重く受け止めておりますが、請願署名活動の在り方については、その手法において疑念を抱いております。

９月議会初日に市議会が提出した再編整備方針の見直しを求める決議を受け、市長は、十

四山西部小学校において、最新の建築基準に基づき、１年生から６年生まで全児童が普通教室で学ぶことができる安全な校舎を新築する再編整備方針に変更しますと議会に説明をされました。この十四山西部小学校における新築の整備方針が変更された説明が、請願書には全く記載されておりません。

また、委員会における請願審査における答弁においても、多くの疑問点が指摘をされております。これでは、請願書としては事実に沿った内容ではなく、理解できるものではありません。現在、請願書に署名したことを悔やんでみえる方もあるとお聞きをしております。

残念なことに、弥富市議会の仕組みとして、いい悪いは別として、私はこの請願を審査できる委員会に属しておりませんので、委員会において質疑・討論することはできませんでした。私は、４校の統合に至る経緯について、市側からの説明、議会改革協議会における市民の方からの意見陳述、保護者代表の方からの意見陳述を受け、議会改革協議会での議論、厚生文教委員会での請願審査を傍聴し、熟慮した結果、反対の立場で討論をさせていただきます。

大藤・栄南・十四山東部・西部小学校といった小規模校の統合については、令和元年５月から子供の教育環境に関する保護者、地域役員の方々との意見交換に始まり、弥富市小・中学校未来構想案を策定し、議会、保護者、一般の方への地区説明会を経て、弥富市総合教育会議にて決定をされました。このときは、４校の統合に関しては異論はなく了承をされましたが、その後、小学校施設の整備方針が示され、統合小学校の設置場所は十四山西部小学校とする案が発表され、地域での説明会、意見交換会を行う中で、よりよい教育環境の下で児童を学ばせたいという思いの中で、より安全で安心できる十四山中学校跡地での統合校設置を求める意見陳述が、議会改革協議会において、小学校統廃合を考える有志の会の方により行われました。

議会においても、当初示された既存校舎を一部改築し、新たに増築する西部小学校での整備方針には疑念があり、西部小学校での増改築計画の見直し、または十四山中学校跡地に統合校を新設する方針に変更することを提案し、加えて、廃校となる小学校跡地を有効活用し、地域コミュニティの活性化及び市街化調整区域での定住促進を図るための施策を推進することも含め、全会一致という形で決議をいたしました。その後、保護者代表を中心とした小学校再編委員の方からは、令和10年４月開校を絶対条件として求める意見陳述も改革協議会にて議会に対して行われております。

議会からの小規模小学校統合に伴う新校設立計画を見直す決議を受け、市長は当初の整備方針を見直し、十四山西部小学校にて１年生から６年生まで全児童が最新の建築基準に基づき、液状化対策、耐震対策を十分取り入れた新築校舎の普通教室で学ぶことができ、また３階には避難場所を確保し、校舎を新築する改正案を議会に示しました。この市長の改正案を

受けた後、多くの議員による一般質問にての質問・答弁を通じ、私なりにこの整備方針の見直し案を検討し、また厚生文教委員会での請願審査を傍聴し、その経過と結果に対する委員長報告を受け、今、本会議での採決に臨んでいるところであります。

私としては、議会に提出された９項目にわたる請願書の内容をしっかりと精査し、校舎の安全性、通学の安全性、今後の児童数の推移、財源の問題、建設工事の問題、そして令和10年４月開校を切に望まれる小学校再編委員会の方からの嘆願書を熟慮し、また市長が一般質問で答弁された十四山中学校での新築も検討したが、あの痛ましい事件の関係者の心情を考慮し、市幹部と協議した結果、断念したとの答弁を聞き、市が示した再編整備方針の改正案を認め、本請願に対する反対討論といたします。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、那須英二議員。

○７番（那須英二君）　７番　那須英二。

請願第１号、この請願に対して賛成の立場で討論させていただきます。

この請願署名は、約3,400人の方々が署名を行って、真剣な思いが届けられました。私が議員になってから13年間たつわけですが、それ以降初となります。かつてないほどの署名数であり、しかもそれが短期間で集められたと。それほどまでに、この保護者の熱意、本当に真剣なものだというふうに感じ取ることができます。

先ほど、議案第46号の賛成討論だとか、あるいはこの請願の反対討論等で示された理由については、ことごとく否定できるものでございます。例えば、男女のバランスが待ったなしの課題であり、よりよい環境をとおっしゃいますけれども、この請願の中では、安全性を重視するということで、先ほど厚生文教委員長からも報告があったとおりで、保護者の皆さんは、そうしたスピードよりも安全性を重視しているということでございます。

また、初期投資を抑えるだとかということに関しては、命はお金に代えられないものでございます。排水機は強いと言っておりますけれども、伊勢湾台風のような堤防決壊については全くの無力であって、それは排水機では防げない、そんな状況になるわけです。

また、防災面については、浸水してしまっては体育館も使えないような状況では、やはり避難所としての機能が果たせるのかというのは大きく疑問が残るわけです。

また、さらには、小学校再編委員会の方々が嘆願書等を持ってきたといいますが、署名は十数人にわたるものでしかありません。約3,400人の市民は、そうした一部の人たちで決めるのはやめてくださいというふうに報道があったところでございます。

そして何より、この命と安全の問題では、さきの大きな被害があった東日本大震災の際に大きな被害を受けた大川小学校の判例では、学校施設の不備が要因となって、裁判に行政側が負けるという異例の判決が出たわけです。弥富市でも同じく、この低い地盤ではその悲劇の可能性を残すことになります。将来にわたって禍根を残し、その火種をまいたのと同様で

す。南海トラフ地震が近く予想される、その危機に最大限備えるべきです。そのときに誰が責任を取れるんでしょうか。誰が責任を問われるんでしょうか。人の命の責任なんて、誰も取れません。責任を取れるとしたら、今この瞬間だけなんです。だからこそ、目を覚ましてください。

この保護者の悲痛な思いをしっかりと受け止め、中学校の跡地に最大限の安心・安全の安心を詰め込んで、よつば小学校を建ててください。そして、弥富市が胸を張って災害に強いまち弥富として誇れるような学校を造り、これから造る学校や保育所全てそれ以上の安心・安全な施設にしていくことを目指していくことを誓って、最大限の努力をしてほしいじゃありませんか。そのための第一歩となれる学校、保護者の願いとともに行って造っていただきたい。その願いを持って賛成討論とさせていただきます。

○議長（堀岡敏喜君）　次に、江崎貴大議員。

○１２番（江崎貴大君）　請願第１号十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願書に反対の立場で討論します。

令和５年の春から秋にかけて、小学校の統廃合について本格的に説明会が行われ、11月に弥富市小学校再編整備方針が策定、公表され、今年度になり再編委員会の設置を経て、さらなる説明会の開催や設計業務が行われております。

その設計においては、３年生から６年生は新設する増設部分の普通教室、１年生から２年生は改修する旧校舎部分の普通教室とのことでありましたが、児童の安全性、期待感を高めるためにも増改築計画を見直すことを求め、市当局からは、新築する増築部分を増やし、全児童の普通教室、特別支援教室が全て新しい環境となり、垂直避難をするスペースも拡大されることとなりました。

無尽蔵に時間をかけられるのであれば、様々なアイデアを取り入れることができるのかもしれませんが、どこかで決断をしていかなければ、結果として長引くだけになってしまいます。対象となる小学校の児童保護者からは、早く新しい学校に行きたいと期待を寄せている方や、新校への通学に関心を寄せている方も少なくはないということも考えなくてはなりません。

現状の児童推移、人口動態を見ていくと、将来的には厳しい数字になっていることにも目を背けることはできず、見極めていく必要があります。将来的に改善された場合、また次の再編の機会など、次のステージでは、新設であったり改修部分を新築に入れ替えるなど考慮しながらやるべきときが来る可能性もあり、その際には今回の請願者の気持ちも載せていただきたいと考えます。

最後に、住民からの御意見や御指摘があれば耳を傾け、対策を講じ、説明を果たすことを市当局にもお願い申し上げ、請願に対する私の反対討論といたします。

○議長（堀岡敏喜君）　他に討論のある方はございませんか。

〔挙手する者あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　横井克典議員。

○５番（横井克典君）　５番　横井克典です。

請願第１号十四山中学校跡地に小学校再編校を新設することを求める請願について、賛成の立場から討論を行います。

私は、この請願の紹介議員でもございます。請願に至る経緯としましては、今年10月初旬、小学校に通ってみえる低学年のお子さんが見えるお母さんが、私の事務所に訪ねてみえました。お話としては、自分の子供が令和10年４月開校の新設校に通うことになるが、市教育委員会の説明は十四山西部小学校ありきで話が進んでいる。防災面や校舎等の老朽化など、西部小と十四山中学校を比較検討すると、来年閉校する十四山中学校跡地で校舎を新築するほうが保護者の立場からは不安なく、安心して子供を学校に通学させられることができる。私の友達の保護者も、やはり十四山中学校が安全でいいよねと言ってみえたそうです。

また、私たち保護者の声を市に届けるにはどうすればよいのでしょうかとも相談がございました。そのお話の後、後日ですけれども、私は十数件の低学年の児童を抱える保護者からのヒアリング、訪問したりして御意見を聞いてきました。ほとんどの方が、安全性の高い十四山中学校跡地に新設校を持ってきてほしいとの要望でありました。

また、保護者は、新聞で議会が十四山中学校に決議したので、そのとおりになるんじゃないかというようなことで喜んでみえましたけれども、まだ決着していないのと残念がる方もお見えになりました。

改めて、その相談者の方にヒアリング結果をお伝えしたところ、署名を集めることで市に計画の変更を求められないかとの御意向もありました。私は、そのお母さんと２時間近くお母さんの思いをお聞きして、そのお母さんの子供の安全を願う熱意に打たれ、私は紹介議員を引き受けることになりました。私からそのお母さんに対して、市議会が発行する請願・陳情の手引きを説明し、その内容に納得をしていただきました。その後、10月中旬からそのお母さんが請願代表者として、子育てや仕事の合間を縫って署名収集の活動を始められました。

また、市民の皆さんが、この小学校再編について非常に関心を持たれていることから、そのお母さんに賛同して署名活動にお手伝いをされる方も増え、自然と活動の輪が見る見るうちに広がり、僅か３週間程度で3,394筆もの予想をはるかに超える署名が集まったところであります。

この署名は、南部地区と十四山地区を中心とする保護者等のうそ偽りのない、本当に純粋な誠意の籠もった署名です。請願者は、請願理由にあるように、市が進める十四山西部小学校の計画では、既存校舎の不同沈下問題、海抜マイナス1.9メートルの浸水対策、バス乗降

場所の安全確保、工事中の騒音や振動などの影響、プールや体育館の老朽化など請願理由の９項目全てについて安全が担保されておらず、不安が払拭できないとおっしゃってもいます。

また、請願者は、今定例会で市が突如としてかさ上げする発言や、バスの乗降場所の変更などの発言がありましたが、全て中途半端な提案であり、抜本的な問題の解決に至っておりませんとも言ってみます。

また、市の場当たり的な対策で、既存校舎の安全性は全く改善もされておりません。そういったことを今議会中に請願代表者の方もおっしゃってみえます。私も、この請願代表者の方と全く同感でございます。

いずれにしましても、全ての問題が解決できる十四山中学校跡地に小学校再編校を新設するべきであると考えます。

以上、賛成する理由を申し上げました。

最後に、議員の皆さん、3,394筆の署名を否定されることなく、純粋な気持ちで保護者等の願いを受け止めていただくことをお願いし、私の賛成討論といたします。

○議長（堀岡敏喜君）　他に討論のある方はございませんか。

〔挙手する者あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　早川議員。

○１５番（早川公二君）　請願第１号に対して、反対の討論をさせていただきます。

先ほど議長のお言葉に簡潔明瞭にとありましたので、簡潔明瞭に反対の討論をさせていただきます。

さきの私の一般質問の市の答弁にもあったとおり、子供たちの教育環境を考えれば、計画どおり十四山西部小学校で令和10年４月開校は絶対であります。

また、小学校再編委員会から提出されました遅滞ない遂行を求める嘆願書にも、計画どおり令和10年４月に開校させることとありました。もう西部小学校で令和10年４月開校は絶対なんですよ。

また、この請願１号には、十四山中学校跡地で令和10年４月開校は可能であることが確認されたとありますが、これも私の質問の市の答弁で、十四山西部小学校以外に再編校を建設することとなった場合の開校時期について、まずは十四山西部小学校以外に計画を変更したことの説明、そして新たな計画を進めるに当たり、これまで以上に子供たち、保護者、そして地域の方々に丁寧に説明した後、基本構想を策定し、設計に入っていくこととなり、令和10年４月には間に合いませんとのことでした。冒頭にも言いましたが、子供たちのことを考えれば、西部小学校令和10年４月開校は絶対であります。

以上、私の反対討論といたします。

○議長（堀岡敏喜君）　他に討論の方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　討論のないことを確認しましたので、討論を終結します。

これより採決に入ります。

請願第１号の趣旨に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（堀岡敏喜君）　起立少数と認めます。

よって、請願第１号は不採択と決定をされました。

本日、安藤市長より議案第61号が提出をされました。

お諮りをいたします。

これを直ちに日程に追加をし、議題としたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第61号を本日の日程に追加し、議題とすることに決しました。

～～～～～～～～～　○　～～～～～～～～～

日程第22　議案第61号　令和６年度弥富市一般会計補正予算（第10号）

○議長（堀岡敏喜君）　この際、日程第22、議案第61号を議題といたします。

安藤市長に提案理由の説明を求めます。

安藤市長。

○市長（安藤正明君）　本日追加提案し、御審議いただきます議案は、予算関係議案１件でございまして、その概要につきまして御説明を申し上げます。

議案第61号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第10号）につきましては、価格高騰重点支援給付金を支給するための関連費用や、上水道の基本料金を２か月間免除するための費用等を計上するものであります。

以上が提案する議案の概要でございますが、議案の詳細につきましては総務部長から説明いたしますので、よろしく御審議賜りますようお願いを申し上げます。

○議長（堀岡敏喜君）　議案の説明を総務部長に求めます。

伊藤総務部長。

○総務部長（伊藤淳人君）　議案第61号令和６年度弥富市一般会計補正予算（第10号）につきましては、歳入歳出それぞれ１億8,550万6,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を185億97万7,000円とするとともに、価格高騰重点支援給付金給付事業（低所得世帯支援枠等）の繰越明許費を設定するものであります。

歳入予算の内容といたしましては、総務費国庫補助金１億8,550万6,000円を増額するものであります。

歳出予算の主な内容といたしましては、民生費におきまして、価格高騰重点支援給付金給付事業（低所得世帯支援枠等）の価格高騰重点支援給付金１億2,280万円、衛生費におきまして、海部南部水道企業団負担金5,260万6,000円を計上するものであります。以上でございます。

○議長（堀岡敏喜君）　これより質疑に入ります。

質疑のある方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　質疑のないことを確認しましたので、質疑を終結します。

ただいま議題となっております議案第61号は、会議規則第37条第３項の規定により、委員会への付託を省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第61号は委員会への付託を省略することに決しました。

これより討論に入ります。

討論の方はございませんか。

〔挙手する者なし〕

○議長（堀岡敏喜君）　討論のないことを確認いたしましたので、討論を終結をいたします。

これより採決に入ります。

議案第61号は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議案第61号は原案のとおり可決されました。

～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～

日程第23　閉会中の継続審査について

○議長（堀岡敏喜君）　日程第23、閉会中の継続審査についてを議題といたします。

議会運営委員長より、会議規則第111条の規定により閉会中の継続審査の申出がございました。

お諮りします。

議会運営委員長の申出どおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（堀岡敏喜君）　異議なしと認めます。

よって、議会運営委員長の申出どおり決しました。

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。

ここで、安藤市長より年末に当たり発言を求められておりますので、許可いたします。

安藤市長。

○市長（安藤正明君）　令和６年第４回12月議会定例会閉会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

11月27日から本日までの27日間、提案いたしました議案を慎重審議賜り、滞りなく可決・承認をいただき、誠にありがとうございました。今会期中、議員の皆様方からいただきました御指摘、御意見等を真摯に受け止めまして、今後の行政運営の参考にさせていただきたいと存じます。

また、この１年間、厳しい行財政状況の中、市政を円滑に進めることができましたのは、議員の皆様の深い御理解と御支援の賜物と心から感謝を申し上げる次第でございます。

さて、時の流れは誠に速いもので、私が市政を担当させていただきましてから７年目を迎えております。これまで以上に原点に立ち返り、皆様方と一緒になり、新たな意気込みで市政運営に取り組みたいと強く感じているところでございます。就任以来、風通しのよい職場づくりと職員の意識改革の旗印の下に、市民本位の行政運営を心がけて取り組んでまいりました。この間には、新型コロナウイルス感染症の拡大による市民生活への制限をはじめ、全国各地で発生する自然の猛威による甚大な災害など、国内外ともに激動の数か月でございました。

本市におきましても、避けることのできない人口減少や少子高齢化の急速な進行による生産年齢人口の減少、公共施設の老朽化など、これまで以上に将来を見据え、乗り越えなければならない課題が山積しており、極めて厳しい状況が続くことが懸念されております。このような中、市民サービスを安定的に持続、提供していくため、私自身が先頭に立って全力を注ぎ、全職員とともにまちづくりに邁進してまいる覚悟でございます。今後とも、市議会や市民の皆様の英知と力を結集し、私自ら全身全霊を傾けて市政運営に当たってまいりますので、より一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

最後に、寒さ厳しき折、これから年末に向けて何かと御多忙とは存じますが、議員の皆様にはどうか御自愛され、御家族様ともども健康で幸せに満ちた輝かしい新年を迎えられますとともに、市民の皆様にとりまして、よりよき希望に満ちた年となりますことを心から御祈念申し上げ、閉会に当たっての御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（堀岡敏喜君）　それでは、私からも一言御挨拶を申し上げます。

本年２月の18日に改選があり、３月の臨時議会におきまして、私が議長に就任をいたしまして10か月が過ぎようとしております。議員各位におかれましては、地方分権が進む中で活発な御意見をいただき、また議会運営に御協力をいただきましたことを厚く感謝申し上げま

す。

今後も市民の皆様の負託に応えることを目指し、不断の努力をもって議会改革に取り組んでまいります。どうか引き続き御協力をよろしくお願いをいたします。

今年も残すところあと僅かとなりました。皆様におかれましては、健康に御留意をされ、よい年を迎えられますことを御祈念申し上げまして、簡単ではございますが、私からの挨拶に代えさせていただきます。

これをもちまして令和６年第４回弥富市議会定例会を閉会といたします。お疲れさまでした。

～～～～～～～～ ○ ～～～～～～～～

午後４時22分　閉会

本会議の顛末を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

弥富市議会議長　　堀　岡　敏　喜

同　　議員　　加　藤　克　之

同　　議員　　高　橋　八重典